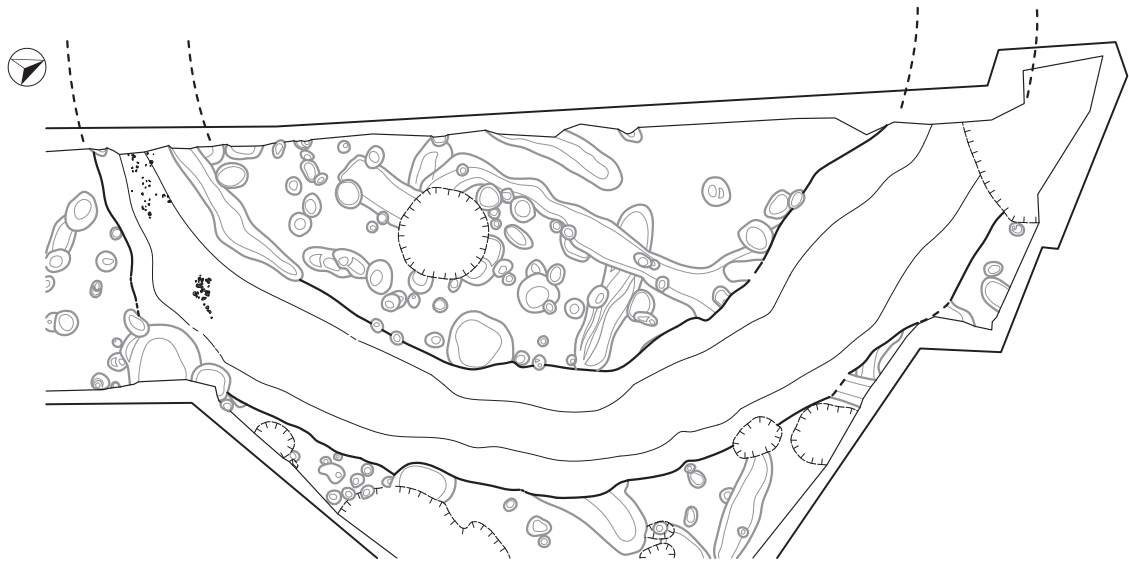


愛知県東海市

平成29年度

は た ま ひがしはた  
畑間・東畑遺跡発掘調査報告



2019年

愛知県東海市教育委員会





2 地点 206SZ 遠景 (南から)



2 地点 206SZ 完掘 (東から)





2 地点 206SZ 遺物出土状況西群 (東から)



2 地点 206SZ 遺物出土状況東群 (西から)



2 地点 206SZ 出土遺物





2地点 175ST人骨検出状況(南から)



3地点 010SI (007SK) 遺物出土状況(北から)





3地点出土土師器パレススタイル壺



3地点出土土師器パレススタイル壺 (アップ)



## 序

伊勢湾に面した知多半島西岸の付け根に、私どもの愛知県東海市は位置しています。はるか昔には、あゆち潟と呼ばれた遠浅の海が広がり、その沿岸には多くの先人たちの暮らしがありました。現在、あゆち潟はわが国有数の工業地帯へとその姿を変え、海との関わり方も漁業から工業へと変わっていますが、本市にとって昔も今も海との関わりは切っても切れないものがあります。

こうした海との関わりの中で形成された先人たちの暮らしの跡は埋蔵文化財という形で現在も残されています。

東海市では名古屋鉄道常滑線太田川駅を中心とする区域を中心市街地と位置づけ、平成4年度から土地区画整理事業を実施してきました。教育委員会では、本事業区域内に所在する埋蔵文化財について、平成11年度から記録保存を目的とした発掘調査を実施しています。

本書ではこの土地区画整理事業に伴う平成29年度の畑間・東畑遺跡における発掘調査成果について報告します。平成29年度の調査では、円墳の周溝を確認することができました。本遺跡では初の古墳発見であり、今後の研究の進展が期待されます。

今後、本書が既刊の報告書と合わせて地域の歴史研究に活用され、埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

なお、調査に際しては、地元の皆様ならびに関係者、関係諸機関より多大なる御理解、御協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成31年（2019年）3月

愛知県東海市教育委員会  
教育長 加藤 千博





# 例 言

1. 本書は愛知県東海市大田町に所在する畑間（はたま）遺跡、東畑（ひがしはた）遺跡の発掘報告書である。
2. 本調査は、知多都市計画事業 東海太田川駅周辺土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として、東海市教育委員会が同事業施行者である東海市より依頼を受け実施した。調査に際しては、国際文化財株式会社中部支店に「畑間・東畑遺跡発掘調査業務委託」として業務委託の上、実施した。
3. 本事業は、現地での発掘調査を平成 29 年 7 月 3 日から平成 30 年 2 月 16 日まで実施した。出土遺物の洗浄や注記などの一次整理作業は発掘調査期間の後半から現場事務所で開始し、復元・実測作業や資料分析を中心とした二次整理作業は、平成 30 年 6 月 23 日から国際文化財株式会社中部支店整理事務所（愛知県東海市）において発掘調査報告書の作成作業と同時に行い、本書の刊行をもって終了した。

各地点の調査面積は以下のとおりである。

1 地点:(畑間遺跡地内、HM17-1) :	648㎡
2 地点:(畑間遺跡地内、HM17-2) :	658㎡
3 地点:(東畑遺跡地内、HH17-3) :	150㎡
4 地点:(畑間遺跡地内、HM17-4) :	612㎡
5 地点:(畑間遺跡地内、HM17-5) :	80㎡
合計調査面積	: 2,148㎡

4. 現地調査は、東海市教育委員会社会教育課主任宮澤浩司、主事補安津由香里の監督の下、国際文化財株式会社中部支店主任調査員町田義哉、現場代理人・施工管理技士飯田英樹、測量技師山田敏夫および内田恭司が担当した。
5. 調査の実施にあたり、東海市教育委員会、東海市中心街整備事務所、愛知県教育委員会、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター、知多古文化研究会など、関係各位の協力を賜った。
6. 自然科学分析のうち、各地点から採集した貝層の貝種同定を国際文化財株式会社調査員西野順二が行い、幼児人骨の分析および放射性炭素年代測定を（株）パレオ・ラボに依頼した。
7. 調査および報告書作成にあたっては、赤塚次郎、浅田博造、大倉 崇、大西 遼、小栗康寛、鬼頭 剛、城ヶ谷和広、立松 彰、中野晴久、中村 毅、永井宏幸、服部哲也、早野浩二、坂野俊哉、樋口正人、増子康真、宮腰健司、蟹江吉弘、楠 美代子の各氏にさまざまな助言および協力を頂戴した。ここに記して御礼申し上げる次第である。
8. 発掘調査と現場事務所における出土遺物の水洗および、一次・二次整理作業は、石黒立人、井上由子、小川康太郎、奥山房雄、木村誠伸、島 哲司、嶋倉浩一、下谷雅子、神野攻一、鈴木淳子、高奥正暁、土橋六男、野田米蔵、林本みづき、藤井恵美子、山崎久生、山本 學らの尽力によって為し得たものである。
9. 出土遺物の実測・採拓・復元およびデジタルトレース作業は、藤井恵美子、下谷雅子、井上由子、加藤豊子、ナカシャクリエイテブ（株）の協力を得た。
10. 発掘現場および出土遺物の写真撮影は、町田義哉、上田誠人、坂野俊哉が行った。
11. 今回出土した遺物、作成した図面、写真などの記録および各種資料はすべて東海市教育委員会で保管している。
12. 本書の執筆は、第 1 章第 1・3 節を宮澤浩司（東海市教育委員会）、安津由香里（東海市教育委員会）、第 1 章第 2・4・5 節、第 2 章第 1・2 節を西野順二、第 2 章第 3～5 節、第 4 章を伊藤敬太郎が行った。なお、第 3 章自然科学分析に関しては、各節の冒頭に執筆者と所属機関を記してある。
13. 表紙は 2 地点で検出した 206SZ（円墳）の遺構図である。

# 凡 例

1. 調査記録の方位及び座標は、国土交通省告示に定められた国土座標の平面直角座標第Ⅶ系に準拠し、世界測地系にて表記している。メートル =m 単位での表記を基本とするが、文中では必要に応じてセンチメートル =cm を用いている。
2. 標高は全て T.P.= 東京湾平均海面高度による。
3. 土層の土色に関しては『新版標準土色帖』（2007 年版）を用いた。
4. 遺構番号は、種類種別に関係なく地点毎に完結した通し番号を与え、番号の後ろに遺構記号を表記してある。
5. 遺構記号は、愛知県埋蔵文化財センター発行の『埋蔵文化財の調査・研究に関する基本マニュアル 2016』に準じた。主な凡例を以下に記す。  
SA：柵列 SB：掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SI：竪穴建物 SK：土坑 SL：炉・カマド  
SM：貝塚 SP：柱穴 ST：墓・埋葬施設 SZ：古墳・周溝墓 SX：その他
6. 遺物番号は遺物写真のみのものもあるが、遺物実測図・写真として通し番号を付した。また、地点上げ遺物は出土地点を表す「d」を先に記し、そのあとに通し番号を付した（例：d-001、d-010 など）。
7. 遺構図や遺物実測図の縮尺は、個々の図に表示してある。遺物の出土分布図に関しては、その種類によって縮尺が統一されていない場合もあるが、各図に表示した。
8. 参考文献は必要に応じて本文脚注などに記したのものもあるが、あらためて巻末に一括して掲載した。



# 目次

巻頭図版

序

例言・凡例

第1章	調査の経緯と遺跡の環境	1
第1節	調査にいたる経緯	1
第2節	遺跡の位置と地理的歴史的環境	2
第3節	畑間・東畑遺跡における既往の調査	4
第4節	発掘調査の方法	6
第5節	調査経過	10
第2章	畑間遺跡（1地点・2地点・4地点・5地点）、 東畑遺跡（3地点）の調査	17
第1節	1地点（HM17-1）の調査	17
第2節	2地点（HM17-2）の調査	33
第3節	3地点（HH17-3）の調査	64
第4節	4地点（HM17-4）の調査	75
第5節	5地点（HM17-5）の調査	87
第3章	自然科学分析	91
第1節	畑間遺跡2地点（HM17-2）出土の幼児骨	91
第2節	放射性炭素年代測定	94
第3節	人骨の炭素・窒素安定同位体比分析	97
第4章	まとめ	100
	参考文献	105

図版

## 挿 図 目 次

第1図	畑間・東畑遺跡の位置	1	第35図	204SZ・205SZ方形周溝墓	54
第2図	周辺の遺跡	3	第36図	206SZ円墳	55
第3図	既往の調査地	5	第37図	206SZ円墳出土遺物分布図	57
第4図	調査区位置図	7	第38図	207SB堀立柱建物跡	60
第5図	グリッド概念図	8	第39図	3地点セクション位置図(1/500)	64
第6図	基本層序模式図	8	第40図	3地点遺構平面図 1/100	65
第7図	1地点セクション位置図(1/500)	17	第41図	3地点北セクション	67
第8図	068SK土坑	18	第42図	010SI竪穴建物跡	68
第9図	1地点遺構平面図(西半) 1/100	19	第43図	010SI(007SK)竪穴建物跡 出土遺物分布図	69
第10図	1地点遺構平面図(東半) 1/100	21	第44図	074SZ・075SZ方形周溝墓(1)	71
第11図	1地点北セクション(1)	23	第45図	074SZ・075SZ方形周溝墓(2)	72
第12図	1地点北セクション(2)	24	第46図	076SI竪穴建物跡	72
第13図	101SD・102SD溝	26	第47図	4地点セクション位置図(1/500)	75
第14図	118SD溝	27	第48図	4地点遺構平面図 1/100	77
第15図	160SD溝	28	第49図	4地点北セクション(1)	79
第16図	200SD溝	29	第50図	4地点北セクション(2)	80
第17図	230SA柵列	30	第51図	003ST・004ST・013ST・110ST土壙墓	81
第18図	2地点セクション位置図(1/500)	33	第52図	003ST土壙墓出土遺物	82
第19図	002SE井戸	34	第53図	004ST土壙墓出土遺物	82
第20図	2地点遺構平面図(北側) 1/100	35	第54図	013ST土壙墓出土遺物	82
第21図	2地点遺構平面図(中央部) 1/100	37	第55図	246SZ方形周溝墓(1)	83
第22図	2地点遺構平面図(南側) 1/100	39	第56図	246SZ方形周溝墓(2)	84
第23図	2地点東セクション(1)	41	第57図	5地点セクション位置図(1/500)	87
第24図	2地点東セクション(2)	42	第58図	5地点遺構平面図 1/100	88
第25図	2地点東セクション(3)	43	第59図	5地点南セクション	89
第26図	2地点東セクション(4)	44	第60図	005SK土坑	90
第27図	2地点南セクション	45	第61図	土壙墓175ST出土人骨保存部位	92
第28図	028SE井戸(1)	46	第62図	土壙墓175ST出土人骨	93
第29図	028SE井戸(2)	47	第63図	較正曲線IntCal13とMarine13の 混合曲線を用いた暦年較正結果	95
第30図	029SD・149SD溝(1)	48	第64図	人骨コラーゲンの炭素・窒素同位体 比と推定されるタンパク質源	98
第31図	029SD・149SD溝(2)	49	第65図	畑間・東畑遺跡時期別概念図	101
第32図	143SD・144SD・152SD溝	50			
第33図	175ST土壙墓	51			
第34図	203SZ方形周溝墓	52			

## 付 表 目 次

第1表	既刊報告書一覧	3
第2表	測定試料および調製	94
第3表	放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果	94
第4表	結果一覧表	97

## 巻頭図版目次

- |        |                          |        |                                 |
|--------|--------------------------|--------|---------------------------------|
| 巻頭図版 1 | 2 地点 206SZ遠景 (南から)       | 巻頭図版 3 | 2 地点 175ST人骨検出状況 (南から)          |
|        | 2 地点 206SZ完掘 (東から)       |        | 3 地点 010SI (007SK) 遺物出土状況 (北から) |
| 巻頭図版 2 | 2 地点 206SZ遺物出土状況西群 (東から) | 巻頭図版 4 | 3 地点出土土師器パレススタイル壺               |
|        | 2 地点 206SZ遺物出土状況東群 (西から) |        | 3 地点出土土師器パレススタイル壺 (アップ)         |
|        | 2 地点 206SZ出土遺物           |        |                                 |

## 図版目次

- |      |                             |      |                            |
|------|-----------------------------|------|----------------------------|
| 図版 1 | 1 地点遺構観察表 (1)               |      | 143SD土層断面 (西から)            |
| 図版 2 | 1 地点遺構観察表 (2)               |      | 144SD土層断面 (東から)            |
| 図版 3 | 1 地点遺構観察表 (3)               |      | 149SD完掘 (南から)              |
| 図版 4 | 1 地点遺構観察表 (4)               |      | 175ST土層断面 (南から)            |
| 図版 5 | 1 地点遺構観察表 (5)               | 図版23 | 203SZ完掘 (北から)              |
| 図版 6 | 1 地点遺構観察表 (6)               |      | 203SZ (044SD) 土層断面 (北から)   |
| 図版 7 | 1 地点調査区西半 (南東から)            |      | 204SZ・205SZ完掘 (東から)        |
|      | 1 地点調査区東半 (南東から)            |      | 204SZ (176SD) 土層断面 (東から)   |
|      | 068SK土層断面 (東から)             |      | 205SZ (185SD) 土層断面 (東から)   |
|      | 101SD・102SD完掘 (北から)         |      | 206SZ完掘 (北から)              |
|      | 118SD完掘 (東から)               |      | 206SZ (137SD) 土層断面 A (東から) |
|      | 118SD土層断面 (東から)             |      | 206SZ (137SD) 土層断面 B (東から) |
|      | 160SD北側貝層 (南から)             | 図版24 | 2 地点遺物観察表 (1)              |
| 図版 8 | 1 地点遺物観察表                   | 図版25 | 2 地点遺物観察表 (2)              |
| 図版 9 | 1 地点出土遺物実測図                 | 図版26 | 2 地点出土遺物実測図 (1)            |
| 図版10 | 1 地点出土遺物 (1)                | 図版27 | 2 地点出土遺物実測図 (2)            |
| 図版11 | 1 地点出土遺物 (2)                | 図版28 | 2 地点出土遺物実測図 (3)            |
| 図版12 | 1 地点出土遺物 (3)                | 図版29 | 2 地点出土遺物実測図 (4)            |
| 図版13 | 1 地点出土遺物 (4)                | 図版30 | 2 地点出土遺物実測図 (5)            |
| 図版14 | 1 地点出土遺物 (5)                | 図版31 | 2 地点出土遺物実測図 (6)            |
| 図版15 | 1 地点出土遺物 (6)                | 図版32 | 2 地点出土遺物 (1)               |
| 図版16 | 2 地点遺構観察表 (1)               | 図版33 | 2 地点出土遺物 (2)               |
| 図版17 | 2 地点遺構観察表 (2)               | 図版34 | 2 地点出土遺物 (3)               |
| 図版18 | 2 地点遺構観察表 (3)               | 図版35 | 2 地点出土遺物 (4)               |
| 図版19 | 2 地点遺構観察表 (4)               | 図版36 | 2 地点出土遺物 (5)               |
| 図版20 | 2 地点遺構観察表 (5)               | 図版37 | 2 地点出土遺物 (6)               |
| 図版21 | 2 地点調査区全景 (北から)             | 図版38 | 2 地点出土遺物 (7)               |
|      | 2 地点調査区全景 (南から)             | 図版39 | 2 地点出土遺物 (8)               |
| 図版22 | 028SE検出状況 (東から)             | 図版40 | 2 地点出土遺物 (9)               |
|      | 028SE土層断面 (東から)             | 図版41 | 2 地点出土遺物 (10)              |
|      | 029SD完掘 (南から)               | 図版42 | 3 地点遺構観察表 (1)              |
|      | 143 (手前)・144 (奥) SD完掘 (北から) | 図版43 | 3 地点遺構観察表 (2)              |



- 図版44 3 地点調査区全景（北西から）  
 074SZ (073SD) 完掘（南から）  
 075SZ (012SD) 完掘（南西から）  
 010SI完掘（北西から）  
 010SI (007SK) 遺物出土状況（北東から）  
 075SZ (006SD) 完掘（南から）  
 076SI完掘（北から）
- 図版45 3 地点遺物観察表
- 図版46 3 地点出土遺物実測図
- 図版47 3 地点出土遺物（1）
- 図版48 3 地点出土遺物（2）
- 図版49 3 地点出土遺物（3）
- 図版50 4 地点遺構観察表（1）
- 図版51 4 地点遺構観察表（2）
- 図版52 4 地点遺構観察表（3）
- 図版53 4 地点遺構観察表（4）
- 図版54 4 地点遺構観察表（5）
- 図版55 4 地点遺構観察表（6）
- 図版56 4 地点調査区全景（西から）  
 4 地点調査区全景（東から）  
 003ST（南から）  
 004ST（東から）  
 013ST（北から）  
 246SZ（西から）  
 246SZ (228ST) 墓壙（西から）
- 図版57 4 地点遺物観察表
- 図版58 4 地点出土遺物実測図
- 図版59 4 地点出土遺物（1）
- 図版60 4 地点出土遺物（2）
- 図版61 4 地点出土遺物（3）
- 図版62 4 地点出土遺物（4）
- 図版63 5 地点遺構観察表  
 5 地点調査区全景（東から）  
 5 地点調査区全景（西から）  
 調査区南壁基本土層（北から）  
 005SK（南から）
- 図版64 遺物出土状況168：d-001（南から）  
 遺物出土状況169：d-002（東から）  
 5 地点遺物観察表  
 5 地点出土遺物実測図  
 5 地点出土遺物

# 第1章 調査の経緯と遺跡の環境

## 第1節 調査にいたる経緯



第1図 畑間・東畑遺跡の位置

畑間・東畑遺跡は愛知県東海市大田町に位置する（第1図）。平成8年度から10年度にかけて愛知県教育委員会が実施した知多半島遺跡詳細分布調査<sup>(1)</sup>によると、畑間遺跡は古墳時代から中世、東畑遺跡は弥生時代から中世にかけての遺物散布地とされている。

本市では、名古屋鉄道太田川駅周辺地区を東海市の玄関口として位置づけ、中心市街地としての整備を進めており、平成4年度から土地区画整理事業、連続立体交差事業及び市街地再開発事業の3つの事業を実施している。こうした事業のうち、土地区画整理事業に伴って、事業区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地について、その範囲および性格を把握するために平成8年度に試掘調査を実施した<sup>(2)</sup>。この調査によって、事業区域内には畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡をはじめ、後田遺跡、龍雲院遺跡が存在することを確認した。この試掘調査の結果に基づき土地区画整理事業担当部局である都市建設部中心街整備事務所と協議・調整をはかり、平成11年度から東海市教育委員会によって、主として道路整備用地の記録保存を目的とした緊急発掘調査を継続して実施している。平成29年度末時点での調査済面積は24,680㎡である。

平成29年度の調査は、原因者である東海太田川駅周辺土地区画整理事業施行者代表者の東海市長から平成29年4月21日付けにて文化財保護法第94条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知があり、平成29年5月10日付け29教生第494号にて愛知県教育委員会教育長から発掘調査指

(1) 『愛知県知多半島遺跡詳細分布調査報告書』愛知県教育委員会 1999

(2) 『愛知県東海市東畑遺跡等試掘調査報告』東海市教育委員会 1997

示があった。また、畑間・東畑遺跡範囲内の5地点1,010㎡について、原因者である東海太田川駅周辺土地区画整理事業施行者代表者の東海市長から平成29年4月21日付け中第5号にて発掘調査依頼があり、平成29年4月21日付け社第48号にて東海市教育委員会教育長から発掘調査を実施する旨回答し、現地調査業務及び1次整理作業について、平成29年6月6日に国際文化財株式会社中部支店と業務委託契約を締結した。

現地調査は7月3日より着手し、社会教育課職員の監督の下、1地点、3地点、2地点、4地点、5地点の順に調査を実施した。翌平成30年2月16日に現地調査は終了し、その後現場事務所に1次整理作業を実施し、平成30年3月30日付けで成果品の納入を受けた。

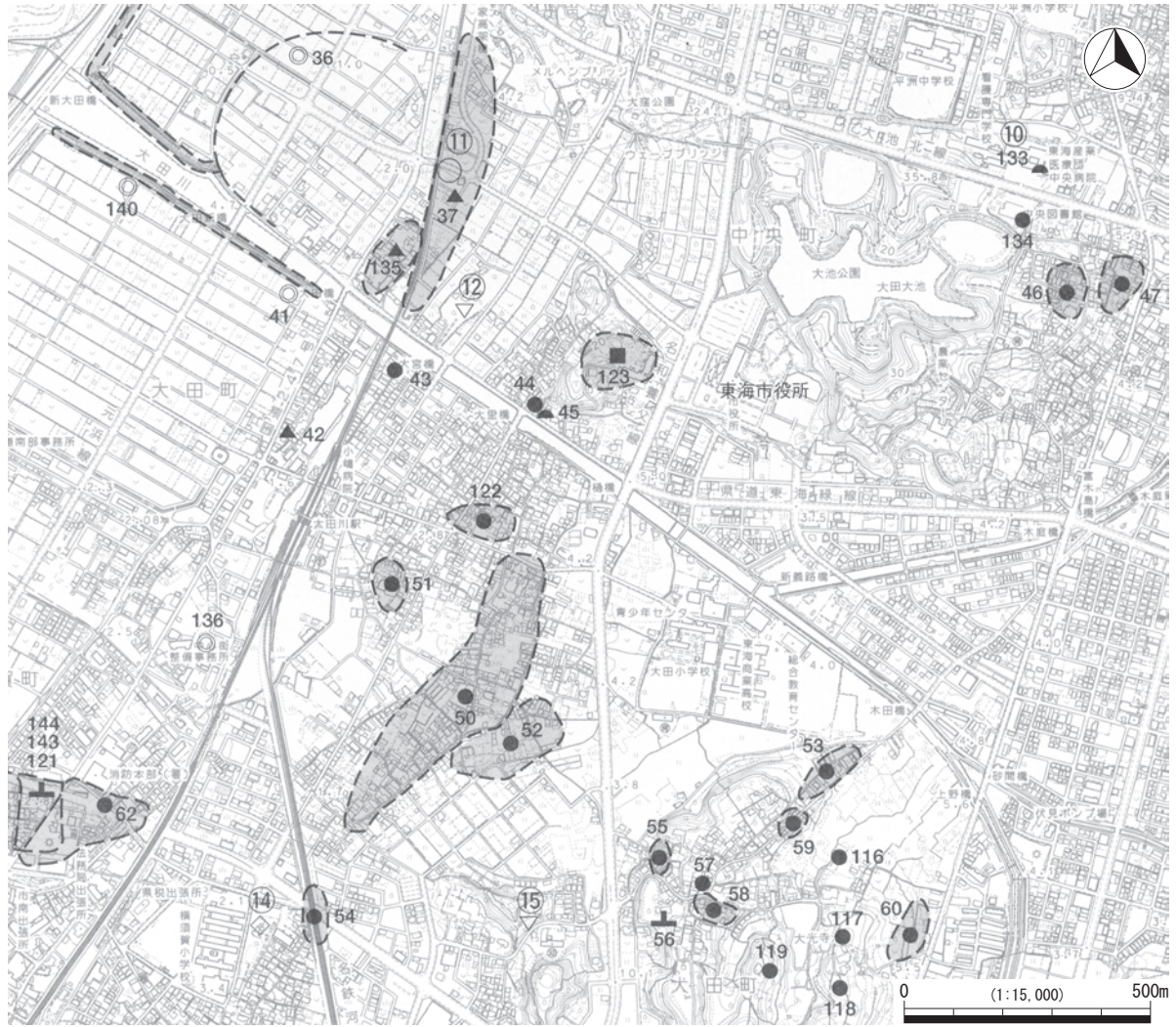
平成30年度には報告書作成を行った。現地調査を受託した国際文化財株式会社中部支店と2次整理作業及び報告書作成業務について、業務委託契約を平成30年6月22日に締結した。その後、社会教育課職員の監督の下、国際文化財株式会社中部支店の整理事務所において2次整理作業及び報告書作成業務を実施し、本報告書の刊行に至ったものである。

### 第2節 遺跡の位置と地理的歴史的環境

畑間・東畑遺跡は知多半島西岸の伊勢湾に面した海岸平地に展開する砂堆上に立地する遺跡である。知多半島西岸部には、海岸部に向けて開けた海岸平地がいくつか展開するが、畑間・東畑遺跡の立地する東海市大田町周辺から、知多市北部の寺本にかけて南北に延びる海岸平地は中でも最大のものである。この平地を構成する地層は沖積層であり、縄文海進の時期には水面下にあったとみられる。その証左として、畑間・東畑・郷中遺跡の東側に延びる丘陵上に展開する高ノ御前遺跡がある。高ノ御前遺跡からは市内最古の縄文時代前期の土器が出土している。高ノ御前遺跡の現在の海拔高は12m程である。その後、畑間・東畑遺跡周辺が陸地化したのは、海水面が後退する縄文時代中期から後期にかけてとみられ、東畑遺跡からは当該期の縄文土器が少なからず出土する。恐らく縄文時代中期から後期には砂堆と呼ばれる砂の高まりが形成され、現在遺跡の範囲として捉えている海岸平地が陸地化していたと考えられる。

砂堆とは、伊勢湾を河口に持つ木曾川や、知多半島の丘陵部から流れる小河川や、波による陸地の浸食等、様々な作用によって供給された砂が、伊勢湾の沿岸流等によって運ばれて海岸に沿って堆積したものと考えられており、その形成時期の違いによって本遺跡周辺では3条の砂堆列がみられる。最も海岸から奥の砂堆列から順に第1、第2、第3砂堆と呼んでおり、畑間・東畑遺跡は第1砂堆に位置する。この第1砂堆は最も東西幅が広く大規模であるが、南北方向は丘陵部に規制され、1km程にとどまる。この丘陵部には北側の丘陵上に真言宗の古刹である弥勒寺が、南側丘陵上に天台宗の古刹である観福寺が所在しており、両者に挟まれた位置に畑間・東畑遺跡の集落が展開することは示唆的である。この他第1砂堆上には、最も北側の弥勒寺が立地する丘陵山裾に王塚古墳（古墳時代・滅失）、神宮前遺跡（古墳～中世）が所在する。王塚古墳は、大正6年の道路拡幅の際に石室などが出土したと伝えられ、出土遺物の一部（須恵器短頸壺・坏蓋）が東海市立郷土資料館に所蔵されている他は詳らかではない。同じく神宮前遺跡についても遺物散布地として知られてはいるが、発掘調査が実施されておらず、詳細は不明である。なお、王塚古墳、神宮前遺跡の両遺跡のすぐ南を流れる大田川は、江戸時代初期に尾張藩2代藩主徳川光友により、横須





- |           |                |            |            |
|-----------|----------------|------------|------------|
| 36 浜新田堤防  | <b>50 畑間遺跡</b> | 59 前畑遺跡    | 123 弥勒寺遺跡  |
| 37 松崎遺跡   | 51 龍雲院遺跡       | 60 北広遺跡    | 133 丸根古墳   |
| 41 後浜新田堤防 | <b>52 東畑遺跡</b> | 62 烏帽子遺跡   | 134 大池北貝塚  |
| 42 下浜田遺跡  | 53 高ノ午前遺跡      | 116 上前田遺跡  | 135 上浜田遺跡  |
| 43 後田遺跡   | 54 太田川第3踏切貝塚   | 117 西広1号遺跡 | 136 御州浜庭園跡 |
| 44 神宮前遺跡  | 55 庄之脇遺跡       | 118 西広2号遺跡 | 140 川南新田堤防 |
| 45 王塚古墳   | 56 木田城跡        | 119 山畑遺跡   | 143 滝川半斎屋敷 |
| 46 峰畑貝塚   | 57 木田遺跡        | 121 横須賀御殿跡 | 144 横須賀代官所 |
| 47 北屋敷遺跡  | 58 下畑遺跡        | 122 郷中遺跡   |            |

第2図 周辺の遺跡

調査年次	書名	発行機関	編集機関	発行年
平成11～19年度	愛知県東海市畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告 - 平成11～19(1999～2007)年度調査 -	東海市教育委員会	国際文化財株式会社西日本支店	平成26年(2014年)
平成20年度	愛知県東海市畑間・東畑遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	国際航業株式会社	平成21年(2009年)
平成21年度	愛知県東海市畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	安西工業株式会社名古屋支店	平成24年(2012年)
平成22年度	愛知県東海市平成22年度畑間・東畑遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社島田組中部営業所	平成24年(2012年)
平成23年度	愛知県東海市畑間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	国際文化財株式会社西日本支店	平成25年(2013年)
平成24年度	愛知県東海市平成24年度畑間・東畑遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社島田組中部営業所	平成26年(2014年)
平成25年度	愛知県東海市平成25年度畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社アコード名古屋営業所	平成27年(2015年)
平成26年度	愛知県東海市平成26年度畑間・東畑遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	国際文化財株式会社西日本支店	平成28年(2016年)
平成27年度	愛知県東海市平成27年度畑間・東畑遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社島田組中部営業所	平成29年(2017年)
平成28年度	愛知県東海市平成28年度畑間遺跡発掘調査報告	東海市教育委員会	株式会社アコード名古屋営業所	平成30年(2018年)

第1表 既刊報告書一覧

賀御殿の建築に際して新たに開削された流路であり、現在では大田川によって断絶されているこれらの遺跡は、近世初頭までは畑間遺跡とつながっていたことから、現在の景観とは異なる一体の遺跡群としてとらえる必要があるだろう。

第2砂堆は第3砂堆と比べて幅が狭く小規模である。名鉄太田川駅の辺りから北側の大宮神社辺りまで広がっている。この砂堆上には後田遺跡（古墳～平安）が位置する。後田遺跡周辺は宅地化が進んでいるが、製塩土器が採集されており、後述する上浜田遺跡、下浜田遺跡と密接に関連した遺跡であると考えられる。この北端に位置する大宮神社は創建時期が不詳であるが、東海市史によると平安時代に大郷（大田町周辺）が熱田神宮の荘園となるに伴って、荘園鎮守神として熱田から勧請されたと推定されている。

第3砂堆は形成時期が最も新しいが、最も規模が大きく、旧海岸線沿いに知多市北部までのびている。知多市域ではこの第3砂堆上に弥生時代以降大規模な集落が形成された。本市域では古墳時代中期以降に著名な製塩遺跡として知られる松崎遺跡（古墳～平安）や上浜田遺跡（古墳～平安）、下浜田遺跡（奈良～平安）が存在する。

概観すると、畑間・東畑・郷中遺跡の所在する大田町周辺では、最も奥側の第1砂堆上に中心的な集落が立地し、第2、第3砂堆が積極的に利用されるのは古墳時代以降ということになる。これは第3砂堆上に弥生集落が展開する知多市などとは様相を異にする。その理由としては、大田町周辺では内陸側に奥まった、いわば谷状地形であったことから、第1砂堆が大きく発達し、居住に適していたことが考えられる。

大田町周辺には上記の遺跡の他、主に弥生時代の集落である烏帽子遺跡（縄文～近世）、尾張藩2代藩主徳川光友の浜御殿である横須賀御殿跡などの遺跡が所在する。また、近世には第3砂堆の先の海岸部が新田開発されて埋め立てられ、川北新田、川南新田、浜新田がそれぞれである。中でも浜新田からは、圃場整備に伴って新田堤防の塚（いり）が出土している。こうした近世の新田開発や大田川の付け替えに加え、現代の埋立てによって弥生時代以来の景観は失われているが、遺跡の分布や僅かに残る砂堆の痕跡などから、かつての環境を復元することができる。

### 第3節 畑間・東畑遺跡における既往の調査

畑間・東畑遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地として知られてはいたが、土地区画整理事業実施以前は試掘調査も含めて、発掘調査は実施されていなかった。初めて調査されたのは、前述のとおり平成8年度実施の土地区画整理事業に先立つ試掘調査である。調査では土地区画整理事業の予定区域内に20箇所のトレンチを設定して試掘調査を行った。このうち畑間・東畑遺跡に係るトレンチは12箇所に上る。この試掘調査によって範囲が不明であった各遺跡について、概略ではあるが遺跡の範囲を特定することができた。各遺跡の時期については、畑間遺跡については中世から近世の時期、東畑遺跡については弥生時代中期から古墳時代前期の時期と、古代から中世の時期であることが推測された。

その後、平成11年度から土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査によって、畑間・東畑遺跡それぞれの発掘調査が行われることで各遺跡の様相が明らかとなってきた。既往の調査地は第3図に示した通りであるが、各年次の調査は土地区画整理事業に伴う家屋移転の進捗に応じて調査を実施







しており、家屋移転の進捗状況が進んでいなかった調査の初期段階には小規模な調査とならざるを得なかった。このため、遺跡全体の様相のみならず、近隣の調査区での遺構との整合を図ることすら調査の初期段階では困難な状況であった。

調査の初期段階は駅前から延びる街路（駅前線）を中心に調査を行ったことから、南北方向に長く延びた畑間遺跡の中央部を東西方向に調査する形となった。その後、周辺の街区道路の調査を順次実施している。これまでの調査では、主に縄文時代から近世にかけての幅広い時期の遺物・遺構を確認している。特筆すべき事項としては、1点目に縄文時代後期以降の縄文土器がまとまって出土したことがある。畑間・東畑遺跡が立地する砂堆の形成時期を示唆する新たな知見である。2点目に弥生時代中期から古墳時代前期にかけて、それぞれの時期毎の生活域が分かってきたことも挙げられる。近年の調査では、駅前線以外の街区道路部分の調査も進んできており、おぼろげながらではあるが、遺跡内での集落の消長をたどることができるようになってきている。

なお、調査開始時の平成11年度から平成19年度までは東海市教育委員会直営で調査を実施した。この間の調査成果については概要報告<sup>(3)</sup>を行うと共に並行して整理作業を実施し、平成25年度に報告書を刊行している<sup>(4)</sup>。平成20年度以降は民間調査機関の支援を受けて調査を実施しており、基本的には調査翌年度に報告書を刊行している。既往の調査で刊行した発掘調査報告書は第1表のとおりである。

## 第4節 発掘調査の方法

### 1. 遺跡略号・調査区

発掘調査における作業の円滑化及び記録の混乱を避けるため、既往の調査を踏襲して畑間遺跡：HM（1地点・2地点・4地点・5地点）・東畑遺跡：HH（3地点）とする遺跡の略号を用いた。発掘調査時は、遺跡記号＋調査年度（西暦）－地点番号で管理した（第4図）。例えばHM17-2は2017年度畑間遺跡2地点という意味である。本書では、遺跡の略号以外は西暦は使用せず和暦に置き換え表記している。今回の発掘調査は土地区画整理に伴う市道建設によるものであり、畑間遺跡地内4箇所と東畑遺跡地内1箇所の5つの地点で行った。

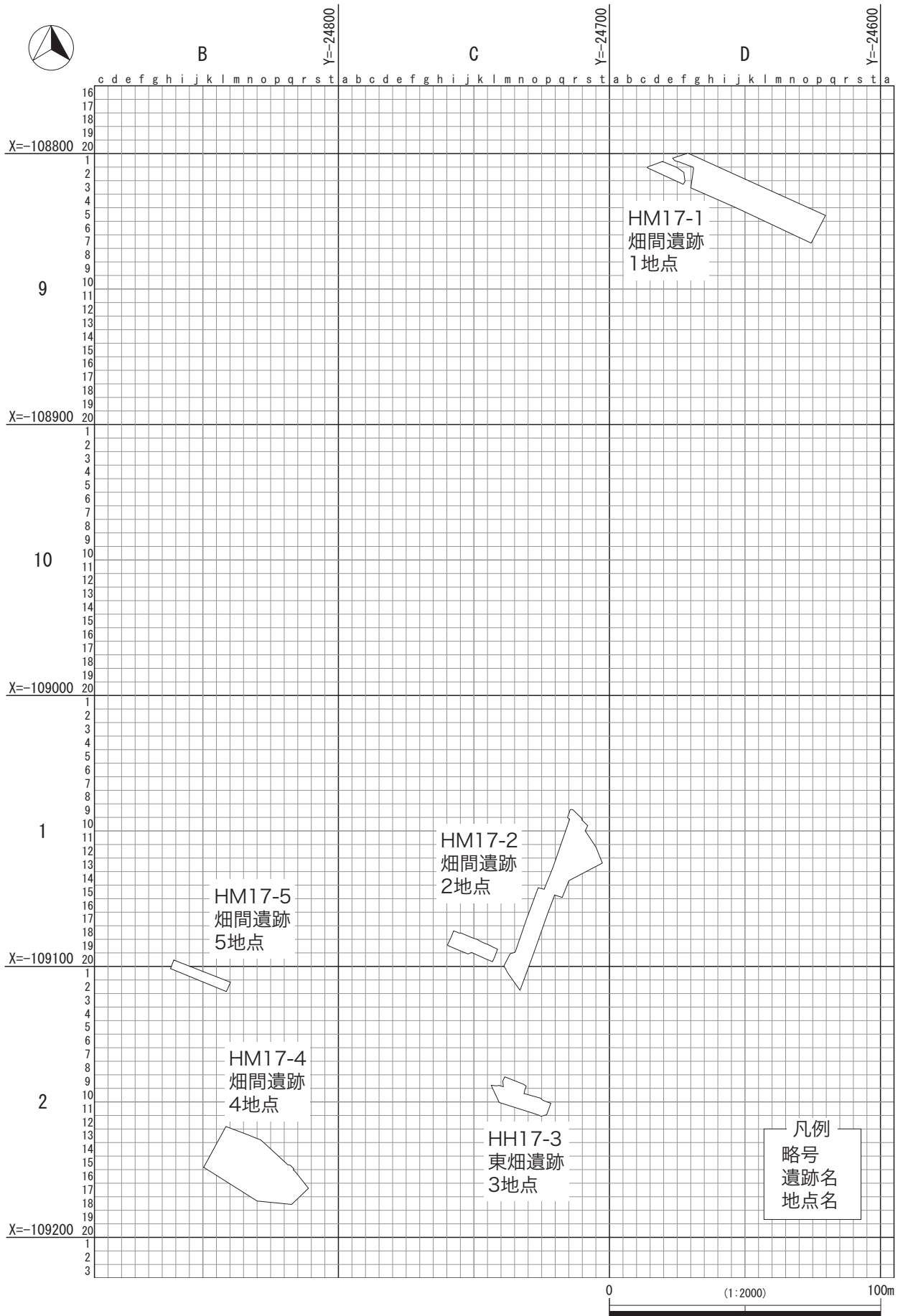
### 2. 測量・グリッド

既往の調査と同様に、愛知県埋蔵文化財センター『埋蔵文化財の調査・研究に関する基本マニュアル』に則って、最小単位として5mグリッドを設定した。それは、世界測地系の平面直角座標第VII系の座標を基軸とし、座標のX軸は座標系原点の子午線に一致する軸であり、Y軸はX軸に直交する軸である。座標系原点からX軸は真北へ、Y軸は東へ向かう数値を正とする。これに基づき、1km×1kmの大グリッドを設定し、その中での位置を示すために100m×100mの中グリッドにおいてX軸方向に1～10、Y軸方向にA～Jを割り当て、さらにその区画の中で設定した小グリッ

(3) 「伊勢湾を望む海辺の遺跡－東畑遺跡等発掘調査概報－」東海市教育委員会（永井伸明・宮澤浩司）『研究報告とうかい』創刊号 東海市教育委員会 2007

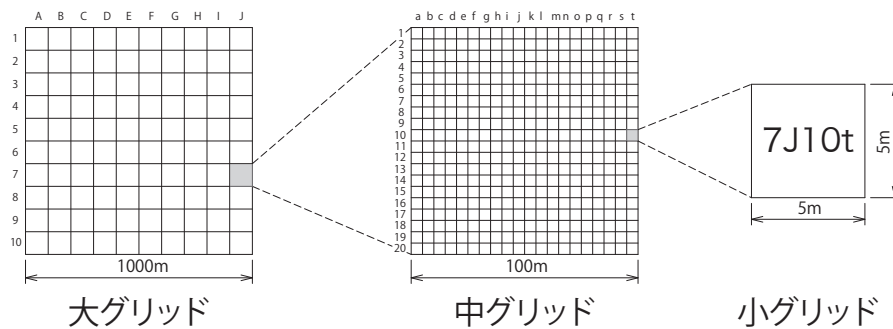
「伊勢湾を望む海辺の遺跡（2）－平成19年度畑間・東畑遺跡発掘調査の概要－」東海市教育委員会（宮澤浩司）『研究報告とうかい』第2号 東海市教育委員会 2009

(4) 『愛知県東海市畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告－平成11～19年度調査－』東海市教育委員会 2014



第4図 調査区位置図

ドにおいては、X軸方向に1～20、Y軸方向にa～tを割り当てることで、最小単位の区画に名称を当てた（第5図）。中グリッドX軸Y軸+小グリッドX軸Y軸で表記した。第5図を例にすると7J10tとなる。



第5図 グリッド概念図

### 3. 遺構の検出・掘削

実際の発掘調査は、各地点の試掘データや周辺の調査結果を参考に、重機を用い表土及び攪乱土を掘削除去後、無遺物層となる地山（V層）の上面までを遺物包含層として人力による掘削を実施した。この地山面上面を調査面として遺構検出を行い、上層の土壌が残された箇所を遺構として掘削を行った。基本的に、近世以降の掘り込みを攪乱として扱い調査・記録はしていないが、調査時では判別が難しいものもあり、調査終了後に近世以降のものと判明したものについては、近現代遺構として報告する。

調査終了後は重機を用い掘削土で埋め戻した。

### 4. 基本層序

基本層序は第一砂堆上の各調査区に共通するものである。

I層は一般に現代の表土や耕作土、工事などでもたらされた客土や、現代を中心とした攪乱層も含まれている。

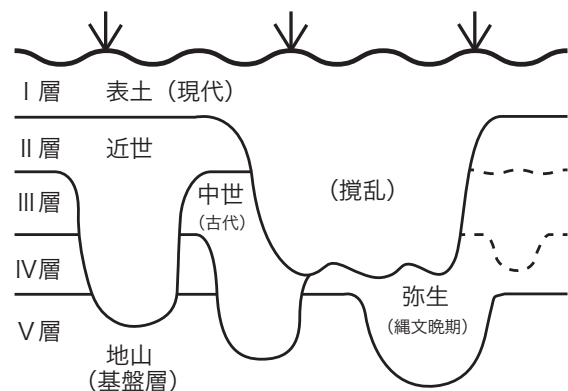
II層は近世の遺物包含層や、それに類する整地層などである。

III層は中世の遺物包含層や、それに伴う遺構埋土、整地層などである。

IV層は縄文時代の遺物を散漫に含む弥生時代以降の遺物包含層で、遺構埋土などを含む。

V層は一般に地山と呼ばれる基盤層であり、当地では無遺物の砂層である。

言うまでもなく、これらの層は全ての地点において普遍的に存在するものではなく、実際に模式図に示したような整然とした層序が見られる地点はほとんど存在しない。また、I層表土とII層の境界は明確な場合が多いが、II層とIII層の境界は極めて曖昧であり、確実に分層出来ることは稀である。更には、地点によってはIV層が存在しないこともあり、I層表土が直接V層地山に乗る状況、すなわち明確な遺物包含層が存在しないこともあった。



第6図 基本層序模式図



このような状況が出現する理由としては、大田地区のほぼ全域が弥生時代以降、中近世から現代にまで営まれ続けた巨大な歴代遺跡であることや、一部の客土を除き、遺物包含層の大半が均質性の高い砂層であること、遺構面がほぼ同一場所で、常に地業や開墾が続けられた結果としての堆積であることなどを挙げることが出来る。

もちろん地点によって時代別の濃淡があり、縄文時代の遺物が比較的多く採集される範囲や、弥生時代の遺物や遺構が濃厚に存在する地点もある。

## 5. 遺構番号・遺構種別

検出した遺構を管理するために各地点毎に種別に関係なく1番から通し番号を付与した。整理作業時に、複数の遺構が同一遺構と判断された場合は、欠番とした遺構もある。

主な遺構の種別は、凡例に示した通りである。遺構種別に関して、調査時から整理作業時において変更したのものがある。

## 6. 調査記録

遺構等の図面記録は、基本的にトータルステーションを用いてデジタル測量で行った。

重要遺物や特定の遺物に関しては、トータルステーションを用いて出土地点座標を記録した地点上げ遺物扱いとした。それらは、各地点毎にd-001から番号を付与した。各地点のd番号は遺物観察表と実測図でも共通で使用している。

写真記録は、35mmフィルム一眼レフカメラ及び、記録画素数2000万画素以上、撮像素子サイズ35mmフルサイズ以上の能力を持つデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 5D Mark II）を使用した。報告書掲載遺物についても同様の機種を使用した。各地点の調査完了後に高所作業車を用い、完掘状況の全景写真を撮影した。

## 7. 整理作業・報告書作成

出土遺物の一次整理において洗浄作業及び注記作業については、発掘調査と併行して現場事務所にて行った。発掘調査終了後に部分的に遺物の接合・復元を行った。二次整理において、遺物の分類を行い、再度接合関係を確認し、接合・復元を行った。抽出した遺物は、記録保存のために実測図を作成し、報告書に掲載するためにデジタルトレースを行った。

報告書は、記録されたデータを全てデジタルデータで扱い、デジタル編集し作成した。

## 第5節 調査経過

畑間・東畑遺跡発掘調査は平成29年6月6日に業務委託契約を締結し、周辺工事の関係上優先的に調査を済ませる必要があった1地点から作業を開始した。

主な作業工程は以下の如くである。(調査日誌抄録を兼ねる)

平成29年(日付の後ろは当該日の調査現場における最高気温である)

6月6日(火) 「畑間・東畑遺跡発掘調査業務委託」を契約する。

6月20日(火) 32°C 晴れ時々曇り【調査前記録】

6月22日(木) 27°C 晴れ時々曇り【調査前記録】

6月28日(水) 27°C 曇り【基準点測量】

6月29日(木) 27°C 曇り【環境整備】

6月30日(金) 26°C 雨のち曇り【環境整備】

7月3日(月) 35°C 晴れ【表土掘削・台風養生】

1地点:表土掘削を開始。調査区南側を基盤層確認のため、トレンチ状に東から約32mまで重機掘削を行った。台風養生を行った。

7月4日(火) 29°C 曇りのち雨【台風養生】

1地点:台風接近のため、現場作業を中止し、重機による排土移動及び養生を行った。

7月5日(水) 29°C 曇り時々雨【表土掘削】

7月6日(木) 32°C 晴れ【表土掘削】

7月7日(金) 32°C 晴れ【表土掘削・遺構検出】

1地点:表土掘削はほぼ完了。東側調査区の西端に南北に延びる区画溝を検出。東側から遺構検出状況撮影後、遺構検出を行った。

7月10日(月) 31°C 曇り【遺構検出】

1地点:遺構検出状況撮影及び遺構検出を行った。併行して、調査区壁の分層を行った。調査区上端測量、グリッド設置、略測を実施した。

7月11日(火) 31°C 晴れ時々曇り【遺構検出】

7月12日(水) 31°C 曇り時々晴れ【遺構検出・遺構掘削】

1地点:9D3～5k・1グリッドの遺構検出を終了。

7月13日(木) 33°C 晴れ時々曇り【遺構掘削】

7月14日(金) 34°C 曇りのち晴れ【遺構掘削】

1地点:遺構(攪乱)掘削を行った。併行して、調査区壁の土層注記を実施。現代～近世の貝攪乱の掘削を開始。

7月18日(火) 30°C 晴れ時々曇り【遺構掘削】

1地点:本日より本格的に遺構掘削を開始。断面撮影、土層注記、完掘撮影を併行して実施。9D4・5kの攪乱掘削を完了。9D4・5nの遺構掘削をほぼ完了した。ほとんど遺構から出土したのは山茶碗や陶器であり、中世から近世の遺構が大半を占めていると思われる。

7月19日(水) 33°C 晴れ【遺構掘削・遺構測量】

7月20日(木) 32°C 晴れ時々曇り【遺構掘削】

7月21日(金) 33°C 曇りのち晴れ【遺構掘削】

7月24日(月) 33°C 晴れ時々曇り【遺構掘削・遺構測量】

7月25日(火) 29°C 曇り時々雨【遺構掘削】

7月26日(水) 35°C 雨のち晴れ【遺構掘削・遺構測量】

7月27日(木) 28°C 曇り【遺構掘削】

7月28日(金) 29°C 曇りのち晴れ【遺構掘削・遺構測量】

1地点:遺構掘削を継続。断面撮影、土層注記、完掘撮影、平・断面測量を



併行して行った。101SD 南壁際の中世純貝層のサンプリング (30cm×30cm×20cm) を実施。

7月31日(月) 35°C 晴れ【遺構掘削・撮影準備】

1 地点：遺構掘削を完了し、全景撮影準備作業を行った。

8月1日(火) 33°C 晴れ【撮影準備・全景撮影】

1 地点：撮影準備作業及び高所作業車からの全景撮影を行った。

8月2日(水) 33°C 晴れ【遺構測量】

1 地点：遺構平面測量、調査区南北壁断面写真実測及び土層注記を行った。

東半分の調査は本日で終了。【遺構測量】

8月3日(木) 32°C 晴れ時々曇り【埋め戻し】

8月4日(金) 33°C 晴れ【埋め戻し・調査準備】

1 地点：東半分埋め戻し作業を終了。電柱を避けて調査区西半分の仮設定を実施。

8月7日(月) 29°C 大雨のち暴風雨【雨天にて現場作業中止】

8月8日(火) 32°C 雨のち晴れ【表土掘削】

1 地点：西半分の表土掘削開始。最初に重機を使用して、土嚢の移動作業を実施。電柱部分の調査区設定の確認を実施後、電柱南西の飛び地から掘削を開始した。

8月9日(水) 35°C 晴れ【表土掘削・遺物洗浄】

8月10日(木) 34°C 晴れ【表土掘削・遺物洗浄】

8月17日(木) 32°C 曇りのち晴れ【表土掘削・遺物洗浄】

8月18日(金) 30°C 雨のち晴れ【表土掘削】

1 地点：午前中で表土掘削を完了し、午後から排土養生を行った。

8月21日(月) 33°C 晴れ【遺構検出】

1 地点：北壁整形作業後、北壁沿いに水抜きトレンチを掘削。遺構検出を行い、検出状況撮影を行った。

8月22日(火) 33°C 晴れ時々曇り【遺構検出・遺構掘削】

8月23日(水) 33°C 晴れ時々曇り【遺構掘削・安全大会】

1 地点：北西端部の攪乱及び遺構掘削はほぼ終了。遺構断面・完掘撮影、土層注記を行った。南西端調査区の略測を完了。午後からの降雨時に安全大会を実施した。

8月24日(木) 36°C 晴れ【遺構掘削・安全大会】

8月25日(金) 35°C 晴れ【遺構掘削・遺構測量】

8月28日(月) 30°C 曇りのち晴れ【遺構掘削】

8月29日(火) 34°C 晴れ【遺構掘削・遺構測量】

8月30日(水) 34°C 晴れ【遺構掘削】

8月31日(木) 33°C 晴れ【遺構掘削】

9月1日(金) 31°C 晴れ【遺構掘削・遺構測量】

9月4日(月) 30°C 晴れ【撮影準備・環境整備】

9月5日(火) 30°C 晴れのち曇り【全景撮影・補足調査・環境整備】

1 地点：清掃・散水後、午後から高所作業車全景撮影を行った。調査区北東側の191SD及び160SDを湧水高より低く掘り下げて、補足調査を行ったが、出土した中世遺物は少なかった。

3 地点：フェンス設置作業を実施し、完了した。

9月6日(水) 28°C 雨のち曇り【遺構測量・表土掘削・基準点測量】

1 地点：遺構と壁断面の写真実測を行った。併行して、資材運搬作業を実施。

3 地点：表土掘削を行った。3/4 終了。西側の遺構から古墳時代初頭の小型壺出土。

9月7日(木) 31°C 晴れのち雨【表土掘削】

3 地点：午前中に表土掘削を終了。調査区の1/4は攪乱。

9月8日(金) 32°C 晴れ【遺構検出・遺構測量・遺物洗浄】





## 第1章 調査の経緯と遺跡の環境

9月11日(月) 29℃ 曇り【埋め戻し・遺構掘削】

1地点：埋め戻しを開始。

3地点：遺構掘削、断面・完掘写真撮影及び土層注記を行った。007SKから古墳時代初頭の土器が比較的多く出土。床面直上の遺物を残して、出土状況図を作成することにした。

9月12日(火) 27℃ 雨のち曇り【雨天により現場作業中止】

9月13日(水) 31℃ 晴れ【埋め戻し・遺構掘削・遺構測量・遺物洗浄】

9月14日(木) 30℃ 晴れ【埋め戻し・遺構掘削・遺構測量・遺物洗浄】

9月15日(金) 29℃ 晴れ【埋め戻し・環境整備・全景撮影・遺物洗浄】

1地点：埋め戻し完了。

2地点：南西調査区のフェンス設置を完了。3地点から2地点への資材運搬作業を行った。

3地点：清掃後、高所作業車全景撮影を実施。南北壁断面・遺構完掘写真撮影及び南壁土層注記を行った。

9月19日(火) 29℃ 晴れ【表土掘削】

2地点：南西調査区の表土掘削を実施。

3地点：東海市担当者との協議の結果、010SIの全貌を明らかにすることになった。北側を拡張し、前回の表土掘削時より約20cm上層まで、表土掘削を行った。

9月20日(水) 28℃ 曇り【表土掘削・遺構検出・遺構掘削】

9月21日(木) 29℃ 晴れ【遺構検出・遺構掘削】

9月22日(金) 25℃ 曇りのち雨【遺構掘削・遺構測量・環境整備・遺物整理】

2地点：南西調査区の攪乱・遺構掘削及び略測・遺構測量を実施。南北調査区のフェンスの設置を完了。土嚢運搬作業を実施。

3地点：午前、遺構平面測量を実施。測量後、遺構ベルトを外し、再検出を開始。010SIの南北ベルト西側のみ検出終了。

4地点：午後から草刈り作業を実施。

9月25日(月) 29℃ 晴れ【表土掘削・遺構検出・遺構掘削】

9月26日(火) 29℃ 晴れ【表土掘削・遺構掘削・遺構測量】

2地点：東海市担当者との協議の結果、東側を拡張することになった。一旦、表土掘削を終了した。

3地点：写真実測で遺物出土状況を測量後、取上げを実施。

9月27日(水) 27℃ 晴れのち曇り【遺構検出・遺構掘削】

9月28日(木) 26℃ 雨のち曇り【遺構検出・遺構測量】

9月29日(金) 27℃ 晴れ【遺構検出・遺構掘削】

10月2日(月) 24℃ 曇りのち雨【遺構検出・遺構掘削】

10月3日(火) 28℃ 雨のち曇り【遺構掘削・遺構測量】

10月4日(水) 25℃ 晴れ【遺構掘削】

3地点：010SIの東西・南北セクションベルトの除去を行い、遺構撮影を実施。

10月5日(木) 24℃ 曇り【遺構測量】

10月6日(金) 21℃ 曇りのち雨【遺構検出・遺構掘削・遺構測量】

10月10日(火) 30℃ 晴れ【表土掘削・遺構掘削・撮影準備】

10月11日(水) 30℃ 晴れ【表土掘削・全景撮影】

2地点：水撒き清掃後、南西調査区と南北調査区南端の先行引き渡し予定地の完掘全景撮影。併行して、南北調査区北側の表土掘削を行い、完了後、壁面整形作業を開始した。

3地点：水撒き後、拡張部全景及び北壁断面撮影、072SK及び073SDの完掘撮影を行った。

10月12日(木) 26℃ 曇り【遺構掘削・補足調査・埋め戻し】

2地点：南北調査区北側壁整形を実施。併行して、028SE掘方の断面及び先行引き渡し部東壁の断面写真実測を行った。南端部の埋め戻しを開始。



- 10月13日(金)21°C曇り【遺構検出・遺構掘削】
- 10月16日(月)17°C雨【雨天により現場作業中止】
- 10月17日(火)19°C雨のち曇り【安全大会・遺構掘削・遺物洗浄】  
午前中、降雨のため、10月安全大会を実施。午後から現場作業。  
2地点：南北調査区北側大溝(029SD)上層掘削。検出面から黒色土層が出現するまでの深さ(約30cm)までを大溝(029SD)の上層として掘削。  
4地点：調査区草刈りを実施。
- 10月18日(水)22°C晴れのち曇り【遺構掘削・環境整備・遺物洗浄】
- 10月19日(木)16°C雨【雨天により現場作業中止】
- 10月20日(金)20°C曇り一時雨【遺構掘削・遺構測量・埋め戻し・台風養生・遺物洗浄】  
2地点：南北調査区の北側略測及び遺構完掘測量を行った。南西調査区の埋め戻し及び井戸の断ち割り準備。  
3地点：拡張部北壁の写真実測・土層注記及び073SDの遺構測量、東側の埋め戻しを実施。010SI南西柱穴032SKの再掘削を行い、底面の深さの確認を行った。  
最後に台風養生を行った。
- 10月23日(月)19°C晴れ【復旧作業・遺物洗浄】  
2地点：全調査区が台風の大雨によって水没。ポンプを設置し、排水を開始。
- 10月24日(火)19°C曇り【復旧作業】  
2地点：ポンプによる排水作業及び南北調査区北側の東・北壁崩落土の除去。甚大な被害。南西調査区井戸部分及び南北調査区南側の排水未了。  
3地点：ポンプによる排水作業及び基本層位の撮影を実施。
- 10月25日(水)20°C雨のち晴れ【復旧作業・埋め戻し・遺物整理】  
2地点：午前中はポンプ排水のみ実施。  
3地点：午前中、埋め戻しを実施、ほぼ完了した。
- 10月26日(木)22°C晴れ【復旧作業・環境整備・遺物洗浄】  
2地点：南北調査区北端の復旧作業を実施。復旧はほぼ完了。  
3地点：重機による整地及びフェンス撤去作業を実施。  
4地点：残土置き場の草刈りを継続。
- 10月27日(金)24°C晴れ【補足調査・遺構掘削・遺物洗浄・埋め戻し】  
2地点：南西調査区の補足調査。002SEの井戸枠の側面を掘削。湧水と土砂崩れのため、測量出来る状況ではなかった。  
最後に台風養生を行った。
- 10月30日(月)29°C晴れ【復旧作業・環境整備・遺物洗浄】  
2地点：台風被害の現場復旧及びフェンスの張り替え作業を実施。
- 10月31日(火)19°C晴れ【遺構検出・遺構掘削・遺物洗浄】
- 11月1日(水)21°C晴れ【遺構掘削・遺構測量・環境整備】  
2地点：午前中はポンプ排水のみ、午後から遺構掘削及び遺構測量(略測・完掘・断面)を行った。  
4地点：午前中、排土置き場のフェンス及び休憩所・駐車場のロープ柵の設置作業を実施。
- 11月2日(木)23°C晴れ【復旧作業・遺構掘削・遺物洗浄】
- 11月6日(月)20°C晴れ【復旧作業・遺物洗浄】
- 11月7日(火)21°C晴れ時々曇り【遺構掘削・遺構測量】
- 11月8日(水)18°C雨時々曇り【雨天により現場作業中止】
- 11月9日(木)19°C晴れ【表土掘削】  
2地点：午前中はポンプ排水のみ。  
4地点：表土掘削を実施。
- 11月10日(金)20°C晴れ【表土掘削・遺構掘削・遺物整理】  
2地点：午前中はポンプ排水のみ。午後から遺構掘削を実施。  
4地点：表土掘削を継続。併行して、200袋の土嚢作りを行った。
- 11月13日(月)19°C晴れのち曇り【表土掘削・遺構掘削・遺構測量】
- 11月14日(火)16°C雨【雨天により現場作業中止】





## 第1章 調査の経緯と遺跡の環境

- 11月15日(水)17℃晴れ【遺構掘削】  
11月16日(木)12℃晴れ【遺構掘削・遺構測量・環境整備】  
11月17日(金)14℃晴れ【表土掘削・遺構掘削】  
11月20日(月)12℃曇り【遺構掘削】  
11月21日(火)12℃晴れ【遺構掘削・遺構測量・環境整備】  
11月22日(水)14℃晴れのち曇り【遺構掘削・環境整備】  
11月24日(金)12℃晴れ【遺構掘削・遺構測量】  
2地点:遺構掘削及び遺構測量・断面実測を実施。本日で遺構掘削をほぼ完了。  
11月27日(月)16℃晴れ【撮影準備】  
11月28日(火)18℃晴れ【全景撮影・安全大会】  
2地点:水撒き後、午前10時から高所作業車全景撮影を実施。午後から安全大会を実施。  
11月29日(水)15℃曇り【遺構測量】  
2地点:測量及び補足調査を実施。  
4地点:貝層及び攪乱の一部の略測を行った。  
11月30日(木)15℃曇りのち晴れ【環境整備】  
12月1日(金)14℃晴れ【遺構検出・遺構掘削】  
12月4日(月)13℃曇り【遺構検出・遺構掘削・埋め戻し・遺物洗浄】  
2地点:南北調査区クランク部より南側の埋め戻しを実施。  
4地点:遺構検出及び攪乱・遺構掘削を実施。2地点で確認された古墳時代初めの遺物を含む東西に延びる溝を検出。  
12月5日(火)11℃晴れ【安全大会・遺構検出・遺構掘削・遺物洗浄】  
午前中は12月の安全大会を実施。心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使用  
方法などを消防署からの出張救急救命講習を行った。  
4地点:午後から遺構検出・掘削を実施。012SDから寛永通寶出土。  
12月6日(水)10℃晴れ【遺構掘削・遺構測量・遺物洗浄】  
12月7日(木)11℃晴れ【遺構掘削】  
12月8日(金)9℃雨のち曇り【雨天により現場作業中止】  
12月11日(月)10℃晴れのち曇り【遺構掘削・遺構測量】  
12月12日(火)7℃晴れ【表土掘削・遺構掘削・遺構測量・貝層選別】  
2地点:午後から拡張部表土掘削を開始。  
4地点:攪乱・遺構掘削を行った。029SXの掘削を完了し、下の遺構の検出  
作業を実施。調査区東端に廃棄土坑が集中している模様。  
貝層サンプルの水洗選別作業を行った。  
12月13日(水)9℃晴れのち雨【表土掘削・遺構掘削・貝層選別】  
12月14日(木)9℃晴れ【遺構掘削・遺構測量】  
12月15日(金)11℃晴れ【遺構検出・遺構掘削】  
2地点:拡張部の遺構検出状況撮影及び遺構検出を実施。遺構検出後、攪乱・  
遺構掘削を開始した。  
12月18日(月)9℃晴れ【遺構掘削・遺構測量】  
2地点:遺構掘削及び測量を実施。不明骨出土状況の写真実測後、取り上げ  
た段階で、顎と歯の形状から、人の頭蓋骨である可能性が高くなったため、  
遺構の半裁を実施し、大腿骨らしき骨を検出した。骨の太さ、大きさから、  
子供と推測する。  
5地点:調査区設定を実施した。調査面積は約80㎡。  
12月19日(火)9℃晴れ【遺構掘削】  
12月20日(水)9℃晴れ【遺構掘削】  
2地点:遺構掘削を実施。175STの人骨出土状況を撮影。138SD(137SD)  
の掘削を完了。清掃後、完掘状況の撮影を行った。  
12月21日(木)10℃晴れ【遺構掘削・遺構測量】  
12月22日(金)11℃晴れ【遺構掘削・全景撮影・遺構測量】





2 地点：前日持ち越した遺構掘削及び北壁分層終了後、午前中に全景撮影を実施。午後から、南側の埋め戻しを開始。

12月25日(月)11℃曇り【埋め戻し・環境整備】

2 地点：養生用土嚢撤去後、埋戻しを行い完了。フェンス撤去を行った。

4 地点：残土置き場のフェンス未設置部分のフェンス設置を実施。

12月26日(火)10℃晴れのち曇り【環境整備】

2 地点：残りのフェンスを撤去し、ダンプに積んで4 地点へ移動。

4 地点：現場内ブルーシートの越冬養生を行った。

休憩所内及び周辺清掃を実施し、今年の現場作業を終了した。

12月27日(水)5℃雪のち雨【整理作業】

データ等の整理作業を行い、今年の作業を終了した。

平成30年

1月9日(火)11℃晴れのち雨【安全大会・表土掘削・遺構掘削・遺物洗浄・遺物注記】

本日から現場作業を開始。午前9時より、安全大会を実施し、現場にて危険箇所の確認を行った。

4 地点：表土掘削及び遺構掘削を実施した。

注記マシンを搬入・設置し、講習後1 地点の遺物から注記を開始した。

1月10日(水)10℃晴れ【表土掘削・遺構掘削・遺物洗浄・遺物注記】

1月11日(木)6℃晴れ【表土掘削・遺構掘削・遺物洗浄・遺物注記】

1月12日(金)6℃晴れ【遺構掘削・遺構測量・遺物注記】

1月15日(月)10℃晴れ【遺構掘削・遺物洗浄・遺物注記】

4 地点：表土掘削が終了した西側の遺構検出状況撮影及び遺構・攪乱掘削を実施した。

1月16日(火)15℃晴れ【遺構掘削・遺構測量・遺物洗浄・遺物注記】

1月17日(水)14℃雨【雨天により現場作業中止】

1月18日(木)14℃晴れ【遺構掘削】

1月19日(金)13℃晴れ【遺構掘削・遺構測量・遺物注記】

1月22日(月)7℃曇りのち雨【遺構掘削・現説準備】

4 地点：遺構掘削及び現地説明会(以下、現説)準備作業を実施。

1月23日(火)10℃晴れ【遺構掘削・遺構測量・現説準備・遺物注記】

4 地点：遺構掘削及び遺構測量を実施。併行して、現説準備作業を行った。

1月24日(水)5℃曇りのち雪【遺構掘削・遺構測量】

1月25日(木)2℃雪のち晴れ【現説準備】

1月26日(金)2℃雪のち晴れ【現説準備・遺物注記】

1月27日(土)5℃晴れ【現地説明会】

午前9時から、現地説明会の準備を開始。10時半から作業員への説明を兼ねて、リハーサルを実施。午後12時半に人員を配置し、午後1時半から説明会を実施。午後3時前に後片付け、撤収を完了。総来場者数73人。

1月30日(火)6℃晴れ【遺構掘削・遺構測量】

1月31日(水)8℃雪のち晴れ【遺構検出・遺構掘削・遺構測量】

2月1日(木)7℃曇り【撮影準備】

2月2日(金)10℃雪のち晴れ【全景撮影・遺構測量・表土掘削】

4 地点：全景撮影及び遺構測量・北壁断面写真実測を実施。

5 地点：表土掘削を開始。

2月5日(月)6℃晴れ【表土掘削・遺物注記】

2月6日(火)5℃晴れ【遺構検出・遺物注記】

4 地点：補足調査として調査区北壁を拡張し主体部の検出を実施。

5 地点：包含層掘削及び遺構検出状況撮影・遺構検出を実施。

2月7日(水)5℃晴れ【補足調査・遺構掘削・遺物注記】



## 第1章 調査の経緯と遺跡の環境

2月8日(木) 6℃ 晴れ【補足調査・遺構掘削・遺物洗浄・遺物注記】

2月9日(金) 8℃ 晴れ【補足調査・全景撮影・遺物洗浄・遺物注記】

4地点:主体部(228ST)の補足調査を継続。掘り方の完掘撮影・測量を実施。最後に拡張部全体を断ち割り、北壁断面の撮影・実測を行い、補足調査を終了した。

5地点:水撒き清掃後、全景撮影を実施。

2月13日(火) 6℃ 晴れ【環境整備・遺構測量・遺物洗浄・遺物注記】

5地点:遺構平面測量及び南壁・005SKの断面測量を実施。

2月14日(水) 10℃ 晴れ【埋め戻し・環境整備・遺物洗浄・遺物注記】

5地点:埋め戻しを終了し、北側のフェンスを外して整地作業を実施。産廃処理・プラ敷き回収及び発掘道具・ブルーシート等の片付けを行った。

2月15日(木) 11℃ 曇り【環境整備・遺物洗浄】

5地点:残りのフェンスを撤去し、整地作業を継続。埋め戻し完了。併行して、資材撤収を実施した。残土整形を実施。

2月16日(金) 12℃ 晴れ【環境整備・遺物洗浄】

残土置き場フェンス撤去作業及び現場資材撤収作業を実施。

本日で、現場作業を完了。

2月19日(月) 10℃ 晴れ【遺物洗浄・水洗選別】

4地点:228STの埋土の水洗選別を行った。

2月20日(火) 11℃ 晴れ【遺物洗浄】

2月21日(水) 9℃ 晴れ【遺物洗浄・遺物注記・ふるい選別】

4地点:228STの埋土のふるい選別を行った。

2月22日(木) 10℃ 晴れ【遺物洗浄・遺物注記・ふるい選別】

2月23日(金) 11℃ 晴れ【遺物洗浄・ふるい選別】

2月26日(月) 15℃ 晴れ【遺物整理・遺物接合準備】

遺物台帳入力及びチェック、3地点の接合可能遺物の選別作業を実施。

2月27日(火) 14℃ 晴れ【遺物整理・遺物接合準備】

遺物台帳と遺物コンテナの照らし合わせチェック作業及び2地点の接合可能遺物の選別作業を実施。

2月28日(水) 15℃ 晴れ【遺物整理・遺物接合準備】

3月1日(木) 16℃ 晴れ【遺物整理・遺物接合準備】

3月2日(金) 9℃ 晴れ【遺物整理・遺物接合準備】

遺物納品準備完了。ユポと遺物を照らし合わせながら、地点上げ遺物一覧表の作成を実施し、終了した。

3月30日(金) 20℃ 晴れ【納品】

東海市役所にて、「畑間・東畑遺跡発掘調査報告書作成業務委託」におけるすべての成果品を納品した。

6月22日(金) 30℃ 「畑間・東畑遺跡発掘調査報告書作成業務委託」を契約する。

6月23日(土) 23℃ 報告書作成業務に着手。以後2次整理作業、報告書作成作業を実施。

平成31年

3月31日(日) 本書刊行



## 第2章 畑間遺跡(1地点・2地点・4地点・5地点)、 東畑遺跡(3地点)の調査

### 第1節 1地点(HM17-1)の調査

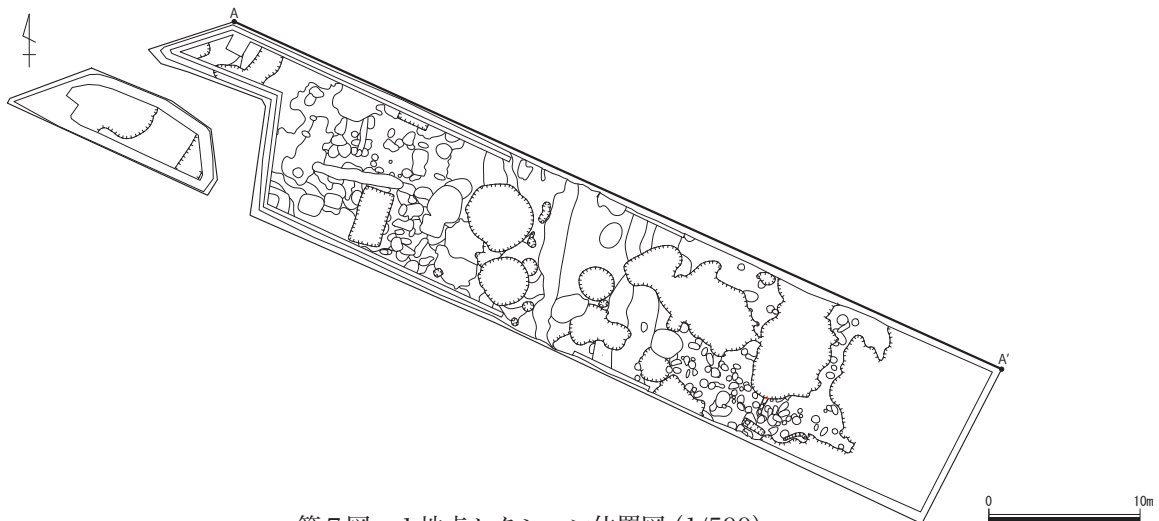
#### 1. 1地点の概要と遺跡の構造

1地点は畑間遺跡の北側に所在する。調査区は東西に細長いが、既設の電柱を避けるため南西部のみ独立した小調査区とした。調査面積は648㎡である。

6月29日に調査区を取り囲むフェンスを設置し、7月3日に東側の表土掘削を開始した。7月7日から調査を開始し、8月1日に東半分の高所撮影を実施した。8月3日から東半分の埋め戻しを行い、完了した後、8月8日から西半分の表土掘削を開始した。8月21日から西半分において調査を再開し、9月5日に西半分の高所撮影を実施した。その後、測量及び補足調査を行い、9月11日に西半分の埋め戻しを実施した。9月15日に埋め戻しを完了し、調査を終了した。

調査区内は、人為的改変を激しく受けており大半は地山直上まで近世以降の整地層が占めていた。地山面の標高は調査区西端で2.8m前後、東端では最頂部が3.4m前後と、東西約53mの間で0.6mほどの比高差がみられ、中央に位置する南北方向の溝(200SD)を境に、東側は微高地、西側は低湿地に分かれる。基本層序は以下のとおりである。

- I層：表土層。近現代の攪乱や耕作土である。調査直前まで存在した住宅や耕作地に伴うものと考えられる。
- II層：中世～近世の遺物包含層。色調は黒褐色(10YR3/2)や暗褐色(10YR3/4)などの砂層である。中世と近世それぞれの堆積層として分層して把握することはできなかった。
- III層：中世の遺物や、部分的に古代の須恵器を包含する層で、黒褐色(10YR3/1)を呈する砂層である。地山の標高が下がる調査区西側で部分的に堆積が認められた。



第7図 1地点セクション位置図(1/500)



調査区の多くは近現代の攪乱を受けており、特に東側で著しいが、多数のピットや溝・土坑などを確認した。時期を特定できる遺構は少ないが、中世あるいは近世が主体であると考えられる。

調査区東部の微高地では、多くのピットや土坑を検出したが、攪乱が激しく、全体像は不明である。そのため、掘立柱建物跡を確認することはできなかった。また、貝層を含む中世の土坑(068SK・216SM)を確認した。

調査区中央では、詳細は後述するが、近世と考えられる南北方向の4条の区画溝(東から102SD・101SD・200SD・160SD)を検出した。また、101SD・200SDの間で近世の竈(231SL)を1基検出している。長方形区画に2基併設した一般的な2連の土竈と考えられる。北壁面の土層堆積状況や平面の等高線の状況から、貼り床された台所を持つ建物が存在していた可能性が高い。

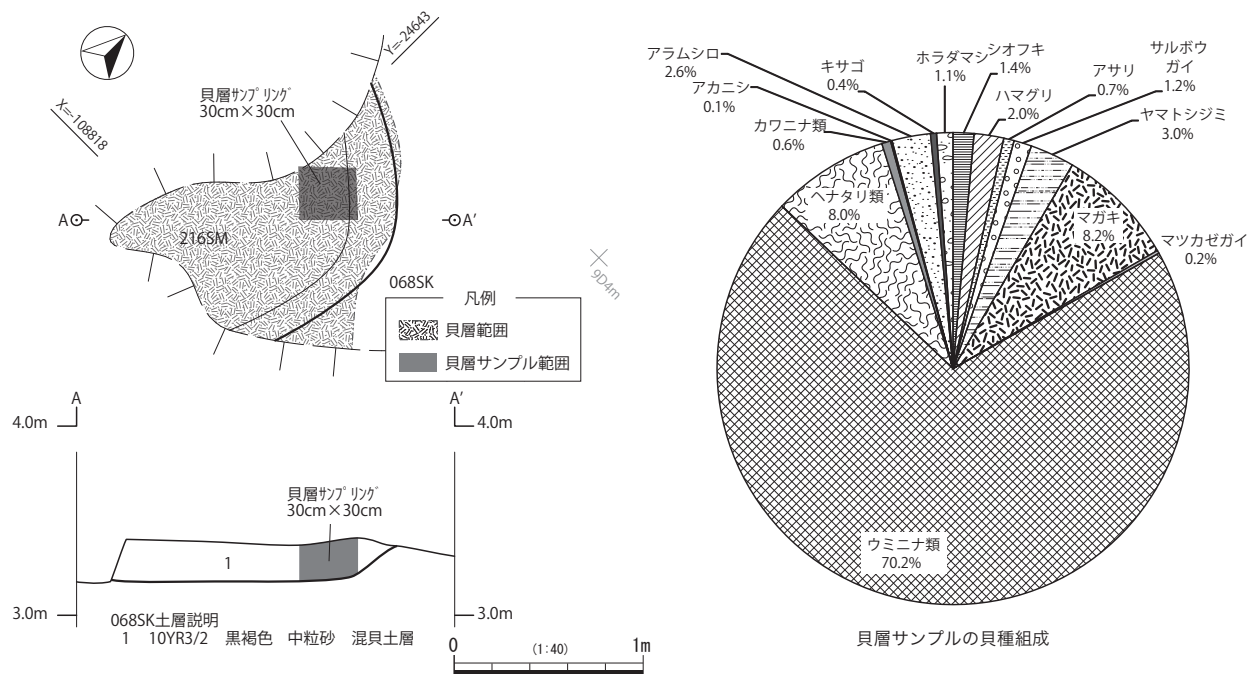
調査区西部では、中央の溝とほぼ平行する溝(150SD)や直交する溝(118SD)を検出した。また、東部同様に多数のピットや土坑も検出した。こちらも掘立柱建物跡と判断できるものはなかったが、中央の区画溝に並行する柵列(230SA)を確認することができた。その他、出土遺物等から近世以降と考えられる粘土あるいは漆喰で擁壁された用途不明遺構(210SX～212SX)を確認した。

調査区南西部の小調査区は、ほぼ全域が攪乱で遺構は検出できなかった。

## 2. 主な遺構

### 068SK・216SM：貝層を伴う土坑(第8図、図版7)

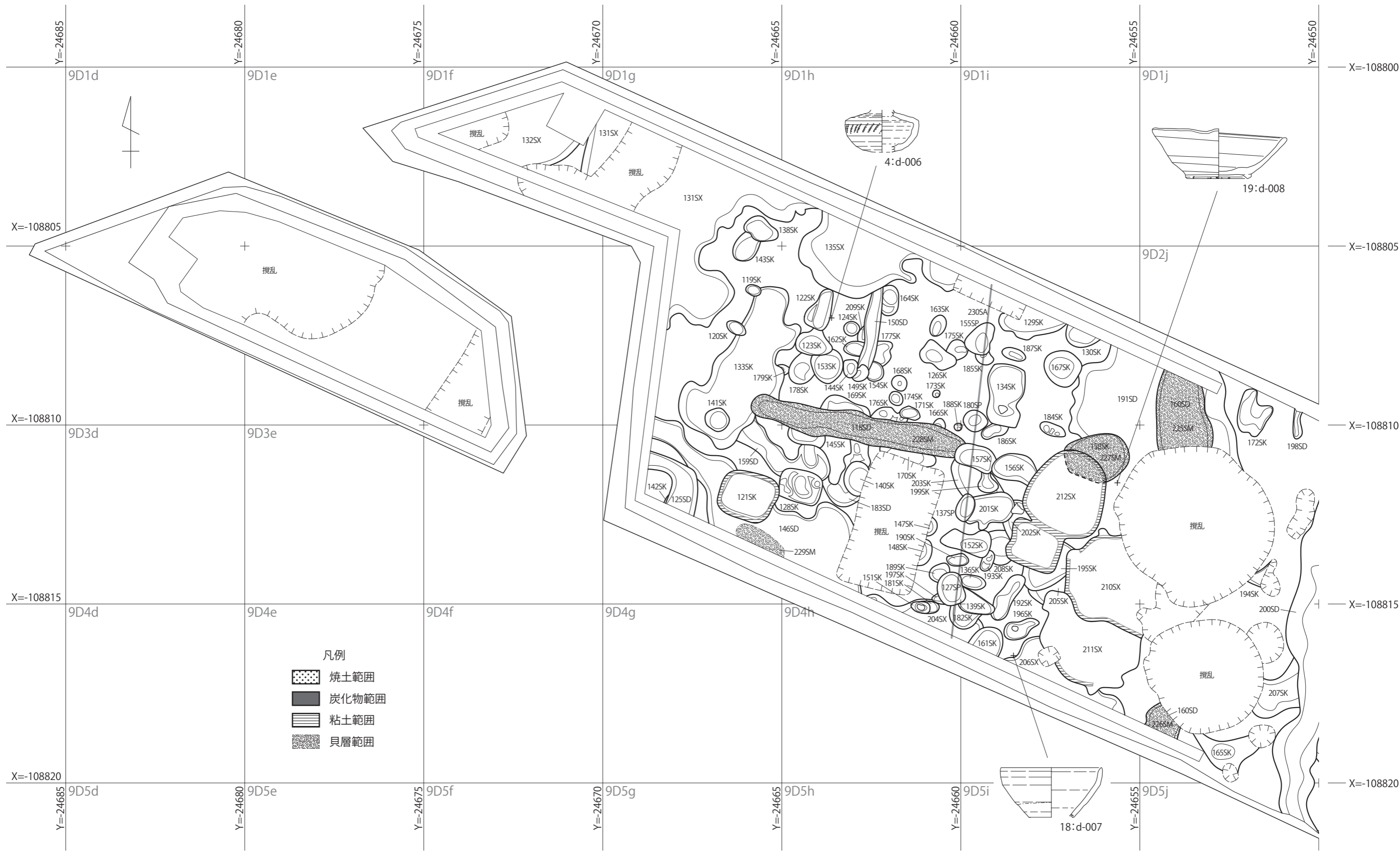
調査区中央の近く102SDの東側で検出した貝層を伴う土坑である。遺構の大部分は攪乱によって失われていた。残存部は長さ1.46m、幅1.43m、深さ0.2mを測る。埋土の多くは、破碎された貝殻を含む混貝土層である。残存状態のよい箇所を、30cm×30cm×20cmのブロックサンプル



貝層サンプル集計 ※斜文字は、最小個体数(MNI)

地点名	遺構名	シオフキ		シオフキ		ハマグリ		ハマグリ		アサリ		アサリ		サルボウガイ		サルボウガイ		ヤマトシジミ		ヤマトシジミ		オキシジミ		オキシジミ		オオノガイ		オオノガイ		マテガイ		マテガイ		マガキ		マガキ		カガミガイ		カガミガイ		マツカゼガイ		マツカゼガイ		ウミナナ類		ヘナタリ類		カワナナ類		アカニシ		アラムシロ		キサゴ		ホラダマシ	
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R												
1	068SK	14	9	20	20	7	5	5	72	30	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55	87	0	0	0	0	0	0	691	79	6	1	26	4	11															

第8図 068SK土坑



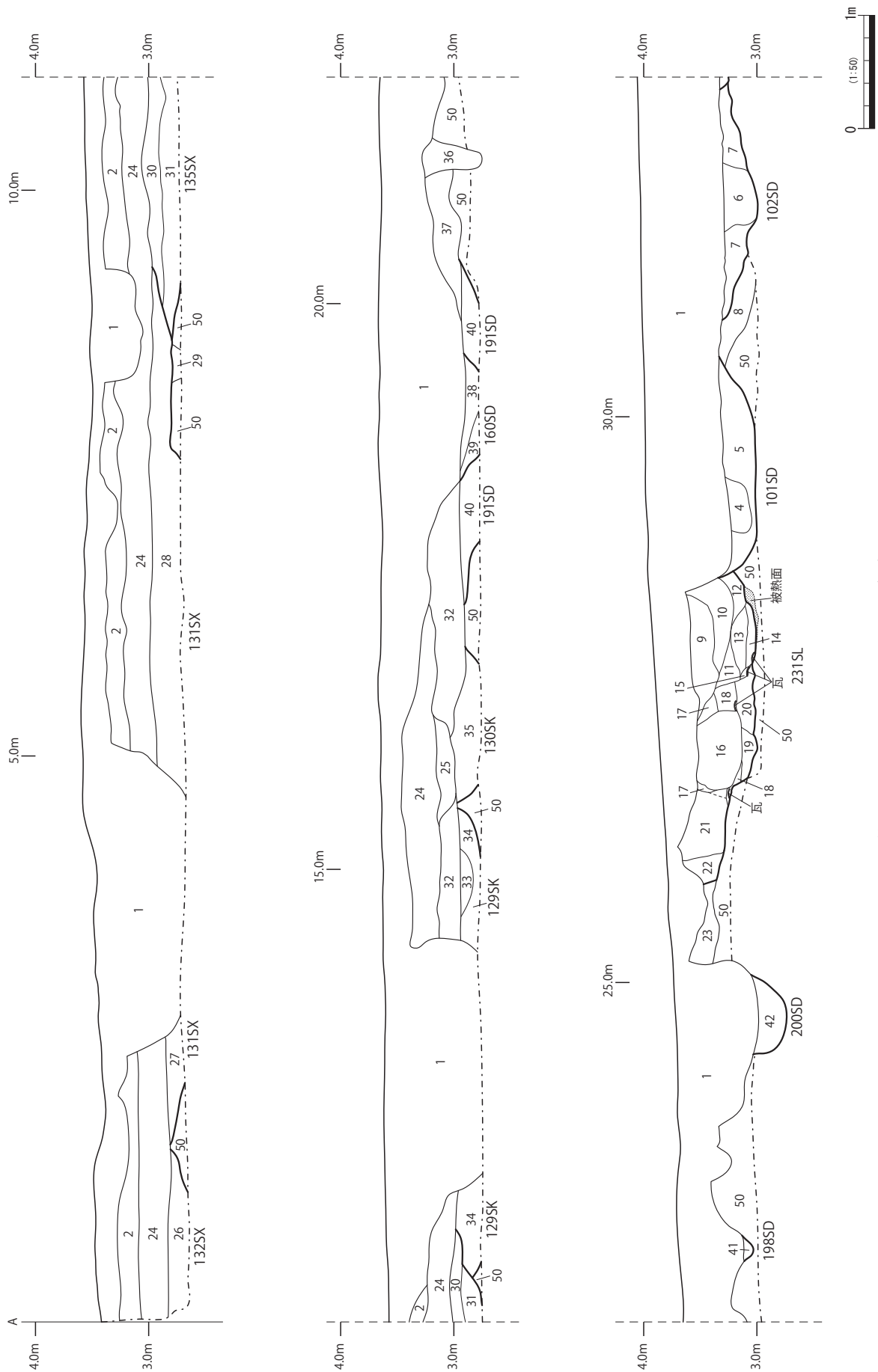
第9図 1地点遺構平面図(西半) 1/100

遺物実測図縮尺は 1/4



第 10 圖 1 地点遺構平面圖 (東半) 1/100





第11図 1地点北セクション(1)



を採取した。貝種は比較的少なく、これまでの調査で得られた種とあまり差異はない。もっとも多かったのは巻貝のウミナ類で、約70%を占める。ウミナは、主に汽水域の海岸における砂泥などに生息しており、近隣で比較的容易に採取できたと考えられる。遺物は、山茶碗などの中世の遺物が多く、近世以降の遺物は含まれていなかった。

#### 101SD・102SD・219SM：近世区画溝（第13図、図版7）

調査区中央で検出された南北方向の溝である。101SDと102SDは隣接し、南側で切り合っており、101SDは102SDより新しい遺構と考えられる。また、101SDが231SLを切っており、231SLを伴う建物が壊された後に開削されたと考えられる。101SDは長さ9.95m、幅1.45m、深さ0.55m、102SDは長さ9.98m、幅1.8m、深さ0.55mを測る。主軸方位は共にN-10°-Eであるが、102SDは調査区南端で東側に向きを変えていく可能性がある。堆積状況が良好な貝層(219SM)があり、30cm×30cm×20cmのブロックサンプルを採取した。シオフキが89.4%、ハマグリが9.6%でほぼすべてを占める。遺物は、山茶碗(20)、志野茶碗を含む近世遺物が多く出土した。近世以降の区画溝と考えられる。

#### 118SD・228SM：溝（第14図、図版7）

調査区西部で検出された貝層(228SM)を伴う東西方向の溝である。長さ6.13m、幅0.78m、深さ0.25m、主軸方位N-78°-Wを測る。主軸は中央の溝に直交する形となり、その東端は230SAで途切れている。遺物は、須恵器坏蓋(5)、土師器皿(14)、天目茶碗(17)、山茶碗(29)、土師器の羽釜(41)が出土した。

#### 160SD・225SM・226SM：近世区画溝（第15図、図版7）

調査区中央で検出された南北方向の溝である。中央を井戸跡と思われる円形の攪乱によって大きく切られており、北側と南側に分かれているが、堆積状況から同一遺構と判断した。長さ9.95m、幅1.41m、深さ0.15m、主軸方位はN-4°-Eを測る。貝層を含んでおり、北側を225SM、南側を226SMとした。遺物は土師器の焙烙(23)、瀬戸の鉄釉鉢(24)、山茶碗(30)、瀬戸の仏餉具(34)、常滑の甕(37)が出土した。近世以降の区画溝と考えられる。

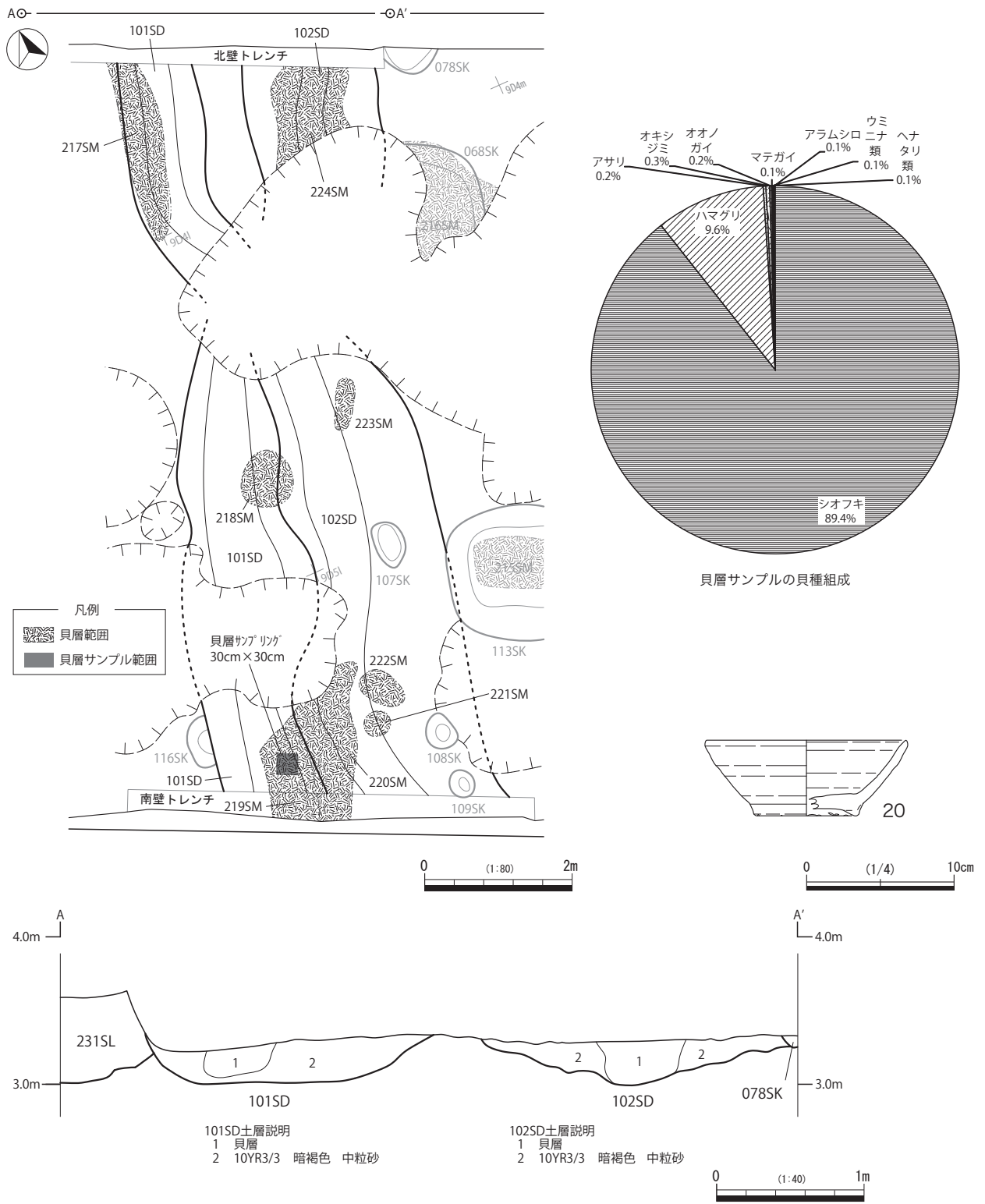
#### 200SD：近世区画溝（第16図）

調査区中央で検出された南北方向の溝である。4条の区画溝の中央に位置する。長さ10.7m、幅1.58m、深さ0.35m、主軸方位N-11°-Eを測る。遺物は、瀬戸の丸碗(33)、常滑の甕(39)が出土した。近世以降の区画溝と考えられる。

#### 230SA（127SP・137SP・155SP・180SP）：近世柵列（第17図）

調査区西部で検出された4基の柱穴からなる南北方向の柵列である。柱間の芯々距離は2.4m（8尺）の等間で、全長は7.2m、主軸方位N-7°-Eを測る。4基ともに平面形は楕円形で長軸0.49～0.93m、深さ0.22～0.3mである。柱間から考えると南北ともに調査区外へ延びる可能性がある。遺物は各柱穴から山茶碗、土師器皿、137SPからは混入したと思われる弥生土器が出土した。



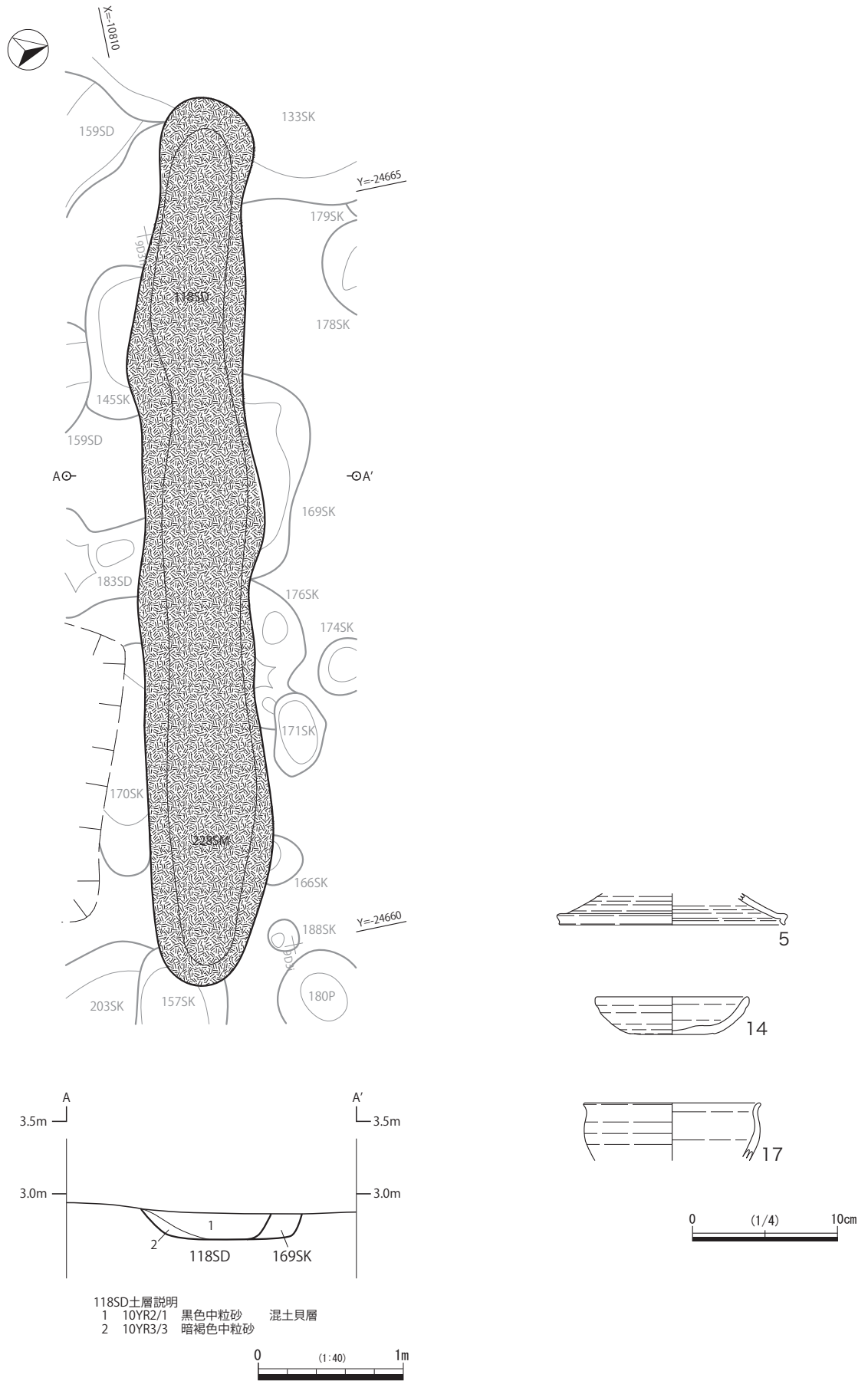


貝層サンプル集計

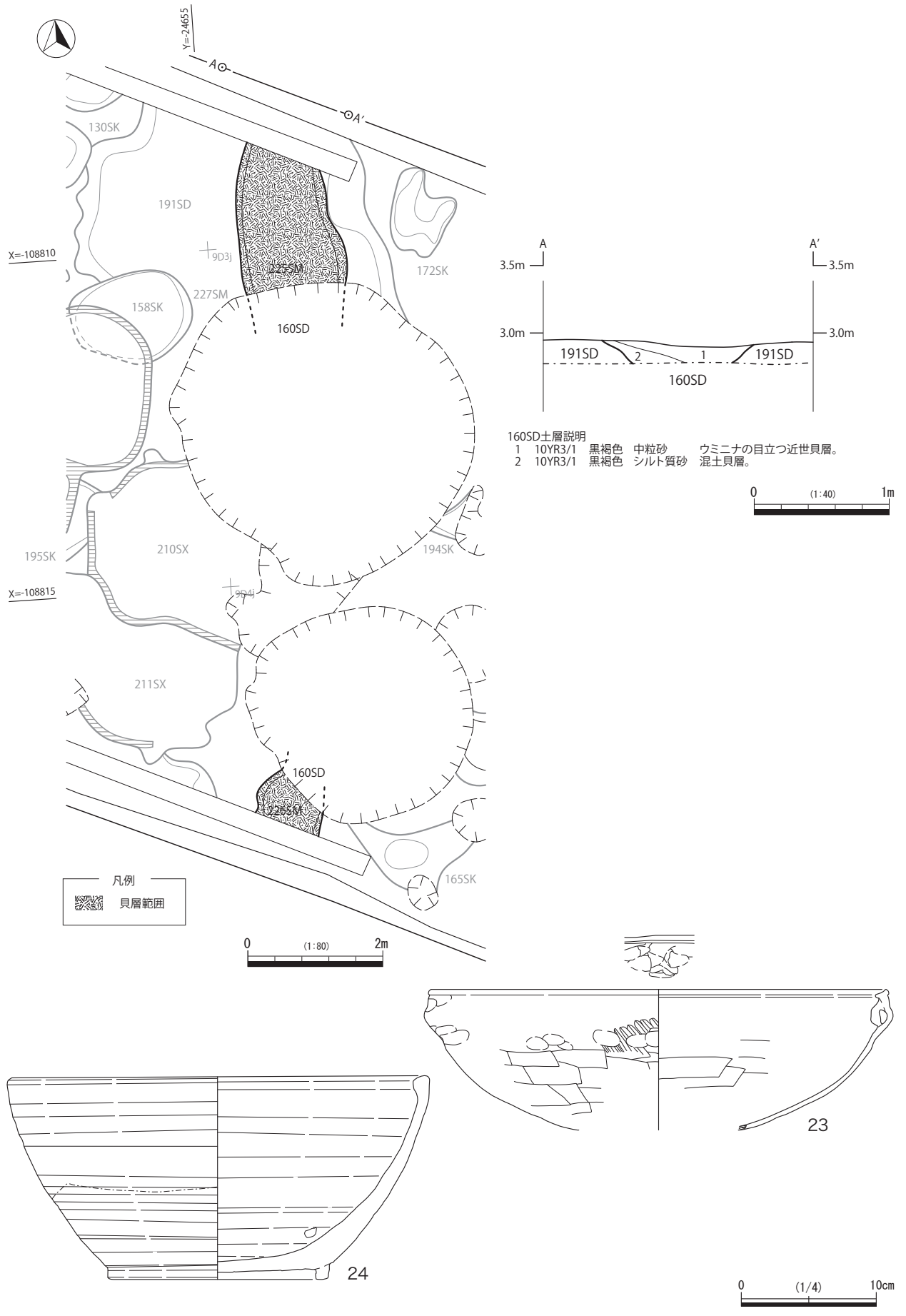
地点名	遺構名	シオフキ		ハマグリ		アサリ		サルボウガイ		ヤマトシジミ		オキシジミ		オオノガイ		マテガイ		マガキ		カガミガイ		マツカゼガイ		ウミナシナ類	ヘナタリ類	アラムシロ	キサゴ	ホラダマシ		
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R									
1	101SD	17	108	106	115	119	3	1	0	0	0	4	2	2	1	7	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0

\*斜文字は、最小個体数 (MNI)

第13図 101SD・102SD溝

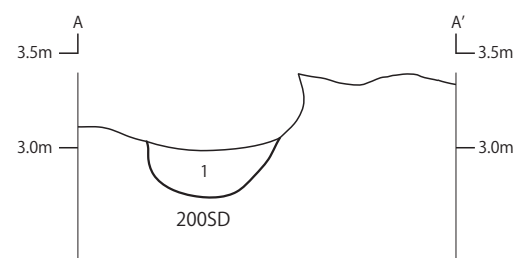
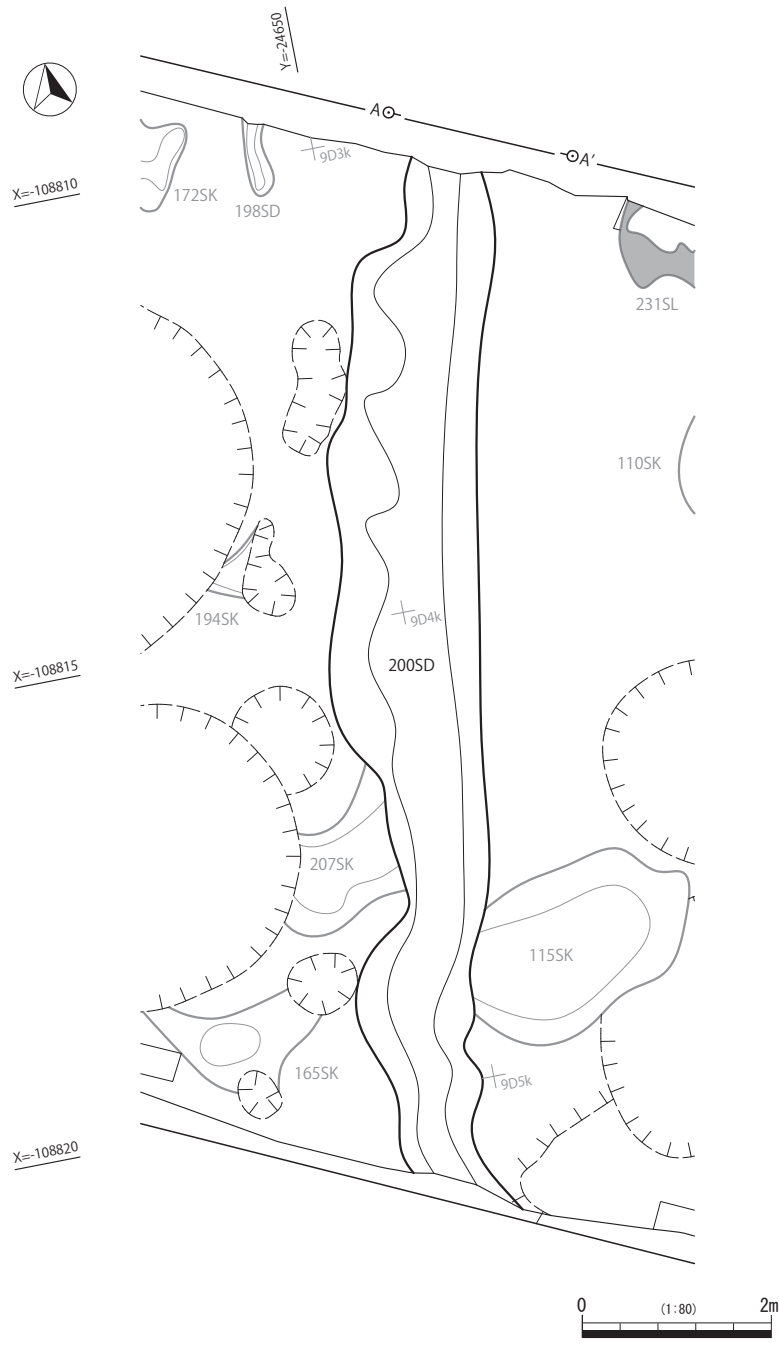


第14図 118SD溝



第15図 160SD溝

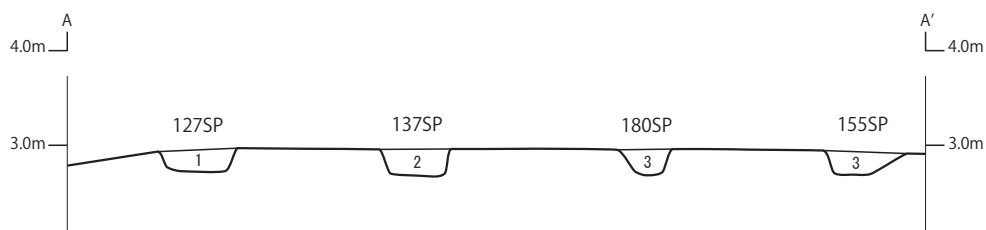
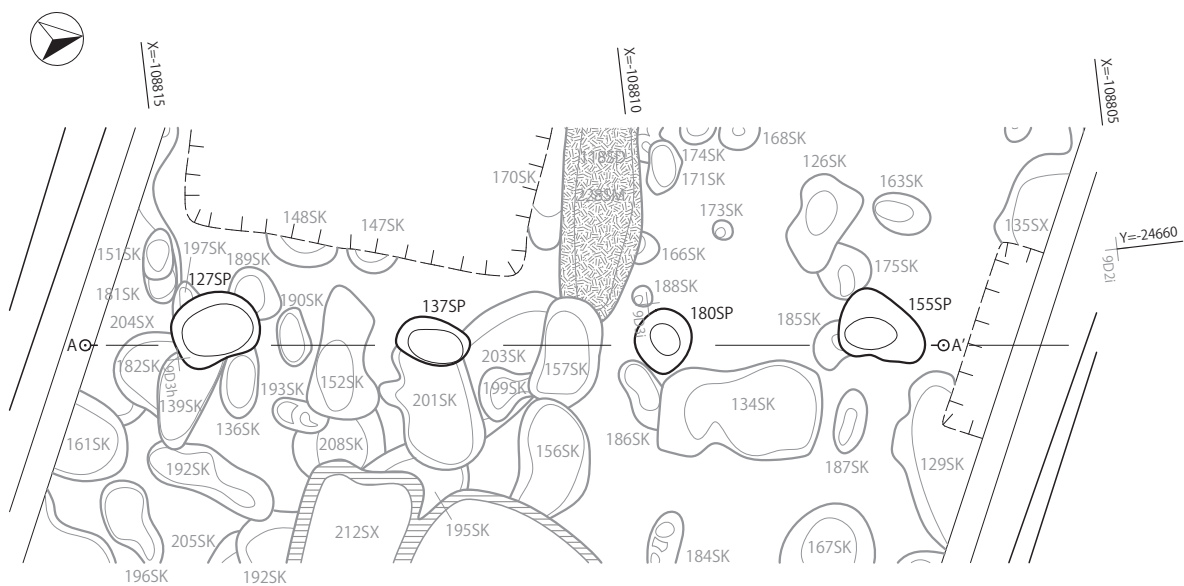




200SD土層説明  
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 中粒砂 破砕貝を含む。



第16図 200SD溝



- 230SA土層説明
- |   |         |     |     |                  |
|---|---------|-----|-----|------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 中粒砂 |                  |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR5/4粘土ブロック含む。 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 中粒砂 |                  |



第17図 230SA柵列

### 3. 主な遺物

遺物の大半は中世に属するが、近世の土坑、溝に混入した縄文土器、土師器、須恵器等も認められる。

古墳時代や古代の遺物は、土師器(1)、須恵器(2～10)、製塩土器(11)がある。いずれも表土や包含層あるいは、中・近世の遺構から出土している。1は甕の底部から体部である。内面に赤彩が付着していた。廻間Ⅱ式後半に比定される。110SKから出土した。2は坏蓋である。天井部は大きく湾曲しながら立ち上がる。口縁部は下方へ垂直につまみ出されている。122SKから出土した。3は垂直気味に立ち上がる体部と上外方へ外反した口縁部を有する壺である。4は甕である。肩部の張った球形の体部と丸底を有する。胴部の最大径部に刺突文を施している。5は坏蓋である。天井部は緩やかに立ち上がる。端部は内傾気味に下方に折り曲げている。118SDの貝層から出土した。6・7は底部に貼付高台を有する坏身である。8は盤である。体部は緩やかに立ち上がる。端部は上方へ垂直に折り曲げている。9は高坏の頸部である。坏部は湾曲気味に立ち上がる。脚部は細く絞られており、細い透かしを有する。10は壺底部である。平底から浅く上外方へ立ち上がる体部を有する。攪乱から出土した。11は湾曲した体部から下方向に細い脚部を有する製塩土器である。

中世の遺物は、包含層や遺構から出土している。26・27は瀬戸系の山茶碗である。26は133SKから出土した。瀬戸6型式である。27は底部に回転糸切り痕を残している。179SKから出土した。瀬戸7～8型式に比定される。19～22、28～30は知多系の山茶碗である。19は上外方へ大きく広がる体部と回転糸切底に低い貼付高台を有する。包含層から出土した。20～22は上外方へ広がる体部と底部に低い高台を有する。20は101SD、21は195SK、28は064SKから出土した。29は底部に貼付高台を有する。118SDの貝層から出土した。30は底部に貼付高台を有し、回転糸切り痕を残している。160SDから出土した。瀬戸4型式に比定される。16・31・32は東濃系の山茶碗である。16は体部が浅く、ロクロナデを施す。底部には回転糸切り痕がみられる。206SXから出土した。31・32は底部に回転糸切り痕を残している。31は146SD、32は176SKから出土した。12は灰釉陶器の壺である。平底から垂直気味に立ち上がる体部を有する。底部は回転糸切りを施す。包含層から出土した。17・18は瀬戸系の天目茶碗である。17は118SDの貝層、18は包含層から出土した。33は瀬戸系の丸碗である。胴部はロクロナデの後、施釉されている。200SDから出土した。24は瀬戸系の鉄釉鉢である。底部から口縁部にかけて湾曲し、口縁端部は内側に肥厚している。底部には貼付高台を有する。160SDの貝層から出土した。34は瀬戸系の仏餉具である。ロクロナデ調整後、胴部から底部に施釉を施している。160SDの貝層から出土した。35は瀬戸系の播鉢である。体部に多くのロクロナデ、板ナデを施している。154SKから出土した。36～39は常滑の甕である。口縁部はロクロナデ、板ナデを施している。36は133SKから出土した。常滑5～6b期に比定される。37は160SD、38は195SKから出土した。常滑10期に比定される。39は200SDから出土した。常滑8期に比定される。13～15は土師器皿である。13は内外面に指オサエがみられる。125SDから出土した。14は手づくねである。118SDから出土した。15は底部に回転糸切り痕がみられる。146SDから出土した。23は内耳把手を有する土師器の焙烙である。160SDの貝層から出土した。40～43は土師器の羽釜である。口縁部内外面にナデ、板ナデを施している。40は112SK、41は118SDの貝層、42は135SX、43は包含層から出土した。44は瓦



質土器の鍋である。口縁部に山形把手を有し、中央に2穴を穿っている。遺構検出時に包含層から出土した。

近世の遺物は、160SDからは土師器、瀬戸の鉄釉鉢(24)、102SDからは志野茶碗を含む山茶碗が出土している。陶磁器類以外には金属製品の銭貨(25)、石製品の茶臼(45)がある。25は「紹聖元宝」で包含層から出土した。45は上臼である。上面は粗い擦り目が残っている。材質は花崗岩である。199SKから出土した。

#### 4. 1地点のまとめ

当調査地点の主要な遺構としては、近世の区画溝や柵列がある。区画溝は調査区の中央で101SD・102SD・160SD・200SDを検出した。4条の溝は全て南北方向に延びており、主軸方位もN-4~11°-Eとほぼ同じである。同一箇所を東西に区分けした区画溝と考えられる。また、柵列(230SA)が160SDの西側に存在している。当遺構は区画溝と同様に南北方向に延びており、主軸方位もN-7°-Eで区画溝と同じ方位であることから、同一の区画に伴うものと考えられる。今日までの周辺の調査では、溝に伴う柱穴が検出されている例が多く見られ、区画溝と同時期に施工された護岸とする推測もあるが、溝が埋没した後に掘削された柱穴が多いことから、区画溝が消滅した後に柵、塀等の区画が施工されたと考えられる。区画溝が開削された時期は確定できないが、埋没した時期は、近世である点から、区画溝が消滅した後も区画を必要として柵・塀を施工した可能性がある。また、230SAの西側には中世まで遡る118SDがT字状に接している。この溝は貝層を含んでいる点から生活に密着した排水溝、建物の雨落ち溝の可能性はある。

当調査地点は中世から近世にかけて多数のピット、土坑が集中し、各溝内から多くの貝層が検出された。これらの事から、中世から近世にかけて発展した集落の一部であったことが想定される。その集落の一面を西側と東側に大きく区画する必要があるが、101SD・102SD・160SD・200SDの区画溝や平行する柵列(230SA)が施工されたと考えられる。

## 第2節 2地点(HM17-2)の調査

## 1. 2地点の概要と遺跡の構造

2地点は畑間遺跡の南側に所在する。調査区は南北に細長い南北調査区と、東西に短い南西調査区に分かれる。調査面積は658㎡である。

9月19日に南西調査区の表土掘削、9月25日から遺構掘削を開始した。10月11日に全景写真撮影を行い、10月27日に埋め戻しを行った。南北調査区は9月22日に調査区を取り囲むフェンスを設置し、9月25日に表土掘削を開始した。11月28日にスカイマスターにて全景写真撮影を行った。12月4日より埋め戻しを実施した。12月12日より南北調査区拡張区の表土掘削を開始した。12月22日に全景写真撮影を行い、12月26日に調査を終了した。

堆積が良好な箇所では、表土直下で近世の遺物包含層(Ⅱ層)、その下位で古代から中世の遺物包含層(Ⅲ層)、弥生時代の遺物包含層(Ⅳ層)を確認したが、全体的に攪乱が激しいため、遺構検出は地山の直上で行っている。地山面の標高は3.4m前後である。基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層：表土層。近現代の攪乱や耕作土である。調査直前まで存在した住宅や耕作地に伴うものと考えられる。

Ⅱ層：近世の遺物包含層。暗褐色(7.5YR3/4・10YR3/3)を呈する砂層である。

Ⅲ層：中世の遺物や、部分的に古代の須恵器を包含した層で、暗褐色(10YR3/3・10YR3/4)を呈する砂層である。

Ⅳ層：弥生時代以降の遺物包含層。暗褐色(10YR3/3)や、にぶい黄褐色(10YR4/3)を呈する砂層である。



第18図 2地点セクション位置図(1/500)

調査の結果、南西調査区の東側及び南北調査区の南半分は地山まで攪乱を受けていたが、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の円墳、中世の区画溝、掘立柱建物跡、土壙墓、井戸等を検出した。

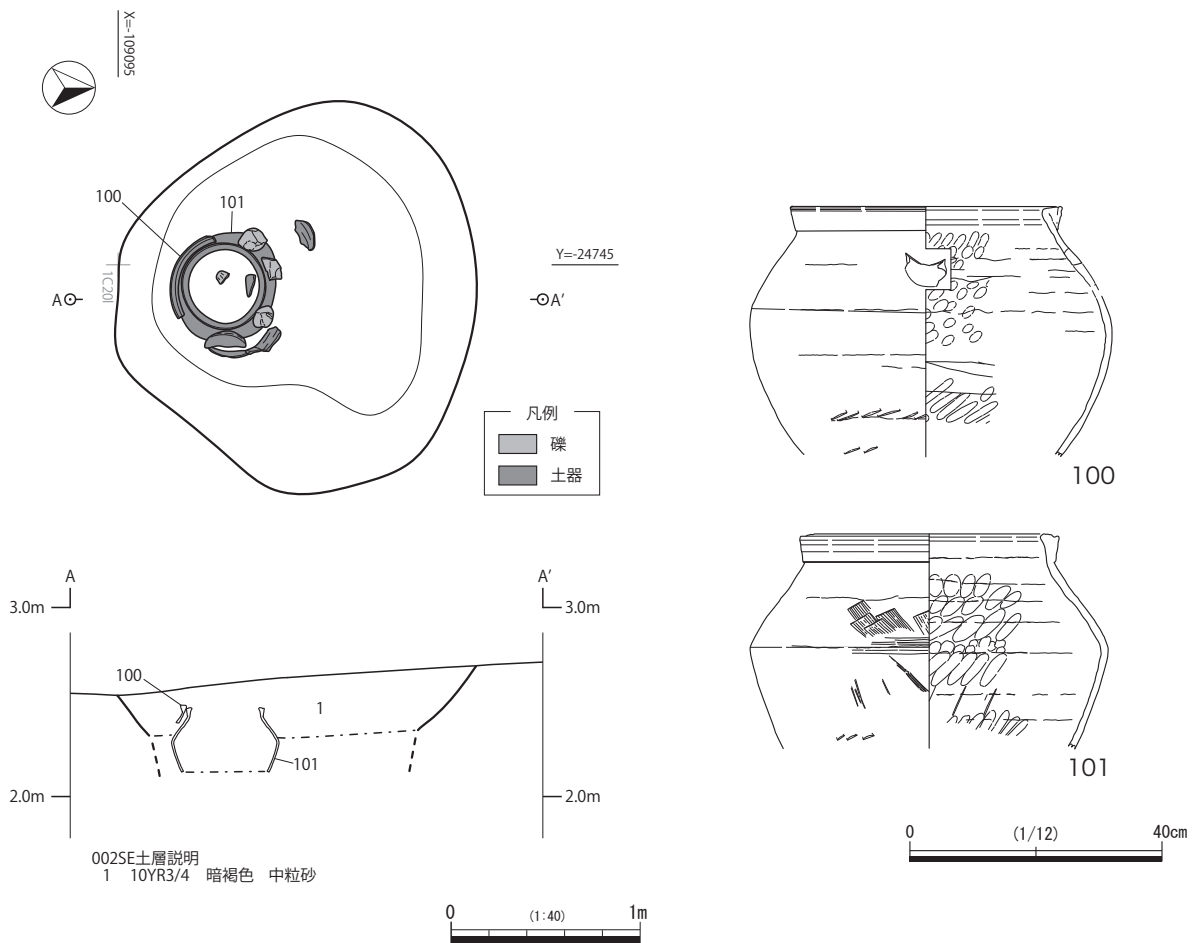
南西調査区の西側では、中・近世の土坑群(001SK・003SK～008SK・010SK)を確認した。土坑群は、長軸0.4～0.7mの小型と1.2m前後の大型に分かれるが、性格の違いは明らかにできていない。東側では、攪乱の下で、常滑の大甕を井戸枠とする中世の井戸(002SE)を検出した。

南北調査区では、北側で多数の小規模な土坑の他に、弥生時代の方形周溝墓群(203SZ～205SZ)、古墳時代の円墳(206SZ)、中世の区画溝(029SD・149SD)、掘立柱建物跡(207SB)、幼児人骨を埋葬した土壙墓(175ST)、中央では中世の区画溝(143SD・144SD・152SD)、南側は小規模な土坑の他に002SEと同じ常滑の大甕を井戸枠とする中世の井戸(028SE)などを検出した。なお、円墳(206SZ)は、当初137SDと138SDを検出しており個別のものと考えていたが、東側を拡張したことで円弧状を描く連続した溝であることが判明した。そのため本報告では138SDを欠番としている。溝内から出土した須恵器群から古墳時代の円墳及び周溝と判断した。

## 2. 主な遺構

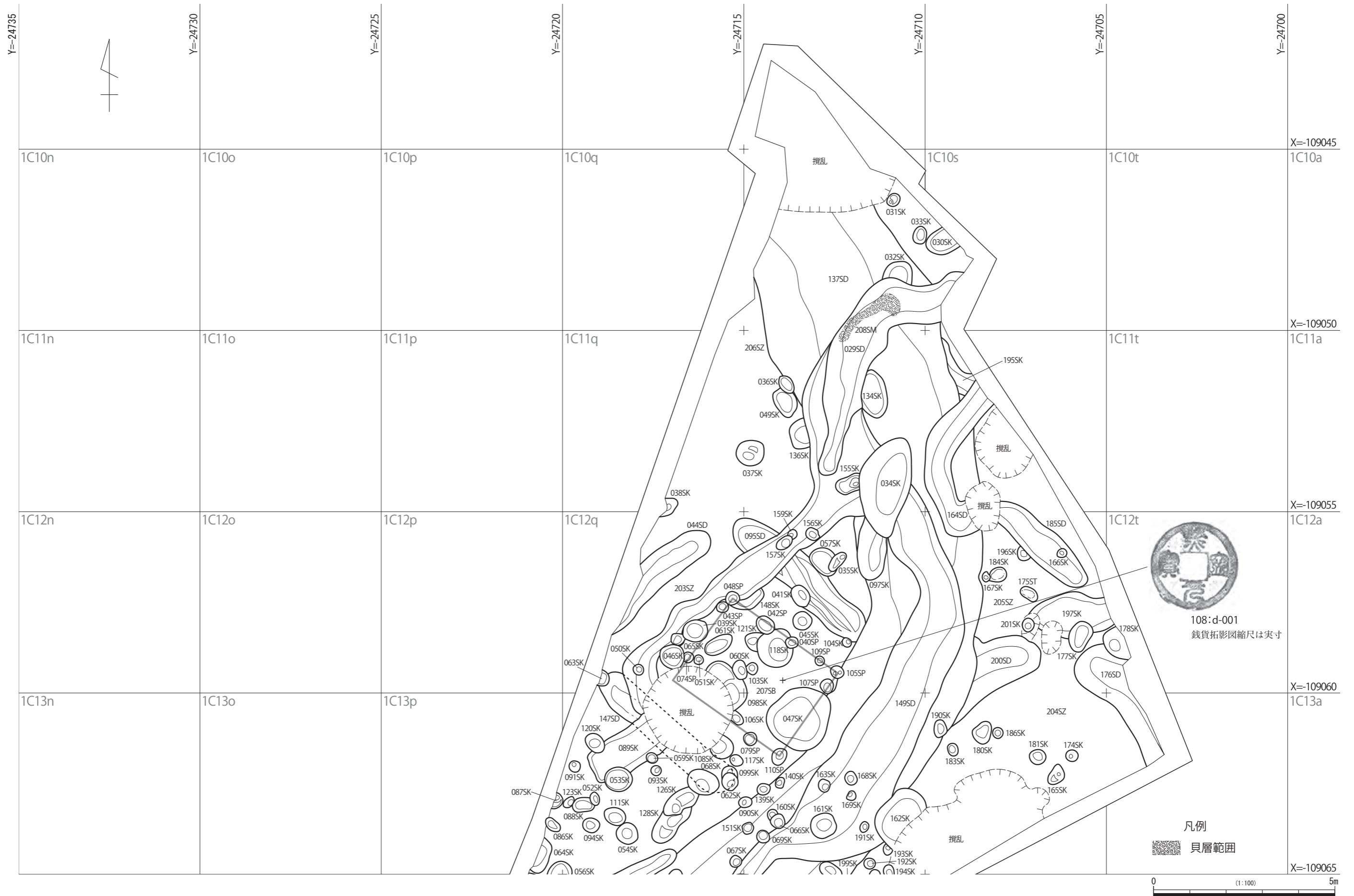
### 002SE：井戸(第19図)

南西調査区の東寄りで見つかった。井戸を含めて周辺は大きく攪乱され、他の遺構は残存していなかった。規模は長軸2.06m、短軸1.91m、深さ0.59mを測る。井戸枠は常滑の大甕の底部を打ち

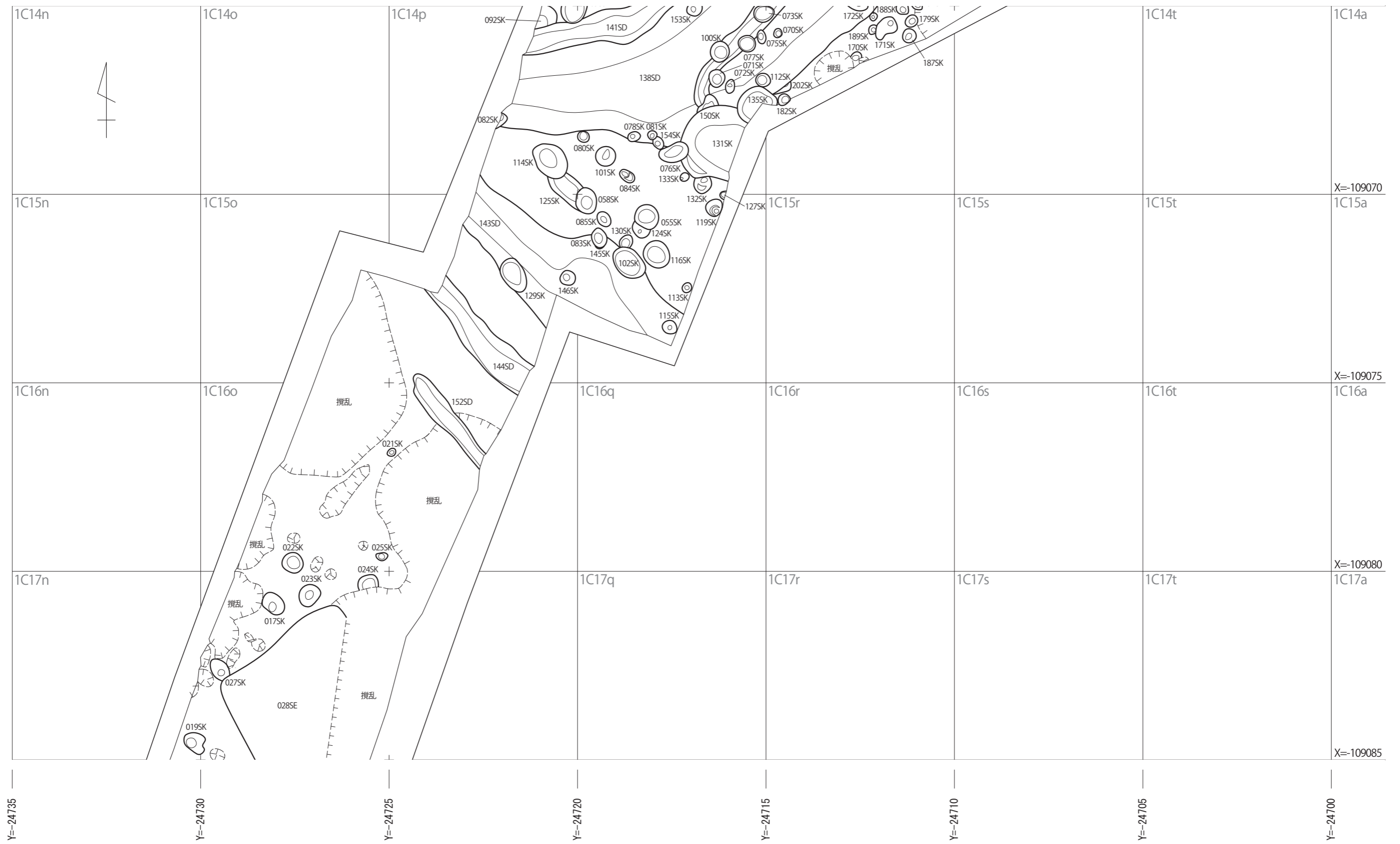


第19図 002SE井戸

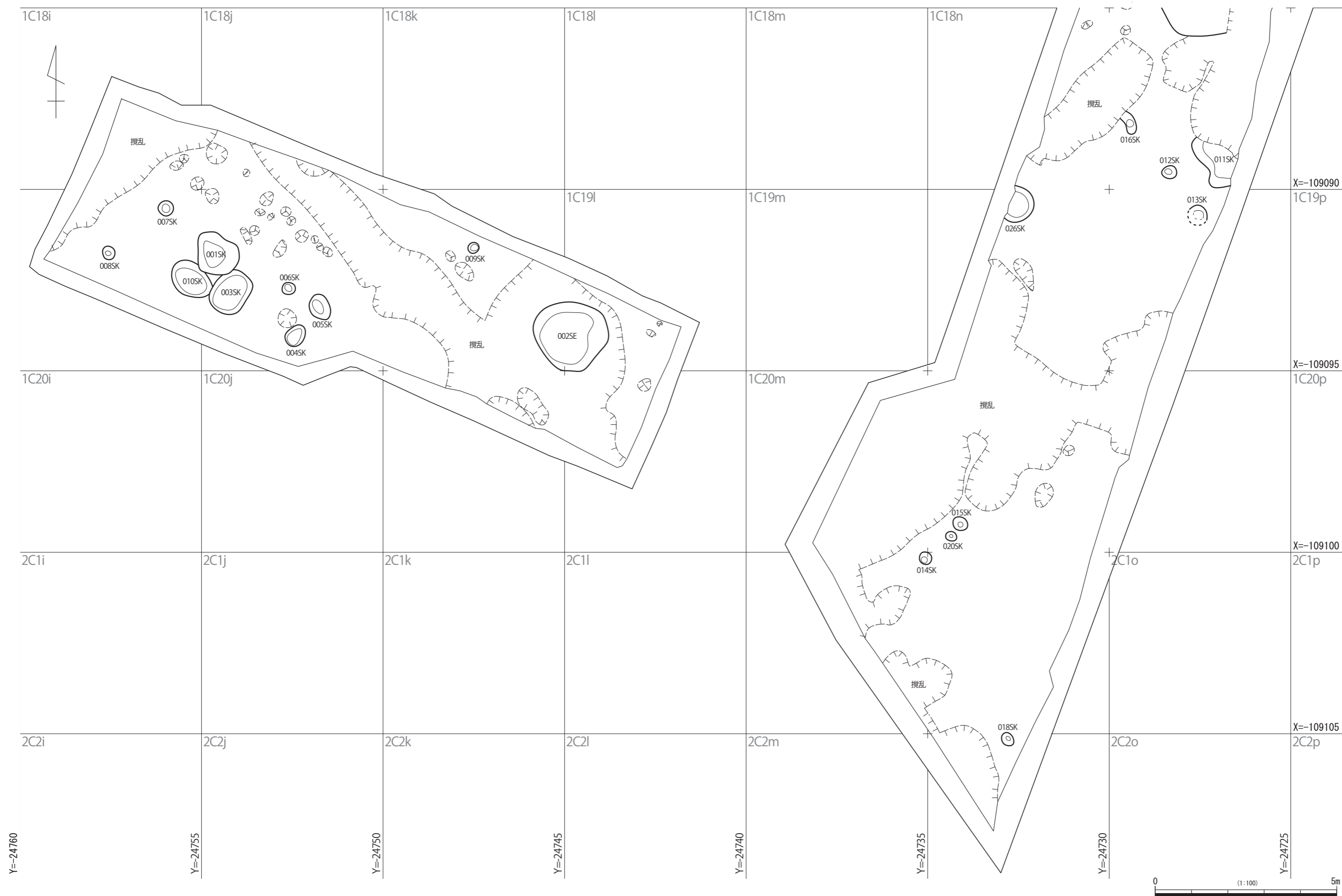




第 20 図 2 地点遺構平面図 (北側) 1/100

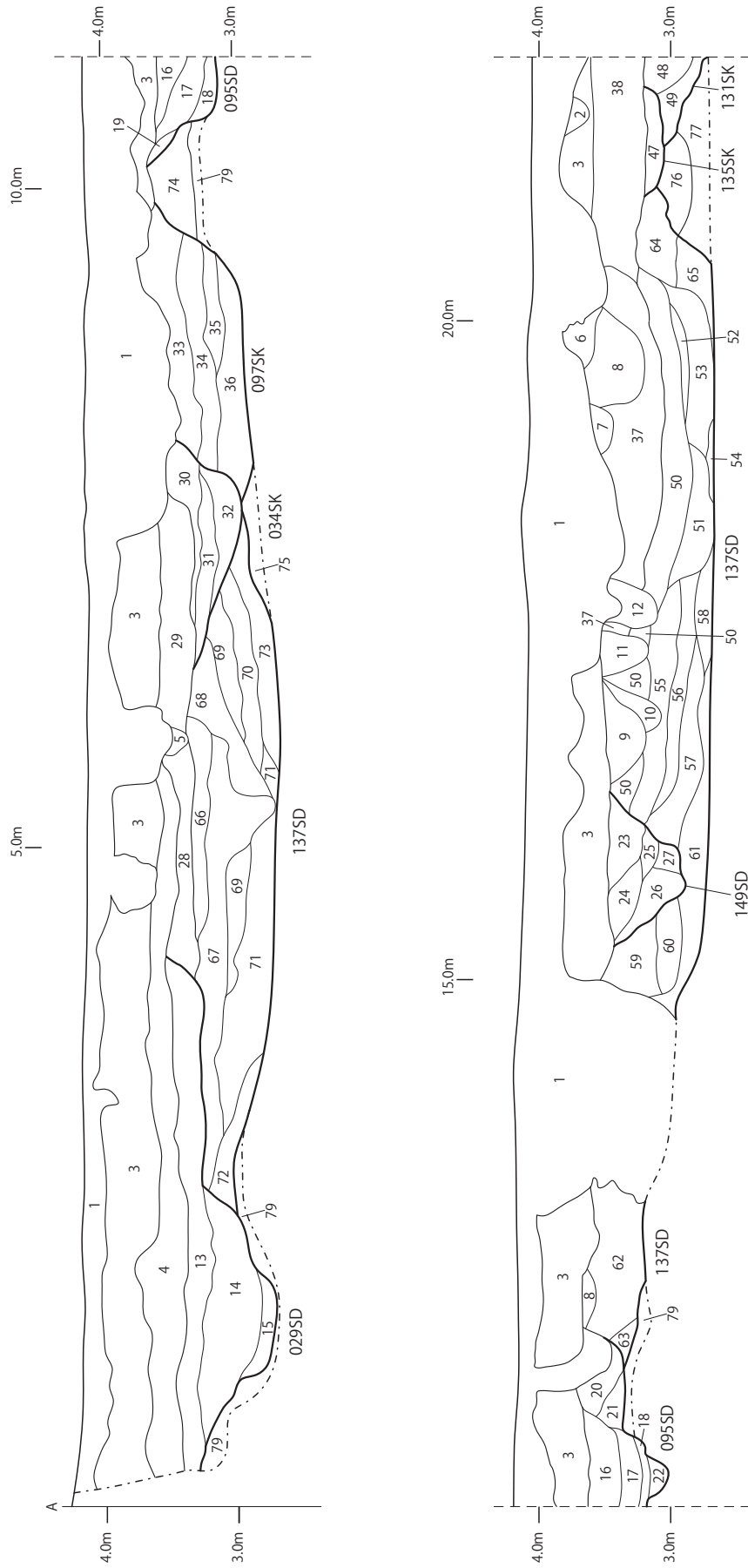


第 21 图 2 地点遺構平面図 (中央部) 1/100



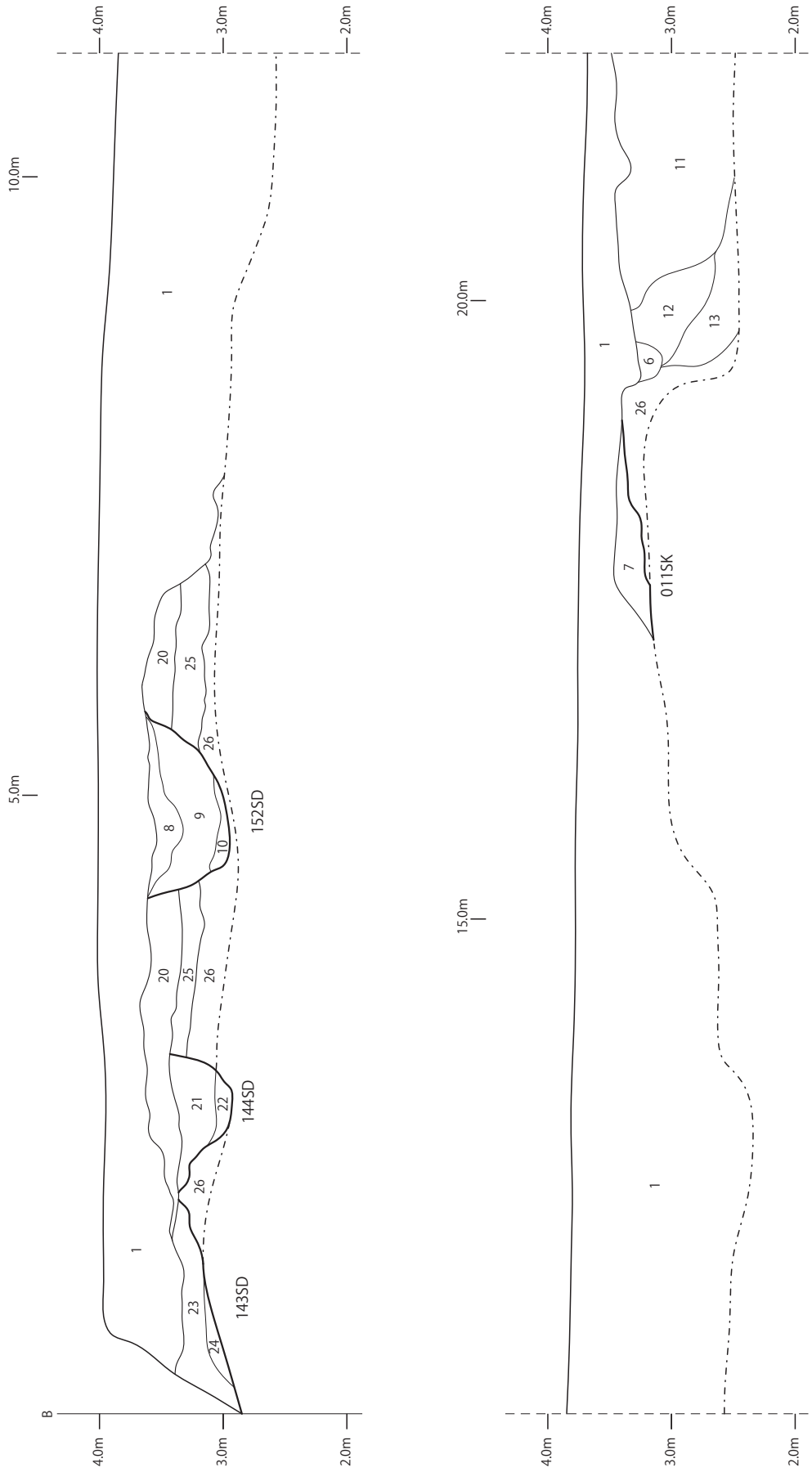
第 22 図 2 地点遺構平面図 (南側) 1/100





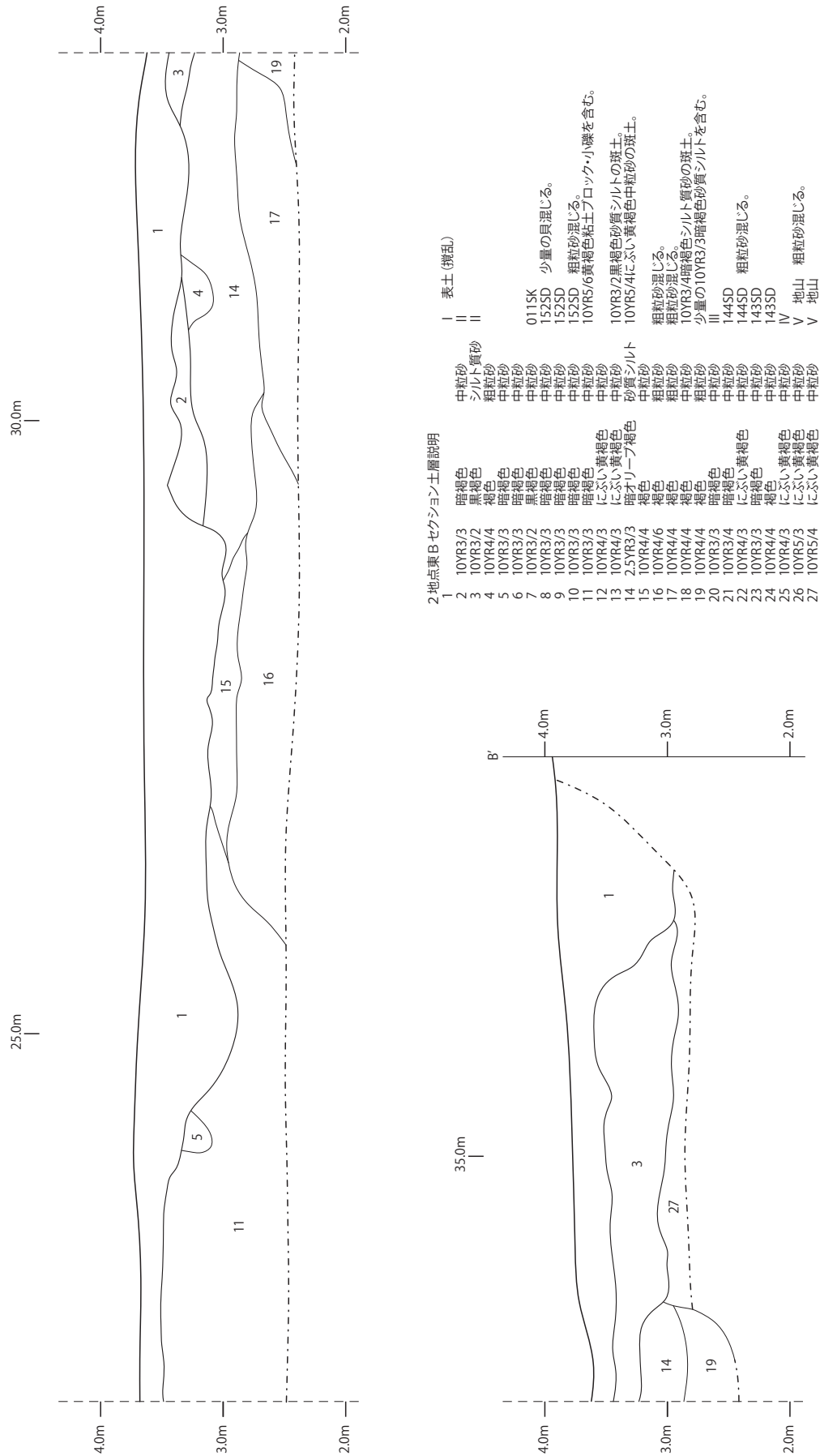
第23図 2地点東セクション(1)



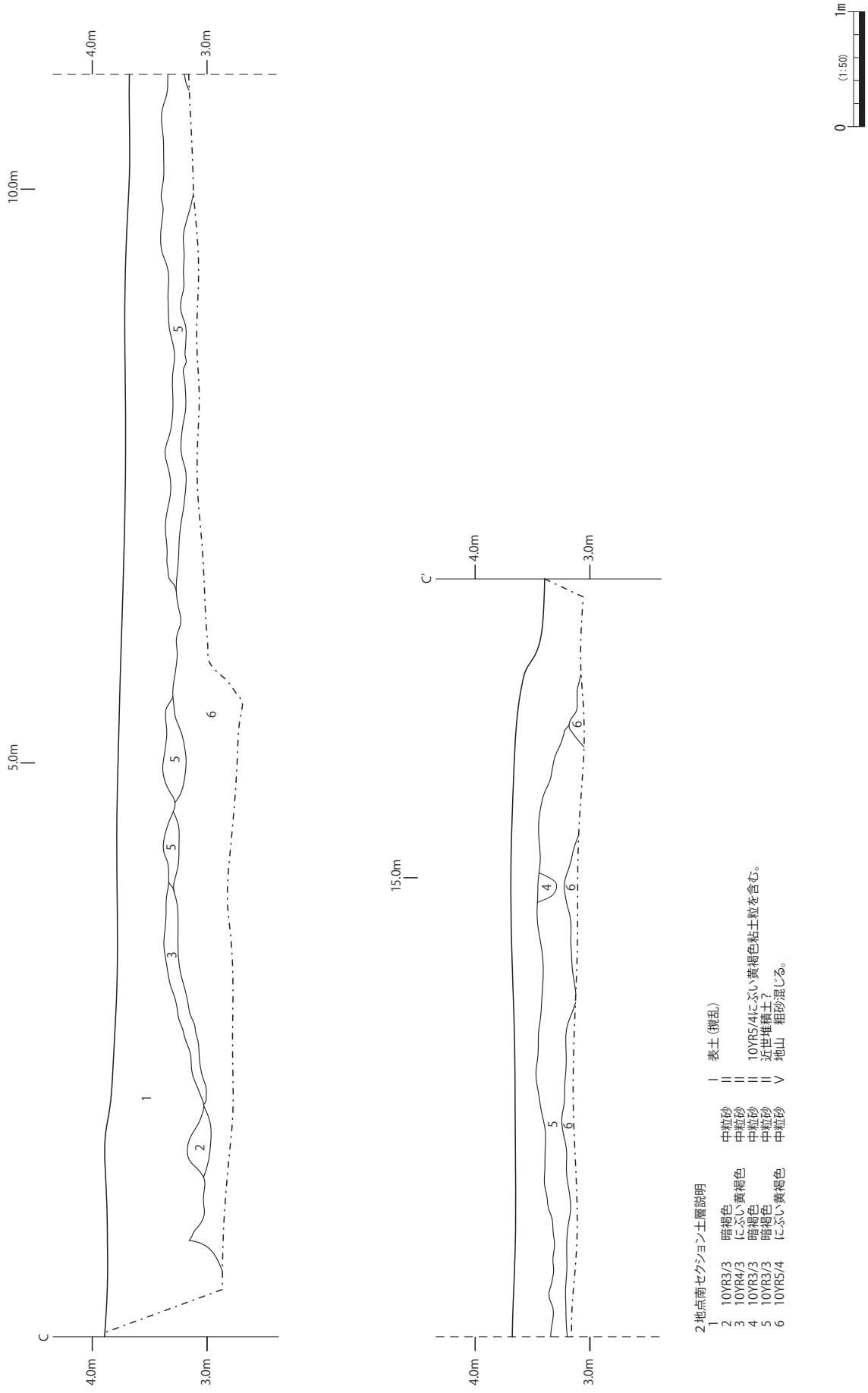


第25図 2地点東セクション(3)





第26図 2 地点東セクション (4)

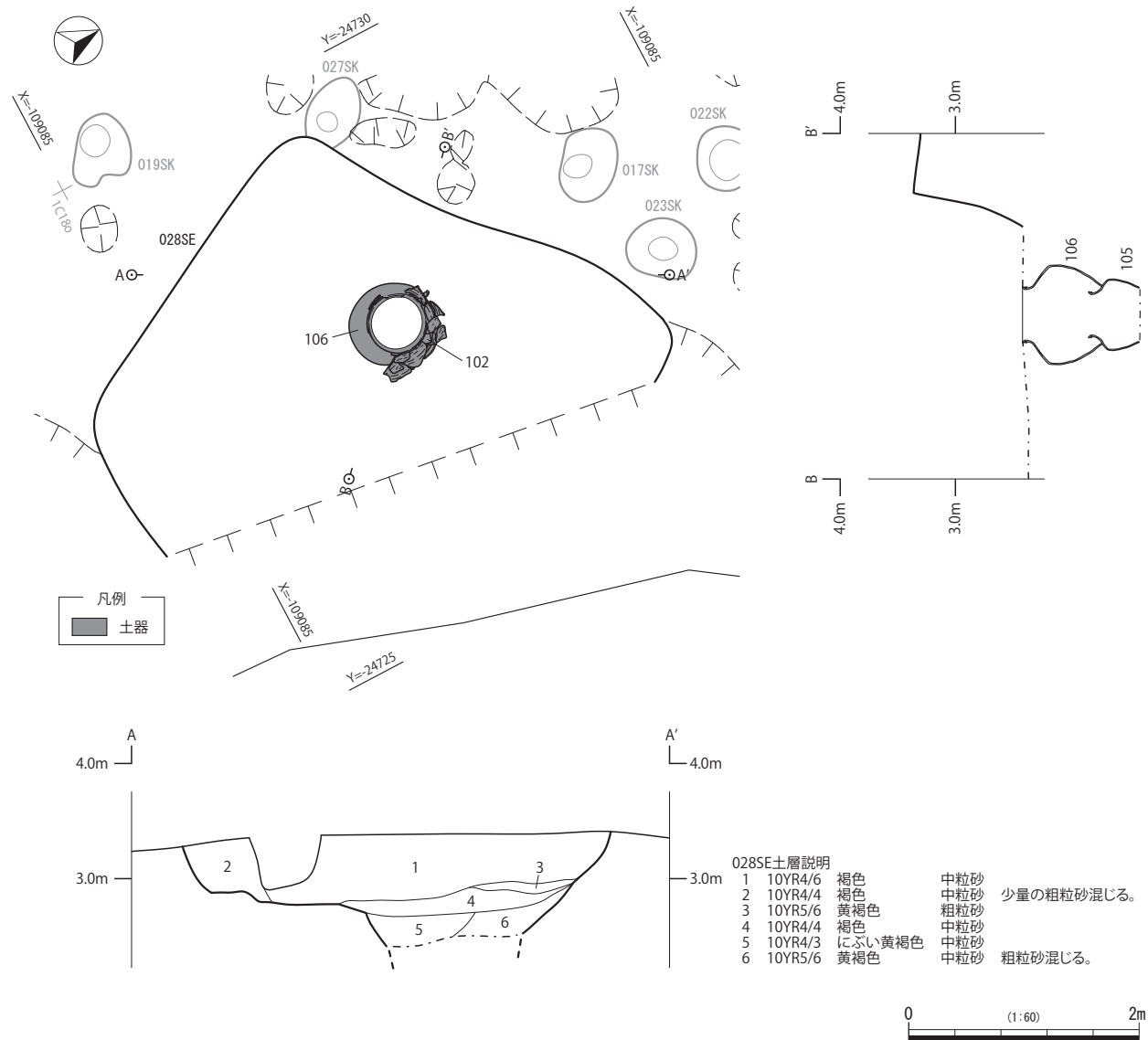


第27図 2地点南セクション

欠いて利用していた。湧水が激しいため掘方の底面まで確認を行えていないが、大甕(101)が井戸枠の最下段であると考えられる。その上部からは大甕の口縁部片9個、底部3個と底部を打ち欠いたもの2個、常滑の壺の口縁部1個が出土していることから、これらの破片を入れ子状に重ねて井戸枠として利用していたと考えられる。なお、大甕(101)は焼きが悪く歪がみられることから粗悪品と考えられ、通常の大甕として扱われなかった二流品を井戸枠としたものであろう。遺物は瀬戸の碗(118)、茶壺(119)がある。大甕(101)が常滑10型式に比定され、他の大甕と比較して最新の時期にあたることから、構築時期は15世紀後半に比定される。

028SE：井戸(第28・29図、図版22)

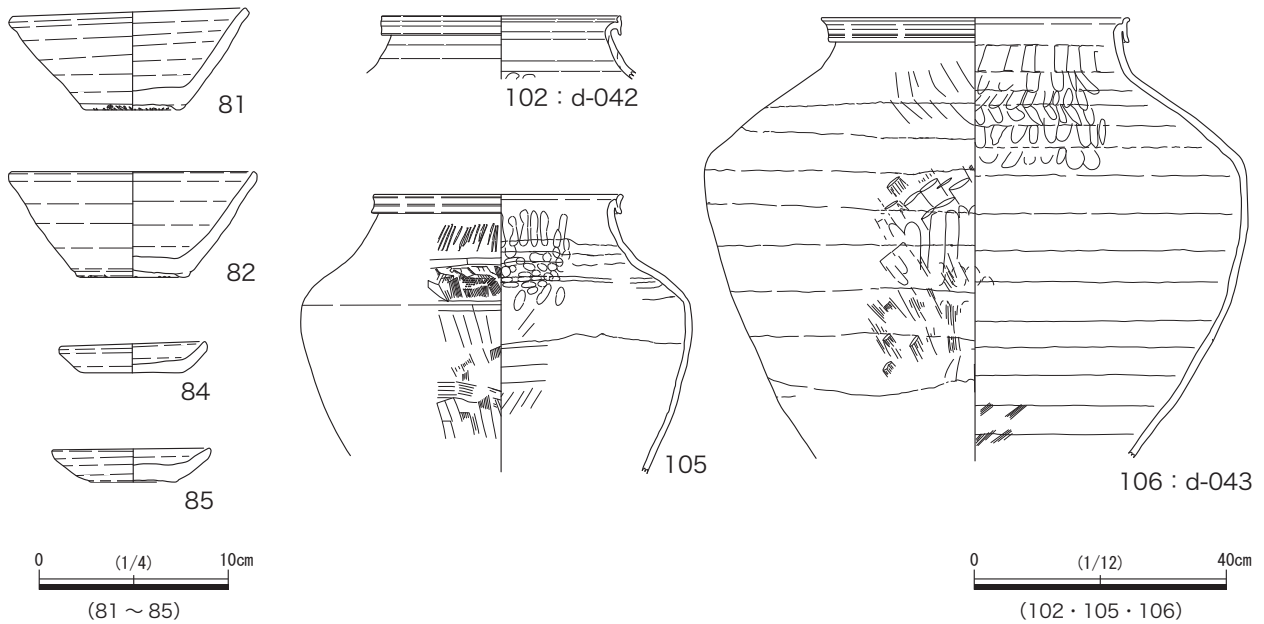
南北調査区の中央で検出した方形の掘方を有する井戸である。規模は長辺3.86m、短辺3.81m、深さ1.92mを測る。002SEと同様に井戸枠は常滑の大甕の底部を打ち欠いて利用しており、湧水が激しいため掘方の底面まで確認を行えていないが、106と105を上下2段に据えていた。また、大甕の口縁部3個の破片が出土していることから、これらも入れ子状に重ねて井戸枠としていたと



第28図 028SE井戸(1)

2  
地点  
(HM  
2)





第29図 028SE井戸(2)

考えられる。大甕(105・106)は焼成温度が低く、歪がみられることから二流品と考える。遺物は瀬戸の山茶碗(81・82)、小皿(84・85)がある。大甕(105・106)がともに常滑7型式に比定され、他の大甕と比較して最新の時期にあたることから、構築時期は14世紀前半に比定される。

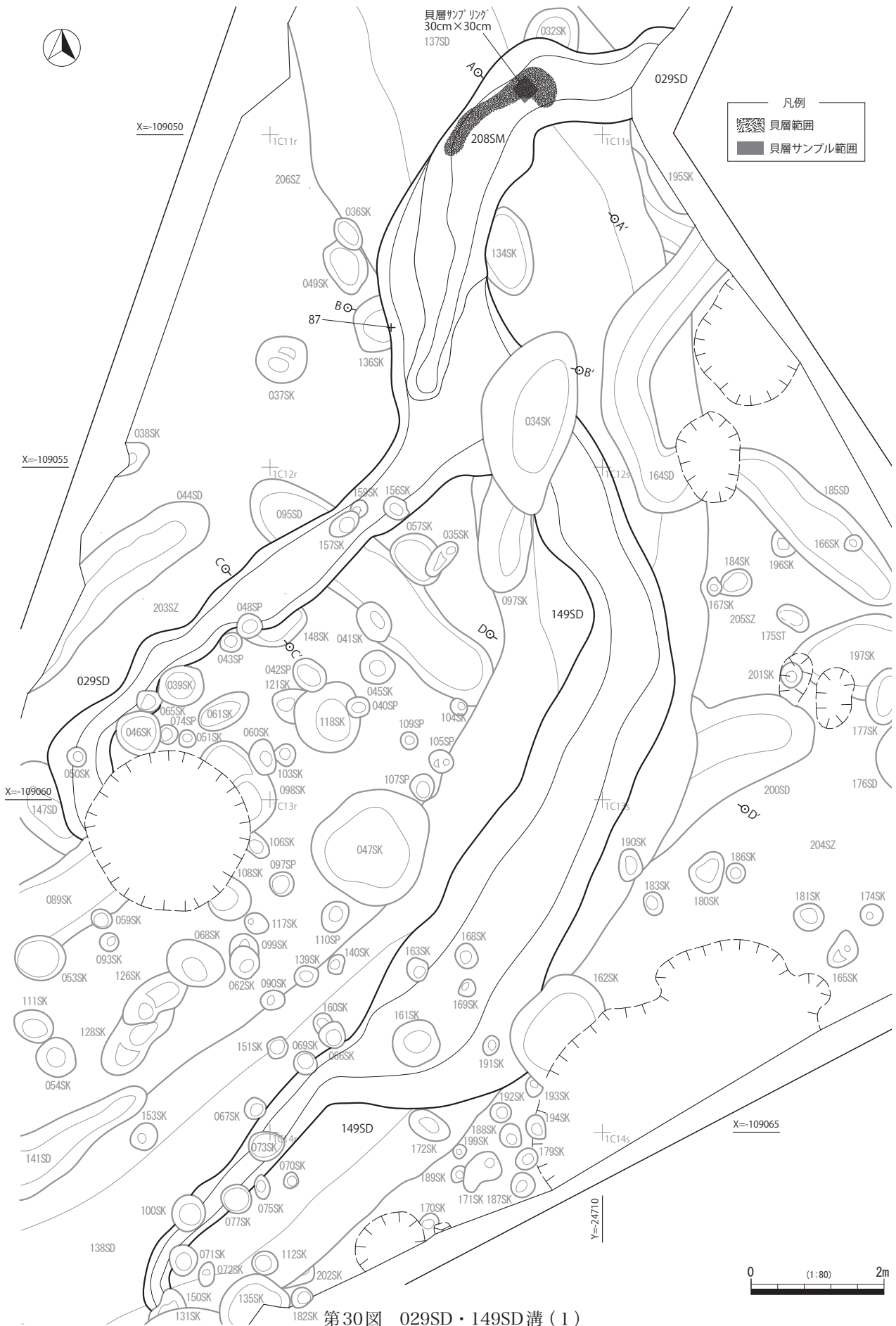
#### 029SD・149SD・208SM：中世区画溝(第30・31図、図版22)

南北調査区の北側で検出した2条の区画溝である。円墳(206SZ)の周溝(137SD)の窪みを利用したためか、一部で137SDとプランが重複している。平面形はL字やクランク状を呈し、南西側は1C14q付近で収束するが北西端は調査区外へ延びる。2条の溝はともに034SKで切られているため新旧関係は不明だが、一連の溝になる可能性がある。規模は029SDが長さ15.8m、幅1.9m、深さ0.6m、149SDが長さ15.77m、幅1.76m、深さ0.15mを測る。029SDには貝層(208SM)があり、30cm×30cm×50cmのブロックサンプルを採取した。1地点の101SDと似てシオフキが77.6%、次にハマグリが21%であり、ほぼすべてをこの2種で占めている。遺物は、土師器皿(86)、古瀬戸の燭台(87)、常滑の鉢(116)、混入品とみられる小破片の弥生土器(50・111・112)、須恵器の坏身(60)がある。

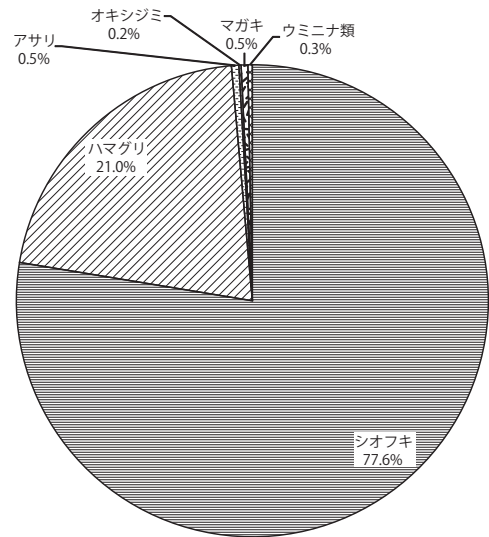
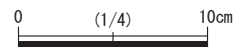
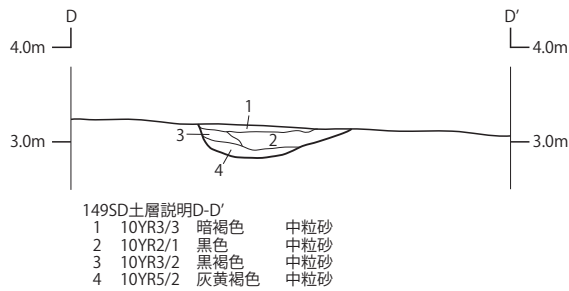
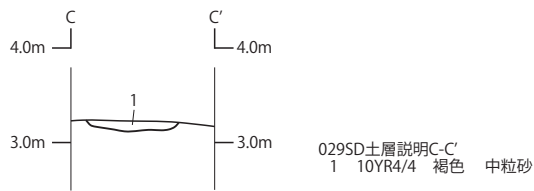
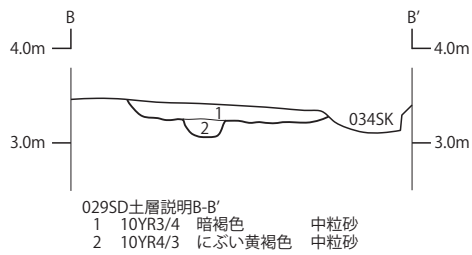
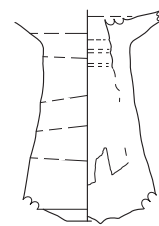
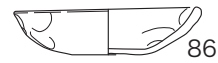
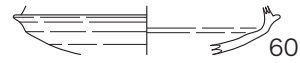
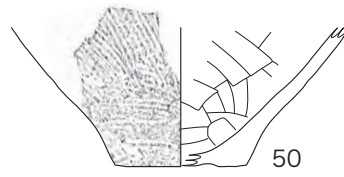
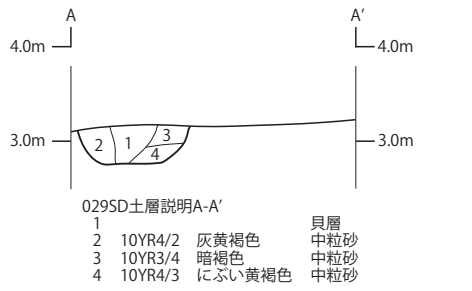
#### 143SD・144SD・152SD：中世区画溝(第32図、図版22)

南北調査区の中央で検出した北西から南東方向に延びる3条の溝である。1.2m前後の間隔で南から152SD・144SD・143SDと並んでいる。新旧関係は重複していないため不明である。平面形は直線状を呈する。規模は、143SDが長さ6.4m、幅2.8m、深さ0.25m、144SDが長さ3.34m、幅0.79m、深さ0.18m、152SDが長さ2.91m、幅0.45m、深さ0.11mを測る。主軸方位は、いずれもN-35°-Wである。

2 地点 (HM 12)



第30図 029SD・149SD溝(1)



貝層サンプル集計

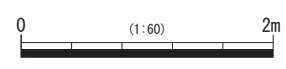
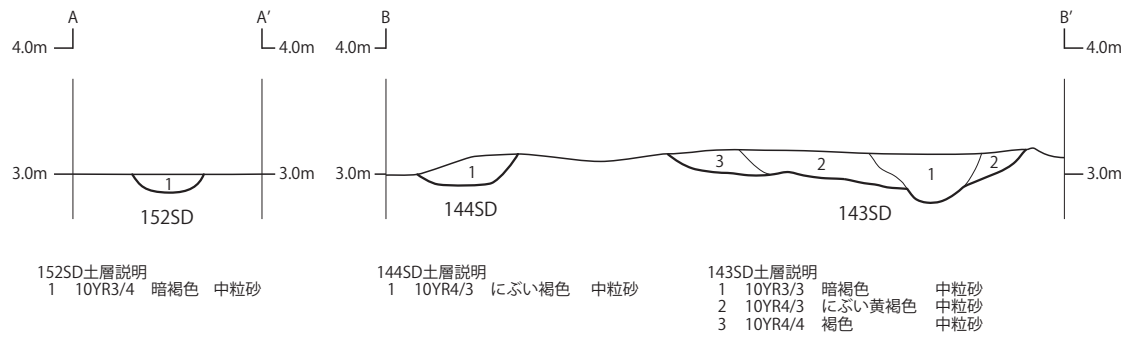
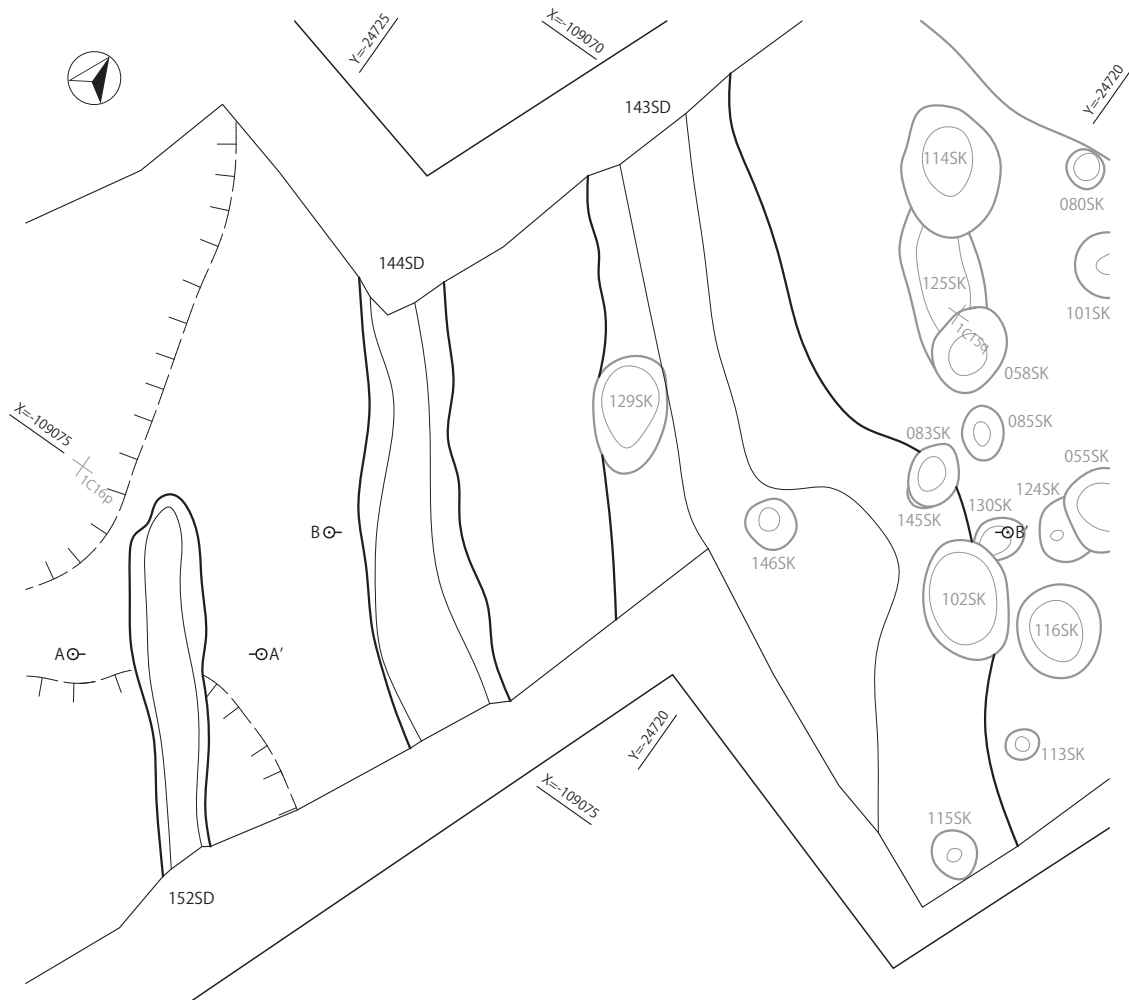
\*斜文字は、最小個体数 (MNI)

地点名	遺構名	シオフキ		ハマグリ		アサリ		サルボウガイ		ヤマトシジミ		オキシジミ		オオノガイ		マテガイ		マガキ		カガミガイ		マツカゼガイ		ウミナ類	ヘナタリ類	カワエナ類	アカニシ	アラムシロ	キサゴ	ホラダマシ
		L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R											
2	029SD	1482	1537	474	400	70	7	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	9	7	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	

第31図 029SD・149SD溝(2)

溝の北東側は地山面の標高がわずかに高く、掘立柱建物跡(207SB)、幼児人骨を埋葬した土壇墓(175ST)、多数の柱穴状の遺構が認められることから、区画の内側と考えられる。南西側は攪乱も多いが、全般的に遺構は散発的である。遺物は山茶碗、陶器、土師質土器などが出土している。

2  
地点  
(HM  
1  
2)

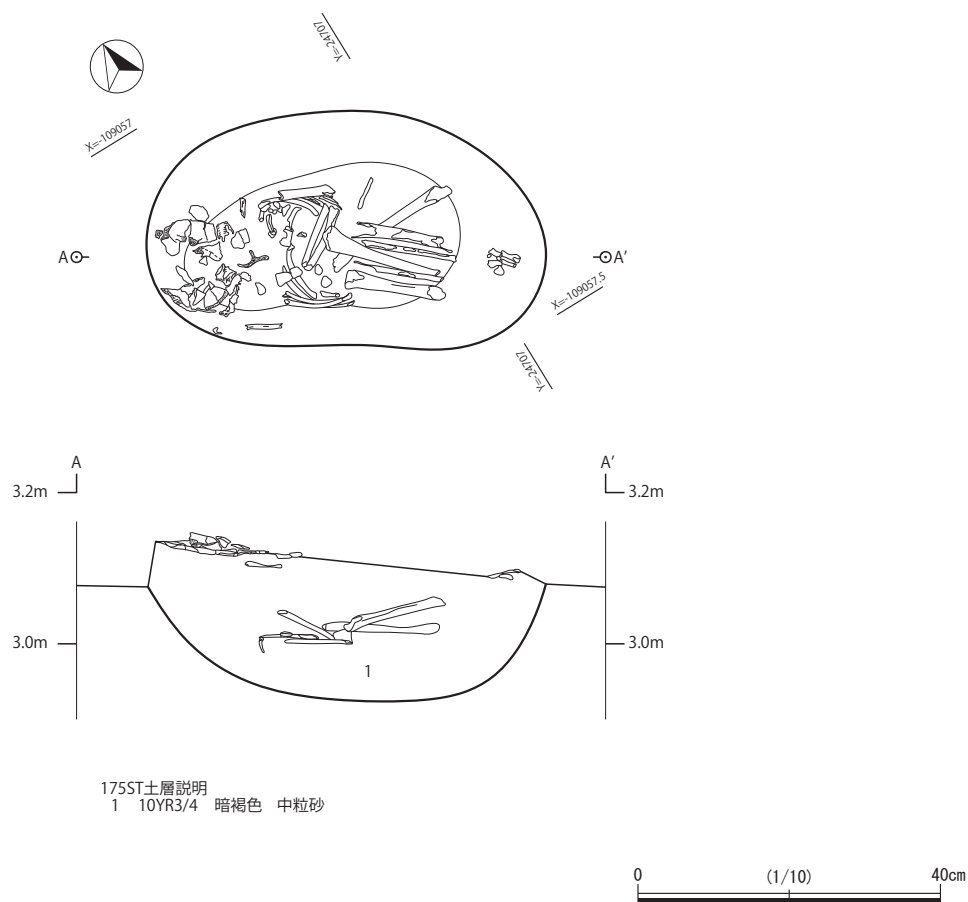


第32図 143SD・144SD・152SD溝



## 175ST：土壙墓（第33図、図版22）

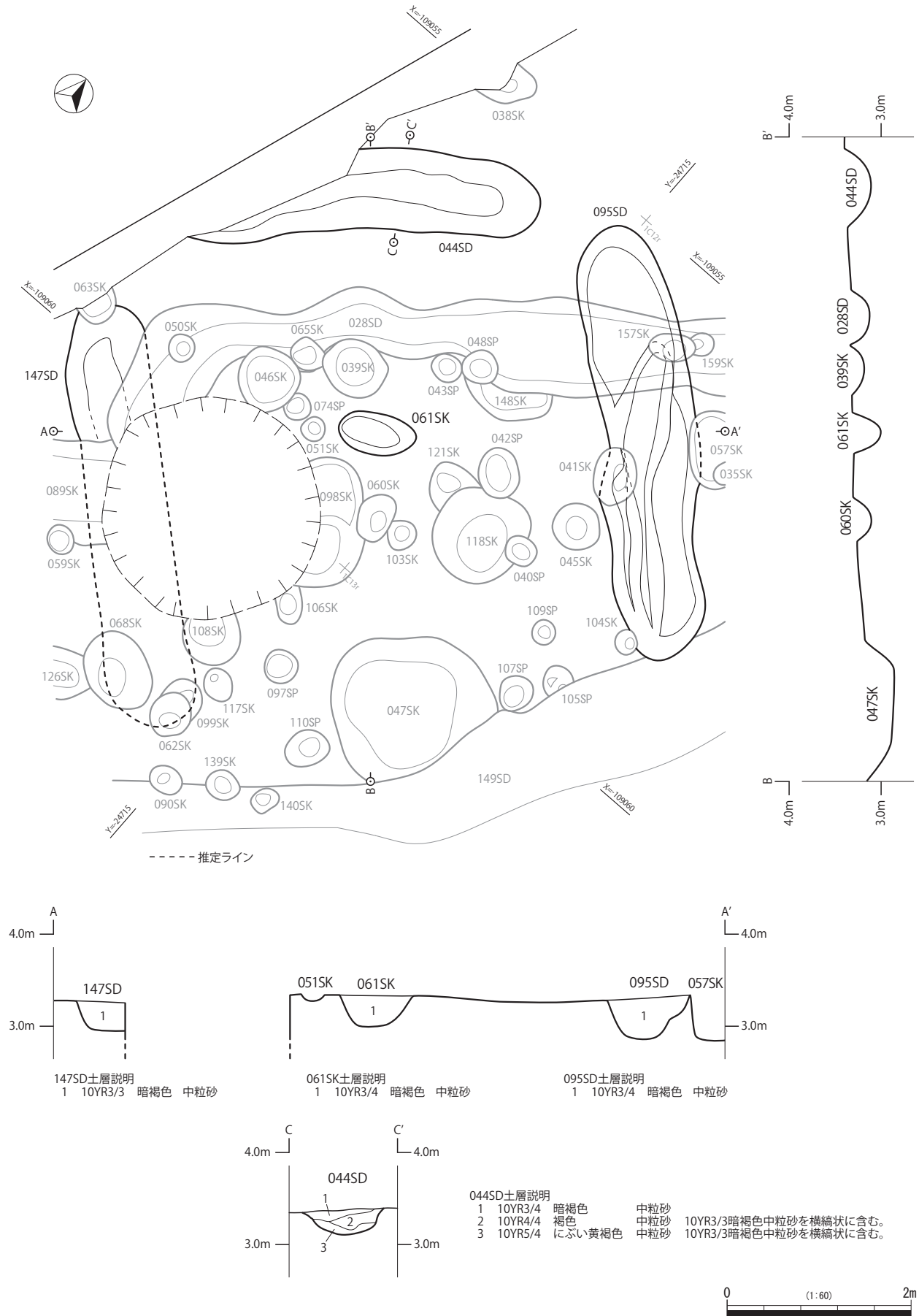
南北調査区の北側で検出した土壙墓である。平面形は北西から南東方向に長軸を有する楕円形で、北辺は攪乱が接している。断面形は丸底を呈している。規模は長さ0.52m、幅0.31m、深さ0.18m、主軸方位はN-31°-Wを測る。埋土は、暗褐色（10YR3/4）中粒砂である。土壙内から頭部を北西方向に向けた幼児の人骨と時期不明の山茶碗の小破片が出土した。人骨の出土状況から足を屈折した状態で埋葬されたものと思われる。人骨は鑑定の結果、推定年齢6才～7才で性別は不明（女兒の可能性あり）の未成年個体であった。また、放射性炭素年代測定によれば13世紀末から15世紀初頭の暦年代が示される結果となった（第3章参照）。以上から中世の土壙墓であると考えられる。



第33図 175ST土壙墓

## 203SZ（044SD・095SD・147SD・061SK）：方形周溝墓（第34図、図版23）

南北調査区の北側では陸橋部を有した3基の方形周溝墓（203SZ・204SZ・205SZ）が確認された。203SZは北東（095SD）・北西（044SD）・南西側（147SD）の周溝より成り、南東側は137SD等により破壊されていたものの、四隅に陸橋部を有していたと考えられる。墳丘長は北西辺が4.8m、北東辺が5m前後、周溝を含めた総長は北西辺が6.5mと推定される。軸方位はN-41°-Wである。各周溝の規模は、044SDが長さ2.54m、幅0.86m、深さ0.12m、095SDが長さ4.65m、幅1m、深さ0.15m、147SDが長さ1.5m、幅0.66m、深さ0.32mを測る。墳丘の築土は残存していなかったが、中央やや北西よりで主体部の痕跡の可能性のある061SKを検出した。平面形は楕円形で、長さ0.87m、幅0.45m、深さ0.25mを測る。遺物は弥生土器の破片が出土している。



第34図 203SZ方形周溝墓

## 204SZ (176SD・200SD)：方形周溝墓(第35図、図版23)

204SZは調査区隅に位置していることや、円墳(206SZ)の周溝(137SD)に切られていることもあり北東(176SD)・北西側(200SD)の周溝を部分的に確認した。南西側は攪乱や他遺構により破壊されており、南東側は調査区外であると考えられる。墳丘の築土は残存していないものの、墳丘長は北西辺が5.5m前後、北東辺が3.9m以上と推定される。軸方位はN-32°-Wである。各周溝の規模は176SDが長さ3.5m、幅1.3m、深さ0.43m、200SDが長さ2.7m、幅1.5m、深さ0.5mを測る。遺物は弥生土器や土師器の破片が出土している。

## 205SZ (185SD・200SD)：方形周溝墓(第35図、図版23)

周溝(185SD)を検出した。北西端を攪乱によって失っている。調査区隅のため、他の周溝は北東側の調査区外に位置していると考えられる。一方、204SZの周溝(200SD)が僅かに北西側に屈曲しており、この屈曲が185SDに平行する可能性があるため200SDが南東側周溝にあたることも考えられる。つまり、204SZと205SZは、200SDを共有した方形周溝墓群の可能性はある。上記の想定によれば、墳丘長の北東辺は3m前後、南東辺は3.5m前後と推定される。185SDの規模は、長さ3.13m、幅0.94m、深さ0.14mを測る。遺物は弥生土器の破片が出土している。

## 206SZ (137SD)：円墳(第36・37図、図版23)

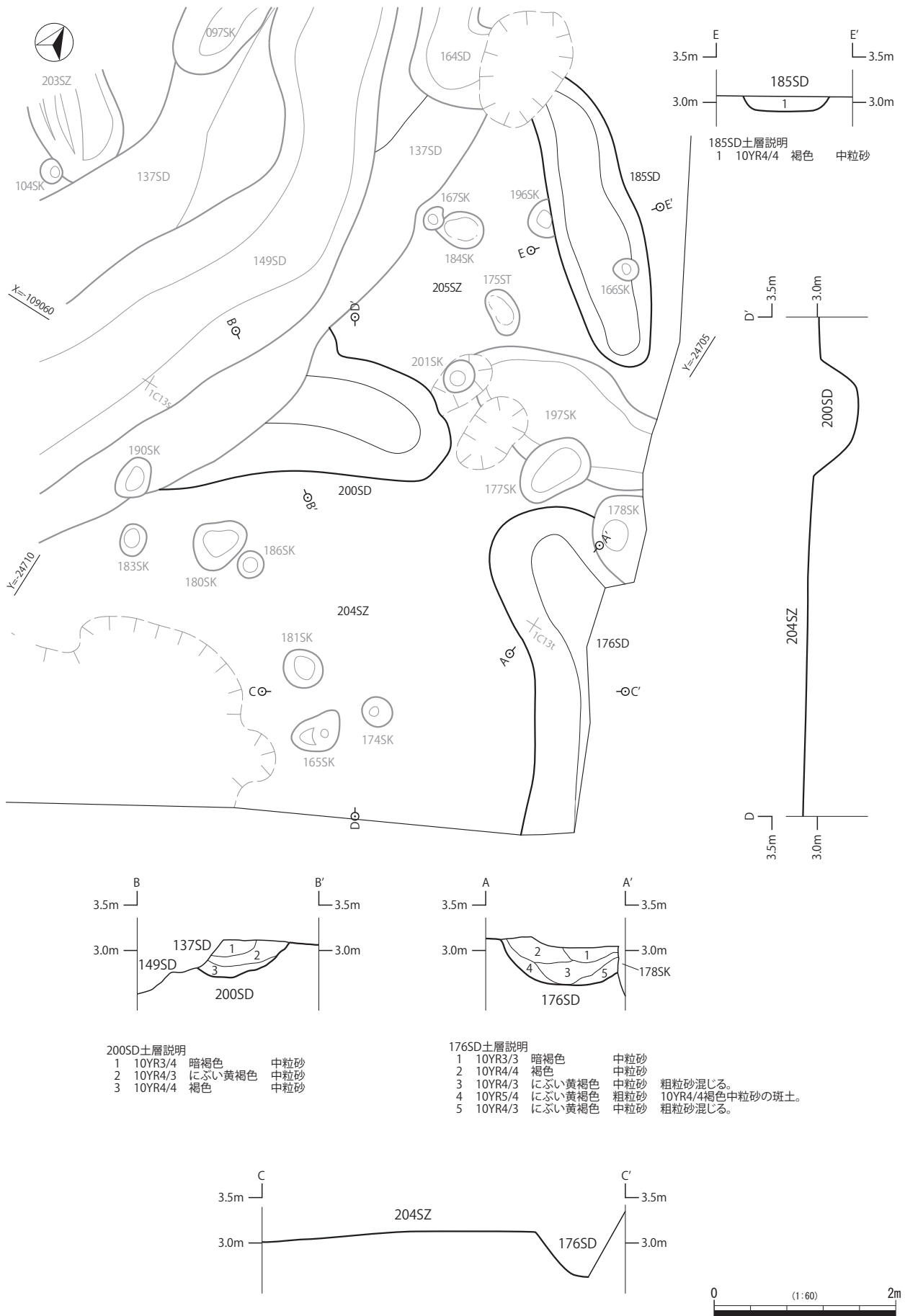
調査区北半部で円弧状の周溝(137SD)を検出した。円形の古墳を想定するなら全体の1/4程度を確認したことになる。調査区西端での墳丘長は18.4m、周溝を含めた全長は25.4m前後である。ただし、これは円墳を斜めに計測していることになる。仮に137SDの円弧がほぼ正円で延びていたと想定した時の墳丘長は19.2m、周溝を含めた全長は25.6mに復元される。

墳丘の築土は、残存しておらず、墳丘内で中世区画溝(029SD)を確認していることから、中世段階でほぼ削平されていたと考えられる。このため主体部は不明で、横穴式石室等を想定させる石材も出土していない。

周溝の規模は、幅3.4m、深さ0.73mを測る。南側の周溝内から須恵器がまとまって出土した。須恵器の集中地点は東西2か所に大きく分けられる。遺物の集中する範囲は、東群が長さ1.2m、幅0.6m、西群が長さ2m以上、幅1.2mを測り、西端は調査区外へ広がる。両群の距離は約2mである。遺物は全て須恵器に限定され、埴輪の出土は認められなかった。器種は東群では坏蓋(53)、坏身(56)、提瓶(79)、西群では坏蓋(52)、坏身(55・57・59・62～65)、高坏(67～77)、臚(78)である。これらの器種構成は日常的ではなく、古墳に供献される一式のものであることから、当遺構は古墳の周溝と考えて間違いないであろう。特徴としては、坏蓋より坏身の数が多く、高坏も71～73は有蓋高坏であるが、伴う蓋は67しか見当たらず、蓋坏や有蓋高坏としてのセット関係で供献されていない可能性がある。また、須恵器には破砕した資料がみられ、特に高坏は脚部分を縦方向に割っている。葬送儀礼において供献容器が最終的に人為的に壊されたと推測される。出土位置は、墳丘側の斜面から周溝の底面にあたり、出土状況は、正位に置いたような状況ではない。墳丘側から流れ込んだか、あるいは投げ入れたと考えられる。また、周溝の埋没との関係だが、底面のレベルは概ね2.6～2.7m、各遺物のレベルは3m前後で確認できる。周溝の上端のレベルは3.2～3.3mであり、かつ、土層の堆積状況から中層段階にあたりと考えられる。

第2章 畑間遺跡、東畑遺跡の調査

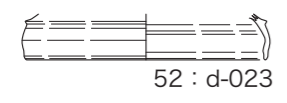
2 地点 (HM 1 2)



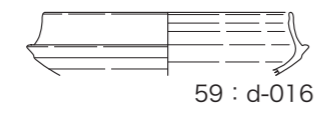
第35図 204SZ・205SZ方形周溝墓



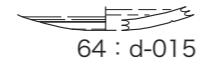




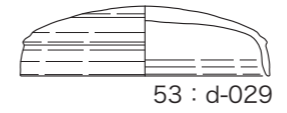
52 : d-023



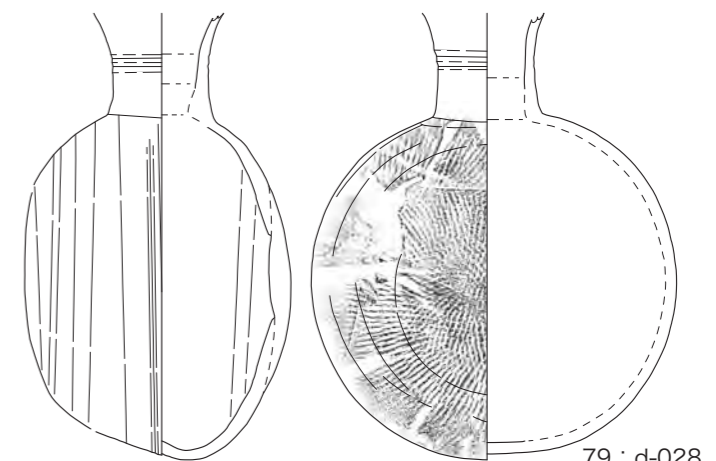
59 : d-016



64 : d-015



53 : d-029



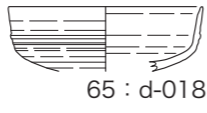
79 : d-028



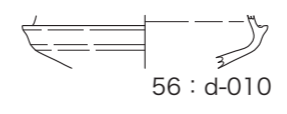
55 : d-002



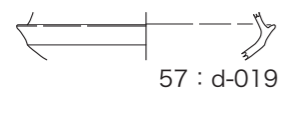
62 : d-008



65 : d-018



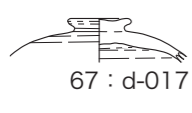
56 : d-010



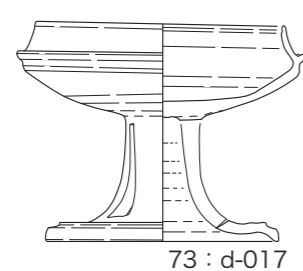
57 : d-019



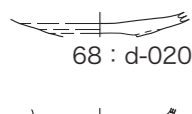
63 : d-018



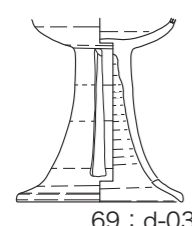
67 : d-017



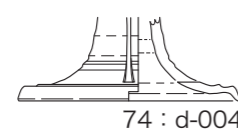
73 : d-017



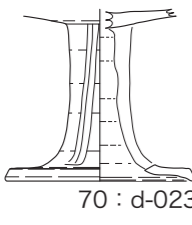
68 : d-020



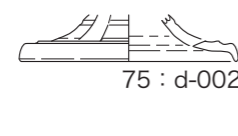
69 : d-035



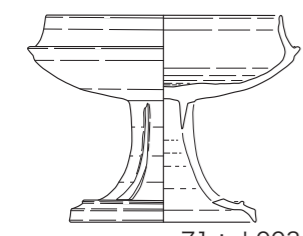
74 : d-004



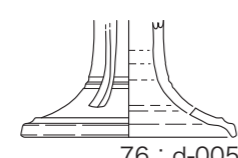
70 : d-023



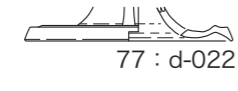
75 : d-002



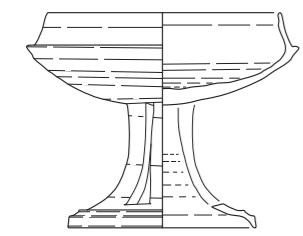
71 : d-003



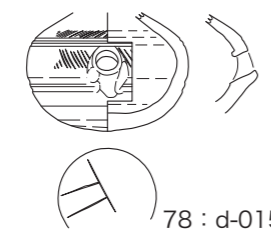
76 : d-005



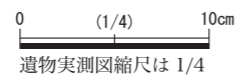
77 : d-022



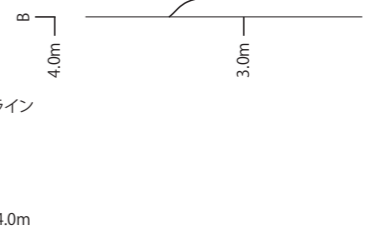
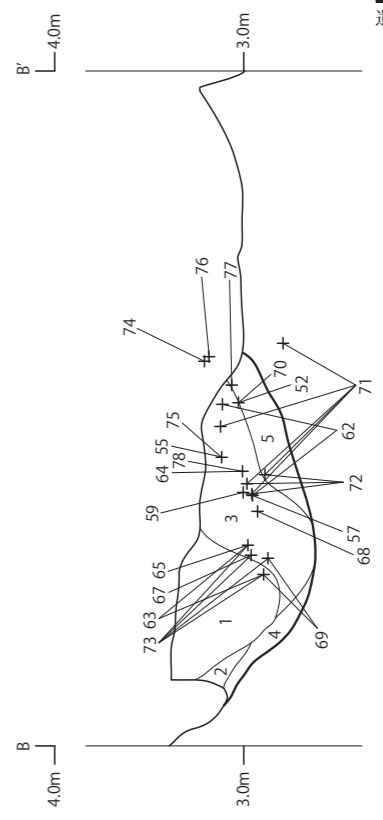
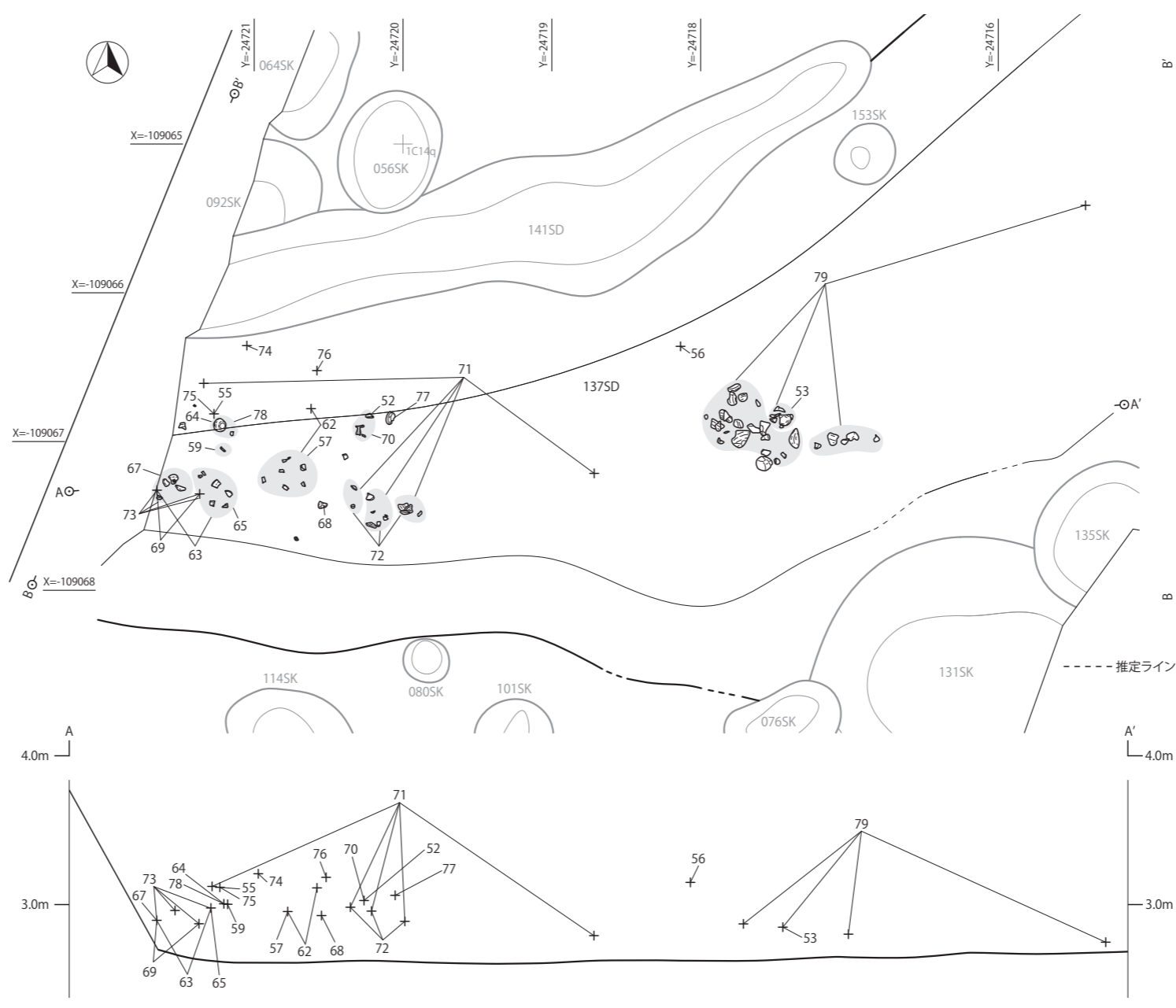
72 : d-025



78 : d-015



遺物実測図縮尺は 1/4



遺物実測図縮尺は 1/4

0 (1:40) 1m

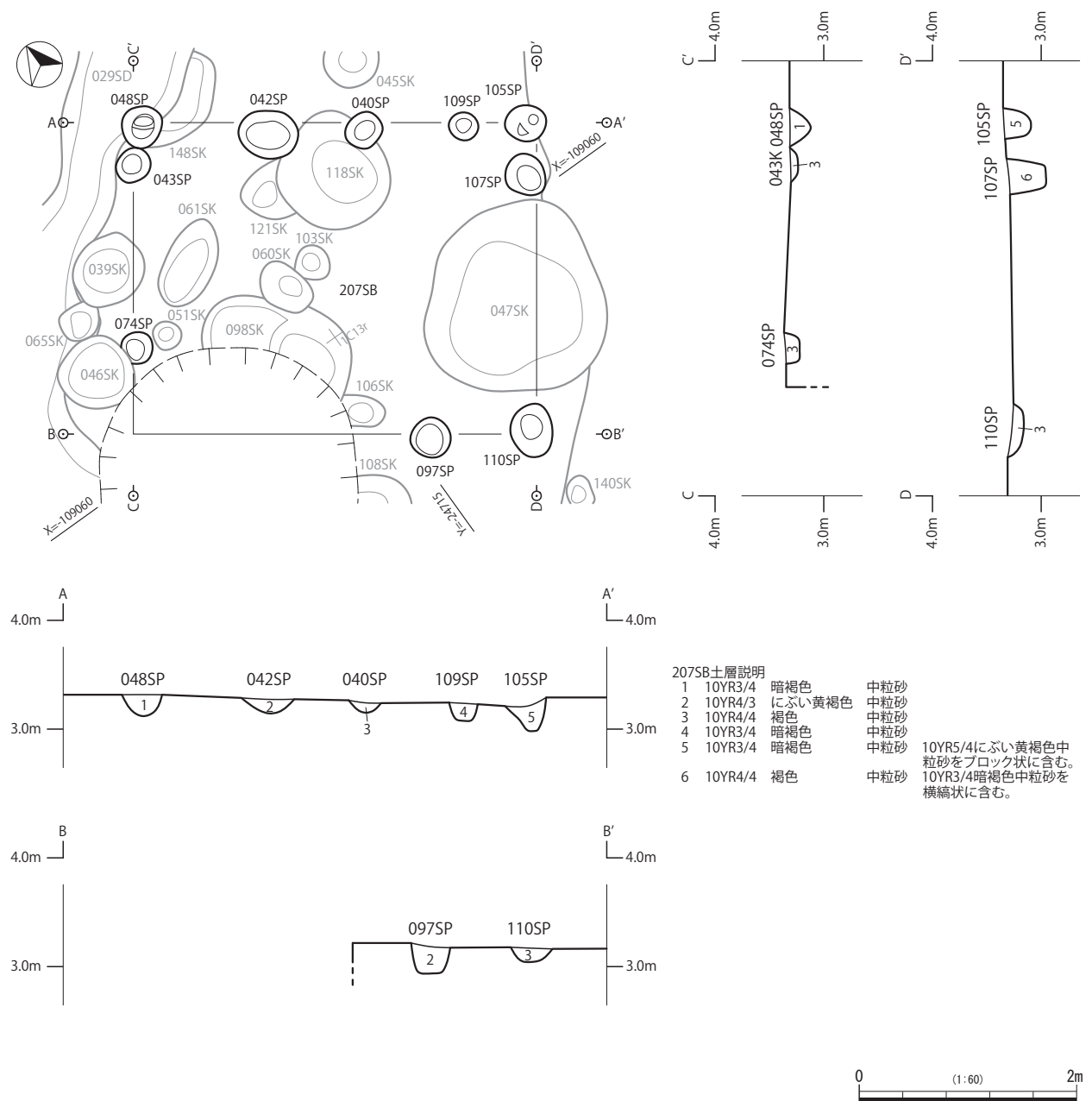
第 37 図 206SZ 円墳出土遺物分布図

集中箇所以外では、器台(80)が東群から北東へ約7m離れた位置から出土している。その他、他遺構からの出土で当遺構に関係するものとして坏身(60・61)がある。60は029SDから出土しているが、位置的には137SD内にあたる。61は092SKからの出土であるが、位置的に137SDに近接する。ともに206SZに伴う可能性がある。

各遺物の時期は、H-61号窯式期(6世紀中葉)が大半を占めるが、坏身(65)がH-44号窯式期(6世紀末葉～7世紀初頭)、坏蓋(53)がH-61号窯式期からH-44号窯式期の間、高坏(69・70)が他の高坏より細身で長脚であることから、H-61号窯式期の中でも古い様相を示し、甕(78)はH-15号窯式期(7世紀第2四半期)に比定される。遺物の時期は大きく2時期に分かれるが、これと古墳の築造時期の関係は2つの可能性が指摘できる。一つは、6世紀中葉の古墳築造時の供献とその後の7世紀代の追葬や墓前祭祀による供献の須恵器が周溝内に流入した時に混在した可能性があること、もう一つは、7世紀代に築造され須恵器群は二次的な搬入経路により入手された事により新旧のものが混在した状態で供献された可能性が考えられる。H-61号窯式期の蓋坏や有蓋高坏がセット関係に乏しい点は気になるが、7世紀代の遺物は坏身(65)や甕(78)の2点程度であることや、半世紀の時期差を考えると6世紀中葉の築造で、周溝が中層まで埋没した7世紀以降に墳丘上の新旧の供献土器が流れ込んだ可能性を指摘しておきたい。

207SB (040SP・042SP・043SP・048SP・074SP・079SP・105SP・107SP・109SP・110SP): 掘立柱建物跡 (第38図)

調査区北部で検出された10基の柱穴から構成される掘立柱建物跡である。攪乱や他遺構も多いため規模、柱間等に不正確な点も残るが、048SP・105SP・110SPが、四方の角の3か所にあたる。梁行3間以上×桁行4間の側柱形で、桁行長3.72m、梁行長2.88mを測る。建物の主軸方位は、N-55°-Wである。新旧関係は中世区画溝(029SD)よりは新しい。桁行の北東辺がもっとも残りが良く5基の柱穴を確認している。柱間は0.9~1.2m程度である。その他の辺は、2~3基の柱穴を確認したのみである。柱穴の平面形は円形や楕円形で規模は長軸で0.27~0.55m、深さ0.1~0.34mを測る。いずれからも柱痕は検出できなかった。遺物は105SPから土師器、107SPから土錘が出土しているが詳細な時期は不明である。新旧関係から中世以降であると考えられる。



第38図 207SB 掘立柱建物跡

2  
地点  
(HM  
2)



### 3. 主な遺物

縄文時代、弥生時代、古墳時代、中・近世の遺物が出土した。特に古墳(206SZ)の周溝(137SD)から出土した須恵器や、井戸(002SE・028SE)に伴う常滑の甕が中心となる。

縄文土器(46)は波状口縁を呈し、沈線にて区画した磨消縄文を施している。縄文時代後期初頭第二～第三段階の中津・称名寺式並行期に比定される。137SDから出土したことから混入品である。

弥生土器は条痕文系で、47～51・109は深鉢、110・111は壺、112は甕である。中期前葉の岩滑式では深鉢(47～49)があり、47は体部から口縁部まで上外方へ直線状に延びる。遺構検出時に包含層より出土した。48は緩やかに外反した口縁部を有し、端部内面に刻みを施している。128SKから出土した。49は口縁端部を垂直方向へつまみ出し、体部に貝殻条痕を施している。027SKから出土した。岩滑式後半期は50・109が深鉢、110・111が壺、112が甕である。50は平底の底部から上外方へ立ち上がる体部を有する。029SDより出土した。109は緩やかに外反した口縁部を有する。口縁端部外面に巻貝による刺突文、内面端部にキザミを施している。137SDより出土した。110は内湾状に立ち上がる口縁部を有している。口縁部外面に2条の沈線による波状文、口縁端部に4条の沈線を施している。017SKより出土した。111は直口した口縁部直下に指づくね貼付突帯を有する。112は「く」の字状に外反した口縁部である。体部に貝殻条痕を施している。ともに029SDより出土した。岩滑式末期は深鉢があり、51は底部から湾曲気味に立ち上がった体部を有し、口縁端部は内側へつまみ出している。

古墳時代の遺物はすべて須恵器である。137SDから出土したものが多く、器種は坏蓋(52～54)、坏身(55～65)、高坏(66～77)、甕(78)、提瓶(79)、器台(80)がある。坏蓋は52・53が天井部につまみが無く、54は剥離しているが、つまみを有する。52は口縁部が内湾気味であり、H-61号窯式期に比定される。53は口縁部が垂直に下がる。H-61号窯式期とH-44号窯式期の間に比定される。54は緩やかに湾曲した天井部である。つまみが剥離した痕跡がみられる。H-15号窯式期に比定される。坏身は55～64がH-61号窯式期に比定される。55は他と比べて口径が小さいがH-61号窯の下部灰層の出土資料に類似する。56～61は底部が欠損していることから高坏の可能性もある。65は無蓋の坏身で、H-44号窯式期に比定される。高坏は67～77がH-61号窯式期に比定される。67は有蓋高坏の蓋で、つまみは扁平なボタン状である。69・70は脚部が細く長い。有蓋か無蓋かは不明である。猿投窯の中で最も長脚化した時期に該当することから、他の高坏より少し古い様相であろう。ともに脚部の透かしが坏部底面まで切り込んでおり、69は小さな坏を有している。71～73は脚部が比較的太く短い有蓋高坏である。66は口縁部の形状から無蓋高坏と考えられる。H-15号窯式期に比定される。甕(78)は球形の体部中央に注口を穿っている。底部には3本線の線刻がみられる。H-15号窯式期に比定される。提瓶(79)は球形の体部と緩やかに開いた頸部を有する。時期はH-61号窯式期に比定される。器台(80)は体部中央に多条沈線と上位に櫛描波状文、下半にタタキを施している。底部には脚が付いていたものと考えられる。時期はH-61号窯式期に比定される。

中世の遺物は、包含層や遺構から出土した。81・82は瀬戸系の山茶碗である。底部から直線状に延びた体部を有する。瀬戸7型式である。028SEから出土した。83は東濃系の山茶碗である。底部から緩やかに内湾する。体部は薄手に仕上げている。大洞東窯式である。包含層から出土した。

小皿(84・85)は瀬戸系の山皿である。平底から短く外上方に延びた口縁部を有する。底部には回転糸切痕を残している。尾張7型式に比定される。028SEから出土した。87は古瀬戸の燭台である。時期は古瀬戸中期に比定される。029SDから出土した。88は常滑の壺である。002SEから出土した。常滑10型式に比定される。常滑の甕は井戸杵として使用されていたため遺構別に述べる。002SEからは89～101・113～115が出土した。89～93・95～98は口縁部の破片である。89は常滑6a型式、90～92は常滑6b型式、93は常滑8型式、95～97は常滑9型式、98は常滑9～10型式に比定される。99・113～115は底部の破片である。99は常滑9～10型式に比定される。94・100・101は底部を打ち欠いている。94は口径40.4cmで常滑9型式、100は口径43.2cmで常滑9～10型式、101は口径41cmで常滑10型式に比定される。101は井戸杵の最下段として使用されていた。底部を打ち欠いたものは井戸杵として、口縁部などの破片も井戸杵や杵の補強として隙間に重ねて使用されたものであろう。028SEからは102～106が出土した。102～104は口縁部の破片である。102は常滑5型式、103は常滑6a型式、104は常滑6b型式に比定される。105・106は、底部を打ち欠き井戸杵として使用されていた。105は口径39.4cmで、106は口径48.9cmともに7型式に比定される。常滑の鉢(116・117)は把手の部分である。横長に細長く、断面は三角形を呈する。上下面を指オサエしている。体部から剥離したもので、その接点の形状から大型品と考えられる。大きさ、形状等から両把手は同一個体であろう。116は029SD、117は161SKから出土した。118は瀬戸系の天目茶碗である。底部から内湾気味に立ち上がる体部を有する。002SEから出土した。土師皿(86)は内湾気味に立ち上がった口縁部を有する。内外面に指オサエの痕跡が多くみられる。15世紀～16世紀代に比定される。029SDから出土した。

近世の遺物について、119は瀬戸系の茶壺である。大きく張った体部と短く直口した口縁部を有する。井戸002SEから出土した。120は御深井焼の蓋である。扁平な天井部と直下した短い口縁部を有する。包含層から出土した。107・108は銭貨である。107は「景祐元宝」で188SKから出土した。108は「熙寧元宝」で包含層から出土した。

#### 4. 2地点のまとめ

当調査地点の主要な遺構としては、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の円墳、中世の区画溝、掘立柱建物跡、土壇墓、井戸がある。以下、時代順にその成果をまとめておく。

弥生時代は、南北調査区の北側で近接して3基の方形周溝墓を検出した。円墳の周溝(137SD)や中世の区画溝(029SD・149SD)による破壊が激しく、四方のすべての周溝を確認できたものはないが、軸方位はN-32°～41°-Wを測る。204SZと205SZは周溝を共有していた可能性があり、3基は並列していたと考えられる。また、もっとも残りの良い203SZでは三方の周溝を確認するとともに主体部の可能性がある土坑(061SK)を検出した。3基とも周溝内から年代を特定できる遺物は出土しなかったが、137SD、029SD、周囲の包含層などからは、弥生時代中期前葉にあたる岩滑式の弥生土器(47・48・50・51・109・111・112)が出土している。そのため、これらの方形周溝墓も弥生時代中期以降に構築された可能性がある。当調査地点は、従来からの調査成果によれば弥生時代初頭から中期前半の活動域の南縁にあたる。周辺には当該期の方形周溝墓がさらに展開していた可能性があることを指摘しておきたい。

古墳時代は、南北調査区の北側で円墳(206SZ)を検出した。円弧状の周溝(137SD)を確認し

ており、墳丘長は19.2m、周溝を含めた全長は25.6mと推測される。墳丘はすべて削平されており主体部は不明であるが、周溝内で多数の須恵器を検出した。出土位置は周溝内でも墳丘寄りであり、層位は底面ではなく中層から出土した。そのため、墳丘の南側に供献された後、周溝が中層まで埋没した段階で流れ込んだものと推測される。器種は坏蓋(2点)、坏身(8点)、高坏(11点)、臚(1点)、提瓶(1点)、器台(1点)があり、古墳に供献される一式のものが揃っている。ただし、坏蓋より坏身が多いことや有蓋高坏の蓋が伴わないことが特徴である。また、高坏には意図的に縦方向に割られた破碎土器があり、供献時の葬送儀礼の一端を窺わせる資料である。古墳の築造時期については大半の須恵器が6世紀中葉(H-61号窯式期)を中心とすること、その他、坏身(65)はH-44号窯式期(6世紀末～7世紀初頭)、臚(78)はH-15号窯式(7世紀第2四半期)であることから、6世紀中葉の築造で、7世紀代に追葬や墓前祭祀があったと考えられる。

中世は、区画溝として南北調査区の北側で029SD・149SD、中央で143SD・144SD・152SDを検出した。周辺の調査で区画溝群を考察された中村毅氏の成果<sup>(1)</sup>を参照してみると周辺は「砂堆南西部の方形区画群」にあたる。具体的には、当調査地点の西側に位置する平成28年度(4地点)の南北溝(4043SD)と平成27年度(4地点)の南北溝(4028SD)間の幅は約30mあり、これをもとに約30m四方の屋敷地が想定されている。今回検出した区画溝と対応する溝を確認してみると029SD・149SDから西側約30mに平成28年度(4地点)の南北溝(4060SD)が位置する。東西溝の143SD・144SD・152SDと併せて、ひとつの区画を形成していた可能性があるが、各溝の延長が確認できていないので可能性の指摘にとどめたい。ただし、当調査地点では、北側と中央の区画溝の間から、掘立柱建物跡や柱穴状の遺構を多数確認したことから、これらの溝の間は区画の内側であり、居住域であったと考えられる。さらに区画溝(149SD)北東側のはずれで土壙墓(175ST)を検出した。人骨が残存しており鑑定の結果、推定年齢6才～7才で性別は不明(女児の可能性あり)の未成年個体であり、放射性炭素年代測定によれば13世紀末から15世紀初頭の暦年代が示される結果となった(第3章参照)。井戸は2基検出され、ともに中央の区画溝より南側で検出した。周辺の遺構密度は低いため、区画の外側であったと考えられる。時期は井戸枠として使用されていた常滑の大甕の年代から028SEが14世紀前半(常滑7型式)、002SEが15世紀後半(常滑10型式)であると考えられる。区画溝や掘立柱建物跡の時期は明確ではないが、井戸の年代は、これらの遺構の存続期間の一端を示していると考えられる。

(1) 中村毅 2018 「第3節 調査成果からみた中世大郷郷」『平成28年度畑間遺跡発掘調査報告』

### 第3節 3地点 (HH 17-3) の調査

#### 1. 3地点の概要と遺跡の構造

3地点は東畑遺跡の南側に所在する。東西が長い調査区で調査面積は150㎡である。

9月6日に表土掘削、9月11日から遺構掘削を開始した。9月15日に全景写真撮影を行い、9月19日に010SI周辺の拡張を実施した。10月11日に拡張部の全景写真撮影を行い、10月25日から埋め戻しを実施し調査を終了した。

堆積が良好な箇所では、表土直下で近世の遺物包含層(Ⅱ層)、その下位はⅡ層による改変が激しいため古代から中世の遺物包含層(Ⅲ層)は認められず、弥生時代の遺物包含層(Ⅳ層)を確認した。当該調査地点は砂堆の東側で旧谷地形の縁辺部に位置していることから、地山面の標高は調査区西端で2.9m前後、東端で2.5m前後と0.4mほどの比高差がみられる。基本層序は以下のとおりである。

I層：表土層。近現代の攪乱や耕作土である。調査直前まで存在していた住宅や耕作地に伴うと考えられる。

Ⅱ層：近世の遺物包含層。暗褐色(10YR3/4)を呈する砂層である。

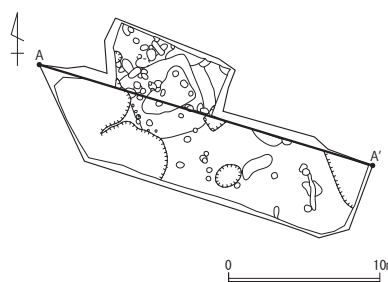
Ⅳ層：弥生時代以降の遺物包含層。暗褐色(10YR3/3)を呈する砂層である。

調査区は、西側と北東端で大きく攪乱を受けていたが、調査区の西側では弥生時代の方形周溝墓(074SZ)、古墳時代の竪穴建物跡(010SI)、その他、中世あるいは近世が主体であると考えられる多数のピットや土坑を検出した。調査区の東側では弥生時代の方形周溝墓(075SZ)、古墳時代の竪穴建物跡(076SI)の痕跡であると考えられる4本の支柱穴(001SP・013SP・015SP・020SP)を確認した。

#### 2. 主な遺構

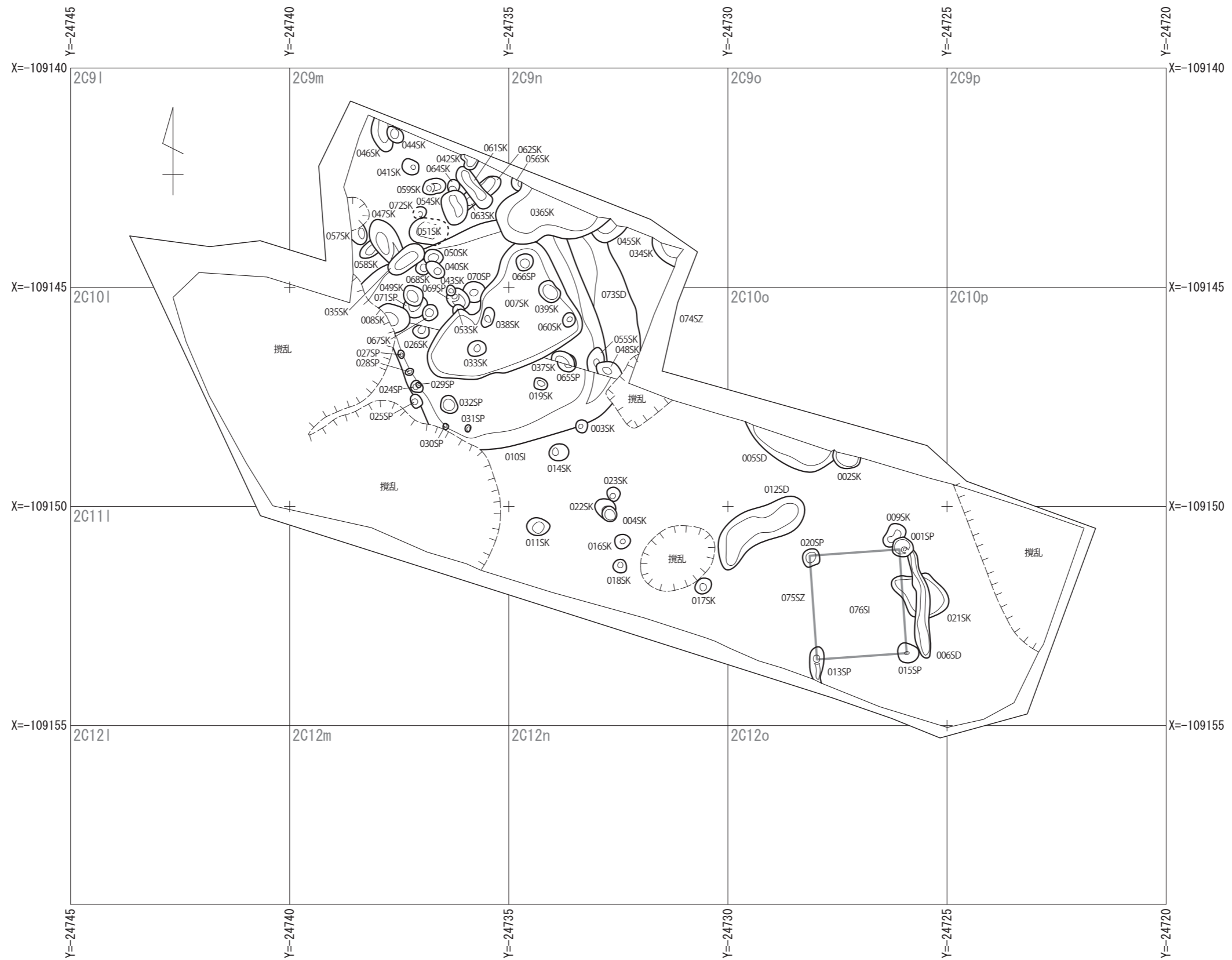
010SI (007SK・024SP・027SP～032SP・065SP・066SP・069SP～071SP)：竪穴建物跡(第42・43図、図版44)

調査区の北西寄りで検出した竪穴建物跡である。新旧関係は方形周溝墓(074SZ)の周溝(073SD)よりも新しい。規模は長軸4.98m、短軸4.58m、深さ0.35m、主軸方位N-22°-Wを測る。埋土

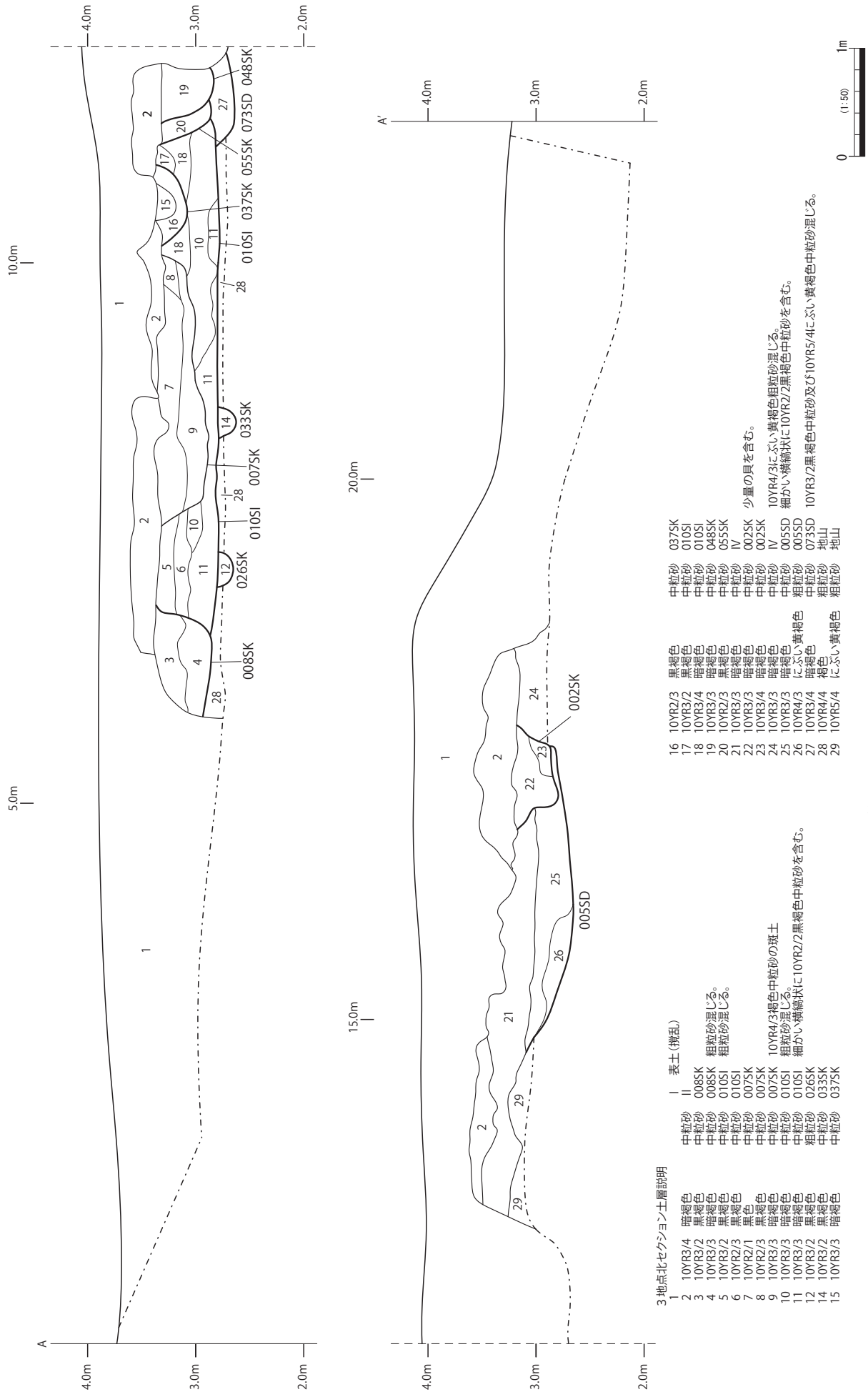


第39図 3地点セクション位置図(1/500)





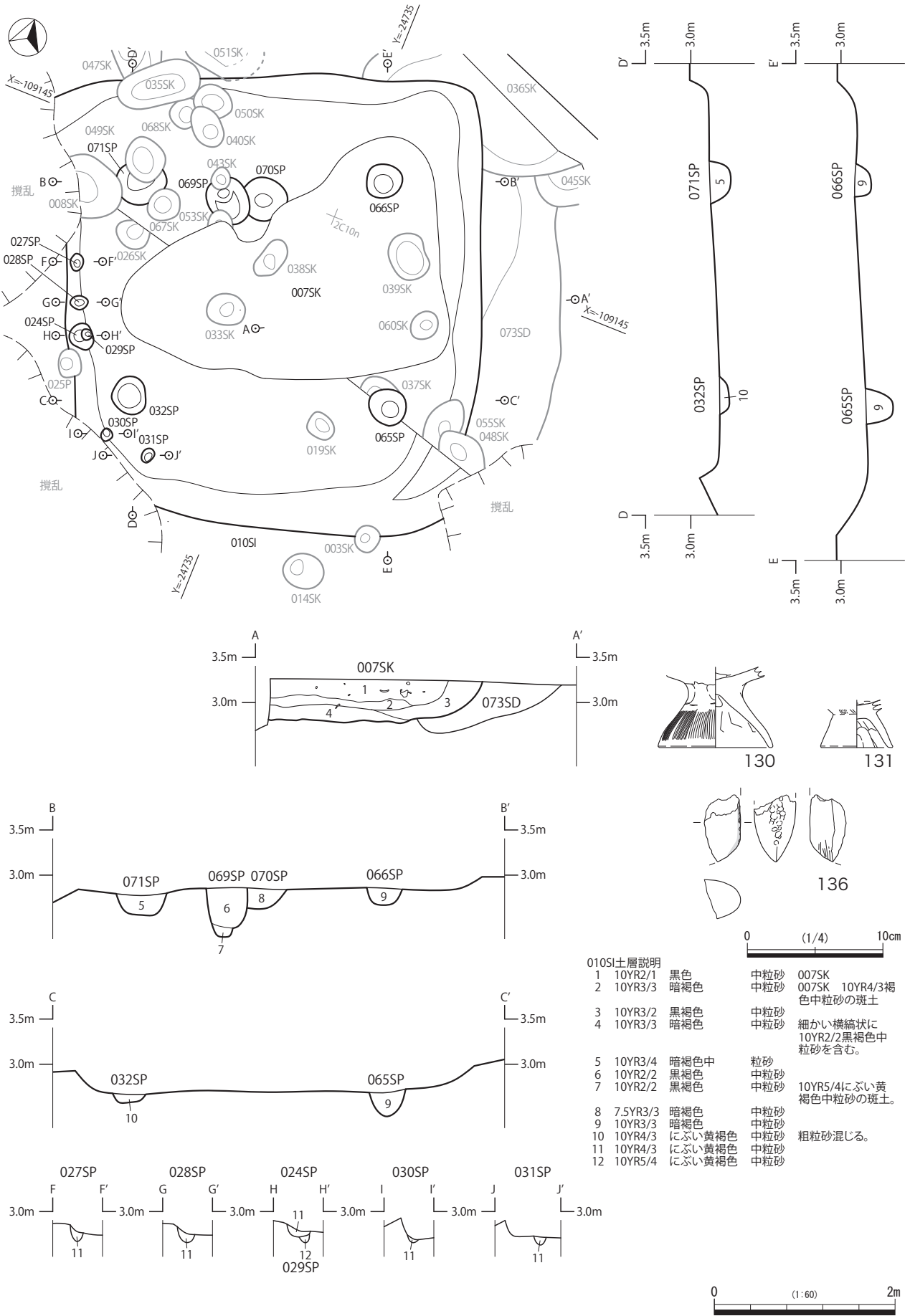
第 40 图 3 地点遺構平面図 1/100



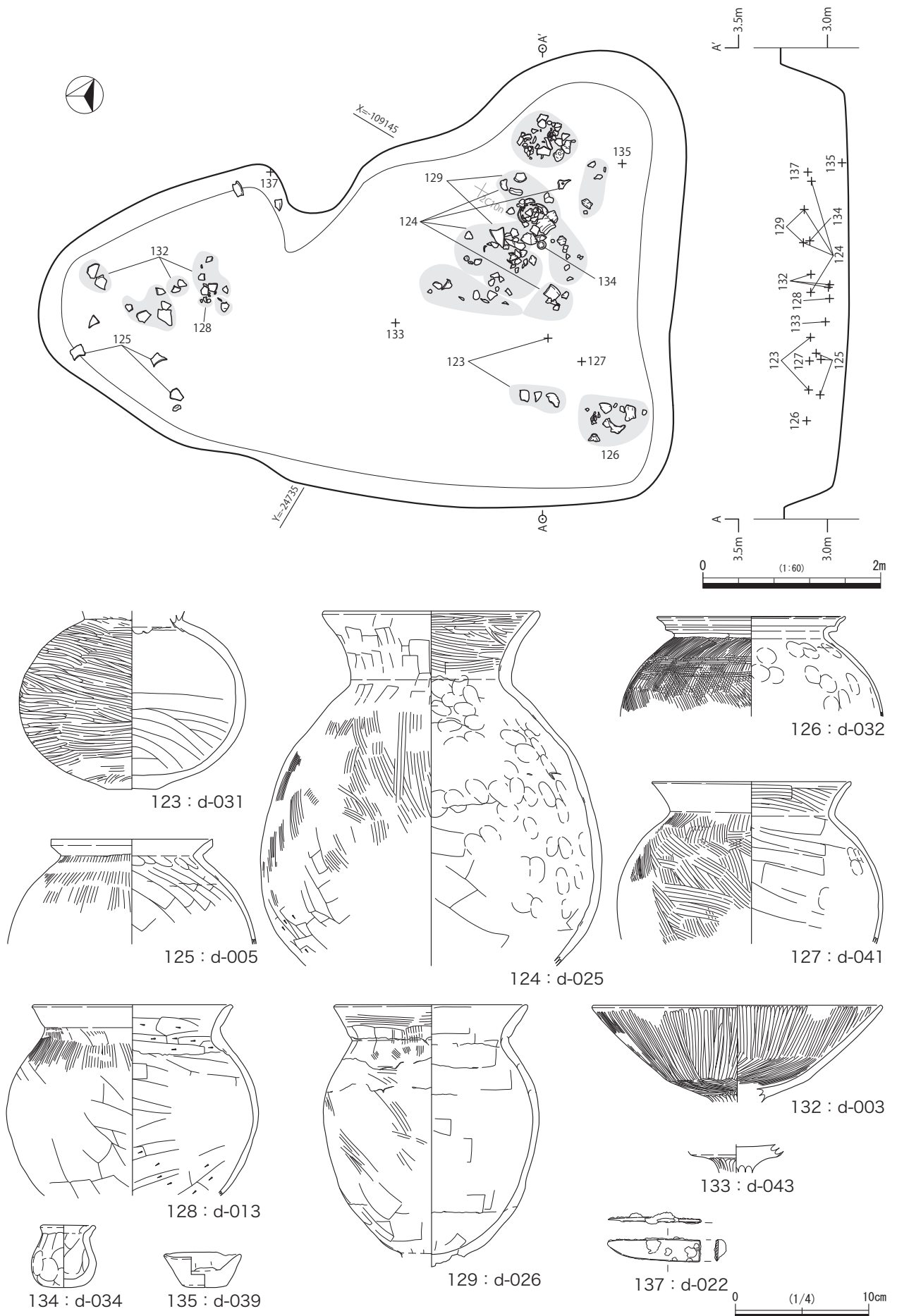
- 3地点北セクション土層説明
- |    |         |     |         |    |         |         |     |       |
|----|---------|-----|---------|----|---------|---------|-----|-------|
| 1  | 10YR3/4 | 暗褐色 | 中粒砂     | 16 | 10YR2/3 | 黒褐色     | 中粒砂 | 0375K |
| 2  | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂     | 17 | 10YR3/2 | 黒褐色     | 中粒砂 | 0105I |
| 3  | 10YR3/3 | 暗褐色 | 中粒砂     | 18 | 10YR3/4 | 暗褐色     | 中粒砂 | 0105I |
| 4  | 10YR3/3 | 暗褐色 | 中粒砂     | 19 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 | 048SK |
| 5  | 10YR2/3 | 黒褐色 | 中粒砂     | 20 | 10YR2/3 | 黒褐色     | 中粒砂 | 055SK |
| 6  | 10YR2/3 | 黒褐色 | 中粒砂     | 21 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 | IV    |
| 7  | 10YR2/1 | 黒色  | 中粒砂     | 22 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 | 002SK |
| 8  | 10YR2/3 | 黒褐色 | 中粒砂     | 23 | 10YR3/4 | 暗褐色     | 中粒砂 | 002SK |
| 9  | 10YR3/3 | 暗褐色 | 中粒砂     | 24 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 | 005SD |
| 10 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 中粒砂     | 25 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 | 005SD |
| 11 | 10YR3/2 | 暗褐色 | 粗粒砂混じる。 | 26 | 10YR4/3 | にぶい 黄褐色 | 粗粒砂 | 073SD |
| 12 | 10YR3/2 | 暗褐色 | 粗粒砂混じる。 | 27 | 10YR4/3 | にぶい 黄褐色 | 粗粒砂 | 073SD |
| 14 | 10YR3/2 | 暗褐色 | 粗粒砂     | 28 | 10YR4/4 | 褐色      | 粗粒砂 | 地山    |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 粗粒砂     | 29 | 10YR5/4 | にぶい 黄褐色 | 粗粒砂 | 地山    |
- 表土 (攪乱)
- |    |     |                 |
|----|-----|-----------------|
| I  | 中粒砂 | 10YR4/3褐色中粒砂の斑土 |
| II | 中粒砂 | 粗粒砂混じる。         |
|    | 中粒砂 | 粗粒砂混じる。         |
- 少量の貝を含む。  
 10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂混じる。  
 細かい礫層状に10YR2/2黒褐色中粒砂を含む。  
 10YR3/2黒褐色中粒砂及び10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂混じる。

第41図 3地点北セクション

第2章 畑間遺跡、東畑遺跡の調査



第42図 010SI 竪穴建物跡



第43図 010SI (007SK) 竪穴建物跡出土遺物分布図



は暗褐色(10YR3/3)あるいは黒褐色(10YR3/2)の砂層を主体とする。支柱穴は032SP・065SP・066SP・071SPの4本柱で、柱間は主軸方向で2.4m、副軸方向で2.76mを測る。なお、066SPと071SPの間で069SP・070SPを検出しており、支柱穴に伴う柱穴の可能性はある。柱穴の平面形は円形で、規模は径0.41～0.55m、深さ0.13～0.52mを測る。西側の壁際では杭状のピット6基(024SP・027SP～031SP)が並ぶ。平面形は円形あるいは楕円形で、規模は長軸0.12～0.3m、深さ0.07～0.25mを測る。炉跡は確認できていない。上層では土器が集中しており007SKとして調査したが、竪穴建物跡の窪みに捨てられた土器溜まりであると考えられる。平面形は楕円形で、規模は長軸1.98m、短軸0.92m、深さ0.28mを測る。遺物は007SKでは土師器の壺(123・124)、甕(125～129)、高坏(132・133)、ミニチュア製品(134・135)、刀子(137)があり、土師器の甕・壺の型式は廻間式である。010SIからは台付甕(130・131)、磨製石斧(136)が出土している。時期は出土遺物の年代から古墳時代初頭に比定される。

#### 074SZ (005SD・073SD)：方形周溝墓(第44・45図、図版44)

調査区の西側で検出した方形周溝墓である。005SDが南側、073SDが西側の周溝にあたると考えられるが、大半は調査区外に位置するため全体像は不明である。各周溝の規模は005SDが長さ2.2m、幅0.65m、深さ0.21mを測るが、大部分は調査区外へ延びる。073SDは長さ4.28m、幅1.6m、深さ0.57m、主軸方位N-21°-Wを測る。遺物は005SDから弥生時代中期前葉の内傾口縁土器(121)が出土した。時期は新旧関係から古墳時代初頭の010SIより古くなることや出土遺物から弥生時代中期以降に比定される。

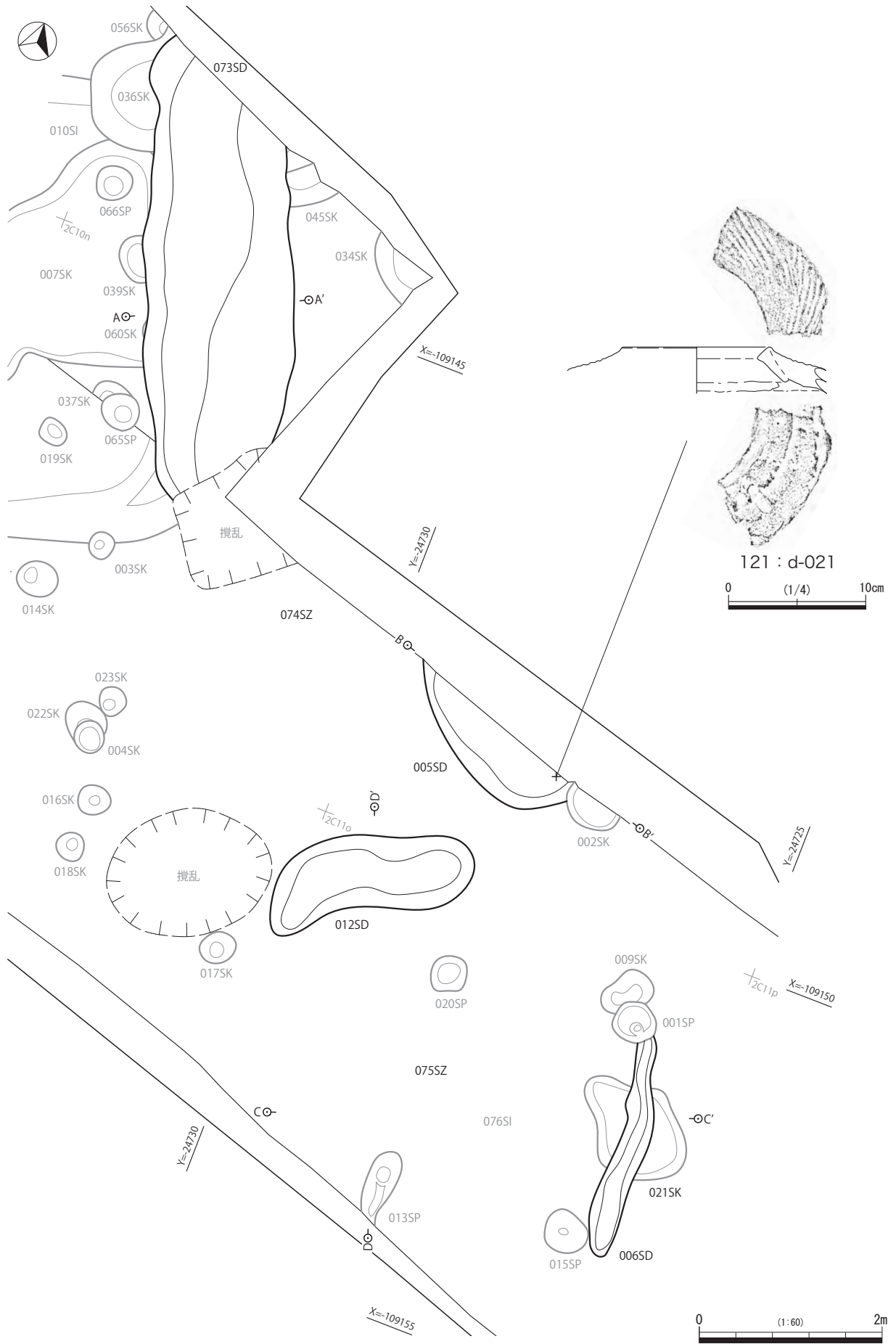
#### 075SZ (006SD・012SD)：方形周溝墓(第44・45図、図版44)

調査区の東側で検出した方形周溝墓である。006SDが東側、012SDが北側の周溝にあたると考えられるが、西側、南側の周溝は確認できていない。各周溝の規模は006SDが長さ2.47m、幅0.32m、深さ0.11m、012SDが長さ2.52m、幅0.77m、深さ0.2mを測る。方形周溝墓の軸方位はN-17°-Wである。遺物は弥生土器の破片が出土している。

#### 076SI (001SP・013SP・015SP・020SP)：竪穴建物跡(第46図、図版44)

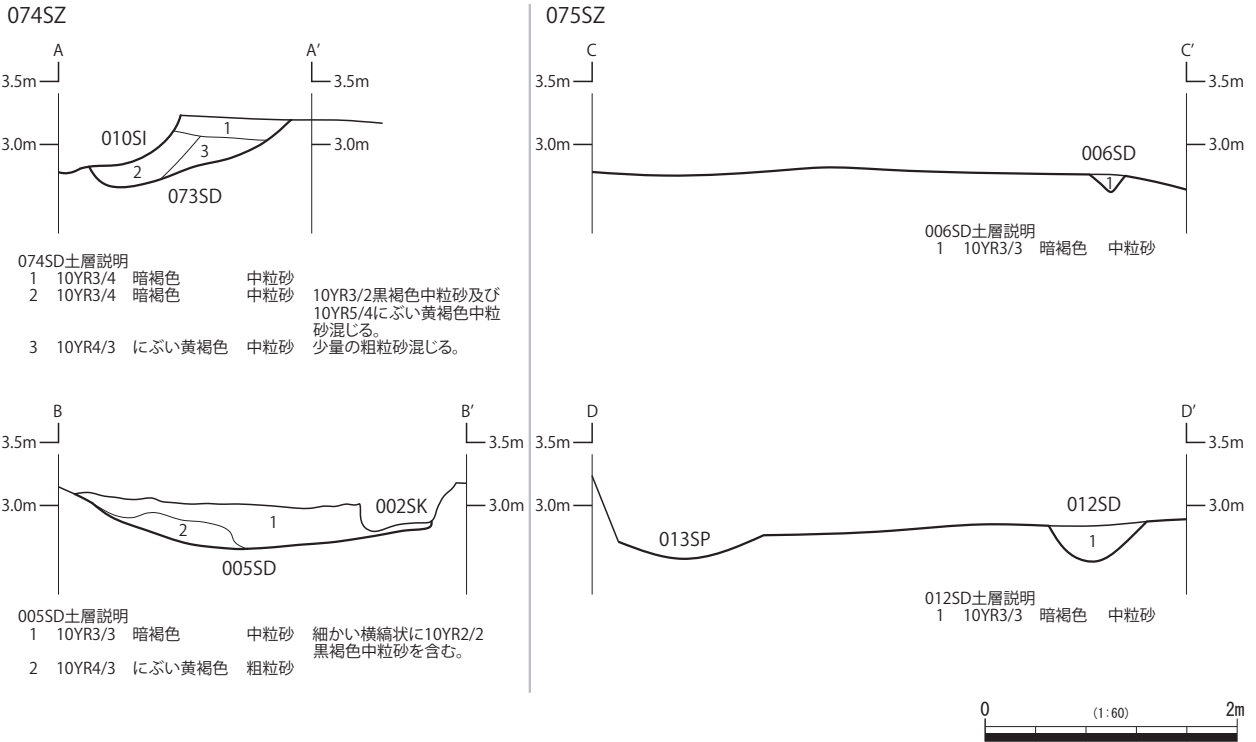
調査区の東側で検出した4基の柱穴で構成される。掘立柱建物跡というよりも竪穴建物跡の支柱穴の可能性はある。新旧関係があり001SPは方形周溝墓(075SZ)の周溝(006SD)よりも新しい。

柱間は主軸方向2.22m、副軸方向2.1m、主軸方位N-6°-Wを測る。柱穴の平面形は楕円形で規模は長軸0.44～0.76m、深さ0.08～0.19mを測る。遺物は013SPから土師器の破片が出土している。

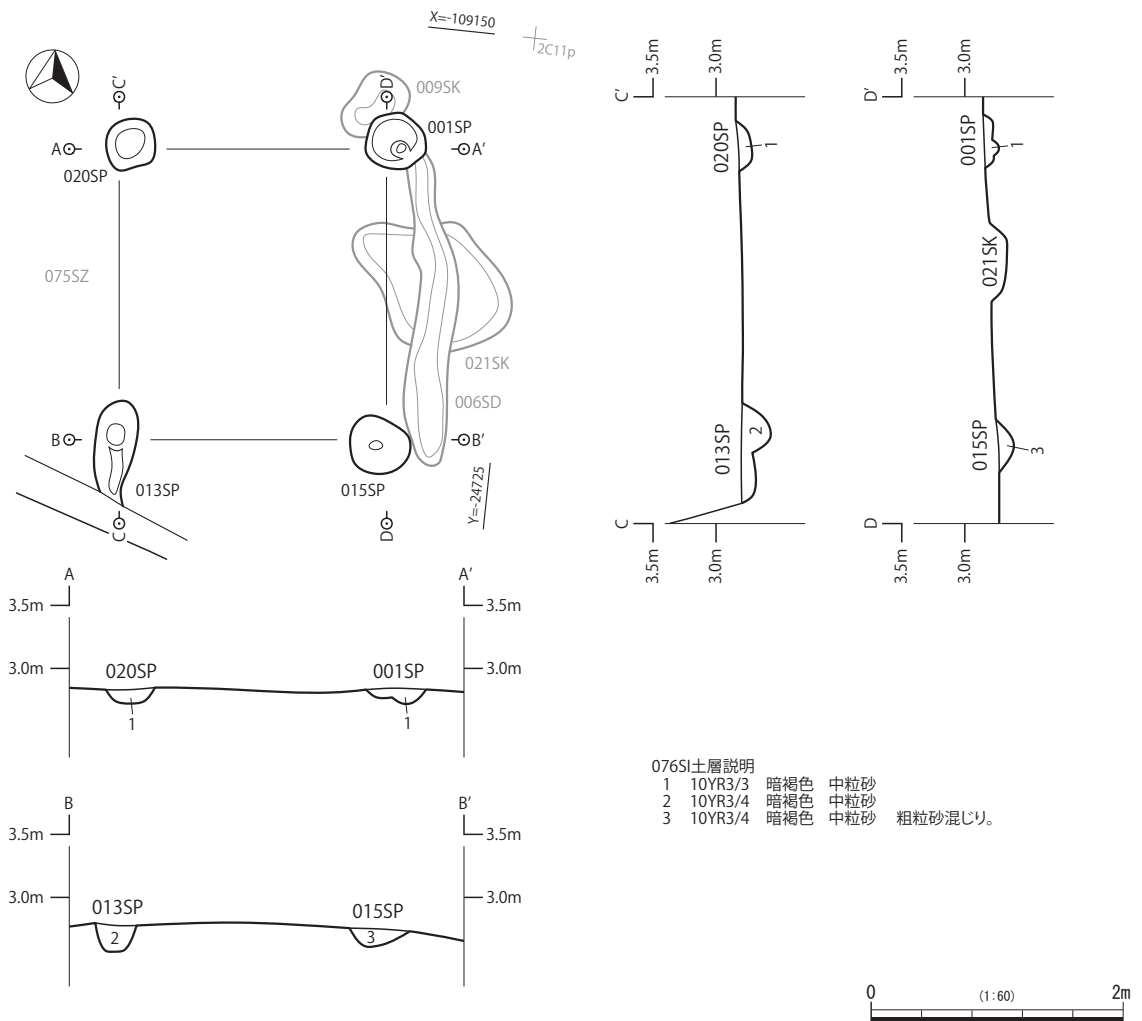


第44図 074SZ・075SZ方形周溝墓(1)

第2章 畑間遺跡、東畑遺跡の調査



第45図 074SZ・075SZ方形周溝墓(2)



第46図 076SI竪穴建物跡

3  
地点  
(HH  
3)

### 3. 主な遺物

弥生時代、古墳時代、中・近世の遺物が出土した。特に竪穴建物跡(010SI)の上層にあたる007SKから古墳時代初頭の遺物が数多く出土した。

弥生土器(121)は条痕文系の内傾口縁土器である。体部から口縁部に向かって水平に近く内傾し、口縁端部はわずかに上内方に延びる。口縁部は短く立ち上がり、端部は面取りを行っている。外面は全面に条痕を施し、内面は粘土紐のつなぎ痕を残し未調整に近い。弥生時代中期前葉に比定される。方形周溝墓(074SZ)の周溝(005SD)から出土した。

古墳時代の遺物は土師器類(122～135)がある。122～124は壺である。122はパレススタイルで、体部は下半に最大径を有した球形を呈する。口縁部はくの字状に緩やかに外反し、端部には面を有する。口縁端部と体部上位に貝殻による鋸歯文、直線文、口縁部内面に貝殻による斜位刺突文を施している。口縁部内外面、頸部、体部最大径より下半と体部の鋸歯文に赤彩を施している。文様施工は鋸歯文と直線文が重なった粗い調整状態から退化の傾向がみられる。廻間Ⅰ式に比定される。表土からの出土であるが、出土地点が010SI内にあたることから、010SIに伴う可能性がある。123の体部はヨコミガキを施している。球形の体部とわずかに平底を残している。調整は布留式の影響を受けている。廻間Ⅲ式前半に比定される。124は体部下半に最大径を有する長胴の体部と、くの字状に大きく外反した口縁部を有する。123と124はともに007SKから出土している。125～131は甕である。125は球形に張った体部とくの字状に短く外反した口縁部を有する。体部はタテハケを施している。廻間Ⅱ式に比定される。126はS字状口縁で球形に張った体部と短く外反したS字状口縁部を有する。廻間Ⅱ式後半に比定される。127・128はハの字状に外反した口縁部を有する。体部は球形を呈し、器壁は非常に薄い。廻間Ⅲ式に比定される。129はハの字状に外反した口縁部を有する。体部は長胴を呈し、底部に台を有した台付甕である。廻間Ⅲ式後半に比定される。130・131は台付甕の脚部である。内湾気味に延びた脚部(130)と比較的短い脚部(131)がある。125～129は007SKから、130・131は010SIから出土している。132・133は高坏である。132は口縁部が大きく外反した深身で、廻間Ⅱ式に比定される。133は脚部、口縁部が欠損している。ともに007SKから出土した。134・135はミニチュアである。134は甕を模した手づくねである。135の器形は燭台に類似しており、朝日遺跡で出土した摘み蓋と称される特殊土器と同様のものである可能性もある<sup>(1)</sup>。ともに007SKから出土した。石製品は磨製石斧(136)がある。緩やかに湾曲した刃部で基部は欠損している。全体に敲打痕がみられ、被熱を受けている。010SIから出土した。137は金属製品の刀子である。基部は欠損している。007SKから出土した。

中・近世の遺物は、砥石(138)、銭貨(139)がある。砥石(138)は陶器の壺あるいは甕の底部を二次加工し、再利用したものであろう。内面に摺面がみられる。036SKから出土した。銭貨(139)は「元豊通宝」である。

(1) 早野浩二 2009 「4.4特殊土器・土製品、絵画・線刻文土器」『朝日遺跡Ⅷ(総集編)』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第154集



#### 4.3 地点のまとめ

当調査地点の主要な遺構としては、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の竪穴建物跡がある。以下、時代順にその成果をまとめておく。

弥生時代は、調査区の中央から東側で2基の方形周溝墓(074SZ・075SZ)を検出した。いずれも全体の形状は不明だが、陸橋部を有した方形周溝墓であると推測される。時期については新旧関係や出土遺物から074SZは弥生時代中期以降に比定される。また、075SZは弥生土器の破片が出土したのみだが、周溝の軸方位が074SZとほぼ同じであることから同時期の可能性が指摘できる。今回の調査では3地点だけでなく、2地点で3基、4地点で1基の方形周溝墓を確認している。これらの方形周溝墓との関係は、周辺の調査成果と合わせて4地点でまとめて触れてみたい。

古墳時代は、調査区の北西側で竪穴建物跡(010SI)、東側で4本柱の建物跡(076SI)を検出した。010SIは4本あるいは6本柱を支柱穴とする竪穴建物跡で、上層にあたる土坑(007SK)から古墳時代初頭の遺物が多量に出土した。器種は土師器の壺・甕・高坏や、手づくねのミニチュア甕(134)、特殊器種(135)、刀子(137)があり、特に135は燭台形を呈し朝日遺跡では摘み蓋状の特殊土製品として扱われている。これらの遺物は意図的に配置された状況ではなかったが、器種構成を考えると単なる破棄土坑ではなく祭祀遺構の可能性も指摘しておきたい。076SIは竪穴の掘方や、床面などは検出できなかったが、4本柱の配置状況から竪穴建物跡の支柱穴の可能性が考えられる。近隣では北東約80mに位置する平成21年度(3地点)で弥生時代後期～古墳時代後期までの竪穴建物跡8棟が確認されている。今回の調査で従来の調査成果より、さらに南西側で竪穴建物跡が発見されたことから、古墳時代初頭の居住域は南北約250m、東西約100mの範囲に広がっていたと考えられる。

## 第4節 4地点(HM17-4)の調査

## 1. 4地点の概要と遺跡の構造

4地点は畑間遺跡の南西端に所在する。東西約40m、南北約20mの東西方向に幅広い調査区で調査面積は612㎡である。

11月9日に表土掘削、12月1日から遺構掘削を開始した。1月27日に現地説明会を開催し、73名が来場した。2月2日に全景写真撮影を行った。2月6日に補足調査として、調査区北壁を拡張し246SZ主体部の調査を行った。2月9日に補足調査を終了し、2月13日にすべての調査を終了した。

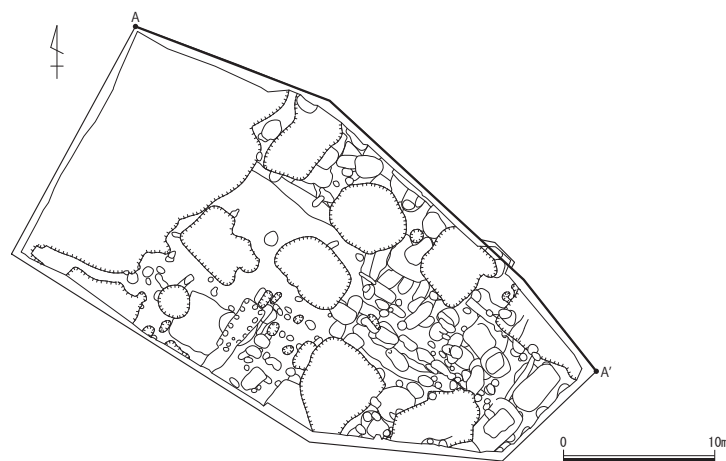
堆積層は近現代の人為的な改変を激しく受けており、大半は地山直上まで近代以降の整地層が占めていた。そのため表土直下の近世の遺物包含層(Ⅱ層)は部分的にしか残存しておらず、中世の遺物包含層(Ⅲ層)や弥生時代の遺物包含層(Ⅳ層)は認められなかった。当調査地点も3地点と同じく砂堆の東側で旧谷地形の縁辺部に位置していることから、地山面の標高は調査区西側で3m前後、東側で2.5m前後と0.5mほどの比高差がみられた。基本層序は以下のとおりである。

I層：表土層。近現代の攪乱や耕作土である。調査直前まで存在した住宅や耕作地に伴うものと考えられる。

Ⅱ層：近世の遺物包含層。暗褐色(10YR3/3)の砂層で破砕貝を含む。

調査区の多くは近現代の攪乱を受けており、特に西側は全体の3分の1ほどを大きな攪乱で切られていた。遺構は調査区の東側で密度が濃く、古墳時代初頭の方形周溝墓、中世の土壙墓、中近世の土坑等を検出した。

方形周溝墓(246SZ)は調査区の北東側に位置しており、3条の周溝と主体部(228ST)を確認した。土壙墓(003ST・004ST・013ST・110ST)は調査区の東側で東西あるいは南北方向に並んで検出した。中近世の土坑は東側を中心として調査区全体に広がり、080SK・086SK・232SKからは輸入磁器の白磁碗・青磁碗が出土している。その他、調査区の中央南側で近代の防空壕と思われる地下室(012SX)を確認している。



第47図 4地点セクション位置図(1/500)

## 2. 主な遺構

## 003ST：土壙墓（第51・52図、図版56）

調査区の東端で検出した土壙墓である。北側に土壙墓（004ST）が接するように並ぶ。平面形は南北方向に長軸を有する長方形で、断面形は逆台形を呈する。規模は全長3.67 m、幅2.22 m、深さ0.47 m、主軸方位N-45°-Eを測る。埋土は貝層、黒褐色（10YR3/2）中粒砂、にぶい黄褐色（10YR4/3・10YR5/3）の粗粒砂と中粒砂の斑土である。なお、003STの下で037SKを検出しており同じ南北方向に長軸を有することから、003STより古い土壙墓あるいは003STの埋葬施設痕跡の可能性もある。037SKの規模は全長1.97 m、幅1.21 m、深さ0.36 m、主軸方位N-43°-Eを測る。埋土はにぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂で粗粒砂が混じる。003STの出土遺物には瀬戸系の盤（147）、卸目片口鉢（148）、銭貨（150～159）がある。銭貨は図示したもの以外を含めて14枚を数え、全て宋銭である。037SKからは陶器の破片が出土している。遺構の形状や同じ形状の遺構が並ぶこと、さらには銭貨が多数出土したことから土壙墓であると考えられる。時期は15世紀に比定される。

## 004ST：土壙墓（第51・53図、図版56）

平面形は南北方向に長軸を有する長方形で、断面形は逆台形を呈する。規模は全長3.47 m、幅1.83 m、深さ0.93 m、主軸方位N-45°-Eを測る。埋土は貝層と黒褐色（10YR3/2）中粒砂である。出土遺物には瀬戸系の袴腰型香炉（146）がある。003STと南北に並ぶことから一連の土壙墓であると考えられる。時期は15世紀後半に比定される。

## 013ST：土壙墓（第51・54図、図版56）

調査区の東側で検出した土壙墓である。西側に土壙墓（110ST）が並び013STが新しい。平面形は東西方向に長軸を有する隅丸方形で、断面形は逆台形を呈する。規模は全長1.96 m、幅1.65 m、深さ0.32 m、主軸方位N-57°-Wを測る。埋土は貝層と黒褐色（10YR3/2）中粒砂である。出土遺物には瀬戸系の天目茶碗（145）がある。南北に並ぶ土壙墓（003ST・004ST）に直交し、013STと110STが東西に並ぶことから、こちらも土壙墓であると考えられる。時期は15世紀後半に比定される。

## 110ST：土壙墓（第51図）

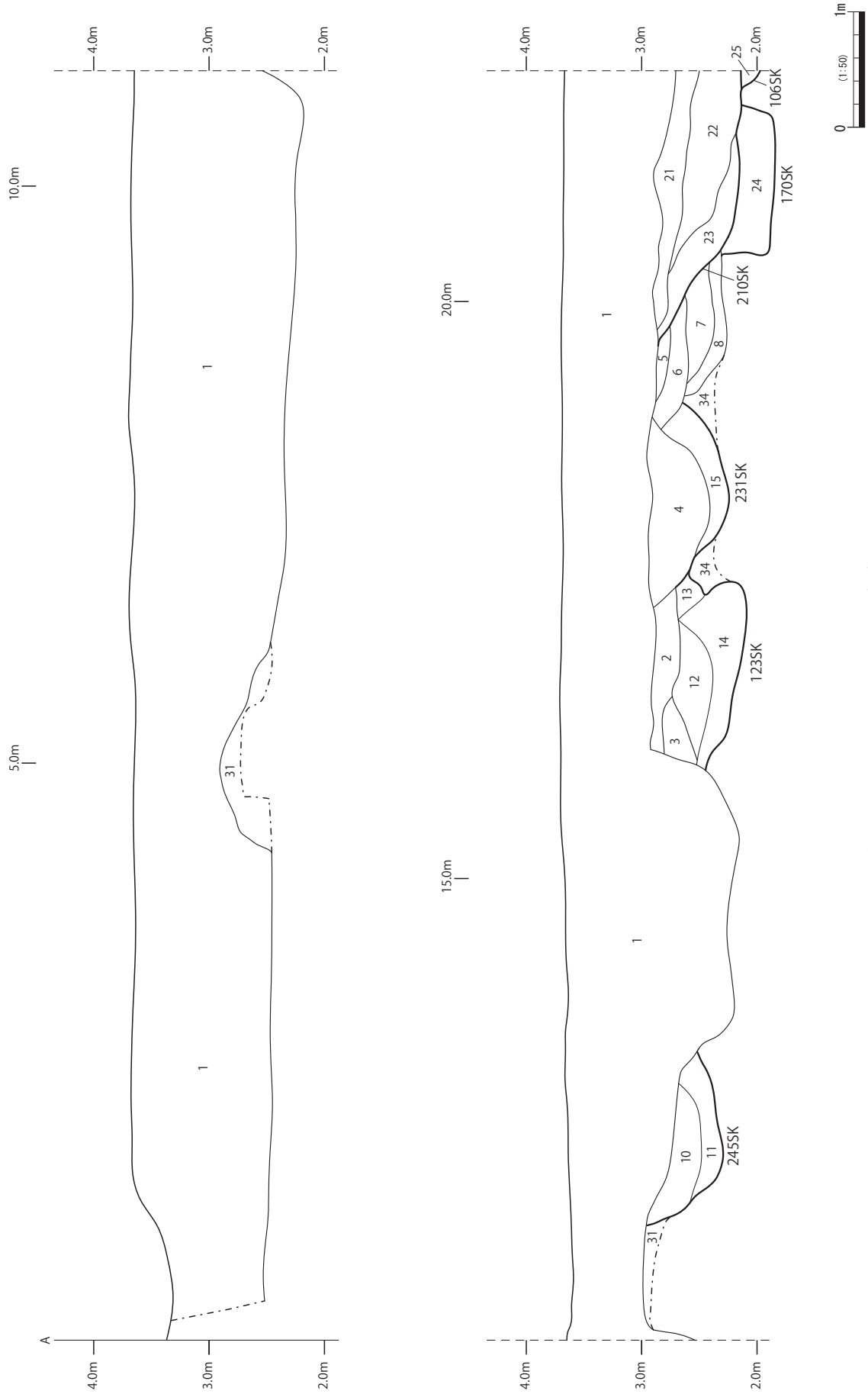
平面形は東西方向に長軸を有する隅丸方形で、断面形は逆台形を呈する。全長1.76 m、幅1.49 m、深さ0.15 m主軸方位N-57°-Wを測る。埋土はにぶい黄褐色（10YR4/3）粗粒砂である。出土遺物には茶白の上白（167）がある。013STと東西に並ぶことから一連の土壙墓であると考えられる。

## 246SZ：方形周溝墓（228ST・196SD・204SD・220SD）（第55・56図、図版56）

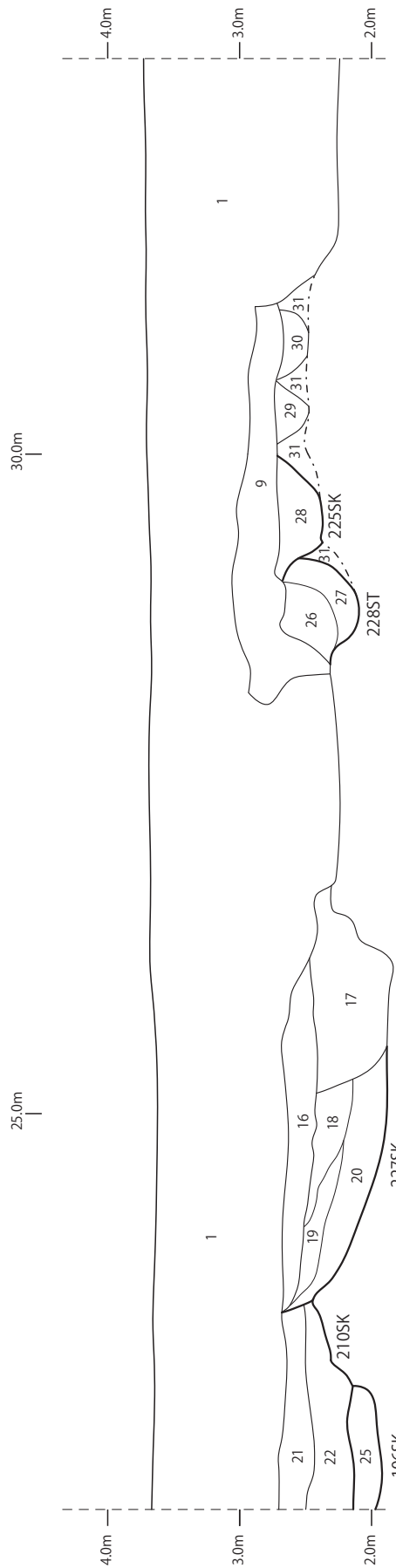
調査区の北東側で検出した方形周溝墓である。全体的に攪乱や中近世の遺構による破壊が激しいが、中央やや東寄りで主体部とみられる墓壙（228ST）、さらには東（220SD）・西（204SD）・南側（196SD）の周溝を確認した。北側の周溝は調査区外に位置するため確認できていない。陸橋部は南西隅の196SDと204SDの間では認められたが、南東隅の状況は攪乱や他遺構に切られている







第49図 4地点北セクション(1)

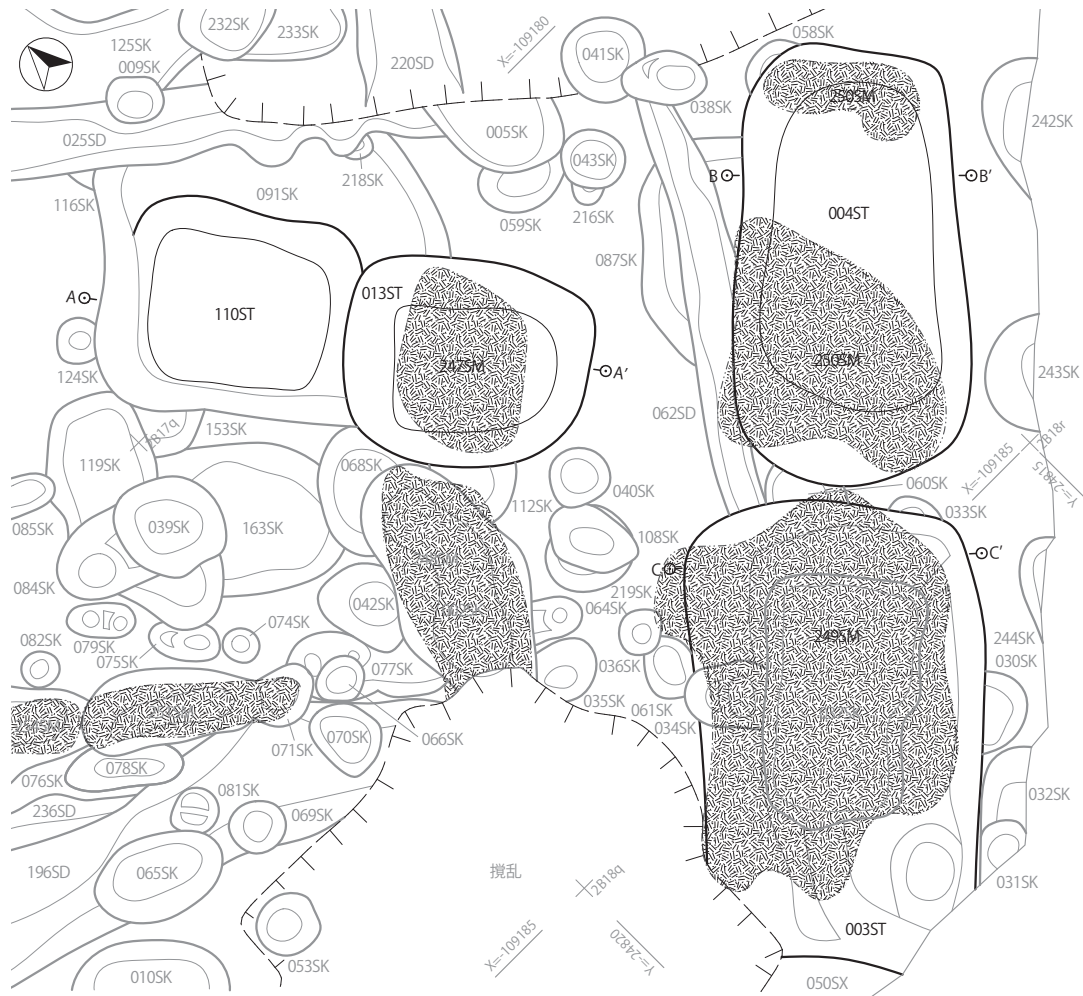


4. 地点北セクション土層説明

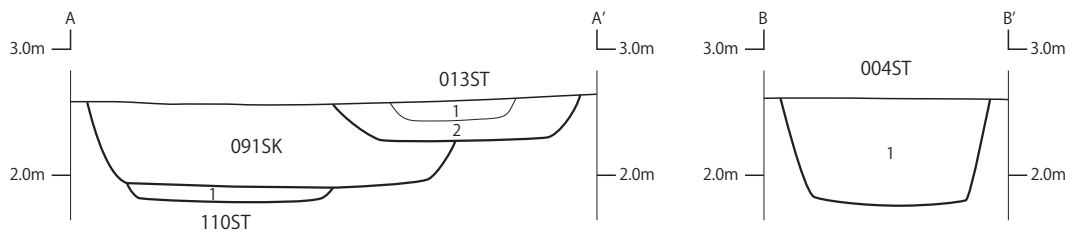
- |    |         |         |     |
|----|---------|---------|-----|
| 1  | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 2  | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 3  | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 4  | 10YR4/3 | にぶい、黄褐色 | 中粒砂 |
| 5  | 10YR3/2 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 6  | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 7  | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 8  | 10YR4/3 | にぶい、黄褐色 | 中粒砂 |
| 9  | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい、黄褐色 | 中粒砂 |
| 11 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 12 | 10YR3/4 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 14 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 16 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 17 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 18 | 10YR3/2 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 19 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 20 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 21 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 22 | 10YR3/2 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 23 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 24 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 25 | 10YR3/3 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 26 | 10YR5/4 | にぶい、黄褐色 | 粗粒砂 |
| 27 | 10YR5/4 | 灰黄褐色    | 粗粒砂 |
| 28 | 10YR5/4 | にぶい、黄褐色 | 粗粒砂 |
| 29 | 10YR5/4 | にぶい、黄褐色 | シルト |
| 30 | 10YR3/2 | 暗褐色     | 中粒砂 |
| 31 | 10YR5/6 | 黄褐色     | 中粒砂 |
| 32 | 10YR5/4 | にぶい、黄褐色 | 粗粒砂 |
- 
- |    |                             |          |
|----|-----------------------------|----------|
| I  | 表土(雑草)                      | 破砕貝を含む。  |
| II | 多量の破砕貝及び粘土ブロックを含む。          | 破砕貝を含む。  |
|    |                             | 破砕貝を混じる。 |
|    |                             | 破砕貝混じる。  |
|    |                             | 混貝土層     |
|    | 10YR5/4にぶい、黄褐色中粒砂混じる。       |          |
|    | 2455K 破砕貝を含む。               |          |
|    | 2455K 10YR5/6黄褐色中粒砂の斑土。     |          |
|    | 1235K 混土破砕貝層                |          |
|    | 1235K 10YR5/4にぶい、黄褐色中粒砂混じる。 |          |
|    | 1235K 破砕貝を含む。               |          |
|    | 2315K 10YR5/4にぶい、黄褐色中粒砂の斑土。 |          |
|    | 破砕貝を含む。                     |          |
|    | 混土貝層                        |          |
|    | 2275K 破砕貝を含む。               |          |
|    | 2275K 破砕貝を含む。               |          |
|    | 2275K 破砕貝を含む。               |          |
|    | 2215K 少量の破砕貝を含む。            |          |
|    | 2215K 破砕貝を含む。               |          |
|    | 2215K 破砕貝を含む。               |          |
|    | 1705K 破砕貝を含む。               |          |
|    | 1705K 混土貝層                  |          |
|    | 1065K 混土貝層                  |          |
|    | 2285T 中粒砂を含む。               |          |
|    | 2285T 中粒砂を含む。               |          |
|    | 2255K                       |          |
|    | 破砕貝を含む。                     |          |
|    | 地山                          |          |
|    | 地山                          |          |



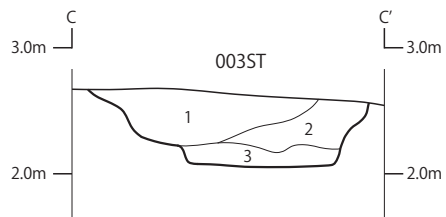
第50図 4 地点北セクション (2)



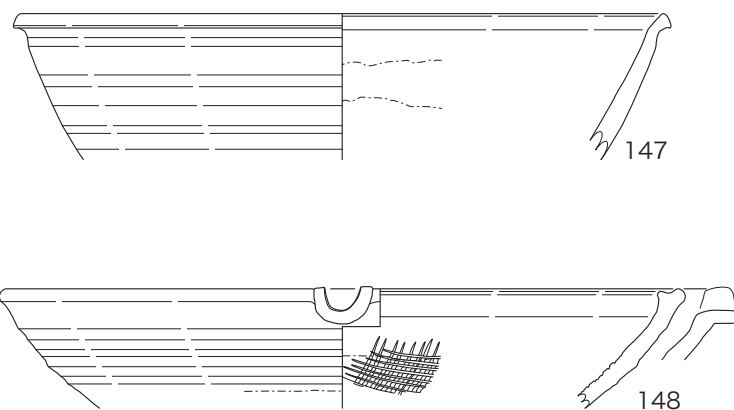
4  
地点  
(HM  
4)



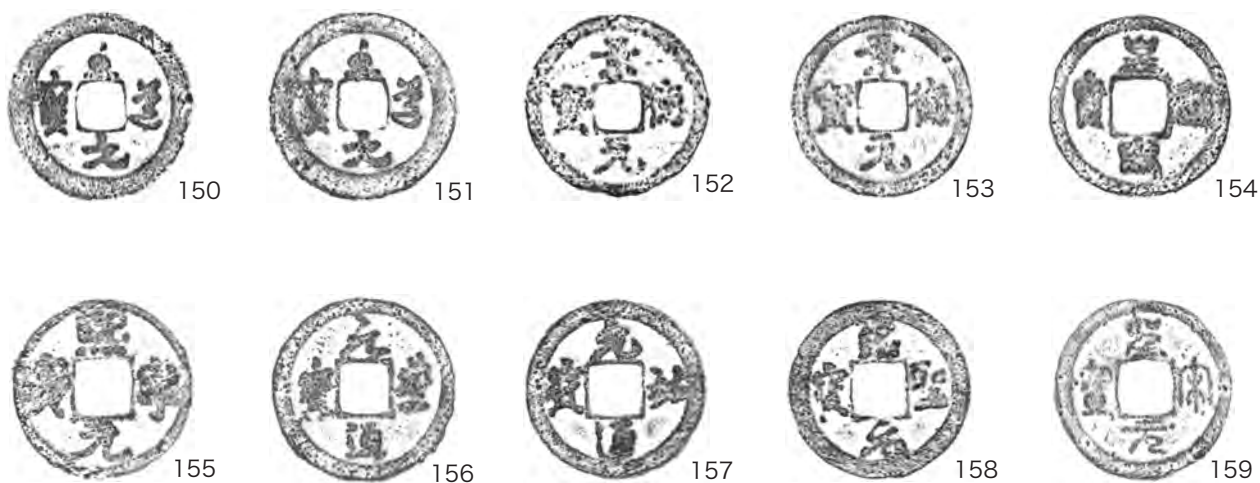
- 003ST土層説明  
 1 貝層  
 2 10YR3/2 黒褐色 中粒砂  
 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 粗粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色 中粒砂の斑土。
- 004ST土層説明  
 1 10YR3/2 黒褐色 中粒砂
- 013ST土層説明  
 1 貝層  
 2 10YR3/2 黒褐色 中粒砂 貝を含む。
- 110ST土層説明  
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粗粒砂



第51図 003ST・004ST・013ST・110ST土壙墓

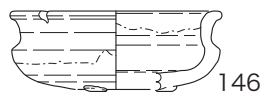


0 (1/4) 10cm



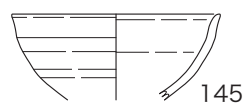
0 (1/1) 2cm

第52図 003ST土壙墓出土遺物



0 (1/4) 10cm

第53図 004ST土壙墓出土遺物



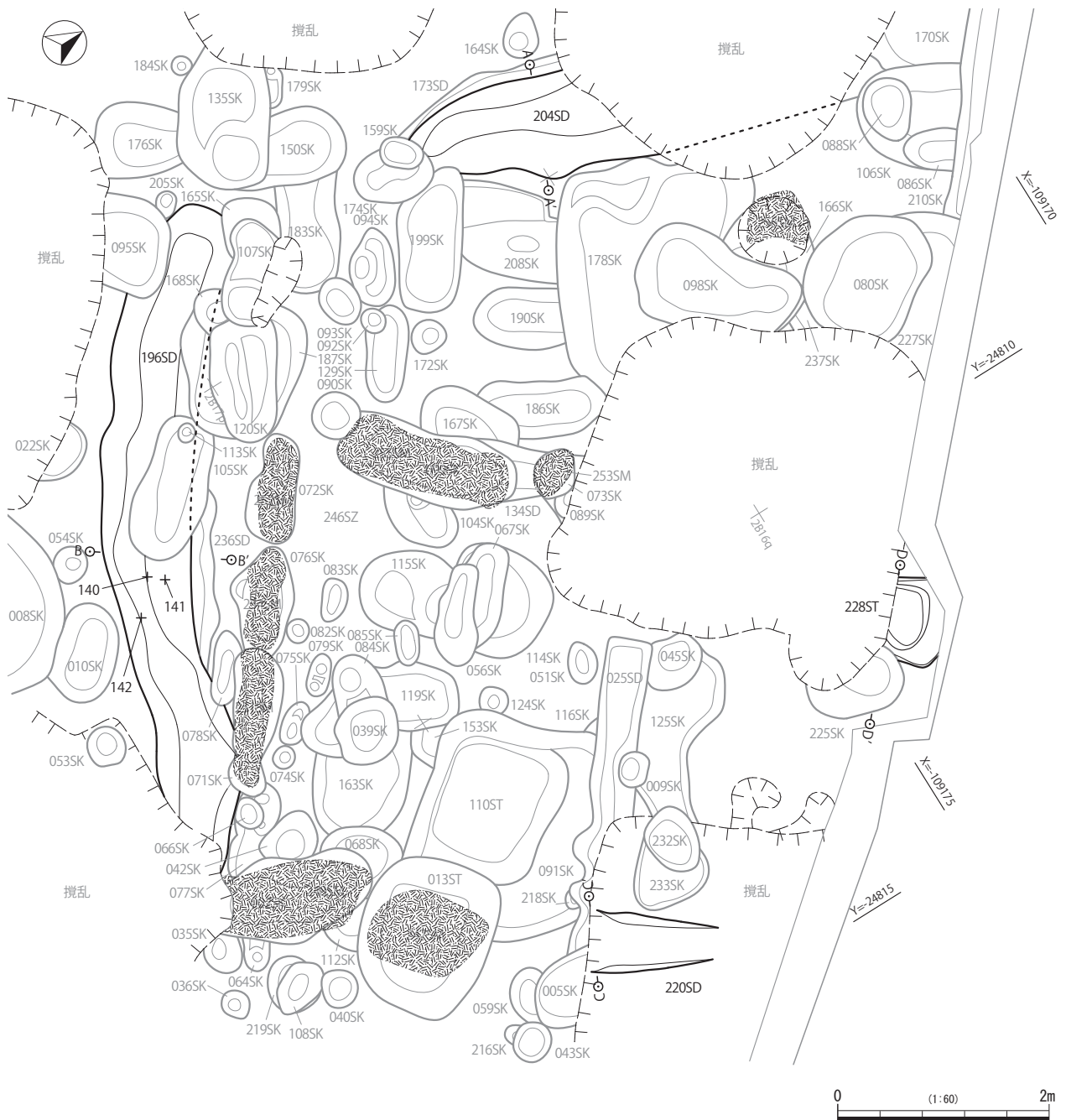
0 (1/4) 10cm

第54図 013ST土壙墓出土遺物

4  
地点  
(HM  
4)



ため不明である。全体の規模は墳丘長が東西9.5m、南北9.6m以上、主軸方位N-58°-Wを測る。墓壙(228ST)は、長さ1.35m、幅1.09m、深さ0.48mを測る。埋土は3層に分かれ、第56図の1・2層が棺に伴うもの、3層は掘方埋土であると考えられる。遺物は下呂石の剥片1点が出土したのみである。各周溝は、196SDは長さ8.43m、幅0.86m、深さ0.31mを測る。西端は収束するが、東端は中近世の土坑で激しく切られていることから220SDとの関係は不明である。204SDは、長さ5.11m、幅0.64m、深さ0.4mを測る。攪乱や中近世の土坑で大きく切られているが南端は収束する。220SDが長さ1.61m、幅0.75m、深さ0.22mを測る。攪乱の下で部分的に検出しており、南側は中近世の土坑で切られているため全体の形状・規模は不明である。出土遺物は196SDから古墳時代初頭の土師器の壺(140・141)、高坏(142)が出土した。時期は出土遺物から古墳時代初頭の廻間1式前半に比定される。

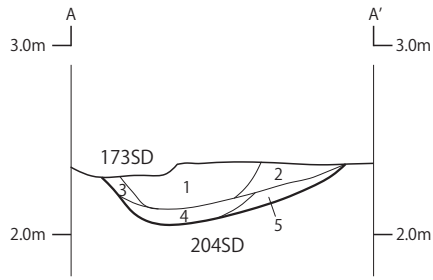


第55図 246SZ方形周溝墓(1)

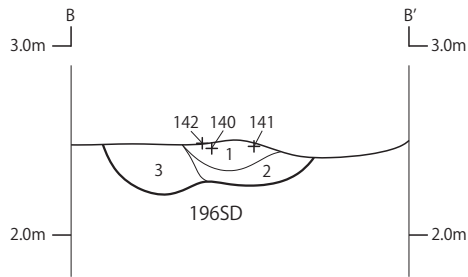
4  
地点(HM  
4)

第2章 畑間遺跡、東畑遺跡の調査

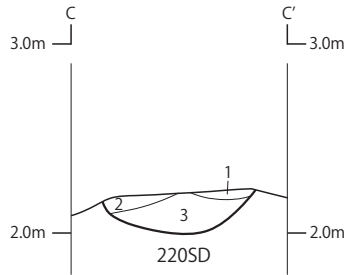
4  
地点  
(HM  
4)



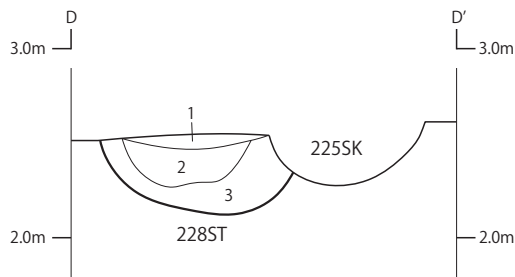
204SD土層説明  
 1 10YR3/2 黒褐色 中粒砂  
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 中粒砂  
 3 10YR5/2 灰黄褐色 中粒砂  
 4 10YR5/3 にぶい黄褐色 粗粒砂  
 5 10YR5/6 黄褐色 粗粒砂



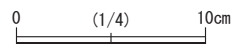
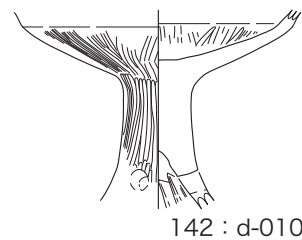
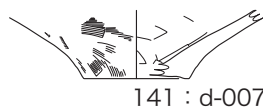
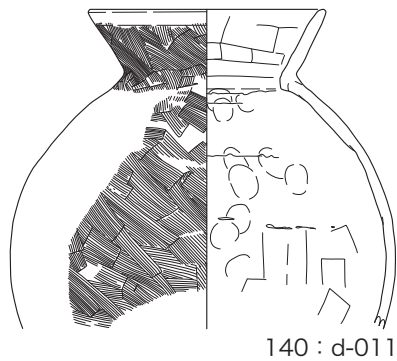
196SD土層説明  
 1 10YR3/2 黒褐色 中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土。  
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粗粒砂  
 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 細粒砂 粗粒砂混じる。



220SD土層説明  
 1 10YR4/4 褐色 中粒砂 粗粒砂混じる。  
 2 10YR4/4 褐色 中粒砂 粗粒砂混じる。  
 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 粗粒砂



228ST土層説明  
 1 10YR6/4 にぶい黄橙色 中粒砂  
 2 10YR6/4 にぶい黄橙色 粗粒砂  
 3 10YR5/1 褐灰色 粗粒砂



第56図 246SZ方形周溝墓(2)

### 3. 主な遺物

古墳時代と中近世の遺物が出土した。特に方形周溝溝(246SZ)の周溝(196SD)から出土した土師器や、中世の土壙墓(003ST)から出土した宋銭、土坑から出土した輸入磁器が中心となる。

古墳時代の遺物は、土師器の壺(140・141)、高坏(142)がある。140は長胴形を呈した体部の下半に最大径を有する。口縁部は「く」の字状に大きく外反している。141は底部である。大型の平底から大きく外反した体部を有する。142の脚部は垂直気味に高く立ち上がり、水平状に開いた坏部を有する。脚部に円形の透かしを穿っている。いずれも196SDから出土し、時期は廻間I式前半に比定される。

中・近世の遺物には輸入磁器(163～166)、陶器類(143～148)、砥石(149)、茶臼(167)、銭貨(150～162)がある。輸入磁器はいずれも龍泉窯系の青白磁器である。163は白磁の碗で口縁部外面に広い面を有する。086SKから出土した。164～166は青磁の碗である。164は体部内外面に施釉を施しており、高台は露胎である。080SKから出土した。165・166は碗の口縁部である。体部内外面に施釉を施しており、口縁部外面には蓮弁が認められる。165は232SKから出土した。いずれも時期は13～14世紀に比定される。陶器類はいずれも瀬戸系である。143・144は山茶碗で、143は底部に小さな高台を有し、上外方へ延びる体部を有する。底部外面に「寸」の字の墨書がみられる。瀬戸7型式に比定される。170SKから出土した。144の底部は平底を呈し、上外方へ直線状に延びた体部を有する。瀬戸8型式に比定される。073SKから出土した。145は天目茶碗である。体部から内湾気味に立ち上がった口縁部を有する。013STから出土した。146は袴腰型香炉である。底部には小さな三足を有しているものと考えられる。体部からS字状に短く外反した口縁部を有する。大窯後期4期の新段階以降に比定される。004STから出土した。147は盤である。深い体部と短く外反した折縁口縁部を有する。003STから出土した。148は卸目片口鉢である。大きく内湾した体部を有し、内面に細かい播目を有する。外面に施釉を施している。古瀬戸後期に比定され、003STから出土した。砥石(149)は長方形を呈し、上面と両側面の3面を研面として使用している。長辺端部は欠損している。泥岩製である。茶臼(167)は上臼である。全面は粗い加工痕を残している。摺目は放射状の線刻を施している。110STから出土した。

銭貨は17枚出土したが、その内の13枚(150～162)を図示した。150・151は「至道元宝」、152・153は「景德元宝」、154は「皇宋通宝」、155は「熙寧元宝」、156は「元豊通宝」、157は「元祐通宝」、158は「紹聖元宝」、159は「聖宋元宝」、160は「祥符元宝」である。161・162は「寛永通宝」、161は文銭、162は高津銭である。「寛永通宝」以外は全て宋銭である。150～159は003ST、160は239SK、161は012SDから出土した。

## 4. 4地点のまとめ

当調査地点の主要な遺構としては、古墳時代初頭の方形周溝墓、中世の土壙墓・土坑がある。以下、時代順にその成果をまとめておく。

古墳時代は、調査区の中央で方形周溝墓(246SZ)を検出した。今回の調査では、4地点以外に2地点で3基、3地点で2基の方形周溝墓を確認している。それぞれの特徴を簡単にまとめておく。2地点の203SZは、墳丘長が5m前後で、四隅に陸橋部を有していたと考えられる。残りの2基も陸橋部を有しているが全形は不明である。これら3基の築造時期は不明だが、周辺から出土した遺物の年代から弥生時代中期以降の可能性が指摘できる。3地点の2基はともに陸橋部を有するが全形は不明である。築造時期は074SZでは新旧関係や出土遺物から弥生時代中期以降と考えられる。4地点の246SZは墳丘長が9.6m以上あり、南西隅で陸橋部が認められた。また、主体部とみられる墓壙(228ST)を検出した。棺の痕跡を確認できたが、遺物は下呂石の剥片1点のみであった。また、墓壙の位置が中央ではなく北寄りに位置していることから追葬の可能性が指摘できる。築造時期は周溝の出土遺物から古墳時代初頭と考えられる。

近辺の事例では、2地点の東側約80mに位置する平成24年度(7地点)で2基の方形周溝墓が確認されている。SZ7178は、墳丘長が約8.4mで四隅に陸橋部を有するタイプである。築造時期は特定されていないが、弥生時代中期～後期と考えられている。SZ7177は、墳丘長が約5.9mで、確認された2か所の隅のうち、北西隅は周溝が途切れず連続するが、南西隅は陸橋が認められた。築造時期は弥生時代後期～古墳時代初頭と考えられている。

次に、2地点の西側約100mに位置する平成27年度(5地点)ではSZ5054が確認されている。周溝の半分が検出されたが、溝は途切れることなく連続していた。墳丘の平面形は隅丸方形で墳丘長は約6.7mである。築造時期は弥生時代後期～古墳時代初頭と考えられている。4地点の西側に隣接する平成27年度(7地点)ではSZ7311が確認された。こちらも周溝の半分が検出された。一部が攪乱で切られるが、溝は途切れることなく連続していたと考えられる。墳丘の平面形は隅丸方形で墳丘長は約11.8mである。築造時期は古墳時代初頭頃と考えられている。その他にも平成27年度(4～6地点)や平成28年度(4地点)などで周溝と考えられる溝が検出されている。以上のとおり、2～4地点の周辺一帯は、弥生時代後期(古くて中期)～古墳時代前期の墓域であることが確認された。ただし、弥生時代中期については、2・3地点の方形周溝墓は中期以降としか時期比定ができなかったため、詳細な実態については不明である。また、方形周溝墓には陸橋部を有するタイプと無いタイプが認められたが、両者の性格の違いや、時期ごとの変遷は、今後の検討課題である。

中世の土壙墓は、調査区の東側で南北方向に003ST・004ST、それに直交する形で東西方向に並ぶ013ST・110STの4基を検出した。平面形は長方形あるいは隅丸方形で、断面形は逆台形を呈する。遺物は003STから14枚の宋銭(150～159)、004STから袴腰型香炉(146)、013STから天目茶碗(145)が出土している。形状や出土遺物から土壙墓であると判断した。土坑では、086SKから白磁の碗(163)、080SK・232SKから青磁の碗(164・165)が出土している。当調査地点は、調査区の東側を中心として多数の土坑を確認したが、掘立柱建物跡を構成する柱穴は認められなかったことから、墓域として利用された可能性が指摘できる。



## 第5節 5地点(HM17-5)の調査

## 1. 5地点の概要と遺跡の構造

5地点は畑間遺跡の南側に所在する。東西方向に細長い調査区で調査面積は80m<sup>2</sup>である。

2月2日に表土掘削、2月6日から遺構掘削を開始した。2月9日に全景写真撮影、2月15日に埋め戻しを完了し調査を終了した。

堆積層は近現代の人為的な改変を激しく受けており、地山直上まで近世以降の整地層が占めていた。そのため近世の遺物包含層(Ⅱ層)の下では、中世の遺物包含層(Ⅲ層)や弥生時代の遺物包含層(Ⅳ層)は認められなかった。

当調査地点は砂堆の西側で縁辺部に位置していることから、地山面の標高は調査区東側で3.2m前後、西側で2.9m前後と0.3mほどの比高差がみられた。基本層序は以下のとおりである。

I層：表土層。近現代の攪乱や耕作土である。調査直前まで存在した住宅や耕作地に伴うものと考えられる。

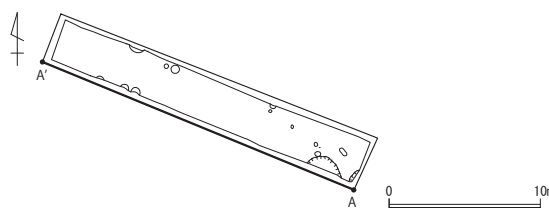
Ⅱ層：近世の遺物包含層。暗褐色(7.5YR3/3・7.5YR 3/4)の砂層である。

## 2. 主な遺構

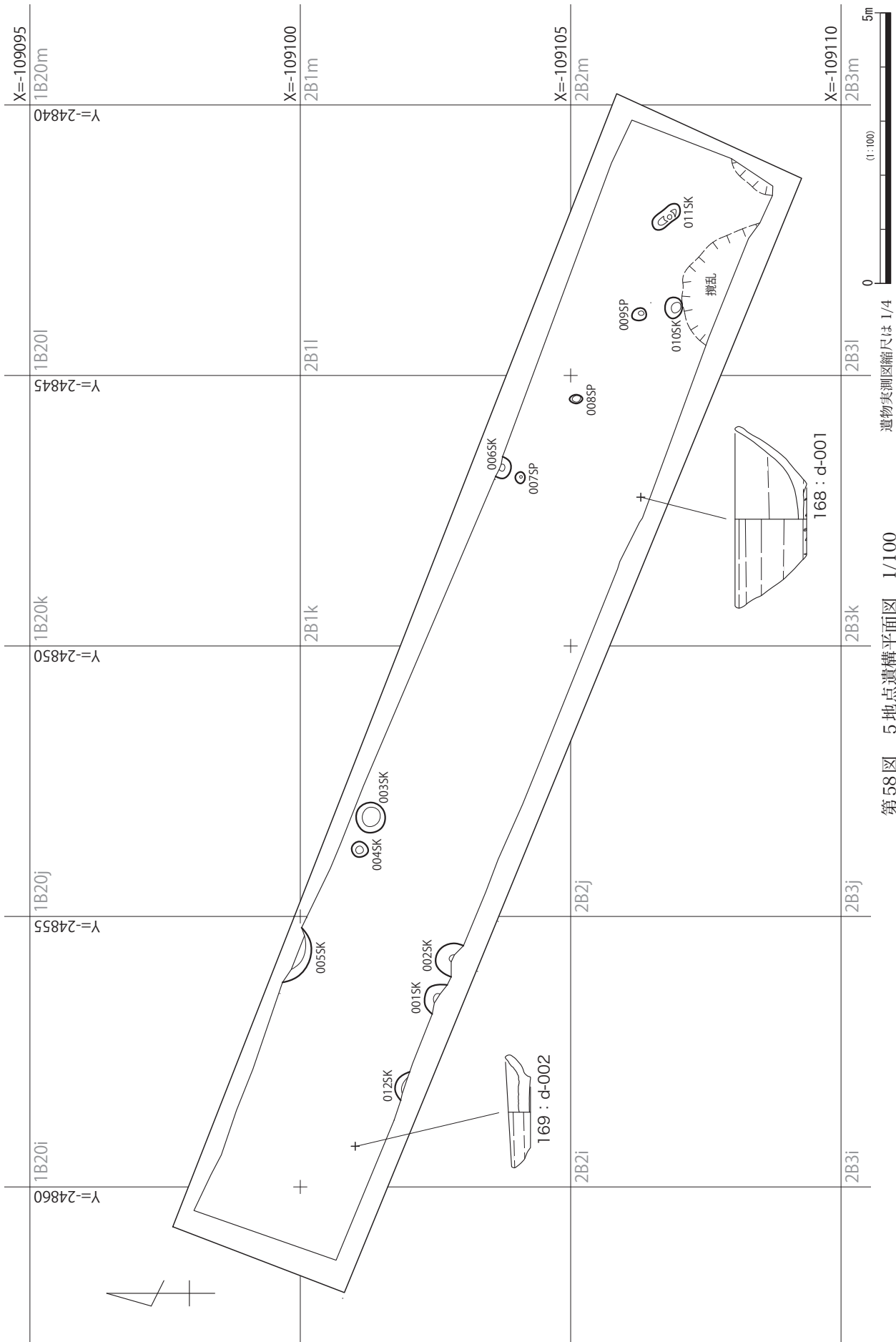
検出した遺構は12基を数えるが、遺物を伴わないものが多く、実態を明らかにすることはできなかった。唯一、調査区の北西側で出土遺物から弥生時代中期に比定される土坑(005SK)を検出した。その他、調査区の東側で直線上に並ぶ3基のピット(007SP～009SP)を検出した。ピットは径0.21～0.27m、深さ0.19～0.26mを測り、北西から南東方向に1.8～2.0m間隔で並んでいる。並びは1列のみであることから、柵列あるいは杭列等の可能性がある。なお、遺物が出土しなかったことから詳細な時期は不明である。

## 005SK：土坑(第60図、図版63)

調査区の北西側で検出した土坑である。遺構は北側の調査区外へ続いており、検出できた部分は全体の4分の1程度であった。平面形は円形を呈するものと推測される。規模は長さ1.07m、幅0.25m、深さ0.49mを測る。遺物は弥生時代中期の壺(170)が出土した。時期は出土遺物の年代から弥生時代中期に比定される。

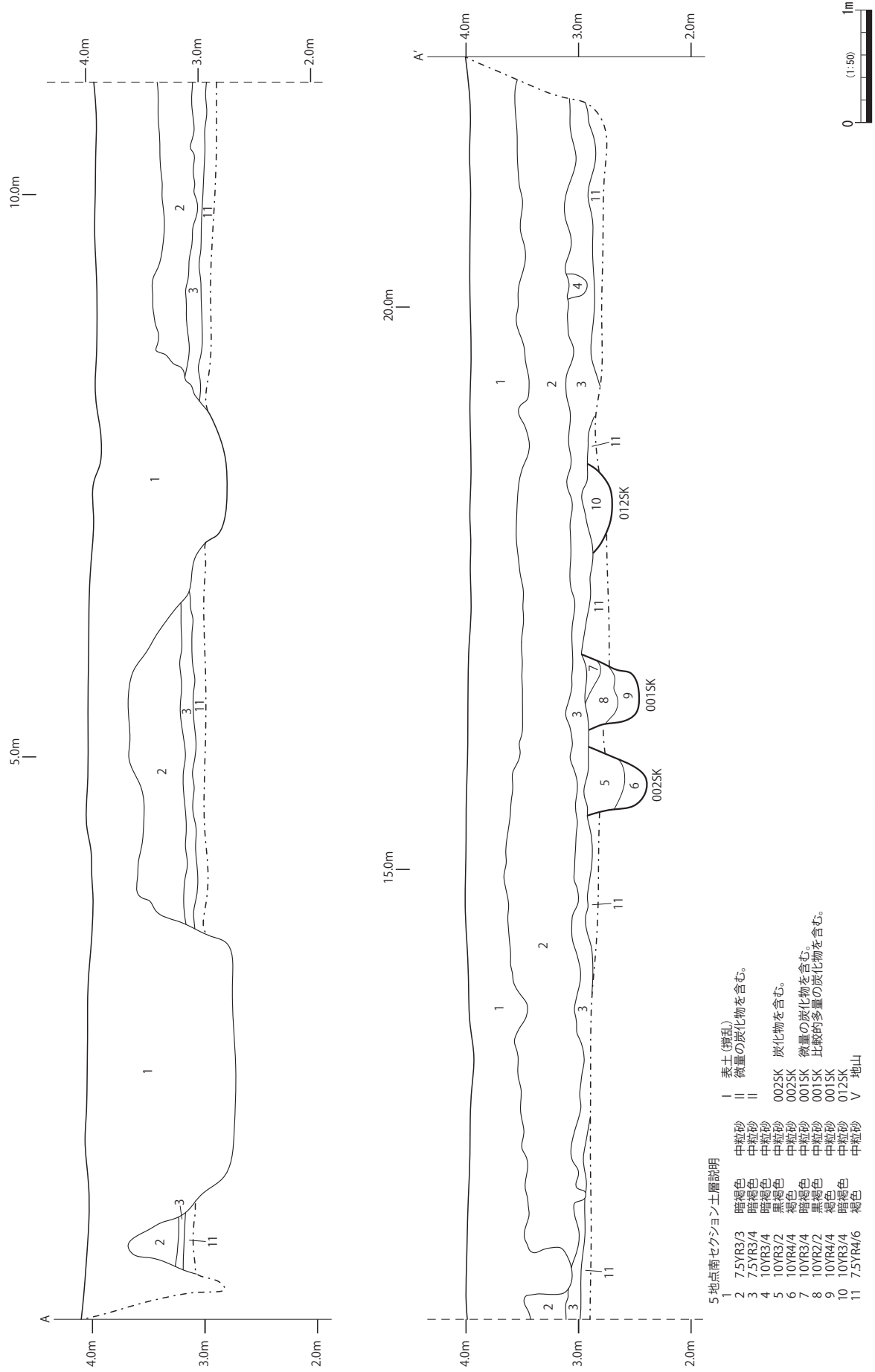


第57図 5地点セクション位置図(1/500)

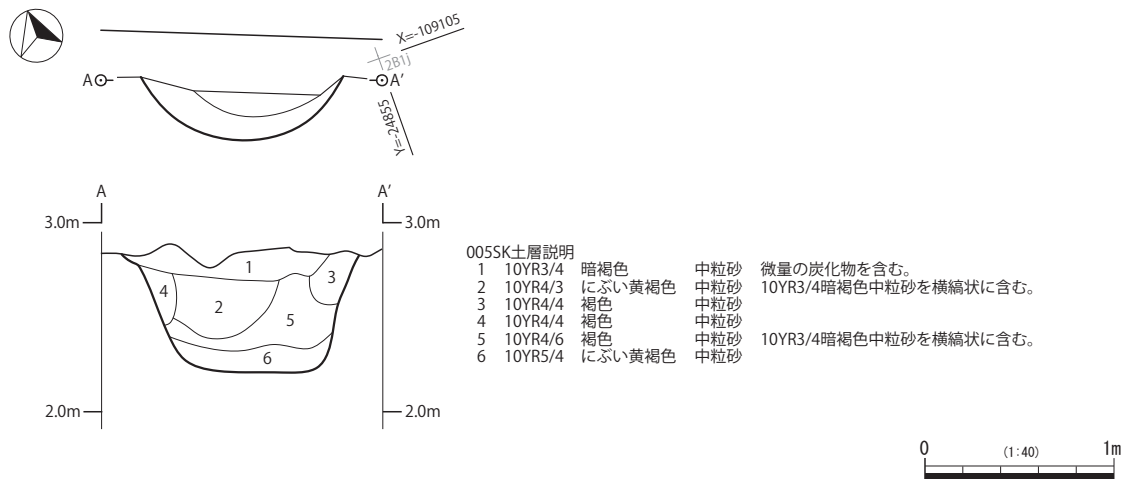


第58図 5地点遺構平面図 1/100 遺物実測区縮尺は1/4

5地点 HM (5)



第59図 5地点南セクション



第60図 005SK土坑

### 3. 主な遺物

弥生時代、中世の遺物が出土し、遺構も出土遺物も少量である。

170は弥生土器の壺である。体部下半に球形の最大径を有する。体部には櫛描による直線文と連弧文を交互に施した文様体を形成している。弥生時代中期の古井式に比定される。

168・169は瀬戸系の陶器である。168は山茶碗で底部から内湾しながら口縁部まで立ち上がる。底部には糸切痕を残し、小さな貼付高台を有する。尾張7型式に比定される。169は器高の低い小皿である。大きめの平底から上外方へ口縁部をつまみ出している。底部には糸切痕を残している。瀬戸7～8型式に比定される。

### 4. 5地点のまとめ

当調査地点は、弥生時代の土坑や中近世と考えられる土坑やピットのみであり、遺構の数は少なく、その分布も散発的であった。遺構が希薄であった理由としては、地形的な要因が大きかった可能性がある。周辺の調査事例を参照してみると、当調査地点の東側に隣接する平成27年度（6地点）では、弥生時代中期の竪穴建物跡、弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓などが検出され、地山面の標高は3m前後であった。南側約50mに位置する平成27年度（7地点）では弥生時代中期の竪穴建物跡、古墳時代初頭の方形周溝墓、中世の区画溝などが検出され、地山面の標高は東側で3.5m、西側で3.1mであった。北側約50mに位置する平成27年度（5A地点）では弥生時代の方形周溝墓、中世の区画溝などが検出され、地山面の標高は東側で3.3m、西側で2.9mであった。北西側約40mに位置する平成28年度（6地点）では遺構の数は少なく散発的で地山面の標高は2.6～2.8m前後であった。さらに北西側に隣接する平成26年度（6地点）では、こちらも遺構の数は少なく、地山面の標高も2.7m前後で西端ではさらに低くなり2m前後まで傾斜していた。当調査地点の地山面の標高は東側で3.2m前後、西側で2.9m前後と西に下る地形となっていた。以上の状況から当調査地点は砂堆の西側縁辺部に位置しており、北西側へ60mも行けば標高が2m前後にまで下る地形が復元できそうである。平成28年度（6地点）や平成26年度（6地点）を含めて、当調査地点から西側は傾斜地となっており、その地形的な影響もあり遺構が希薄であったと考えられる。





である。なお、大坐骨切痕の湾入は、未成年であるので明確ではない。しかし、放物線が対象であることから、女性（女兒）の可能性が考えられる。断定はできない。

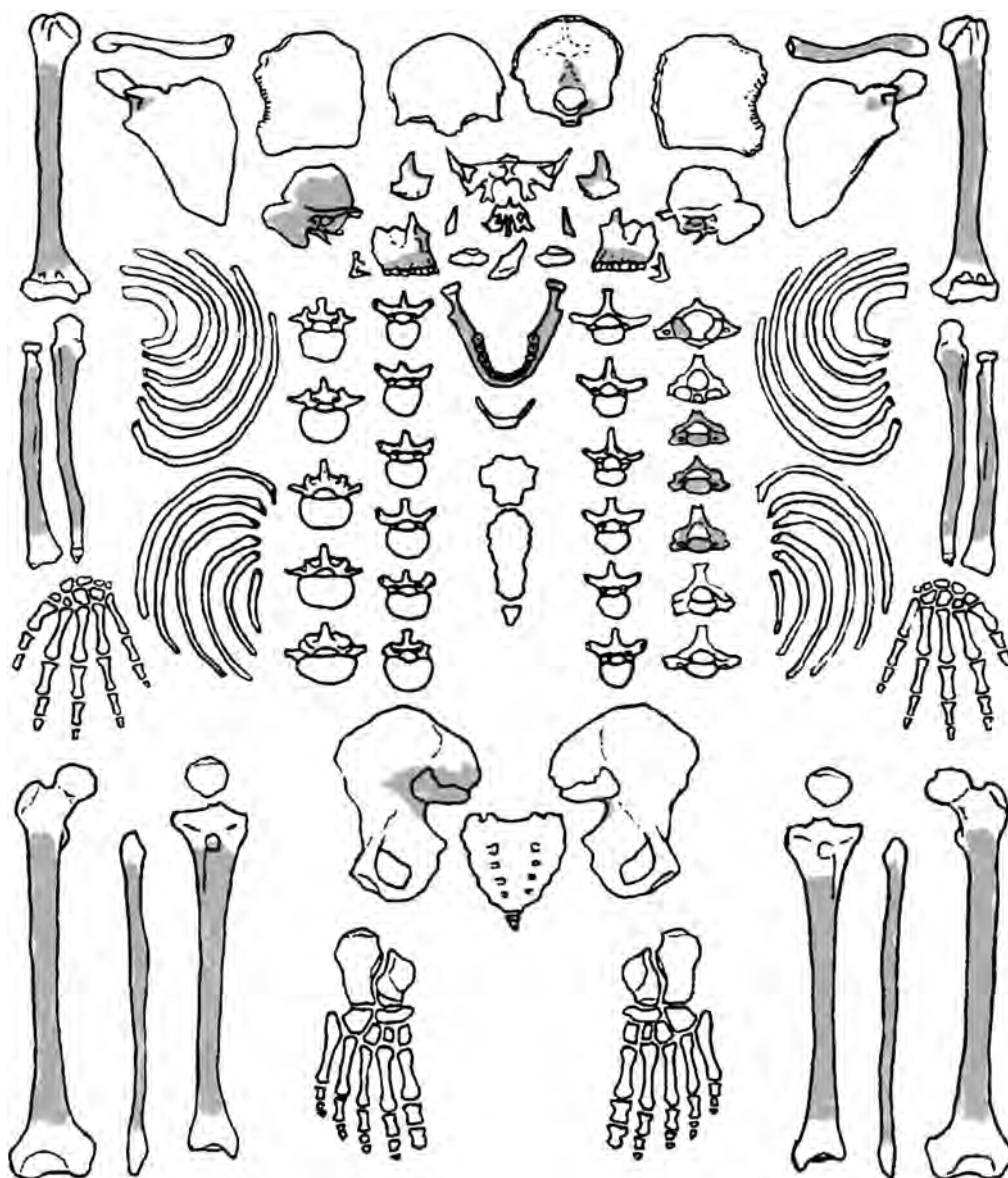
【四肢骨】

左右肩甲骨片と左右鎖骨体が保存される。四肢骨の骨端が骨幹と癒合しているものはない。同定できたおもな四肢骨は、左右上腕骨、左右尺骨、左右橈骨片、左右大腿骨、左右脛骨片、左右腓骨片である。

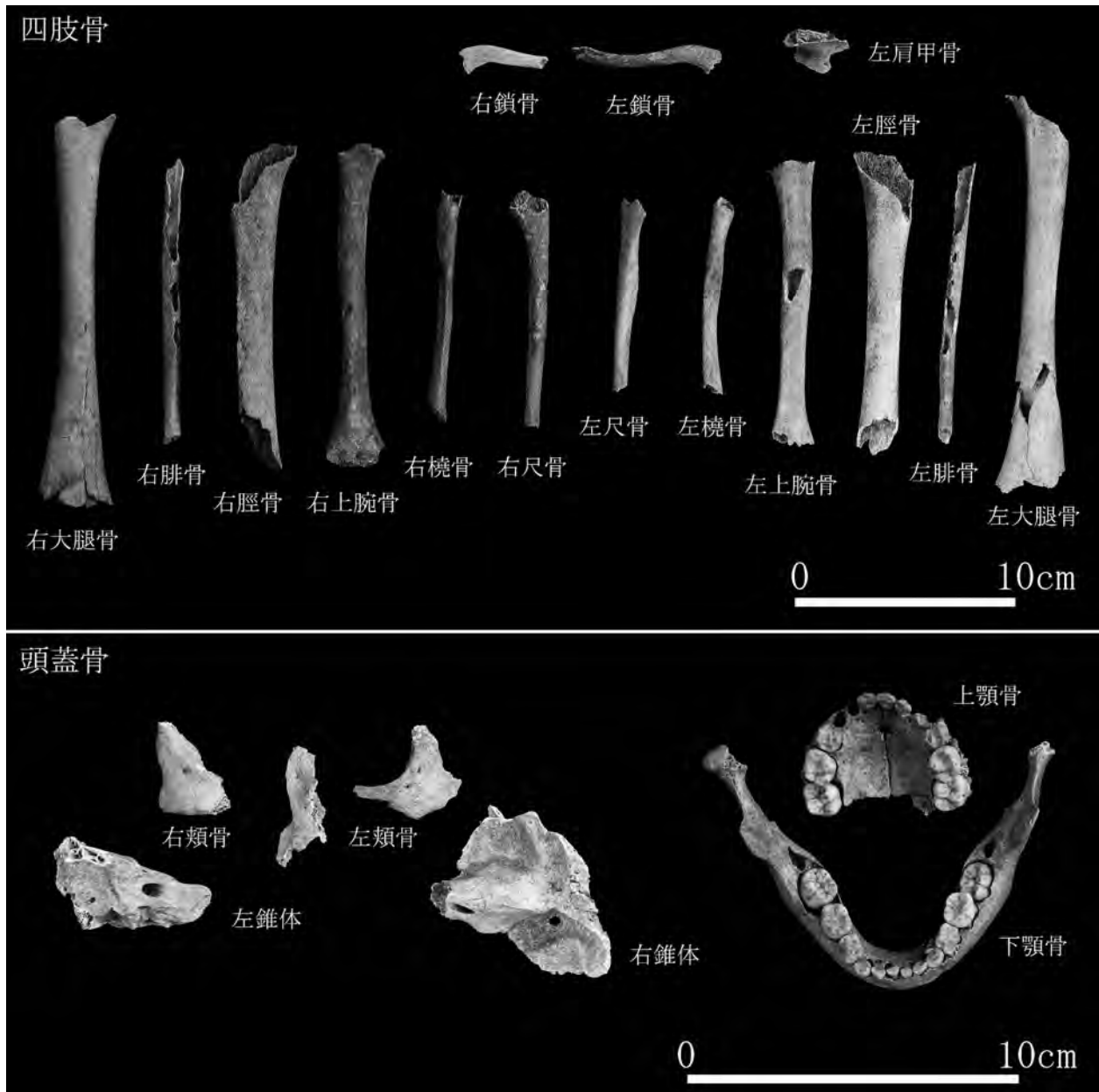
このうち、長さを計測できたものは大腿骨（骨幹長：最大長180mm、中央周41mm）と上腕骨（骨幹長：145mm、中央周38mm）である。

3. おわりに

以上のことから、今回検出された人骨は、6才～7才の未成年個体である。性別の判断は出来ないが、大坐骨切痕の湾入が緩やかで、線対称な放物線を描いていることから女兒の可能性も伺える。ただし、性別についてはあくまでも推測に過ぎない。



第61図 土壙墓175ST出土人骨保存部位



第62図 土壙墓175ST出土人骨

参考文献

AlQahtani, S.J., Hector, M. R. and Loversidge, H. M. (2010) The London atlas of human tooth development and eruption. *Amer. J. Phys. Anthrop.*, 142, 481-490.

Fazekas, I.Gy. and Kosa, F. (1978) *Forensic Fetal Osteology*. Budapest: Akademiai Kiado.

Scheuer, L. and S.Maclaughlin-Black (1994) Age estimation from the pars Basilaris of the fetal and juvenile occipital bone. *Intern. J. Osteoarcheol.*, 4, 377-380.

瀬田季茂・吉野峰夫 (1990) 白骨死体の鑑定. 95-107, 令文社.

## 第2節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹

Zaur Lomtadze・竹原弘展

### 1. はじめに

愛知県東海市大田町的場に所在する畑間遺跡2地点(HM17-2)より出土した人骨について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。なお、同じ試料を用いて炭素・窒素安定同位体比分析を行っている(炭素・窒素安定同位体比分析の項参照)。

### 2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第2表のとおりである。PLD-37010は、土壙墓175STより出土した人骨の部位不明破片である。なお、骨は鑑定の結果、性別不明の6才~7才の未成年個体であった(詳細は人骨鑑定の項参照)。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-37010	遺構:土壙墓175ST	種類:骨(ヒト) 部位:不明破片 状態:dry	超音波洗浄 コラーゲン抽出

第2表 測定試料および調製

### 3. 結果

第3表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代、第63図にIntCal13とMarine13の混合曲線を用いた暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

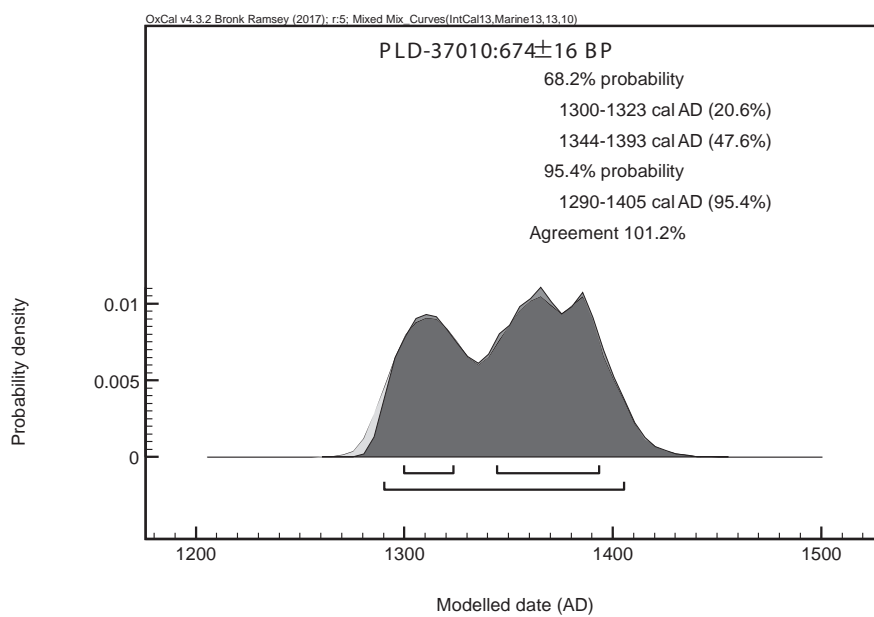
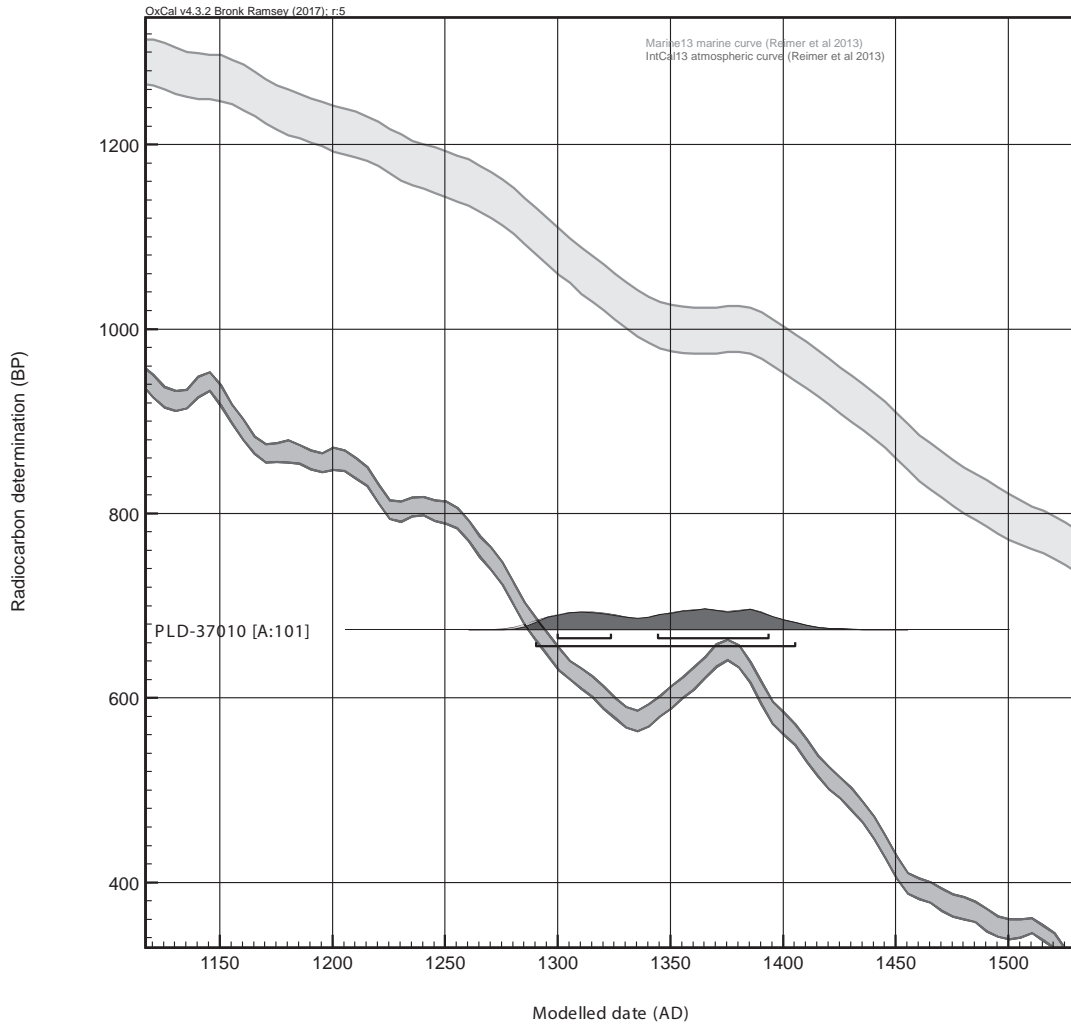
<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代(yrBP)の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	<sup>14</sup> C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	<sup>14</sup> C年代を暦年代に較正した年代範囲 較正曲線: IntCal13、Marine13混合 (海産物依存率: 13 $\pm$ 10%)	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-37010	-21.56 $\pm$ 0.20	674 $\pm$ 16	675 $\pm$ 15	1300-1323 cal AD (20.6%) 1344-1393 cal AD (47.6%)	1290-1405 cal AD (95.4%)

第3表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果



測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。



第63図 較正曲線IntCal13とMarine13の混合曲線を用いた暦年較正結果

なお、暦年校正の詳細は以下のとおりである。

暦年校正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された $^{14}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、および半減期の違い( $^{14}\text{C}$ の半減期 $5730\pm 40$ 年)を校正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

人骨コラーゲンの $^{14}\text{C}$ 年代は、人が摂取した海産物の割合に応じて、海洋リザーバー効果の影響を受けるため、海洋リザーバー効果の補正が必要である。 $^{14}\text{C}$ 年代の校正にはOxCal4.3を用い、付属する海洋リザーバー効果の補正機能を用いた。校正用データセットには陸産物用のIntCal13と海産物用のMarine13を併せて用い、別項の炭素・窒素安定同位体比分析で得られた $\delta^{13}\text{C}$ に基づき推定した海産物依存率を入力して、海洋リザーバー効果を補正した暦年代を得た。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された $^{14}\text{C}$ 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。

#### 4. 考 察

PLD-37010のコラーゲン収率は4.23%で、1%を超えていた。また、C/Nモル比は3.28であり、生体のコラーゲンが通常示すはずの2.9～3.6の範囲(DeNiro, 1985)に収まる。以上より、コラーゲンへの外来炭素起源の大きな汚染は認められない(炭素・窒素安定同位体比分析の項参照)。

米田の研究(米田, 2005)に準じて、人が摂取したタンパク質が100%陸産物由来だった場合のコラーゲンの $\delta^{13}\text{C}$ を $-21.0\%$ 、100%海産物由来だった場合を $-12.5\%$ と仮定し、試料の $\delta^{13}\text{C}$ からタンパク質源の海産物依存率を計算すると、PLD-37010は $13\pm 10\%$ と推定された。この割合でIntCal13とMarine13の混合させた校正曲線を用いて暦年校正を行った。海洋性試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、海域ごとにリザーバー効果が異なるため、海域差が生じる。したがって、より確かな年代を求めるためには、試料が生息していた海域における補正值( $\Delta R$ )を用いて海域差を補正する必要がある。今回は、Marine13の暦年代校正曲線をそのまま用いた。

土壌墓175STの人骨は、13世紀末から15世紀初頭の暦年代( $2\sigma$ 暦年代範囲)を示した。

#### 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- DeNiro M. J. (1985) Postmortem preservation and alteration of *in vivo* bone collagen isotope ratios in relation to palaeodietary reconstruction. *Nature*, 317, 806-809.
- 中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代編集委員会編「日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.
- 米田穰(2005)有珠モシリ遺跡出土人骨における同位体分析. 平成14年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書「北海道統縄文人の系譜論的・生活論的研究—有珠モシリ遺跡出土人骨を中心にして—」(研究代表者 百々幸雄), 273-288.

### 第3節 人骨の炭素・窒素安定同位体比分析

山形秀樹・中村賢太郎・竹原弘展 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

採取された人骨を対象として、食性を推定するために、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、コラーゲンへの外来炭素起源汚染のチェック用に炭素含有量と窒素含有量を測定して試料のC/N比を求めた。なお、同じ試料を用いて放射性炭素年代測定(放射性炭素年代測定参照)を行っている。

#### 2. 試料および方法

試料は、愛知県東海市大田町的場に所在する畑間遺跡2地点(HM17-2)の土壙墓175STより出土した人骨であり、測定番号として放射性炭素年代測定の測定番号を用いている。人骨は鑑定の結果、6才～7才の未成年個体で、性別不明(女児の可能性あり)とみられた(詳細は人骨鑑定の項参照)。また、放射性炭素年代測定の結果、13世紀末から15世紀初頭の暦年代が得られている(詳細は放射性炭素年代測定の項参照)。

測定を実施するにあたり、試料は、超音波洗浄を施して表面に付着した汚れを除去した後、試料からコラーゲンを抽出し、それを用いて測定を行った。

炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA(ガス化前処理装置)であるFlash EA1112(Thermo Fisher Scientific社製)を用いた。スタンダードは、アセトニトリル(キシダ化学製)を使用した。測定された炭素含有量と窒素含有量に基づきC/N比(モル比)を算出した。

炭素安定同位体比( $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ )および窒素安定同位体比( $\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ )の測定には、質量分析計DELTAplus Advantage(Thermo Fisher Scientific社製)を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比ではIAEA Sucrose(ANU)、窒素安定同位体比ではIAEA N1を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に、EA内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させた。次に還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムで $\text{CO}_2$ と $\text{N}_2$ を分離し、TCDでそれぞれ検出・定量を行った。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度 $1000^\circ\text{C}$ 、還元炉温度 $680^\circ\text{C}$ 、分離カラム温度 $35^\circ\text{C}$ である。分離した $\text{CO}_2$ および $\text{N}_2$ はそのままHeキャリアガスと共にインターフェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定した。

#### 3. 結果

第4表に、試料情報とコラーゲンの収率、炭素含有量、窒素含有量、C/N比、炭素安定同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、窒素安定同位体比( $\delta^{15}\text{N}$ )を示す。

測定番号	試料情報	処理した骨重量(mg)	抽出コラーゲン重量(mg)	コラーゲン収率(%)	炭素含有量(%)	窒素含有量(%)	C/N比	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	$\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ (‰)
PLD-37010	遺構：土壙墓175ST 種類：人骨	1509.80	63.90	4.23	39.1	13.9	3.28	-19.9	10.5

第4表 結果一覧表

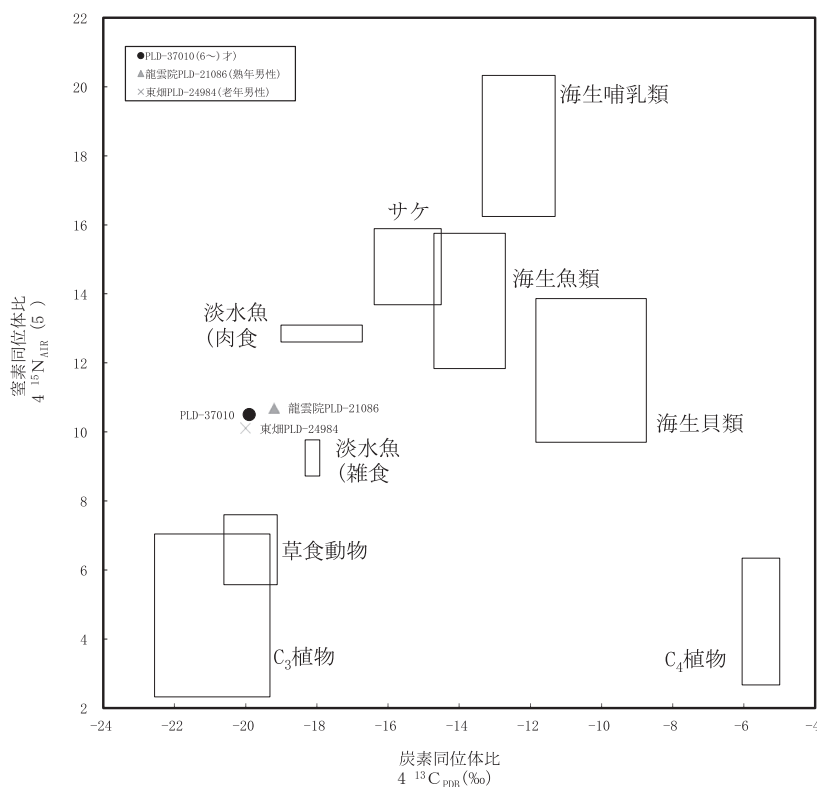
PLD-37010のコラーゲン収率は4.23%で、1%を超えていた。また、C/Nモル比は3.28であり、生体のコラーゲンが通常示すはずの2.9～3.6の範囲 (DeNiro, 1985) に収まる。以上より、コラーゲンへの外来炭素起源の大きな汚染は認められない。

第64図に炭素安定同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ ) と窒素安定同位体比 ( $\delta^{15}\text{N}$ ) の関係を示す。人骨中のコラーゲンについては、食物からコラーゲンが合成される際に、炭素安定同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ ) が約4.5‰、窒素安定同位体比 ( $\delta^{15}\text{N}$ ) が約3.5‰上昇する (Ambrose, 1993)。第64図ではこの濃縮分を補正して食物グループと骨との比較を行っている。

#### 4. 考察

人の成長に必要な生体組織を構成する際、食物に含まれているタンパク質が利用される。このとき、食物の分子組成は変化し、それに伴い炭素・窒素安定同位体組成は分別し、 $^{13}\text{C}$ と $^{15}\text{N}$ がわずかに濃縮し、体組織の一部に残存する。このため、動物の体組織の同位体組成から、主に消費した食物の情報を推定することが可能となる。

今回測定された土壙墓175ST出土人骨 (測定番号：PLD-37010) の炭素・窒素安定同位体比は、淡水魚 (肉食) と草食動物・ $\text{C}_3$ 植物との中間付近に相当する部分にプロットされた (第64図)。位置としては、おおむね $\text{C}_3$ 植物、淡水魚 (肉食)、サケ、海生魚類、海生哺乳類のライン上にある。そのため、 $\text{C}_3$ 植物に加えて、淡水魚か海産物、あるいはその両方が主なタンパク質源と推定される。ただし、炭素安定同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ ) に対して窒素安定同位体比 ( $\delta^{15}\text{N}$ ) が比較的高く、海生貝類の影響は少ないと考えられた。



第64図 人骨コラーゲンの炭素・窒素同位体比と推定されるタンパク質源 (米田稜2014に基づき作成)



比較のため、第64図に、畑間遺跡の近隣に所在する龍雲院遺跡、東畑遺跡で出土した人骨の炭素・窒素安定同位体比測定結果も示す（伊藤ほか，2014；山形・中村，2013）。なお、放射性炭素年代測定および人骨鑑定の結果、龍雲院遺跡出土人骨は11世紀中頃～13世紀前半の熟年男性、東畑遺跡出土人骨は13世紀後半～14世紀後半の老年男性であった。両遺跡出土人骨も、畑間遺跡の人骨に近い位置にプロットされた。畑間遺跡・龍雲院遺跡・東畑遺跡は海に近い立地で、これまでの発掘調査でハマグリやシオフキなどの海生貝類が多く出土している（アコード編，2018；国際文化財編，2013；2014；2016）。しかし、炭素・窒素安定同位体比分析の結果をみる限り、摂取されたタンパク質源として海生貝類の占める割合はそれほど多くない。海産貝類を多く採取して貝殻を廃棄しつつ、タンパク質源として多くを摂取していないとすると、貝の身が畑間遺跡・龍雲院遺跡・東畑遺跡とは異なる場所で消費された可能性が考えられる。あくまで仮説であるが、畑間遺跡・龍雲院遺跡・東畑遺跡において海産貝類が採取され、身が加工され、身が交易品として他所へ流通していた可能性を考えておきたい。今後、人骨の炭素・窒素安定同位体比分析や動物遺体同定を継続していくと共に、土器付着炭化物の炭素窒素安定同位体比分析や、土器に吸着した残存脂質の分析といった食材の調理に関わるデータの蓄積を行い、中世の畑間遺跡周辺における海産物利用について具体的な復元を行っていく必要があるだろう。

#### 引用・参考文献

- アコード編 (2018) 平成28年度 畑間遺跡発掘調査報告. 164p, 東海市教育委員会.
- DeNiro, M. J. (1985) Postmortem preservation and alteration of *in vivo* bone collagen isotope ratios in relation to paleodietary reconstruction. *Nature* 317: 806-9.
- 赤澤 威・南川雅男 (1989) 炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元. 田中 琢・佐原 眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」: 132-143, クバプロ.
- Ambrose, S. H. (1993) Isotopic analysis of paleodiet: methodological and interpretive considerations. In: Sandford MK, editor. *Investigations of ancient human tissue: chemical analysis in anthropology*. Langhorne: Gordon and Breach. 59-130.
- 伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・ZaurLomtadze・InezaJorjoliani・中村賢太郎 (2014) 放射性炭素年代測定. 国際文化財編「畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告—平成11～19 (1999～2007) 年度調査—」: 240-243, 東海市教育委員会.
- 国際文化財編 (2013) 畑間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告. 148p, 東海市教育委員会.
- 国際文化財編 (2014) 畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告—平成11～19 (1999～2007) 年度調査—. 295p, 東海市教育委員会.
- 国際文化財編 (2016) 平成26年度 畑間・東畑遺跡発掘調査報告. 190p, 東海市教育委員会.
- 山形秀樹・中村賢太郎 (2013) 炭素・窒素安定同位体分析. 国際文化財編「畑間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告」: 107-108, 東海市教育委員会.
- 米田 穰 (2005) 有珠モシリ遺跡出土人骨における同位体分析. 平成14年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書「北海道縄文人の系譜論的・生活論的研究—有珠モシリ遺跡出土人骨を中心にして—」(研究代表者 百々幸雄), 273-288.
- 米田穰 (2014) 炭素・窒素安定同位体比分析. 小竹貝塚発掘調査報告—北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告X—(第三分冊人骨分析編), 16-23, 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所.
- 吉田邦夫・宮崎ゆみ子 (2007) 煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究. 平成16-18年度科学研究補助金基礎研究B(課題番号16300290)研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」, 85-95.
- 吉田邦夫・西田泰民 (2009) 考古科学が探る火炎土器. 新潟県立歴史博物館編「火焰土器の国 新潟」: 87-99, 新潟日報事業社.

## 第4章 まとめ

平成11年度から開始された東海太田川駅周辺土地区画整理事業に伴う畑間・東畑遺跡の調査は、今日までに多くの成果が得られてきた。調査は道路部分を対象としているため細長い調査区が多く、面的な広がりを確認できない短所もあるが、広範囲にわたる箇所をトレンチ状に検出できるという長所もあった。

今回の調査は1～5地点まであり、総調査面積は2,148㎡を測る。各地点は畑間遺跡の北側に1地点、南側に2・4・5地点、東畑遺跡の南側に3地点が位置している。北側の1地点と南側の2～5地点では約300mの距離があり、大きくみると遺跡の北側（1地点）と南側（2～5地点）を調査したことになる。

以下では、1～5地点の動向について、遺跡の北側と南側に調査区が位置することに注意しながら、周辺の調査成果と合わせて時代順に述べることでまとめとしたい。なお、『畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告—平成11～19（1999～2007）年度調査—』第176図畑間・東畑遺跡時期別概念図をベースに今回の調査成果を加味した時期別概念図を第65図として掲載したので、併せて参照されたい。

### 1. 縄文時代

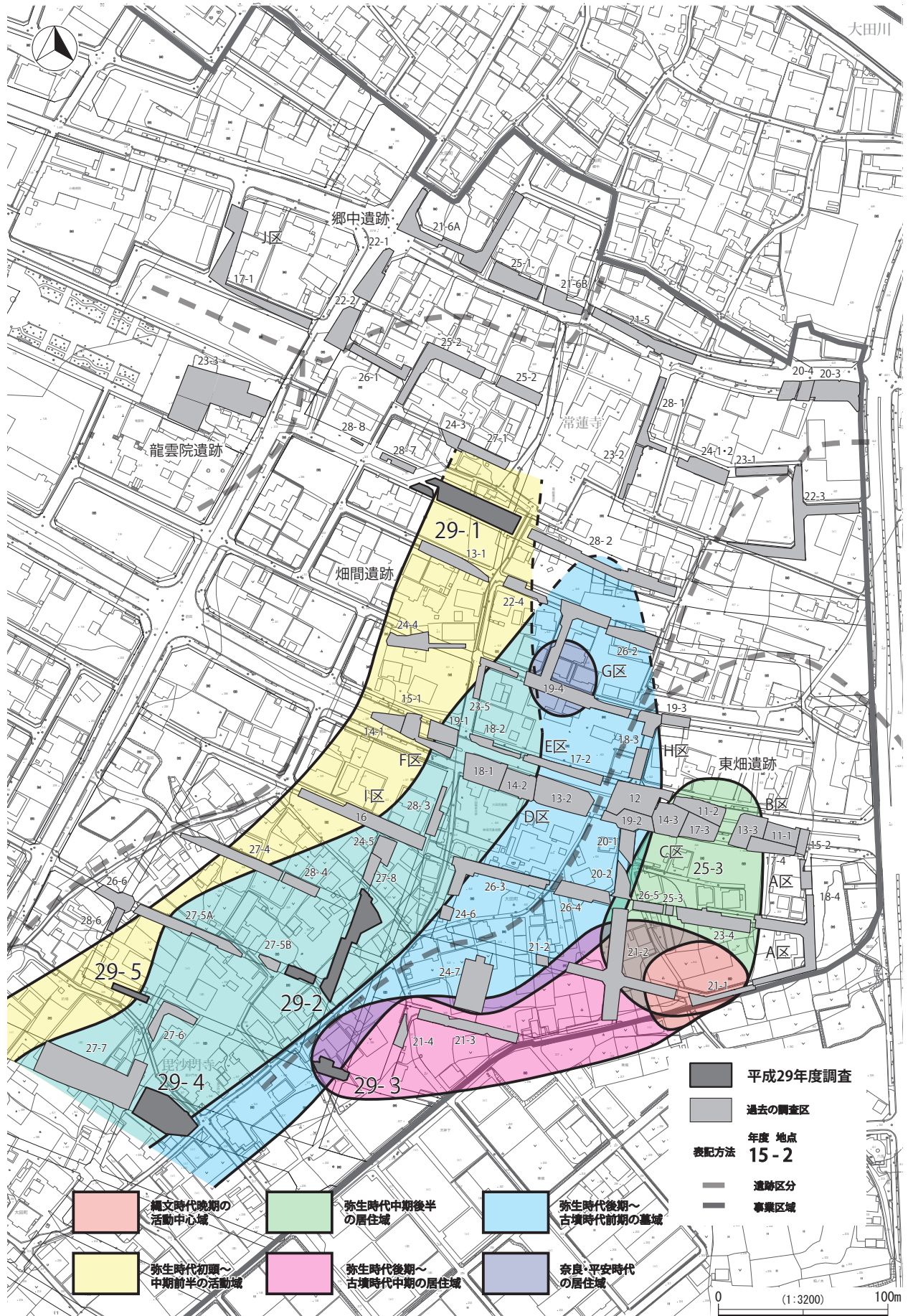
2地点から縄文時代後期初頭の深鉢が出土している。遺物は円墳（206SZ）の周溝（137SD）から出土した混入品である。周辺の調査では縄文時代中期から晩期にかけての遺構・遺物が確認されている。2地点の東側約200mに位置する平成21年度（1・2地点）では縄文時代晩期前半の雷Ⅱ式や稲荷山・桜井式が200点以上出土しており、晩期の活動中心域であったと考えられている。その他は、北東側に位置する畑間・東畑遺跡B・C区、北側のG・I・F区から少量の遺物が出土している。遺構はB区の土坑（B031SK）とJ区の土器集積（002SU）など少数である。2地点の遺物も破片のみが出土したことから、当該期の実態を明らかにすることはできないが、数少ない縄文時代の資料として貴重である。

### 2. 弥生時代

2・3地点で方形周溝墓、5地点で土坑を検出した。

2地点の方形周溝墓は円墳（206SZ）の周溝（137SD）や中世の区画溝（029SD・149SD）に切られているものの、3基（203SZ・204SZ・205SZ）が並列しながら周溝を共有して構築されていることが判明した。最も残りの良い203SZは、四隅に陸橋があると考えられ、南辺の周溝を除く全ての周溝を検出することができた。さらに主体部の可能性のある土壇（061SK）も検出している。構築時期は周辺から出土した遺物から弥生時代中期以降の可能性を指摘した。3地点では2基（074SZ・075SZ）の方形周溝墓を検出した。ともに全容は不明だが、陸橋部を有した方形周溝墓であると推測される。構築時期は074SZから岩滑式の土器が出土していること、075SZは軸方位が074SZと揃うことから、ともに弥生時代中期以降であると推測される。周辺の事例は4地点のまとめで述べたが、改めて弥生時代中期の事例を確認してみると2地点から北東約200mに位置す





第65図 畑間・東畑遺跡時期別概念図

る畑間・東畑遺跡C・D区や平成20年度（2地点）で弥生時代中期後半の方形周溝墓が4基確認されている。また、東側約80mに位置する平成24年度（7地点）で弥生時代中期～後期の方形周溝墓が1基確認されている。以上のとおり、畑間・東畑遺跡では弥生時代中期の方形周溝墓は事例が少なく2・3地点においても時期は中期以降としか比定できなかつた。弥生時代中期の墓域の広がりや実態の解明は、今後の検討課題である。

5地点の土坑は、弥生時代中期の古井式の遺物が出土している。遺構は単独であり性格は不明であるが、周辺は弥生時代初頭～中期前半の活動域にあたる。ただし、5地点や北西側に位置する平成28年度（6地点）・平成26年度（6地点）は遺構の分布が希薄であることから遺跡の縁辺部に相当すると考えられる。その要因は当地が砂堆頂部から西側に下がる傾斜面に立地していることが大きく関係すると考えられる。

### 3. 古墳時代

古墳時代初頭では、3地点で竪穴建物跡、4地点で方形周溝墓を検出した。

3地点では2棟の竪穴建物跡が認められた。010SIは4本あるいは6本柱を支柱穴とした竪穴建物跡である。上層は土坑(007SK)として調査したが、建物破棄時の土器溜まりで、廻間式の壺・甕・高坏、手づくねのミニチュア甕や特殊器種、刀子が出土している。ミニチュア甕や燭台形を呈した特殊器種が出土していることから、単なる破棄土坑ではなく祭祀遺構の可能性もある。076SBは柱穴のみだが、4本柱の配置状況から竪穴建物跡の支柱穴の可能性を考えた。古墳時代初頭の3地点は居住域であったが、近隣では北東側約80mに位置する平成21年度（3地点）で弥生時代後期～古墳時代後期までの竪穴建物跡8棟が確認されている。弥生時代中期～古墳時代前期の墓域の東側では、弥生時代中期後半あるいは弥生時代後期～古墳時代中期の居住域が想定されてきたが、今回の調査で、さらに南西側に居住域が広がる結果となった。

4地点の方形周溝墓は1基(246SZ)のみで、中近世の遺構に激しく切られているが三辺の周溝と墓壇(228ST)を確認した。周溝から廻間式の壺や高坏が出土している。周辺では弥生時代後期～古墳時代初頭までのものを含めるなら、西側に隣接する平成27年度（7地点）で1基、北側約100mに位置する平成27年度（5地点）で1基、北東側約200mに位置する平成24年度（7地点）で1基、北東側約300mに位置する畑間・東畑遺跡C・D区でも同時期の方形周溝墓が確認されている。これらの方形周溝墓の時期別の詳細な変遷や、4地点のまとめで指摘した方形周溝墓のタイプの違いなどは今後の検討課題といえる。

3地点の弥生時代中期以降は墓域、その後、古墳時代前期には居住域に変遷することが判明した。一方、2・4地点では、古墳時代前期の居住関係の遺構は確認できなかった。そのため、東側が居住域、西側が墓域という大きな土地利用の実態については変更ないものと考えられる。なお、3地点の西側約100mに位置する平成27年度（6・7地点）では、弥生時代中期の居住域が想定され、弥生時代後期～古墳時代前期は墓域に変遷している。いずれにしても墓域と居住域の境界となる溝などの遺構は確認されていないが、両者は面的に区分されていたと考えられる。

古墳時代後期では2地点で円墳(206SZ)を検出した。畑間・東畑遺跡関連の調査では、初めて確認された古墳である。



円墳(206SZ)は墳丘の築土が残存していないため主体部は不明だが、全体の1/4程度の周溝(137SD)を確認した。推定される墳丘長は19.2m、周溝を含めた全長は25.6mに復元される。周溝から須恵器が出土しており、出土状況から墳丘に供献されていたものが周溝へ流れ込んだと推測される。器種は坏身、坏蓋、高坏、甗、提瓶、器台があり、古墳に供献されるセット関係が揃っていた。遺物の時期は6世紀中葉(H-61号窯式期)が大半を占めるが、一部は、7世紀代(H-44号窯式期・H-15号窯式期)に下るものがあることから、6世紀中葉の築造で、7世紀代に追葬や墓前祭祀があったと考えられる。東海市域の古墳を確認してみると、著名な古墳としては兜山古墳がある。すでに滅失しているが4世紀後半の円墳で規模は南北約43m、東西約49mである。明治時代に発掘がなされ三角縁神獣鏡・内行花文鏡などが出土している。畑間・東畑遺跡からは北に5kmほど離れており、地理的には尾張南部を中心とする文化圏に属する古墳である。畑間・東畑遺跡の近辺では北側約600mに王塚古墳が位置している。同じ第1砂堆の北端で丘陵の裾部に立地している。大正時代の道路拡張工事により滅失しているが、『横須賀町史』編纂時の聞き取り調査により径約15mの円墳で、横穴式石室が存在したと想定されている。王塚古墳の背後にある丘陵上の弥勒寺遺跡では石室に利用されたと想定される石材や、6世紀前半代の須恵器がまとまって出土したことから古墳の存在が指摘されている。なお、巻頭図版1の遠景写真で背後に見える丘陵に弥勒寺遺跡が立地している。遺跡の南側1.5kmに位置する岩屋口古墳は丘陵の中腹に立地する。墳丘の流出が激しいため墳形は不明だが知多半島最大規模の横穴式石室が現存する。時期は6世紀末～7世紀初頭頃と考えられている。その他、北東約1.5kmに位置する丸根古墳はすでに滅失しており、詳細は不明である。南西側2kmに位置する釈迦御堂古墳は海浜の第3砂堆に立地するが組合式石棺の直葬であったと伝えられるのみで、こちらも滅失している。以上のとおり古墳の分布は極めて散漫ではあるが、畑間・東畑遺跡の近辺では王塚古墳や弥勒寺遺跡の古墳といった後期古墳が認められた。これらの古墳の被葬者が居住していた遺跡としてはまず、畑間・東畑遺跡が候補に挙がるが、古墳時代後期の遺構・遺物は少なく居住の実態は不明な点が多い。その他、北西側約1kmに松崎遺跡が位置している。第3砂堆上に立地しており古墳時代中期後半～平安時代にかけての製塩を中心とした大規模な海浜集落遺跡である。206SZは主体部や副葬品の実態が不明で、王塚古墳や弥勒寺遺跡の古墳も内容に不明な点が多い。そのため積極的に松崎遺跡との関係を示す資料には恵まれないが、被葬者の居住した遺跡の候補として、その関係性を指摘しておきたい。

#### 4. 奈良・平安時代

1地点の表土から少量の須恵器が出土したのみである。周辺では南東側約100mに位置する畑間・東畑遺跡G区が奈良・平安時代の居住域と想定されているため、その縁辺にあたるということであろう。

#### 5. 中世

2地点の区画溝、掘立柱建物跡、土壙墓、井戸、4地点の土壙墓が主な遺構である。

区画溝は南北方向の029SD・149SDや東西方向の143SD・144SD・152SDが認められた。2地点のまとめでも述べたが中村毅氏の成果によれば当地点は「砂堆南西部の方形区画群」にあたり、これらの溝と西側に位置する平成28年度(4地点)の南北溝(4060SD)は対応する可能性がある。

その場合、2地点から平成28年度(4地点)の間に約30m四方の屋敷地を想定できることになるが、各溝の延長やコーナーを確認できていないことから可能性の指摘にとどめたい。仮に30m四方の屋敷地が存在したと想定した場合、区画溝(149SD)の西側(区画内)には掘立柱建物跡(207SB)が存在し、北東側(区画外)のはずれで幼児人骨(科学分析の結果、年代は13世紀末～15世紀初頭)を埋葬した土壙墓(175ST)、152SDの南側(区画外)で2基の井戸が確認された。井戸の周辺は遺構の分布が希薄で区画外であることを補強する状況である。井戸枠に常滑の大甕を利用しており、その年代観から構築時期は002SEが15世紀後半、028SEが14世紀前半に比定される。以上のような空間構成が復元できる。区画溝や掘立柱建物跡の年代は明確でないが、土壙墓や井戸の時期が、これらの遺構の存続期間の一端を示していると考えられる。なお、2地点の北側に隣接する平成27年度(8地点)で13～14世紀代の土壙墓4基が並んで検出されており、屋敷地外側の縁辺が墓地として利用された可能性がある。その他、4地点の土壙墓は東西あるいは南北に2基ずつ並んでおり、特に003STからは14枚の宋銭、004STから袴腰型香炉、013STから天目茶碗が出土している。4地点も西側に隣接する平成27年度(7地点)では区画溝で囲われた屋敷地が想定されていることから、こちらも屋敷地の外側を墓地とした可能性がある。

井戸については畑間・東畑遺跡の各所でみられるが、いずれも常滑窯産の大甕の底部を打ち欠いて井戸枠として利用していた。大甕は亀裂やひび割れ、歪などが入ったものや、焼成温度の低い二流品が多く使用されていることから、窯元から井戸枠用として専用に流通していた可能性が高い。中世の京都においても、明らかに製作過程の成型時や焼成段階で損傷が生じた大甕を修理して使用している例が多くみられ、二流品としての商品が流通していたことが挙げられている。また、井戸枠に常滑の大甕を利用することは当地域の特色といえる。

## 6. 近世

1地点で区画溝や柵列が検出された。いずれも南北方向で、主軸方位は現在(区画整理事業前)の道路や水路の方位とほぼ一致している。また、区画溝(101SD)は近世の2連の土竈(231SL)を切っており、近世のなかでも土地利用の変遷があったことが伺える。ただし、今回は周辺の調査成果や現状の地割・古地図をもとにした分析はできなかった。そのため、近世から明治・大正・昭和まで連続する区画整理事業前の土地景観の変遷を解明することは今後の検討課題である。

以上のとおり、今回の調査は、特に南側の2～5地点で大きな成果を得ることができた。繰り返しになるが、特筆すべき成果としては畑間・東畑遺跡で初めて検出した円墳(206SZ)が挙げられる。主体部や副葬品が不明のため被葬者の実態に迫ることはできなかったが、東海市では類例の少ない古墳の発掘調査事例となった。

## 参考文献

- 愛知県教育委員会 1999 『愛知県知多半島遺跡詳細分布調査報告書』
- 愛知県史編さん委員会 2002 『愛知県史資料編 1 考古 1 旧石器・縄文』
- 愛知県史編さん委員会 2003 『愛知県史資料編 2 考古 2 弥生』
- 愛知県史編さん委員会 2005 『愛知県史資料編 3 考古 3 古墳』
- 愛知県史編さん委員会 2010 『愛知県史資料編 4 考古 4 飛鳥～平安』
- 愛知県史編さん委員会 2017 『愛知県史資料編 5 考古 5 鎌倉～江戸』
- 愛知県史編さん委員会 2007 『愛知県史資料別編 窯業 2 中世・近世瀬戸系』
- 愛知県史編さん委員会 2012 『愛知県史資料別編 窯業 3 中世・近世常滑系』
- 愛知県陶磁美術館 2018 『知られざる古代の名陶 猿投窯』 愛知県陶磁美術館40周年記念特別企画展
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1990 『廻間遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第10集
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1992 『山中遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第40集
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1992 『名古屋三の丸遺跡(III)』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第37集
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 2002 『清洲城下町遺跡(VIII)』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第99集
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 2003 『烏帽子遺跡II』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第117集
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 2003 『内傾口縁土器と厚口鉢』 『まいぶん愛知No.72』
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 2009 『朝日遺跡Ⅷ(総集編)』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第154集
- 東海市史編さん委員会編 1990 『東海市史 通史編』
- 東海市教育委員会 1997 『愛知県東海市 東畑遺跡等試掘調査報告』
- 東海市教育委員会 1998 『知多弥勒寺遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 1999 『愛知県東海市 上浜田遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2004 『愛知県東海市 畑間遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2009 『愛知県東海市 畑間・東畑遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2012 『愛知県東海市 畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2012 『愛知県東海市 平成22年度畑間・東畑遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2013 『愛知県東海市 畑間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2014 『愛知県東海市 平成24年度畑間・東畑遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2014 『愛知県東海市 畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告-平成11～19年度調査-』
- 東海市教育委員会 2015 『愛知県東海市 平成25年度畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2016 『愛知県東海市 平成26年度畑間・東畑遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2017 『愛知県東海市 平成27年度畑間遺跡発掘調査報告』
- 東海市教育委員会 2018 『愛知県東海市 平成28年度畑間遺跡発掘調査報告』
- 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1996 『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界』 資料集
- 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2002 『瀬戸・美濃大窯編年の再検討』 『研究紀要』 第10輯
- 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2006 『江戸時代のやきもの―生産と流通―』 記念講演会・シンポジウム資料集
- 知多市誌編さん委員会編 1981 『知多市誌 本文編』 知多市
- 横須賀町史編纂委員会編 1969 『横須賀町史』 横須賀町
- 赤塚次郎・早野浩二 2001 『松河戸・宇田様式の再編』 『研究紀要』 第2号 愛知県埋蔵文化財センター
- 石川松衛 1928 『横須賀町誌』 愛知県史蹟編纂会 知多郡横須賀町役場
- 大西遼 2016 『古墳時代の猿投窯関連資料の調査と検討』 『研究紀要』 21 愛知県陶磁美術館
- 岡本直久 2005 『山茶碗編年の現状について』 『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集(第2版)』 同シンポジウム実行委員会
- 小野正敏 2001 『図解・日本の中世遺跡』 東京大学出版社
- 佐伯英樹 1994 『墓前祭祀行為と思われる供献遺物の一例(一栗東町和田古墳群)』 『滋賀考古』 第12号 滋賀考古学研究会
- 柴垣勇夫ほか 2004 『東海地方山茶碗研究の現在と課題』 (中世土器・陶器編年研究会記録) 『中世土器・陶器編年研究と流通様相の年代的解明』 班

- 城ヶ谷和広 2007「愛知県下における須恵器生産と流通」『研究紀要』第8号 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 立松彰 1988「知多半島北部の古墳」『知多古文化研究』4号 知多古文化研究会
- 東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会編 1996「尾張の『伊勢型鍋』」『鍋と甕 そのデザイン』（第4回東海考古学フォーラム資料集）
- 東海土器研究会 2000『須恵器生産の出現から消滅 一猿投窯・湖西窯編年の再構築一』東海土器研究会
- 中井正幸 2011「東海」『講座日本の考古学7 古墳時代（上）』青木書店
- 永井邦仁 2015「尾張三河国境地帯の古代窯業関連集落」『研究紀要』第16号 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 永井宏幸・村木誠 2002「尾張地域」『弥生土器の様式と編年一東海編一』木耳社
- 永井宏幸 2007「条痕紋系土器様式の研究」『研究紀要』第8号 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 永井宏幸 2015「中部」『考古調査ハンドブック12弥生土器』ニューサイエンス社
- 永井伸明・宮澤浩司 2007「伊勢湾を望む海辺の遺跡一東畑遺跡等発掘調査概報一」『研究報告とうかい』創刊号  
東海市教育委員会
- 中野晴久 2013『中世常滑窯の研究』愛知学院大学学位請求論文
- 中村直子 2015「祭祀と成川式土器」『成川式土器ってなんだ？』鹿児島大学総合研究博物館
- 植崎彰一 2012『古陶の譜 中世のやきもの一六古窯とその周辺』印象社
- 畑中英二 1995『6世紀代における木棺直葬墳の副葬・供献について』紀要第8号 財団法人滋賀県文化財保護協会
- 浜久年ほか 2003『掘立と堅穴 中世遺構論の課題』東北中世考古学叢書2 高志書院
- 早野浩二 2012「松崎遺跡と知多半島の土器製塩」『尾張・三河の古墳と古代社会』東海の古代③ 同成社
- 藤澤良祐ほか 2005『全国シンポジウム 中世窯業の諸相-生産技術の展開と編年~発表要旨集』同シンポジウム  
実行委員会
- 藤澤良祐 2008『中世古瀬戸窯の研究』高志書院
- 古屋紀之 2002「古墳出現前後の葬送祭祀一土器・埴輪配置から把握される葬送祭祀の系譜整理一」『日本考古学』  
第14号 日本考古学協会
- 古屋紀之 2007『古墳の成立と葬送祭祀』雄山閣
- 宮越健司 2007「伊勢湾周辺地域における 方形周溝墓の埋葬施設」『研究紀要』第8号 財団法人愛知県埋蔵  
文化財センター
- 宮澤浩司 2009「伊勢湾を望む海辺の遺跡（2）一平成19年度畑間・東畑遺跡発掘調査の概要一」『研究報告と  
うかい』第2号 東海市教育委員会
- 山本信夫 1995「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社
- 吉崎伸 2014「割れ甕の流通」『リーフレット京都』No.308 （公財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古  
資料館
- 吉崎伸 2014「不良品の甕」『洛史』研究紀要 第11号 （公財）京都市埋蔵文化財研究所



# 圖 版



遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
001	1地点	9D4n.o	SK	-	-	47	48	25	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、山茶碗	
002	1地点	9D5n	SK	010	007	121	64	64	楕円形	皿	10YR2/2黒褐色中粒砂	山茶碗	
003	1地点	9D5n	SK	-	-	57	42	31	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗	
004	1地点	9D6n	SP	-	-	36	34	35	円形	U	10YR2/2黒褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
005	1地点	9D4n	SK	-	010	73	68	18	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 砂質シルトブロック含む	土師器、常滑甕	
006	1地点	9D5n	SK	-	-	(44)	42	4	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
007	1地点	9D5n	SK	002	-	(26)	(32)	16	(楕円形)	U	10YR2/2黒褐色中粒砂	須恵器、山茶碗	
008	1地点	9D6n	SP	-	213	87	37	44	楕円形	W	10YR3/2黒褐色中粒砂、少量の炭化物を含む 10YR4/4褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、灰釉陶器、山茶碗、土師質土器、瓦	柱痕あり
009	1地点	9D6n	SK	-	-	39	32	18	円形	U	10YR2/2黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器、灰釉陶器、白磁	
010	1地点	9D5n	SK	005	002	94	30	19	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR4/4褐色中粒砂含む	土師器、須恵器、灰釉陶器	
011	1地点	9D6n	SP	-	-	22	21	39	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
012	1地点	9D6n	SK	-	-	58	(48)	25	(円形)	U	10YR2/2黒褐色シルト質砂	須恵器、山茶碗	
013	1地点	9D6n	SK	-	-	34	29	19	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
014	1地点	9D6n	SK	-	-	44	26	18	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
015	1地点	9D6n	SK	-	-	68	31	38	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂含む	弥生土器、山茶碗	
016	1地点	9D6n	SK	-	-	38	35	21	円形	U	10YR4/3暗褐色中粒砂	-	
017	1地点	9D6n	SK	-	-	56	50	30	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、山茶碗、土鍾	
018	1地点	9D6n	SK	-	021	58	52	10	円形	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂 10YR5/8黄褐色シルトブロック、炭化物含む	須恵器	
019	1地点	9D6n	SK	-	-	41	30	14	楕円形	U	10YR3/1黒褐色中粒砂 炭化物含む	須恵器	
020	1地点	9D6m	SK	-	024.075	54	46	33	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、陶器	
021	1地点	9D6n	SK	018	-	39	(20)	34	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック含む	-	
022	1地点	9D6n	SK	-	-	26	21	33	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
023	1地点	9D6n	SK	-	-	(68)	(27)	35	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	須恵器、製塩土器、山茶碗、土師質土器	
024	1地点	9D5.6m	SD	020	072.073, 074.075	(176)	25	6	溝状	U	10YR2/2黒褐色中粒砂	須恵器、山茶碗、陶器	
025	1地点	9D6m	SK	-	-	39	35	15	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
026	1地点	9D6m	SK	-	040,098	29	23	8	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
027	1地点	9D6m	SK	-	-	32	29	12	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
028	1地点	9D5m	SK	-	-	67	24	35	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック含む	土師器、須恵器、山茶碗	
029	1地点	9D5m	SK	-	103	81	40	61	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗	
030	1地点	9D5m	SK	-	-	43	41	3	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
031	1地点	9D5m	SK	-	-	(17)	18	5	(円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
032	1地点	9D5n	SK	-	-	(41)	(29)	24	(不定形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
033	1地点	9D5m	SK	-	-	43	35	19	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	須恵器	
034	1地点	9D6m	SK	-	-	47	43	28	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	製塩土器、山茶碗	
035	1地点	9D6m	SK	-	066,076, 081,089	68	38	26	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗	
036	1地点	9D6n	SK	-	081	74	37	19	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	山茶碗	
037	1地点	9D5l	SK	-	111	58	37	11	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	山茶碗、須恵器	
038	1地点	9D6m	SK	-	-	57	44	34	不定形	U	10YR3/1黒褐色シルト質砂	土師器、須恵器、山茶碗	
039	1地点	9D6m	SK	-	103,105	68	60	20	不定形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、陶器	
040	1地点	9D6m	SK	026	077,083, 093,098	(62)	18	32	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器	

1 地点遺構観察表 (1)

図版2

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
041	1地点	9D6m	SK	-	-	61	(40)	48	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
042	1地点	9D6m	SK	-	-	(75)	20	24	(不定形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 少量の10YR6/6明黄褐色シルトブロック含む	山茶碗	
043	1地点	9D5m	SK	-	069	52	42	34	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
044	1地点	9D5m	SK	-	-	44	42	22	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
045	1地点	9D5l	SK	-	114	71	33	23	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
046	1地点	9D5m	SK	-	-	51	30	14	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
047	1地点	9D5m	SK	-	095	52	40	18	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗	
048	1地点	9D5m	SK	-	-	60	54	11	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗、陶器	
049	1地点	9D5m	SK	-	-	68	42	30	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 (柱痕? 10YR3/3暗褐色中粒砂)	山茶碗	
050	1地点	9D5,6m	SK	-	055	61	36	9	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、山茶碗	
051	1地点	9D5l	SK	-	-	57	19	7	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
052	1地点	9D6l,m	SK	-	-	(76)	(40)	6	(不定形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	須恵器、山茶碗	
053	1地点	9D5m	SK	-	070	53	37	34	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗	
054	1地点	9D5m	SK	-	-	28	26	17	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
055	1地点	9D6m	SK	050	-	53	34	32	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
056	1地点	9D5l,m	SK	-	-	59	33	23	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR5/6黄褐色シルトブロック含む	弥生土器、土師器、山茶碗	
057	1地点	9D5l	SK	-	106	76	42	43	楕円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
058	1地点	9D6m	SK	-	-	49	42	35	円形	W	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗	
059	1地点	9D5l	SK	-	-	46	32	9	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
060	1地点	9D5m	SK	-	-	31	30	15	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
061	1地点	9D5m	SK	-	-	42	37	32	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗、陶器	
062	1地点	9D5l	SK	-	-	54	39	20	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
063	1地点	9D5l	SK	-	-	29	21	8	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
064	1地点	9D5l	SK	-	-	53	45	45	円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂	須恵器、山茶碗	
065	1地点	9D4m	SK	-	-	115	68	21	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗	
066	1地点	9D6m	SK	035	076,089,091	78	(63)	36	楕円形	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	山茶碗、土師質土器、土鍾	
067	1地点	9D4m	SK	-	-	45	42	8	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
068	1地点	9D4l	SK	-	-	(146)	(143)	20	(不定形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、陶器、土師質土器	216SMを含む
069	1地点	9D5m	SK	043	-	36	(20)	23	(円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
070	1地点	9D5m	SK	053	-	(44)	38	18	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、灰釉陶器	
071	1地点	9D4m	SK	-	080	46	32	38	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
072	1地点	9D5m	SP	024	-	45	27	15	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	024SD内
073	1地点	9D6m	SP	024	-	35	21	23	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	須恵器	024SD内
074	1地点	9D6m	SP	024	-	32	23	18	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	024SD内
075	1地点	9D6m	SP	020,024	-	28	(11)	25	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	平瓦	024SD内
076	1地点	9D6m	SK	035,066	-	34	34	37	円形	U	10YR3/1黒褐色中粒砂	灰釉陶器、山茶碗	
077	1地点	9D5m	SK	040	-	(55)	40	28	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
078	1地点	9D3l	SK	-	-	(83)	(36)	8	(楕円形)	U	北セクション図参照	-	
079	1地点	9D5l	SK	-	104	63	39	32	楕円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR4/2灰黄褐色中粒砂	須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器	

1 地点遺構観察表 (2)



遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
080	1地点	9D4m	SK	071	-	51	42	50	円形	W	10YR4/4褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR4/6褐色中粒砂と10YR3/2黒褐色中粒砂の斑土	土師器	
081	1地点	9D6m,n	SK	035,036	-	(43)	(27)	24	(不定形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、陶器	
082	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	撈乱
083	1地点	9D6m	SK	040	098	90	31	50	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、瓦	
084	1地点	9D4,5l	SK	-	-	(55)	62	60	円形	W	10YR3/1黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土 10YR2/1黒色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	土師器、山茶碗、土師質土器	
085	1地点	9D6m	SK	-	-	32	27	21	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
086	1地点	9D4m	SK	-	-	54	50	20	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
087	1地点	9D6m	SK	-	-	(39)	43	40	方形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土	土師器	
088	1地点	9D5m	SK	-	-	50	46	30	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
089	1地点	9D5m	SK	035,066	-	(59)	27	20	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	陶器	
090	1地点	9D5m	SK	-	-	27	20	20	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師質土器	
091	1地点	9D6m	SK	066	092	(57)	26	14	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
092	1地点	9D6m	SK	091	-	44	37	41	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	須恵器、山茶碗	
093	1地点	9D5m	SK	040	-	24	22	13	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
094	1地点	9D5m	SK	-	-	21	19	18	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
095	1地点	9D5m	SK	047	103	(29)	40	18	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗	
096	1地点	9D6m	SK	-	-	(81)	(80)	43	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR4/6褐色中粒砂の斑土	須恵器、灰釉陶器、山茶碗	
097	1地点	9D5m	SK	-	100	51	40	42	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 微量の炭化物含む	土師器、灰釉陶器、山茶碗	
098	1地点	9D6m	SK	026,040,083	-	145	64	63	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、陶器	
099	1地点	9D6m	SP	-	-	31	25	59	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
100	1地点	9D5m	SK	097	-	(77)	19	32	(溝状)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、須恵器	
101	1地点	9D3~5k,3,4l	SD	-	102,116,231	(995)	(145)	55	(溝状)	U	101SDセクション図参照	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、瓦器、陶器、土師質土器	217~220SMを含む
102	1地点	9D3~5l	SD	101,113	107,108,109	(998)	(180)	55	(溝状)	U	102SDセクション図参照	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器、土師質土器、瓦	221~224SMを含む
103	1地点	9D5m	SK	029,039,095	-	(89)	47	33	(楕円形)	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、陶器	
104	1地点	9D5l	SK	079	-	19	(18)	11	(円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	須恵器、山茶碗、陶器	
105	1地点	9D5m	SK	039	-	(34)	(12)	27	(楕円形)	U	10YR4/4褐色中粒砂	山茶碗	
106	1地点	9D5l	SK	057	-	55	42	60	方形	W	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR5/6黄褐色中粒砂の斑土 10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒	弥生土器	
107	1地点	9D4,5l	SK	102	-	63	41	63	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗	
108	1地点	9D5m	SK	102	-	50	41	47	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
109	1地点	9D5m	SK	102	-	39	33	40	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
110	1地点	9D3k	SK	-	-	181	130	26	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器、須恵器	
111	1地点	9D5l	SK	037	-	(61)	60	44	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、須恵器、山茶碗、土師質土器	
112	1地点	9D5l	SK	-	-	(54)	49	30	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	山茶碗、土師質土器	
113	1地点	9D5l	SK	-	102,114	208	185	33	円形	逆合形	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	弥生土器、陶器	215SMを含む
114	1地点	9D5l	SK	045,113	-	(39)	49	20	(溝状)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
115	1地点	9D5k	SK	200	-	(259)	161	19	(楕円形)	皿	10YR4/4褐色中粒砂	縄文土器、弥生土器、石器	

1 地点遺構観察表 (3)

図版4

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
116	1地点	9D5k	SK	101	-	72	58	41	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師質土器	
117	1地点	9D5i	SK	-	-	46	42	23	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
118	1地点	9D2,3h	SD	157	133,145,166,169,170,176,183	613	78	25	溝状	U	10YR2/1黒色中粒砂(混土具層) 10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須惠器、山茶碗、陶器、土師質土器	228SMを含む
119	1地点	9D2g	SK	-	133	43	31	18	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器、陶器、土師質土器	
120	1地点	9D2g	SK	-	133	60	35	18	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器	
121	1地点	9D3g	SK	-	128,146	157	134	2	方形	皿	10YR3/2黒褐色シルト質砂 2.5Y5/1灰色粘土	土師器	
122	1地点	9D2h	SK	-	123	116	45	19	不定形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須惠器、山茶碗、陶器、土師質土器	
123	1地点	9D2h	SK	122	133,153,178	104	73	18	楕円形	U	10YR4/2にぶい黄褐色中粒砂	土師器、須惠器、陶器、土師質土器	
124	1地点	9D2h	SK	-	-	46	40	20	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
125	1地点	9D3g	SD	-	142,146	(198)	72	8	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須惠器、灰釉陶器、土師質土器	
126	1地点	9D2h	SK	-	175	101	50	40	方形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR4/4にぶい黄褐色中粒砂混じる	土師器、陶器、土師質土器	
127	1地点	9D3h	SP	-	136,139,182,189,197	93	73	24	楕円形	U	230SAセクション図参照	弥生土器、土師器、須惠器、山茶碗、土師質土器	230SA
128	1地点	9D3h	SK	121	159,183	121	91	21	方形	W	2.5Y3/2黒褐色シルト質砂	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
129	1地点	9D2i	SK	-	-	(183)	(94)	15	(溝状)	-	北セクション図参照	土師器、須惠器、山茶碗、陶器、土師質土器	
130	1地点	9D2i	SK	-	-	(100)	(47)	5	(円形)	U	北セクション図参照	-	
131	1地点	9D1f,1,2g,1h	SX	-	-	(456)	(220)	18	(不定形)	-	北セクション図参照	土師器、須惠器、山茶碗、陶器、土師質土器、瓦	
132	1地点	9D1f	SX	-	-	(202)	(124)	16	(不定形)	-	北セクション図参照		
133	1地点	9D2g	SK	118,119,120,123	141,159,179	463	181	(19)	不定形	-	10YR3/3暗褐色シルト質砂	弥生土器、土師器、須惠器、山茶碗、陶器、土師質土器	
134	1地点	9D2i	SK	-	186	171	101	24	不定形	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂	弥生土器、土師器、須惠器、山茶碗、陶器、土師質土器	礎石?
135	1地点	9D1,2h	SX	-	-	(215)	(246)	16	(不定形)	-	北セクション図参照	弥生土器、土師器、須惠器、山茶碗、陶器、土師質土器	
136	1地点	9D3i	SK	127	-	(69)	39	18	楕円形	U	10YR3/3暗褐色シルト質砂 粘土粒・炭化物含む	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
137	1地点	9D3h,i	SP	-	201,203	78	49	30	楕円形	逆台形	230SAセクション図参照	弥生土器、土師器、土師質土器	230SA
138	1地点	9D1g	SK	-	143	91	61	30	隅丸方形	逆台形	10YR3/2黒褐色シルト質砂	土師器、須惠器	
139	1地点	9D4i	SK	127	182,192	(103)	60	15	楕円形	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂 破砕具混じる	土師器、山茶碗、瓦器、陶器、土師質土器	
140	1地点	9D3h	SK	-	183	95	(57)	25	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 多量の破砕具を含む	弥生土器、土師器、須惠器、製塩土器、山茶碗、陶器、土師質土器	
141	1地点	9D2g	SK	133	-	68	63	16	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 破砕具を含む	土師質土器	
142	1地点	9D3g	SK	-	-	(78)	(85)	4	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂 破砕具を含む	山茶碗、陶器、土師質土器	
143	1地点	9D2g	SK	138	-	82	65	7	(楕円形)	U	10YR2/2黒褐色砂質シルト 焼土粒・炭化物を含む	弥生土器、土師器、須惠器	
144	1地点	9D2h	SK	-	149	51	39	17	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	陶器	
145	1地点	9D3h	SK	118	159	107	(49)	25	(楕円形)	逆台形	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、須惠器、山茶碗、土師質土器	
146	1地点	9D2g,3,4h	SD	-	-	(623)	(105)	(15)	(不定形)	-	10YR3/3暗褐色中粒砂破砕具を含む 10YR3/2黒褐色中粒砂(混土具層)小型ハ マグリ主体 10YR3/3暗褐色中粒砂	縄文土器、弥生土器、土師器、須惠器、山茶碗、陶器、土師質土器	229SMを含む
147	1地点	9D3h	SK	-	-	(53)	(23)	16	(円形)	U	2.5Y3/3黒褐色シルト質砂	土師器、土師質土器	
148	1地点	9D3h	SK	-	-	(77)	(28)	1	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、須惠器	
149	1地点	9D2h	SK	144	150,154	51	(38)	16	(楕円形)	U	10YR2/1黒色細粒砂 炭化物・灰を含む	土師器	
150	1地点	9D2h	SD	135,144,149	154,162,164,177,209	(239)	43	16	(溝状)	箱形	10YR3/2黒褐色シルト質砂 10YR5/4シルト粒を含む	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
151	1地点	9D4h	SK	-	181,204	54	30	10	楕円形	U	10YR3/1黒褐色中粒砂 10YR5/6粘土ブロックを含む	土師器	
152	1地点	9D3i	SK	-	193,208	136	50	19	不定形	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	

1 地点遺構観察表 (4)

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
153	1地点	9D2h	SK	123	178	(98)	89	19	円形	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂 炭化物、少量の破砕貝を含む	須恵器	
154	1地点	9D2h	SK	149,150	177	57	(42)	26	円形	逆台形	10YR3/3暗褐色中粒砂 炭化物を含む	陶器	
155	1地点	9D2i	SP	-	175,185	97	(57)	22	(楕円形)	U	230SAセクション図参照	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	230SA
156	1地点	9D3i	SK	212	157	137	75	28	楕円形	逆台形	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR5/6粘土ブロックを含む	弥生土器、土師器、山茶碗、	
157	1地点	9D3i	SK	156	118,199,203	(111)	64	26	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR5/6粘土ブロックを含む	-	
158	1地点	9D3i	SK	212	191	177	134	1	楕円形	逆台形	10YR2/2黒褐色シルト 2.5Y4/4シルトブロックを含む(混土具層)	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	227SMを含む
159	1地点	9D3g,h	SD	128,133,145	183	(255)	(55)	12	(楕円形)	W	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器、土師質土器	
160	1地点	9D2,3j	SD	-	191	(995)	141	15	溝状	U	160SDセクション図参照	土師器、須恵器、山茶碗、陶器、磁器、土師質土器、瓦	225SM・226SMを含む
161	1地点	9D4i	SK	-	204	92	(72)	12	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂 炭化物を含む(混土具層)	土師器、土師質土器	
162	1地点	9D2h	SK	150	209	(52)	42	19	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗、土師質土器	
163	1地点	9D2h	SK	-	-	63	42	20	楕円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、土師質土器	
164	1地点	9D2h	SK	135,150	-	85	(47)	23	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、土師質土器	
165	1地点	9D4j	SK	-	-	(151)	(128)	14	(不定形)	U	10YR4/4褐色中粒砂	土師器、土師質土器	
166	1地点	9D2h	SK	118	-	33	33	9	円形	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂	土師器	
167	1地点	9D2i	SK	-	-	103	97	19	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器	
168	1地点	9D2h	SK	-	-	46	41	17	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
169	1地点	9D2h	SK	118	-	140	(35)	15	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色シルト質砂	-	
170	1地点	9D3h	SK	118	-	160	(67)	25	(不定形)	逆台形	10YR3/3暗褐色シルト質砂 破砕貝を含む	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
171	1地点	9D2h	SK	-	176	57	34	26	楕円形	W	10YR3/3暗褐色シルト質砂	山茶碗、土師質土器	
172	1地点	9D2j	SK	-	-	132	96	18	不定形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	山茶碗、陶器	
173	1地点	9D2h	SK	-	-	23	21	13	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
174	1地点	9D2h	SK	-	-	44	38	12	円形	逆台形	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
175	1地点	9D2h	SK	126,155	-	56	(44)	22	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂		
176	1地点	9D2h	SK	118,171	-	(80)	(36)	21	(不定形)	W	10YR3/2黒褐色シルト質砂	土師器、山茶碗、陶器	
177	1地点	9D2h	SK	150,154	-	(69)	(43)	24	(不定形)	漏斗	10YR3/3暗褐色シルト質砂	土師器、陶器	
178	1地点	9D2h	SK	123,153	179	(91)	71	23	(楕円形)	U	10YR2/2黒褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、陶器	
179	1地点	9D2h	SK	133,178	-	(34)	(28)	11	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
180	1地点	9D2i	SP	-	-	69	60	23	円形	U	230SAセクション図参照	陶器	230SA
181	1地点	9D4h	SK	151	204	(26)	33	6	(楕円形)	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂 破砕貝を含む	山茶碗、土師質土器	
182	1地点	9D4j	SK	127,139	204	(83)	(54)	17	(楕円形)	逆台形	10YR3/3暗褐色シルト質砂 破砕貝を含む	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
183	1地点	9D3h	SD	118,128,140,159	-	(225)	(87)	24	(不定形)	逆台形	10YR3/2黒褐色シルト質砂 破砕貝を含む	土師器、灰釉陶器、山茶碗、土師質土器	
184	1地点	9D3i	SK	-	-	77	34	18	楕円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色シルト質砂の斑土	土師器、山茶碗、土師質土器	
185	1地点	9D2i	SK	155	-	39	(30)	22	(楕円形)	-	10YR3/2黒褐色中粒砂	灰釉陶器	
186	1地点	9D3i	SK	134	-	(80)	36	22	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	縄文土器、須恵器	
187	1地点	9D2i	SK	-	-	69	34	12	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
188	1地点	9D3h	SK	-	-	22	21	13	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
189	1地点	9D3h	SK	127	-	61	(51)	17	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	土師器、須恵器、陶器、土師質土器	
190	1地点	9D3h	SK	-	-	62	33	20	楕円形	逆台形	10YR3/2黒褐色中粒砂	山茶碗、土師質土器	
191	1地点	9D2ij,3i	SD	158,160	-	(420)	(237)	18	(不定形)	U	北セクション図参照	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、陶器、土師質土器	

1 地点遺構観察表 (5)

図版6

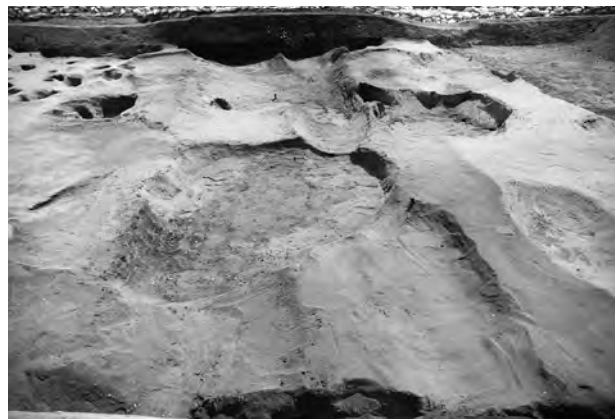
遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
192	1地点	9D4i	SK	139	195	144	46	19	楕円形	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂	山茶碗、土師質土器	
193	1地点	9D3i	SK	152	208	60	(33)	16	(楕円形)	W	10YR3/2黒褐色シルト質砂	土師器、陶器、土師質土器	
194	1地点	9D3j	SK	-	-	50	(28)	5	(溝状)	U	10YR4/4褐色中粒砂	山茶碗	
195	1地点	9D3i	SK	192,210,212	205	(131)	(121)	11	(不定形)	逆台形	10YR4/1灰色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、陶器、土師質土器	礎石?
196	1地点	9D4i	SK	-	-	103	46	18	楕円形	W	10YR4/2にぶい黄褐色シルト質砂 10YR5/6粘土ブロックを含む	-	
197	1地点	9D3h	SK	127	204	(35)	(18)	11	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	灰釉陶器、山茶碗、土師質土器	
198	1地点	9D2j,3j	SD	-	-	(77)	21	4	(溝状)	U	北セクション図参照	山茶碗	
199	1地点	9D3i	SK	157	203	(53)	50	23	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR5/6シルト粒を含む	土師器、茶臼	
200	1地点	9D1j~5j, 9D3k, 4k	SD			(1070)	158	35	(溝状)	U	200SDセクション図参照	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、瓦器、陶器、土師質土器、瓦	
201	1地点	9D3i	SK	137	202,203	(113)	78	19	(溝状)	-	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗、陶器、土師質土器	
202	1地点	9D3i	SK	201,212	208	(73)	(51)	17	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	陶器、土師質土器	礎石?
203	1地点	9D3i	SK	137,157, 199,201	-	110	(90)	22	(溝状)	-	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
204	1地点	9D4h,i	SX	127,151, 161,181, 182,197	-	(312)	(70)	17	(不定形)	U	10YR3/1黒褐色中粒砂	-	礎石?
205	1地点	9D3i	SK	195,210, 211	-	(103)	(60)	12	(不定形)	-	10YR3/2黒褐色シルト質砂	山茶碗、陶器、土師質土器	
206	1地点	9D5i	SX	211	-	(384)	(93)	9	(不定形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、須恵器、山茶碗、陶器、土師質土器	
207	1地点	9D4j	SK	200	-	(109)	90	18	(溝状)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 貝混じり	土師器、須恵器、山茶碗、陶器、土師質土器	
208	1地点	9D3i	SK	152,193, 202,212	-	97	(45)	21	(楕円形)	逆台形	10YR3/2黒褐色シルト質砂	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
209	1地点	9D2h	SK	150,162	-	(47)	(25)	23	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色シルト質砂 貝混じり、2.5Y4/6細粒砂ブロック含む	陶器	
210	1地点	9D3i, j, 4i, j	SX	-	195,205, 211	-	-	-	(不定形)	-	-	-	粘土貼り
211	1地点	9D3i, 4i	SX	210	205,206	-	-	-	(不定形)	-	-	-	粘土貼り
212	1地点	9D3i	SX	-	156,158, 195,202, 208	-	-	-	(不定形)	-	-	-	粘土貼り
213	1地点	9D6n	SP	008	-	87	37	44	楕円形	W	10YR3/2黒褐色中粒砂 少量の炭化物を含む 10YR4/4褐色中粒砂	-	柱痕あり
214	1地点	9D6n	SM	016	-	80	70	-	楕円形	-	混土貝層	-	
215	1地点	9D5i	SM	-	-	110	70	-	楕円形	-	混土貝層	-	113SK内
216	1地点	9D5m	SM	-	-	(150)	(100)	-	(不定形)	-	混土貝層	-	068SK内
217	1地点	9D3k, l	SM	-	-	(240)	50	-	溝状	-	混土貝層	-	101SD内
218	1地点	9D4k, l	SM	-	-	70	60	-	楕円形	-	混土貝層	-	101SD内
219	1地点	9D5k	SM	-	-	(140)	60	-	溝状	-	貝層	-	101SD内
220	1地点	9D5k	SM	-	-	(200)	(100)	-	(不定形)	-	混土貝層	-	101SD内
221	1地点	9D5k, l	SM	-	-	30	30	-	円形	-	貝層	-	102SD内
222	1地点	9D5i	SM	-	-	60	40	-	楕円形	-	貝層	-	102SD内
223	1地点	9D4i	SM	-	-	80	20	-	楕円形	-	混土貝層	-	102SD内
224	1地点	9D3i	SM	-	-	(110)	100	-	(溝状)	-	混土貝層	-	102SD内
225	1地点	9D2j,3j	SM	-	-	(195)	141	-	溝状	-	混土貝層	-	160SD内
226	1地点	9D4j	SM	-	-	(100)	(80)	-	溝状	-	混土貝層	-	160SD内
227	1地点	9D3i	SM	-	-	180	130	-	楕円形	-	混土貝層	-	158SK内
228	1地点	9D2・3h	SM	-	-	613	78	-	溝状	-	混土貝層	-	118SD内
229	1地点	9D3g	SM	-	-	150	(50)	-	(楕円形)	-	混土貝層	-	146SD内
230	1地点	9D2i,3i, 4h	SA	-	-	(720)	-	-	-	-	230SAセクション図参照	-	127SP・137SP・ 155SP・180SP
231	1地点	9D3k	SL	101	-	200	(90)	50	-	-	北セクション図参照	-	

1 地点遺構観察表 (6)





1 地点調査区西半 (南東から)



101SD・102SD 完掘 (北から)



118SD 完掘 (東から)



1 地点調査区東半 (南東から)



118SD 土層断面 (東から)



068SK 土層断面 (東から)

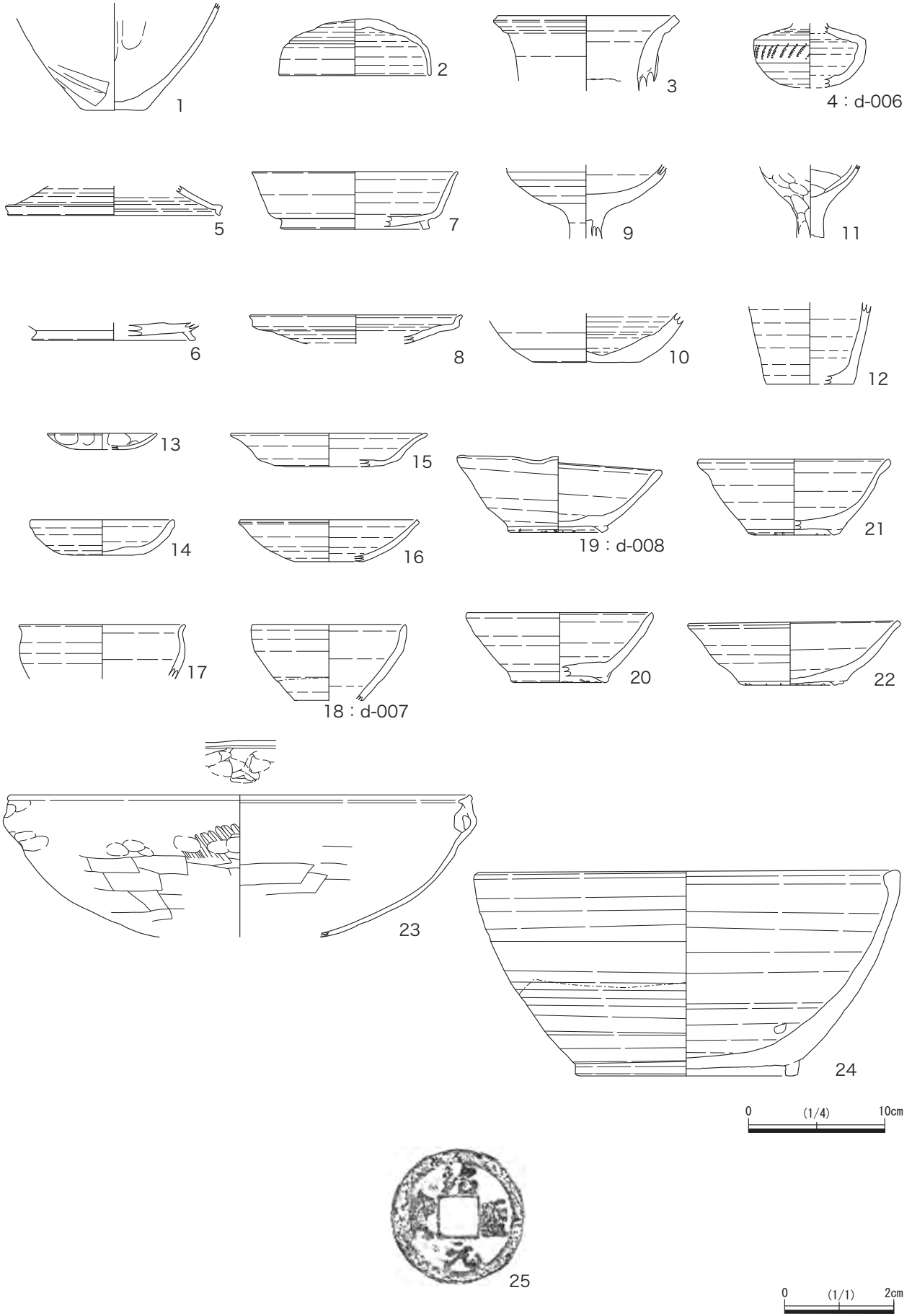


160SD 北側貝層 (南から)

図版8

図版番号	遺物番号	調査区	グリッド	遺構	層位	産地材質	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	色調外面	時期	備考
1	-	1	9D3k	110SK	-	土師器	甕	20	-	(7.9)	4.1	指ナデ、指オサエ	指ナデ	粗、砂粒・礫を含む	10YR7/4	廻間II式後半	内面に赤彩付着
2	-	1	9D2h	122SK	-	須恵器	杯蓋	50	(11.2)	4.1	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、ロクロナデ	やや粗、礫を含む	N3/	H-15号窯期	
3	-	1	9D5i	-	検出	須恵器	壺	5	(13.6)	(5.5)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗、砂粒を含む	5GY6/1	6世紀	自然釉付着
4	d-006	1	9D2h	-	検出	須恵器	甕	40	-	(4.7)	(4.3)丸底	ロクロナデ	ロクロナデ、刺突文、回転ヘラケズリ	密	5Y4/1	H-15号窯期	
5	-	1	9D3h	118SD	貝層	須恵器	杯蓋	5	(15.7)	(2.1)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	密	7.5YR2/1	8世紀後半	
6	-	1	-	-	表土	須恵器	杯身	20	-	(1.3)	(12.0)	ロクロナデ	貼付高台、回転ヘラケズリ	密、礫を含む	2.5Y6/2	I-17号窯期	
7	-	1	-	-	表土	須恵器	杯身	20	(15.2)	4.2	(11.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台、回転ヘラケズリ	密、砂粒を含む	5Y4/1	I-17号窯期	
8	-	1	-	-	表土	須恵器	盤	5	(15.6)	(2.1)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	密、礫を含む	2.5Y5/1	NN-32号窯期	
9	-	1	-	西半分	表土	須恵器	高杯	30	-	(5.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	やや粗、砂粒を含む	5Y6/2	9世紀	
10	-	1	9D5k	攪乱	-	須恵器	壺	20	-	(3.6)	(8.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	やや粗、礫を含む	2.5Y6/1	7~8世紀	
11	-	1	9D3h	-	検出	土師器	製塩土器	30	-	(5.3)	-	板ナデ	指オサエ	粗、礫を含む	10YR8/4	知多4類	
12	-	1	9D3i	-	検出	灰釉陶器	壺	10	-	(6.0)	(6.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕	密	5Y6/1	中世末	
13	-	1	9D3g	125SD	-	土師器	皿	30	(8.0)	1.2	(3.2)	指オサエ	ナデ、指オサエ	やや粗	5YR6/4	近世	手づくね
14	-	1	9D3h	118SD	貝層	土師器	皿	50	(10.6)	2.6	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕	やや粗、砂粒を含む	10YR7/4	中世末	
15	-	1	9D3h	146SD	-	土師器	皿	30	(14.4)	2.5	6.4	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕	密	7.5YR7/6	中世末	
16	-	1	9D4i	206SX	-	東濃	山茶碗	30	(13.2)	3.1	(5.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕	密	2.5Y8/2	脇之島	
17	-	1	9D2h	118SD	貝層	瀬戸	天目茶碗	10	(12.2)	(4.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	10YR2/2	中世末	施釉
18	d-007	1	9D4i	-	検出	瀬戸	天目茶碗	20	(11.3)	(5.5)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	10R1.7/1(釉)	中世末	施釉(鉄釉)
19	d-008	1	9D3i	-	検出	知多	山茶碗	完形	-	15.0	7.4	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	粗、礫・小石を含む	5YR5/1	第5型式並行	モミガラ痕あり、ゆがみあり
20	-	1	9D5k	101SD	-	知多	山茶碗	40	(13.6)	5.2	(7.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	粗、砂粒・礫を含む	2.5Y7/1	第5型式	モミガラ痕あり
21	-	1	9D3i	195SK	-	知多	山茶碗	40	(14.2)	5.6	(6.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	粗、礫を含む	5Y6/1	第6型式	モミガラ痕あり
22	-	1	9D3j	攪乱	-	知多	山茶碗	70	15.6	4.7	7.3	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	粗、礫・小石を含む	7.5YR5/4	第5型式並行	
23	-	1	9D2・3j	160SD	貝層	土師器	焙烙	30	34.1	(10.4)	-	ヨコナデ、板ナデ	指オサエ、工具痕?、板ナデ	密、砂粒を含む	5YR2/2	15世紀後半	
24	-	1	9D2・3j	160SD	貝層	瀬戸	鉄釉鉢	90	31.0	15.1	16.3	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR4/4	近世	施釉、内面にトチン痕
25	d-005	1	9D4h	-	検出	金属製品	銭貨	完形	最径2.4	穴辺0.6	-	-	-	-	-	-	紹聖元宝 行書(初鑄1094年)
26	-	1	9D2g	133SK	-	瀬戸	山茶碗	20	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、指オサエ、板ナデ	粗、砂粒・礫を含む	2.5Y4/2	瀬戸6型式	
27	-	1	9D2h	179SK	-	瀬戸	山茶碗	20	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕	粗、砂粒・礫を含む	2.5Y7/1	瀬戸7~8型式	
28	-	1	9D5i	064SK	-	知多	山茶碗	10	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	粗、砂粒・礫を含む	5Y6/1	瀬戸4型式	
29	-	1	9D3h	118SD	貝層	知多	山茶碗	10	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ、指オサエ、板ナデ、貼付高台	粗、砂粒・礫を含む	5Y6/1	瀬戸4型式	
30	-	1	9D2j	160SD	-	知多	山茶碗	30	-	-	7.6	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	密、砂粒・礫を含む	2.5Y7/1	瀬戸4型式	
31	-	1	9D3g・h	146SD	-	東濃	山茶碗	20	-	-	4.3	ロクロナデ、板ナデ、指オサエ	ロクロナデ、回転糸切り痕	やや粗、砂粒を含む	2.5YR7/2	第7~8型式	
32	-	1	9D2h	176SK	-	東濃	山茶碗	20	-	-	(5.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕	密	2.5Y8/2	第7~8型式	
33	-	1	9D4j	200SD	-	瀬戸	丸碗	70	-	-	4.3	ロクロナデ、施釉	ロクロナデ、施釉	密	2.5Y7/3	近世	京焼風
34	-	1	9D2・3j	160SD	貝層	瀬戸	仏前具	80	-	-	4.5	ロクロナデ、施釉	ロクロナデ、施釉	密	5GY5/1	近世	
35	-	1	9D2h	154SK	-	瀬戸	播鉢	20	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、指オサエ、板ナデ	粗、砂粒・礫を含む	2.5Y3/2	近世	
36	-	1	9D2g	133SK	-	常滑	甕	3	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、指オサエ、板ナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5Y4/3	常滑5~6b期	
37	-	1	9D2j	160SD	-	常滑	甕	3	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、指オサエ、板ナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5Y3/4	常滑10期	
38	-	1	9D3i	195SK	-	常滑	甕	3	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、指オサエ、板ナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5Y4/4	常滑10期	
39	-	1	9D3k	200SD	-	常滑	甕	5	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、指オサエ、板ナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5Y3/4	常滑8期	磨り面あり
40	-	1	9D5i	112SK	-	土師器	羽釜	4	-	-	-	ナデ、板ナデ	ナデ、指オサエ、板ナデ	密	7.5Y3/2	15世紀	
41	-	1	9D3h	118SD	貝層	土師器	羽釜	3	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、板ナデ	密、砂粒・礫を含む	10YR6/3	15世紀	
42	-	1	9D1・2h	135SX	-	土師器	羽釜	3	-	-	-	ロクロナデ、板ナデ	ロクロナデ、板ナデ	密、砂粒・礫を含む	10YR6/2	15世紀	
43	-	1	9D4m	-	検出	土師器	羽釜	4	-	-	-	ナデ、板ナデ	ナデ、指オサエ、板ナデ	密、砂粒を含む	10YR3/1	15世紀	
44	d-001	1	9D5m	-	検出	瓦質土器	鍋	80	24.3	10.3	17.6	ヨコナデ、板ナデ	ナデ、指オサエ、板ナデ	密、砂粒を含む	2.5YR3/1	15世紀	山形把手に2穴穿
45	d-009	1	9D3i	199SK	-	石製品	茶臼	完形	17	16	穴径2.4	上面、擦り目	粗削り	花崗岩	10YR5/1	近世	

1 地点遺物観察表



1 地点出土遺物実測図





1 地点出土遺物 (1)





9



10



11



12



13



14



15



16

1 地点出土遺物 (2)



1 地点出土遺物 (3)

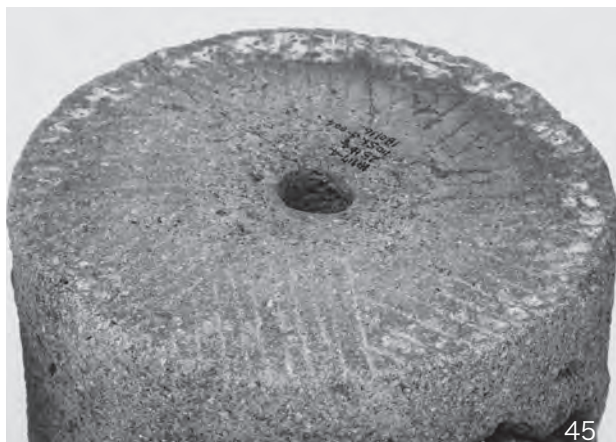


1 地点出土遺物 (4)



1 地点出土遺物 (5)





遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
001	2地点	1C19j	SK	-	003,010	132	120	28	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
002	2地点	1C19k・l	SE	-	-	206	191	59	円形	-	002SEセクション図参照	山茶碗、陶器、土師質土器	
003	2地点	1C19j	SK	001	010	125	98	13	楕円形	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗、陶器、土師質土器	
004	2地点	1C19j	SK	-	-	65	48	9	楕円形	皿	10YR4/6褐色中粒砂	-	
005	2地点	1C19j	SK	-	-	75	54	23	楕円	U	10YR4/4褐色中粒砂 10YR2/3黒褐色細粒砂ブロックを含む	-	
006	2地点	1C19j	SK	-	-	38	35	4	円形	皿	10YR4/6褐色中粒砂	-	
007	2地点	1C19i	SK	-	-	42	42	11	円形	皿	10YR4/6褐色中粒砂	山茶碗、陶器	
008	2地点	1C19i	SK	-	-	38	34	21	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
009	2地点	1C19k	SK	-	-	31	30	46	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
010	2地点	1C19i・j	SK	001,003	-	124	(87)	19	(楕円形)	W	10YR3/4暗褐色中粒砂	陶器	
011	2地点	1C18o	SK	-	-	(162)	(50)	18	(不定形)	皿	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
012	2地点	1C18o	SK	-	-	41	35	14	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
013	2地点	1C19o	SK	-	-	56	(26)	29	(円形)	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
014	2地点	2C1m	SK	-	-	36	34	45	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
015	2地点	1C20n	SK	-	-	43	37	28	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
016	2地点	1C18o	SK	-	-	(61)	28	45	(楕円形)	漏斗	10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR5/6黄褐色中粒砂の斑土 10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
017	2地点	1C17o	SK	-	-	65	47	66	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR4/4褐色中粒砂	弥生土器、土師器、山茶碗	
018	2地点	2C2n	SK	-	-	40	32	9	円形	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
019	2地点	1C17n	SK	-	-	66	49	70	不定形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	山茶碗、陶器、土師質土器	
020	2地点	1C20n	SK	-	-	32	26	17	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
021	2地点	1C16p	SK	-	-	26	20	4	楕円形	皿	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
022	2地点	1C16o	SK	-	-	56	52	23	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
023	2地点	1C17o	SK	-	-	61	51	18	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
024	2地点	1C17o	SK	-	-	55	(35)	6	(円形)	皿	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
025	2地点	1C16o	SK	-	-	32	21	20	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、陶器	
026	2地点	1C19n	SK	-	-	99	(67)	20	(円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 10YR4/4褐色中粒砂	-	
027	2地点	1C17o	SK	028	-	(60)	46	39	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	縄文土器	
028	2地点	1C17o	SE	-	027	(386)	(381)	(192)	(方形)	U	028SEセクション図参照	土師器、山茶碗、陶器、土鍾、すり石	
029	2地点	1C10・11r・s	SD	034,039,046,048,065,089	034,050,095,134,136,137,147,148,155,156,157,159	(1580)	190	60	(溝状)	U	029SDセクション図参照	弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、瓦器、陶器、土師質土器、土鍾、チップ	SM208を含む
030	2地点	1C10s	SK	-	-	(74)	71	17	(楕円形)	箱形	10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR4/4褐色中粒砂の斑土	山茶碗	
031	2地点	1C10r	SK	-	-	41	34	12	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR4/4褐色中粒砂の斑土	-	
032	2地点	1C10r	SK	029	137	93	83	38	円形	逆台形	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	弥生土器	
033	2地点	1C10r	SK	-	-	49	37	10	楕円形	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR4/4褐色中粒砂の斑土	-	
034	2地点	1C11r	SK	-	029,097,137,149,155	284	148	25	楕円形	U	10YR4/2灰黄褐色中粒砂 横溝状に10YR3/4暗褐色中粒砂を含む	弥生土器、山茶碗	
035	2地点	1C12r	SK	-	057	64	32	18	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
036	2地点	1C11r	SK	-	049,137	57	39	3	楕円形	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂	山茶碗	
037	2地点	1C11r	SK	-	-	80	73	46	円形	播鉢形	10YR3/4暗褐色中粒砂	陶器、土師質土器	
038	2地点	1C11q	SK	-	-	(66)	(45)	20	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器	
039	2地点	1C12q	SK	-	029,065	73	61	6	円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
040	2地点	1C12r	SP	-	118	35	32	10	円形	U	207SBセクション図参照	-	207SB
041	2地点	1C12r	SK	-	095	65	50	31	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器	
042	2地点	1C12r	SP	-	118	55	45	14	楕円形	逆台形	207SBセクション図参照	-	207SB
043	2地点	1C12q	SP	-	-	33	31	10	円形	U	207SBセクション図参照	-	207SB

2 地点遺構観察表 (1)

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
044	2地点	1C12q	SD	-	-	(254)	(86)	12	(溝状)	U	203SZセクション図参照	弥生土器、チップ	203SZ
045	2地点	1C12r	SK	-	-	53	50	17	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	陶器	
046	2地点	1C12q	SK	-	029,074	71	68	9	円形	W	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
047	2地点	1C13r	SK	-	137	174	170	32	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR4/4褐色中粒砂の斑土	土師器、山茶碗、土師質土器	
048	2地点	1C12q	SP	-	029,148	39	37	18	円形	皿	207SBセクション図参照	-	207SB
049	2地点	1C11r	SK	036	-	81	59	5	楕円形	皿	10YR4/4褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗	
050	2地点	1C12q	SK	-	029	29	27	3	円形	皿	10YR4/4褐色中粒砂	-	
051	2地点	1C12q	SK	-	-	25	25	1	円形	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師質土器	
052	2地点	1C13q	SK	-	088	38	26	15	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗	
053	2地点	1C13q	SK	-	089	77	67	22	円形	U	10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂	-	
054	2地点	1C13q	SK	-	-	60	59	22	円形	播鉢形	10YR3/1黒褐色中粒砂	-	
055	2地点	1C15q	SK	-	124	65	64	49	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、陶丸	
056	2地点	1C13・14p・q	SK	-	141	84	67	49	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器、須恵器、山茶碗	
057	2地点	1C12r	SK	035	095	86	65	43	楕円形	逆台形	10YR4/4褐色中粒砂	土師器、陶器、土師質土器	
058	2地点	1C15q	SK	-	125	72	57	17	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗、陶器	
059	2地点	1C13q	SK	-	089	33	29	11	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
060	2地点	1C12q	SK	-	098,103	54	38	9	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
061	2地点	1C12q	SK	-	-	87	45	25	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器	203SZ主体部の痕跡
062	2地点	1C13q	SK	-	099	49	44	16	円形	逆台形	10YR4/4褐色中粒砂	-	
063	2地点	1C12q	SK	-	147	44	(25)	3	(円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
064	2地点	1C13p	SK	-	-	96	(33)	22	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
065	2地点	1C12q	SK	039	029	36	(35)	4	(円形)	皿	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
066	2地点	1C13r	SK	-	137,149,160	40	40	19	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器	
067	2地点	1C13q	SK	-	137,149	32	32	18	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
068	2地点	1C13q	SK	-	126	89	67	45	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	土師器	
069	2地点	1C13r	SK	-	137,149	35	35	23	円形	U	10YR4/2にぶい黄褐色中粒砂	-	
070	2地点	1C14r	SK	-	137	24	23	21	円形	U	10YR4/2にぶい黄褐色中粒砂	-	
071	2地点	1C14q	SK	-	137,149	47	43	12	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師質土器	
072	2地点	1C14q	SK	-	137	37	25	21	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
073	2地点	1C14q・r	SK	-	137,149	55	45	25	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
074	2地点	1C12q	SP	046	-	30	(26)	15	(円形)	皿	207SBセクション図参照	-	207SB
075	2地点	1C14q	SK	-	137,149	37	22	17	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
076	2地点	1C14q	SK	-	131,137	81	47	20	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土	弥生土器	
077	2地点	1C14q	SK	-	137,149	45	44	25	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
078	2地点	1C14q	SK	-	137	33	26	18	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
079	2地点	1C13r	SP	-	-	37	37	26	円形	U	207SBセクション図参照	-	207SB
080	2地点	1C14q	SK	-	-	32	30	20	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
081	2地点	1C14q	SK	-	137,154	24	24	10	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
082	2地点	1C14p	SK	-	137	45	(17)	20	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	陶器	
083	2地点	1C15q	SK	-	143,145	52	40	3	楕円形	皿	10YR4/4褐色中粒砂	-	
084	2地点	1C14q	SK	-	-	44	28	28	楕円形	W	10YR4/4褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
085	2地点	1C15q	SK	-	-	44	33	9	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
086	2地点	1C13p	SK	-	-	49	29	7	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
087	2地点	1C13p	SK	-	-	47	(24)	11	(楕円形)	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
088	2地点	1C13q	SK	052	-	61	39	44	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	

2地点遺構観察表(2)

図版18

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
089	2地点	1C13q	SK	053,059,120	029,147	(196)	105	12	(溝状)	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、須恵器、山茶碗	
090	2地点	1C13q・r	SK	-	137	37	30	7	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
091	2地点	1C13q	SK	-	-	32	32	7	円形	皿	10YR4/4褐色中粒砂	-	
092	2地点	1C14p	SK	141	-	(58)	(48)	25	(円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	須恵器	
093	2地点	1C13q	SK	-	-	28	28	18	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
094	2地点	1C13q	SK	-	-	47	40	23	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	弥生土器	
095	2地点	1C12r	SD	029,041,057,104,137	-	(465)	100	15	(溝状)	逆台形	203SZセクション図参照	弥生土器	203SZ
096	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	118SKと同一
097	2地点	1C12r	SK	034	137	(128)	80	40	(溝状)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
098	2地点	1C12q	SK	060	106	(52)	20	20	(楕円形)	W	10YR4/4褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂を横縞状に含む	-	
099	2地点	1C13q	SK	062	-	42	(20)	20	(楕円形)	V	10YR4/4褐色中粒砂	-	
100	2地点	1C14q	SK	-	137,149	55	50	43	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
101	2地点	1C14q	SK	-	-	53	53	38	円形	U	10YR4/4褐色 10YR3/4暗褐色 10YR5/6黄褐色中粒砂と10YR3/4暗褐色中粒砂	山茶碗、陶丸	
102	2地点	1C15q	SK	-	143,130	99	67	4	楕円形	皿	10YR4/4褐色中粒砂	-	
103	2地点	1C12r	SK	060	-	34	(31)	25	(円形)	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
104	2地点	1C12r	SK	-	095	28	24	14	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
105	2地点	1C12r	SP	-	137	38	33	18	円形	挿鉢形	207SBセクション図参照	土師器	207SB
106	2地点	1C13q	SK	098	-	(35)	29	37	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
107	2地点	1C12r	SP	-	137	40	36	34	円形	U	207SBセクション図参照	土師器	207SB
108	2地点	1C13q	SK	-	-	37	36	23	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	土師器	
109	2地点	1C12r	SP	-	-	27	25	18	円形	U	207SBセクション図参照	-	207SB
110	2地点	1C13r	SP	-	-	51	39	10	楕円形	U	207SBセクション図参照	-	207SB
111	2地点	1C13q	SK	-	-	62	47	17	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 少量の炭化物を含む	-	
112	2地点	1C14q	SK	-	137	40	36	22	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗、土師質土器	
113	2地点	1C15q	SK	-	-	27	24	28	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
114	2地点	1C14p	SK	-	125	107	78	6	楕円形	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	須恵器	
115	2地点	1C15q	SK	-	143	41	36	23	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗	
116	2地点	1C15q	SK	-	-	73	70	19	円形	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
117	2地点	1C13q	SK	-	-	39	32	17	楕円形	W	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
118	2地点	1C12r	SK	040,042	121	110	103	35	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂を横縞状に含む	弥生土器、山茶碗	
119	2地点	1C15q	SK	-	-	47	42	38	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器	
120	2地点	1C13q	SK	-	089	60	45	23	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
121	2地点	1C12r	SK	118	-	51	(37)	23	(楕円形)	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
122	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	120SKと同一
123	2地点	1C13q	SK	-	-	37	24	42	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
124	2地点	1C15q	SK	055	-	49	(29)	35	(円形)	逆台形	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/3黒褐色中粒砂と10YR5/6黄褐色中粒砂の斑土	-	
125	2地点	1C14p	SK	058,114	-	(68)	61	11	(溝状)	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂	瓦	
126	2地点	1C13q	SK	068	128,	(101)	53	18	(楕円形)	逆シンバル形	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗	
127	2地点	1C15q	SK	-	-	23	(15)	44	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
128	2地点	1C13q	SK	126	-	(96)	59	56	(溝状)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/4褐色中粒砂の斑土	弥生土器、土師器	
129	2地点	1C15p	SK	-	143,	95	60	6	楕円形	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
130	2地点	1C15q	SK	102	-	(41)	33	4	(楕円形)	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
131	2地点	1C14q	SK	076,135	132,137,150	(150)	184	55	(楕円形)	-	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂を横縞状に含む 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR5/6黄褐色中粒砂の斑土 10YR5/6黄褐色中粒砂(地山)	弥生土器、須恵器、山茶碗	

2 地点遺構観察表 (3)



遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
132	2地点	1C14q	SK	131	-	(49)	47	28	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
133	2地点	1C14q	SK	-	-	25	22	12	円形	皿	10YR4/4褐色中粒砂	-	
134	2地点	1C11r	SK	029	137	187	(149)	56	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/3に ぶい黄褐色中粒砂の斑土	陶器	
135	2地点	1C14q	SK	-	131,137	(80)	(56)	15	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
136	2地点	1C11r	SK	029	-	92	79	32	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	弥生土器	燭台出土
137	2地点	1C10・ 11r・ 1C14p・ q・r	SD	029,032, 034,036, 047,066, 067,069, 070,071, 072,073, 075,076, 077,078, 081,082, 090,097, 100,105, 107,112, 131,134, 135,139, 141,149, 154,162, 164,190	095,140, 150,151, 153,155, 160,161, 163,168, 169,172, 191,195, 200,202	-	(340)	73	(溝状)	逆台形	206SZセクション図参照	弥生土器、土師器、須 恵器	206SZ
138	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	137SDと同一
139	2地点	1C13r	SK	-	137	38	32	16	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
140	2地点	1C13r	SK	137	-	32	24	15	楕円形	U	10YR4/3にぶい褐色中粒砂	-	
141	2地点	1C14p,13・ 14q	SD	056	092,137	(476)	69	30	(溝状)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂10YR3/3暗褐色 中粒砂を横溝状に含む	弥生土器	
142	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	029SDと同一
143	2地点	1C14・ 15p,15q	SD	083,102, 115,129, 146	-	(640)	280	25	(溝状)	W	143SDセクション図参照	弥生土器、須恵器、山 茶碗、陶器、土師質土 器	
144	2地点	1C15・ 16p	SD	-	-	(334)	79	18	溝状	U	143SDセクション図参照	-	
145	2地点	1C15p	SK	083	143	30	26	44	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	山茶碗、陶器	
146	2地点	1C15p	SK	-	143	42	41	24	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
147	2地点	1C12・ 13q	SD	029,063, 089	-	(150)	(66)	32	(楕円形)	U	203SZセクション図参照	弥生土器、土師器	203SZ
148	2地点	1C12q・r	SK	029,048	-	133	93	33	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂10YR3/4暗褐色中 粒砂を横溝状に含む	-	
149	2地点	1C12r・s 1C13r・s 1C14q・r	SD	034,066, 067,069, 071,073, 075,077, 100,150, 162	137,161, 163,168, 169,191	(1577)	176	15	(溝状)	U	149SDセクション図参照	弥生土器、須恵器、灰 釉陶器、山茶碗、土師 質土器、土錘	
150	2地点	1C14q	SK	131,137	149	101	65	19	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	
151	2地点	1C13r	SK	137	-	35	32	27	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂 粗粒砂混じる	-	
152	2地点	1C15・ 16p	SD	-	-	(291)	45	11	(溝状)	U	152SDセクション図参照	陶器	
153	2地点	1C13q	SK	137	-	42	38	45	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
154	2地点	1C14q	SK	081	137	(32)	27	54	(楕円形)	U	10YR4/6褐色中粒砂と10YR3/4暗褐色 中粒砂の斑土	-	
155	2地点	1C11r	SK	029,034, 137	-	85	44	26	楕円形	W	10YR3/4暗褐色中粒砂10YR4/6褐色中 粒砂と10YR3/4暗褐色中粒砂の斑土	弥生土器	
156	2地点	1C12r	SK	029	-	38	32	10	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
157	2地点	1C12r	SK	029	-	51	30	54	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR4/4褐色 中粒砂	-	
158	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	095SDと同一
159	2地点	1C12r	SK	029	-	(21)	25	27	(円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
160	2地点	1C13r	SK	066,137	-	(20)	29	14	(円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
161	2地点	1C13r	SK	137,149	-	73	70	33	円形	U	10YR4/3にぶい褐色中粒砂	陶器、土錘	
162	2地点	1C13r	SK	-	137,149, 193	162	(86)	6	(楕円形)	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、山 茶碗、土師質土器、土 錘	
163	2地点	1C13r	SK	137,149	-	37	32	23	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
164	2地点	1C11s	SD	-	137,195	(812)	72	20	(溝状)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	陶器	
165	2地点	1C13s	SK	-	-	53	38	19	楕円形	W	10YR4/4褐色中粒砂	-	
166	2地点	1C12s	SK	-	185	29	24	11	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
167	2地点	1C12s	SK	-	184	28	22	15	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	

2地点遺構観察表(4)

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
168	2地点	1C13r	SK	137,149	-	38	34	7	楕円形	U	10YR4/3にぶい褐色中粒砂	山茶碗	
169	2地点	1C13r	SK	137,149	-	26	25	5	円形	U	10YR4/3にぶい褐色中粒砂	-	
170	2地点	1C14r	SK	-	-	(29)	(24)	35	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
171	2地点	1C14r	SK	-	189	64	43	49	不定形	W	10YR2/3黒褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR5/6黄褐色中粒砂の斑土	弥生土器、山茶碗、陶器、土錘	
172	2地点	1C14r	SK	137	-	67	41	12	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
173	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	185SKと同一	
174	2地点	1C13s	SK	-	-	34	32	25	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
175	2地点	1C12s	ST	-	-	52	31	18	楕円形	U	175STセクション図参照	山茶碗	幼児人骨
176	2地点	1C12s	SD	178	-	(350)	(130)	43	(溝状)	U	204SZセクション図参照	弥生土器、土師器	204SZ
177	2地点	1C12s	SK	-	197	86	56	14	楕円形	W	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
178	2地点	1C12t	SK	-	176	(93)	(59)	47	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂を含む	弥生土器、山茶碗、陶丸	
179	2地点	1C14r	SK	-	-	37	30	9	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
180	2地点	1C13s	SK	-	-	62	53	22	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
181	2地点	1C13s	SK	-	-	45	41	25	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 炭化物を含む	土師器、山茶碗	
182	2地点	1C14r	SK	-	-	34	28	28	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	山茶碗	
183	2地点	1C13s	SK	-	-	36	28	14	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 炭化物を含む	-	
184	2地点	1C12s	SK	167	-	(50)	41	33	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい褐色中粒砂	山茶碗、陶器	
185	2地点	1C12s	SD	166	196	(313)	94	14	(溝状)	U	205SZセクション図参照	弥生土器	205SZ
186	2地点	1C13s	SK	-	-	30	29	13	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
187	2地点	1C14r	SK	-	-	38	35	30	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
188	2地点	1C14r	SK	-	-	35	33	23	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗、銅銭(景祐元宝)	
189	2地点	1C14r	SK	171	-	28	23	5	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
190	2地点	1C13s	SK	-	137	50	37	22	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
191	2地点	1C13r	SK	137,149	-	30	23	47	楕円形	U	10YR4/3にぶい褐色中粒砂	-	
192	2地点	1C13r	SK	-	-	30	32	22	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
193	2地点	1C13r	SK	162	-	33	27	19	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
194	2地点	1C14r	SK	-	-	38	29	26	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
195	2地点	1C11s	SK	137,164	-	(61)	59	12	(溝状)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
196	2地点	1C12s	SK	185	-	43	35	24	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
197	2地点	1C12s	SK	177	-	(222)	122	13	(溝状)	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
198	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	176SDと同一	
199	2地点	1C14r	SK	-	-	21	20	16	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
200	2地点	1C12s	SD	137	-	(270)	150	50	(溝状)	U	204SZ・205SZセクション図参照	-	204SZ・205SZ
201	2地点	1C12s	SK	-	-	37	32	31	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
202	2地点	1C14p・r	SK	137	-	58	31	17	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
203	2地点	1C12q・r・13q	SZ	-	-	(500)	480	-	-	-	203SZセクション図参照	-	044SD・095SD・147SD・061ST
204	2地点	1C12・13s・t	SZ	-	-	(550)	(390)	-	-	-	204SZセクション図参照	-	176SD・200SD
205	2地点	1C12s	SZ	-	-	(350)	(300)	-	-	-	205SZセクション図参照	-	185SD・200SD
206	2地点	1C10・11r・1C14p・q・r	SZ	-	-	-	-	-	-	-	206SZセクション図参照	-	137SD 墳丘長(推定19.2m)
207	2地点	1C12r・13r	SB	-	-	372	288	-	-	-	207SBセクション図参照	-	040SP・042SP・043SP・048SP・074SP・079SP・105SP・107SP・109SP・110SP
208	2地点	1C10・11r・s	SM	-	-	200	60	-	-	-	029SDセクション図参照	-	029SD貝層

2 地点遺構観察表 (5)



2 地点調査区全景（北から）



2 地点調査区全景（南から）





028SE 検出状況 (東から)



143SD 土層断面 (西から)



028SE 土層断面 (東から)



144SD 土層断面 (東から)



029SD 完掘 (南から)



149SD 完掘 (南から)



143 (手前)・144 (奥) SD 完掘 (北から)



175ST 土層断面 (南から)





203SZ 完掘 (北から)



205SZ (185SD) 土層断面 (東から)



203SZ (044SD) 土層断面 (北から)



206SZ 完掘 (北から)



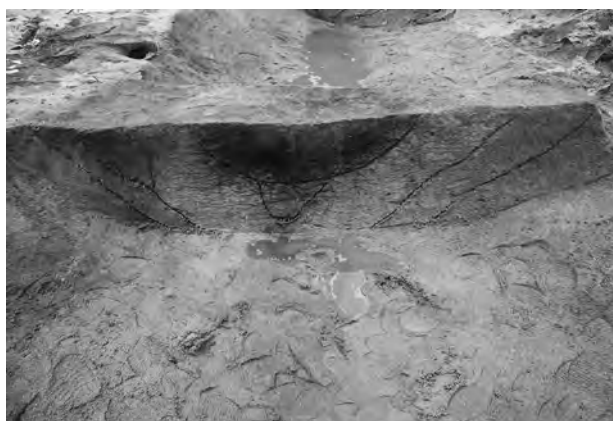
204SZ・205SZ 完掘 (東から)



206SZ (137SD) 土層断面A (東から)



204SZ (176SD) 土層断面 (東から)



206SZ (137SD) 土層断面B (東から)

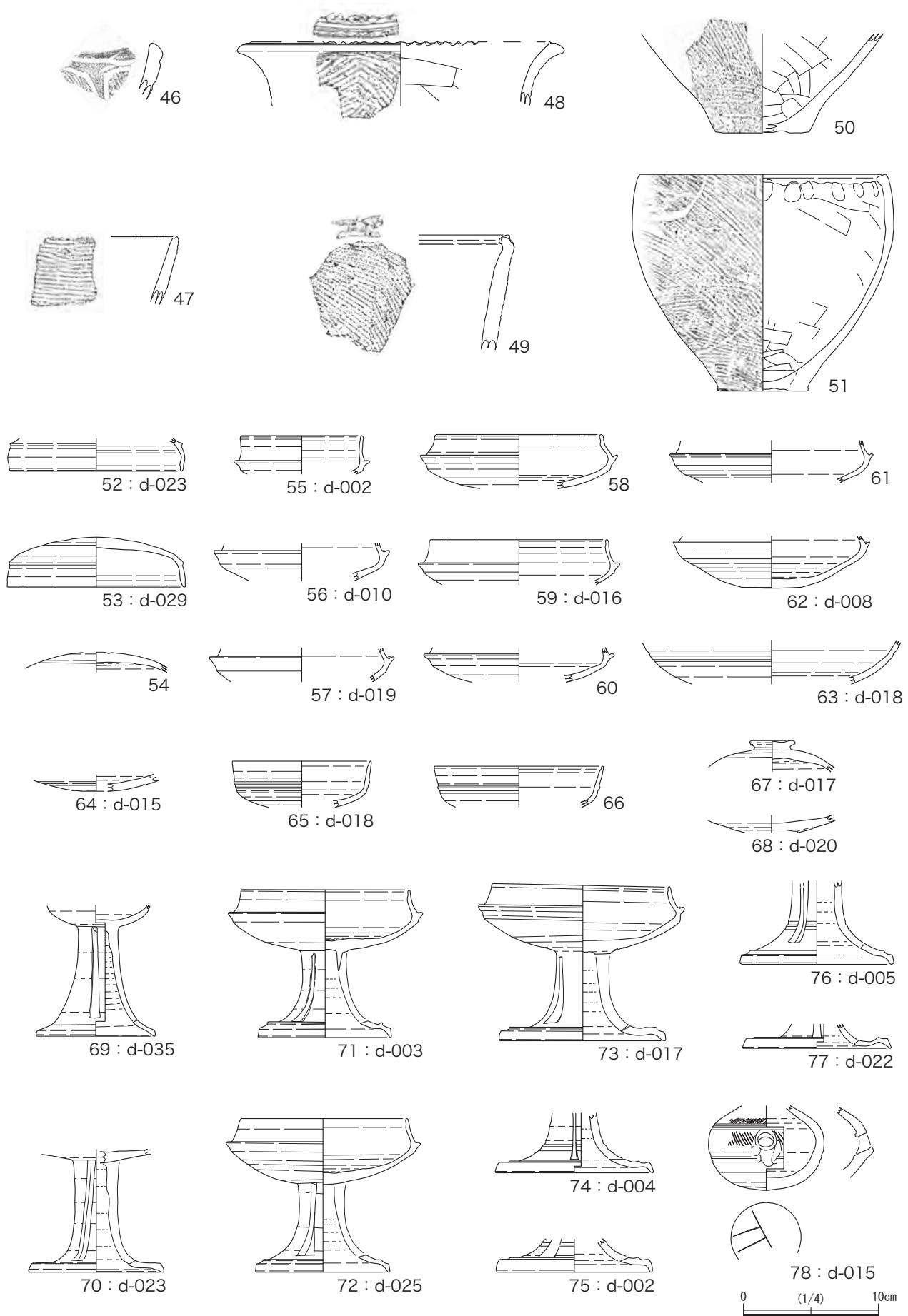
図版番号	遺物番号	調査区	グリッド	遺構	層位	産地材質	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	色調外面	時期	備考
46	-	2	1C13r	137SD	下層	縄文土器	深鉢	5以下	-	(4.2)	-	ナデ	ナデ、沈線、磨消縄文	粗	7.5YR6/4	縄文時代後期初頭	中津・称名寺式並行、波状口縁
47	-	2	1C12r	-	検出	弥生土器	深鉢 貝殻条痕	5	-	(5.0)	-	ナデ	貝殻条痕	粗、礫を含む	10YR8/3	弥生時代 中期前葉岩滑式	
48	-	2	1C13q	128SK	-	弥生土器	深鉢 貝殻条痕	5以下	(24.2)	(4.7)	-	二枚貝側縁部のキザミ、板ナデ	貝殻条痕	粗、礫を含む	2.5Y7/4	弥生時代 中期前葉岩滑式	
49	-	2	1C17o	027SK	-	弥生土器	深鉢 貝殻条痕	5以下	-	(8.5)	-B3	ナデ	貝殻条痕	粗、礫を含む	2.5Y7/3	弥生時代 中期前葉岩滑式	
50	-	2	1C10r	029SD	上層	弥生土器	深鉢 貝殻条痕	20	-	(7.3)	(7.0)	板ナデ	貝殻条痕	粗、礫を含む	2.5Y7/3	弥生時代 中期前葉岩滑式	後半期
51	-	2	1C11r	137SD	-	弥生土器	深鉢 貝殻条痕	50	(18.3)	16	(6.7)	ナデ、指オサエ、板ナデ	貝殻条痕	粗、砂粒・小石を含む	10YR8/4	弥生時代 中期前葉岩滑式	末期
52	d-023	2	1C14p	137SD	-	須恵器	杯蓋	5	(12.8)	2.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	密、礫を含む	5Y5/1	H-61号窯式	
53	d-029	2	1C14q	137SD	-	須恵器	杯蓋	50	(13.2)	3.7	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	やや粗、礫を含む	N4/	H-61号窯式~ H-44号窯式	
54	-	2	1C14o	-	検出	須恵器	杯蓋 つまみ	70	-	(1.5)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、ツマミ欠損	やや粗、礫を含む	5Y6/1	H-15号窯式	ツマミ欠損
55	d-002	2	1C14p	137SD	-	須恵器	杯身	5	(9.1)	(2.9)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	密	2.5Y7/1	H-61号窯式	
56	d-010	2	1C14q	137SD	-	須恵器	杯身	5	-	(2.8)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗、砂粒を含む	N4/	H-61号窯式	高坏の可能性あり
57	d-019	2	1C14p	137SD	-	須恵器	杯身	10	-	(2.5)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	密、礫を含む	10Y6/1	H-61号窯式	高坏の可能性あり
58	-	2	-	東壁	-	須恵器	杯身	20	(12.4)	(4.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	やや粗、砂粒を含む	5Y6/1	H-61号窯式	高坏の可能性あり
59	d-016	2	1C14p	137SD	-	須恵器	杯身	10	(13.2)	(3.3)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	密、礫を含む	5Y6/1	H-61号窯式	高坏の可能性あり
60	-	2	1C11r	029SD	-	須恵器	杯身	10	-	(2.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	2.5Y6/1	H-61号窯式	高坏の可能性あり
61	-	2	1C14p	092SK	-	須恵器	杯身	10	-	(2.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	密	2.5Y7/1	H-61号窯式	高坏の可能性あり
62	d-019	2	1C14p	137SD	-	須恵器	杯身	50	-	(3.9)	(4.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	密	2.5Y7/1	H-61号窯式	
63	d-018	2	1C14p	137SD	-	須恵器	杯身	10	-	(3.3)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	密、礫を含む	2.5Y7/1	H-61号窯式	
64	d-015	2	1C14p	137SD	-	須恵器	杯身	10	-	(1.2)	(2.1)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	密、砂粒を含む	10YR8/1	H-61号窯式	
65	d-018	2	1C14p	137SD	-	須恵器	杯身	5	(10.3)	(3.4)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	密、砂粒を含む	2.5Y7/1	H-44号窯式	
66	-	2	1C14p	114SK	-	須恵器	高坏	5	(12.5)	(3.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	2.5Y4/1	H-15号窯式	
67	d-017	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏 蓋	50	-	(2.3)	-	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、貼付つまみ	密、砂粒を含む	10YR6/1	H-61号窯式	
68	d-020	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	5	-	(1.3)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	密	2.5Y7/1	H-61号窯式	
69	d-036	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	30	-	(9.7)	8.7	ロクロナデ	ロクロナデ	密、礫を含む	N4/	H-61号窯式 (古手)	四方透孔
70	d-023	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	10	-	(9.1)	(9.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	密	10YR3/1	H-61号窯式 (古手)	三方透孔
71	d-026	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	70	(12.5)	10.9	9.8	ナデ	ナデ	密、礫を含む	N6/0	H-61号窯式	三方透孔
72	d-027	2	1C14q	137SD	-	須恵器	高坏	70	(12.3)	11.4	(9.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、砂粒を含む	2.5Y6/1	H-61号窯式	三方透孔
73	d-035	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	70	(13.1)	(11.7)	12.2	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	やや粗、砂粒を含む	5Y6/1	H-61号窯式	三方透孔
74	d-004	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	10	-	(4.4)	(11.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、砂粒を含む	N3/	H-61号窯式	四方透孔
75	d-002	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	10	-	(2.5)	(11.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、砂粒を含む	2.5GY2/1	H-61号窯式	三方透孔
76	d-005	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	10	-	(6.2)	(11.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、砂粒を含む	5Y3/1	H-61号窯式	三方透孔
77	d-022	2	1C14p	137SD	-	須恵器	高坏	5	-	(1.8)	(11.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	密、砂粒を含む	5YR1.7/1	H-61号窯式	四方透孔
78	d-015	2	1C14p	137SD	-	須恵器	鉢	50	-	(6.3)	3.2(丸底)	ロクロナデ	線刻文、回転ナデ・ヘラケズリ、ヘラ切	やや粗	10YR7/1	H-15号窯式	底部ヘラ書き(記号)
79	d-029	2	1C14q	137SD	-	須恵器	埴瓶	60	-	23.6	-	ナデ	ナデ、タタキ	密	5Y7/1	H-61号窯式	底部ゆがみあり
80	-	2	1C13r	137SD	-	須恵器	器台	5	-	(11.3)	-	ロクロナデ、タタキオサエか?	ロクロナデ、波状文、沈線、タタキ	やや密	10YR4/1	H-61号窯式	
81	-	2	1C17o	028SE	-	瀬戸	山茶碗	完形	12.7	5.4	(5.0)	ロクロナデ、指オサエ	ロクロナデ、板状圧痕、貼付高台	密、礫・小石を含む	2.5Y7/1	瀬戸7型式	モミガラ痕あり
82	-	2	1C17o	028SE	-	瀬戸	山茶碗	50	(13.1)	5.6	(2.7)	ロクロナデ、指オサエ	ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	やや粗、礫・小石を含む	2.5Y8/1	瀬戸7型式	モミガラ痕あり

2 地点遺物観察表 (1)

図版番号	遺物番号	調査区	グリッド	遺構	層位	産地材質	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	色調外面	時期	備考
83	-	2	1C17o	攪乱	-	東濃	山茶碗	完形	12.7	3.5	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	密、礫を含む	2.5Y8/1	大洞東窯式	モミガラ痕あり
84	-	2	1C17o	028SE	-	瀬戸	小皿	完形	7.8	1.6	5.4	ロクロナデ、指オサエ	ロクロナデ、回転糸切り痕、貼付高台	やや粗、砂粒・礫を含む	2.5Y7/1	尾張7型式	
85	-	2	1C17o	028SE	-	瀬戸	小皿	完形	8.4	1.8	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り痕	やや粗、砂粒・礫を含む	7.5YR7/1	尾張7型式	底部に炸裂による割れ
86	-	2	1C11r	029SD	上層	土師器	皿	70	9.9	2.5	3.8	指オサエ	指オサエ	密、砂粒を含む	10YR8/4	15～16世紀	手づくね
87	d-009	2	1C11r	029SD	上層	古瀬戸	燭台	30	-	(11.3)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	密	7.5Y6/3	古瀬戸中期	施釉(灰釉)
88	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	壺	10	(20.1)	(14.0)	-	ロクロナデ、指オサエ	ロクロナデ	粗、砂粒・礫を含む	5YR3/4	常滑10型式	
89	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	10	(45.1)	(14.5)	-	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ	粗、砂粒・礫を含む	10YR4/2	常滑6a型式	押印文
90	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	10	(37.4)	(5.8)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	密、砂粒・礫を含む	7.5Y4/3	常滑6b型式	自然釉
91	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	5	(41.4)	(14.4)	-	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、板ナデ	やや粗、砂粒・礫を含む	10YR7/6	常滑6b型式	
92	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	10	(48.4)	(14.4)	-	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ	やや粗	7.5Y4/3	常滑6b型式	自然釉
93	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	10	(57.0)	(9.9)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	粗、砂粒・礫・小石を含む	5YR4/3	常滑8型式	
94	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	30	40.4	(37.5)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR5/2	常滑9型式	
95	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	5	(39.0)	(10.6)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗、砂粒・礫を含む	5N5/0	常滑9型式	
96	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	10	(41.0)	(11.0)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR5/2	常滑9型式	
97	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	10	(44.0)	(9.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、指オサエ	やや粗、砂粒・礫を含む	5YR4/2	常滑9型式	
98	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	20	(39.1)	(8.1)	-	ナデ、指オサエ	ナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR7/6	常滑9～10型式	
99	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	20	-	-	14.4	ロクロナデ、指オサエ	ヨコナデ	やや粗、砂粒・礫を含む	10YR7/6	常滑9～10型式	
100	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	50	43.2	(39.2)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗、砂粒・礫を含む	10YR7/6	常滑9～10型式	
101	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	40	41.0	(34.0)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗、砂粒・礫を含む	10YR7/6	常滑10型式	
102	d-042	2	1C17o	028SE	-	常滑	甕	10	(38.0)	(10.0)	-	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ	やや粗、礫を含む	5Y2/1	常滑5型式	
103	-	2	1C17o	028SE	-	常滑	甕	5	(46.0)	(4.5)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗、砂粒・礫を含む	5YR6/6	常滑6a型式	
104	-	2	1C17o	028SE	-	常滑	甕	5	(46.0)	(3.6)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗、砂粒・礫・小石を含む	5YR8/4	加瀬端窯型6b型式	
105	-	2	1C17o	028SE	-	常滑	甕	50	39.4	(40.0)	-	ナデ、指オサエ	ヨコナデ	やや粗	7.5Y4/3	常滑7型式	押印文
106	d-043	2	1C17o	028SE	-	常滑	甕	75	48.9	(66.7)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	粗、砂粒・礫・小石を含む	5YR4/3	常滑7型式	押印文
107	-	2	1C14r	188SK	-	金属製品	銅銭	完形	最径2.5	穴辺0.6	-	-	-	-	-	-	景祐元宝 真書(初铸1034年)
108	d-001	2	-	北側	-	金属製品	銅銭	完形	最径2.4	穴辺0.7	-	-	-	-	-	-	熙寧元宝 篆書(初铸1068年)
109	-	2	1C12r・s	137SD	-	弥生土器	深鉢	5	-	(3.6)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	密	10YR8/3	弥生時代中期前葉岩滑式	後半期、端部に巻貝刺突文
110	-	2	1C17o	017SK	-	弥生土器	壺	5	-	(4.2)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	密、砂粒を含む	10YR7/3	弥生時代中期前葉岩滑式	後半期、波状文、直線文
111	-	2	1C10r	029SD	上層	弥生土器	壺 貝殻条痕	10	-	(5.3)	-	ヨコナデ	条痕、ヨコナデ	密、砂粒を含む	10YR8/4	弥生時代中期前葉岩滑式	後半期、突帯指印文、口縁キザミ
112	-	2	1C11r	029SD	上層	弥生土器	甕 貝殻条痕	10	-	(4.3)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	密、砂粒・礫を含む	10YR7/4	弥生時代中期前葉岩滑式	後半期、貝殻条痕
113	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	5	-	(11.5)	-	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	密、砂粒を含む	5YR3/1	中世	
114	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	5	-	(8.6)	-	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	密、砂粒を含む	5YR4/4	15～16世紀	
115	-	2	1C19k	002SE	-	常滑	甕	5	-	(6.3)	-	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	密、砂粒を含む	7.5YR5/6		
116	-	2	1C11r	029SD	-	常滑	鉢	5	-	-	-	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	やや粗、砂粒・礫を含む	5YR4/4	中世	大型品の把手
117	-	2	1C13r	161SK	-	常滑	鉢	5	-	-	-	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	やや粗、砂粒・礫を含む	5YR4/4	中世	大型品の把手
118	-	2	1C19k	002SE	-	瀬戸	碗	20	-	(5.7)	-	ナデ、施釉	施釉	密	5Y8/2	中世末	天目茶碗
119	-	2	1C19k	002SE	-	瀬戸	茶壺	20	-	(2.3)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	密	5YR4/6	近世	
120	-	2	1C19h	攪乱	-	御深井焼	蓋	完形	8.5	1.5	-	ナデ	ナデ、施釉	密	5YR7/1	近世	

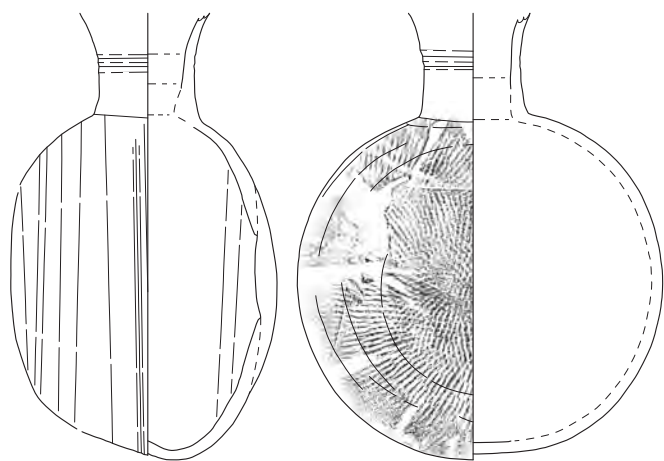
2 地点遺物観察表(2)



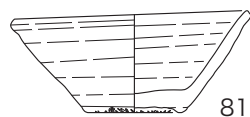


2地点出土遺物実測図(1)

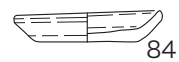




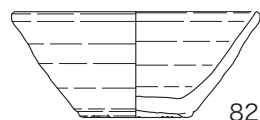
79 : d-028



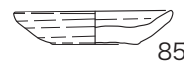
81



84



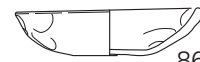
82



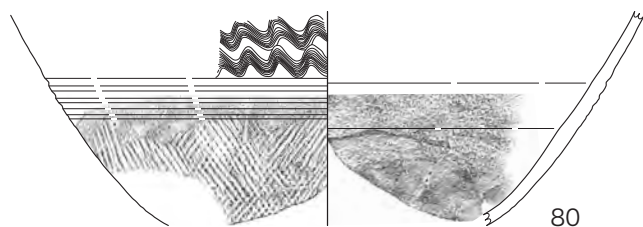
85



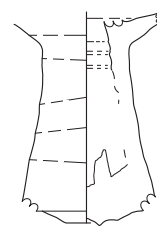
83



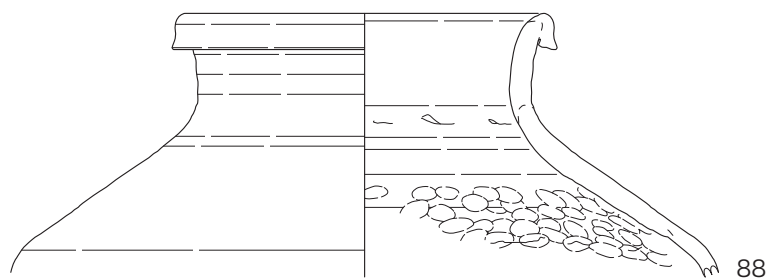
86



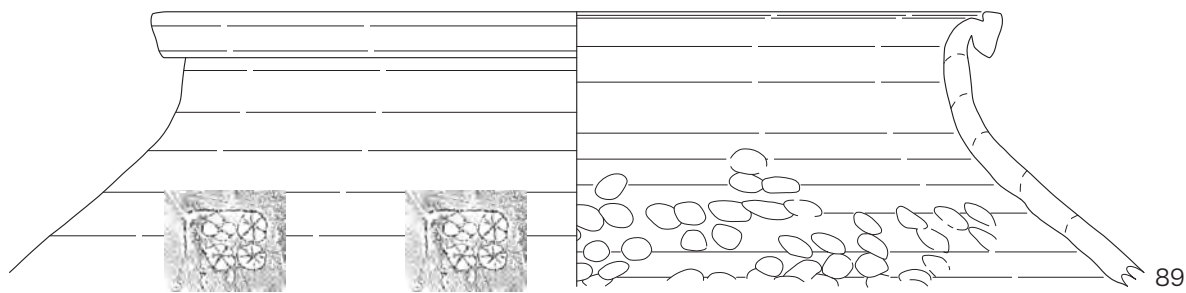
80



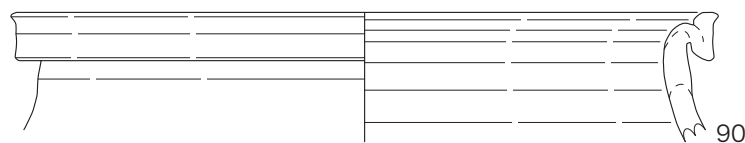
87 : d-009



88

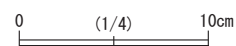


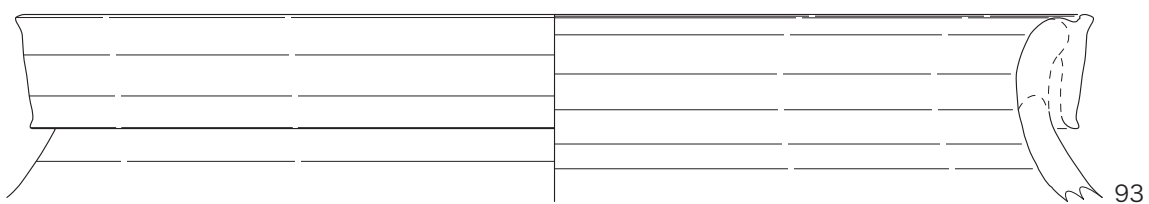
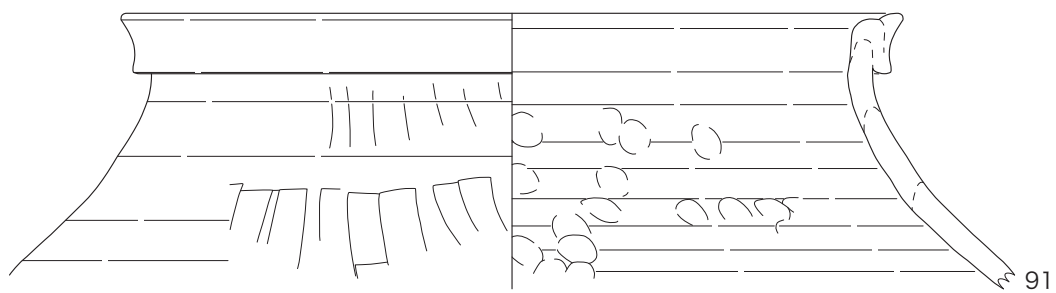
89



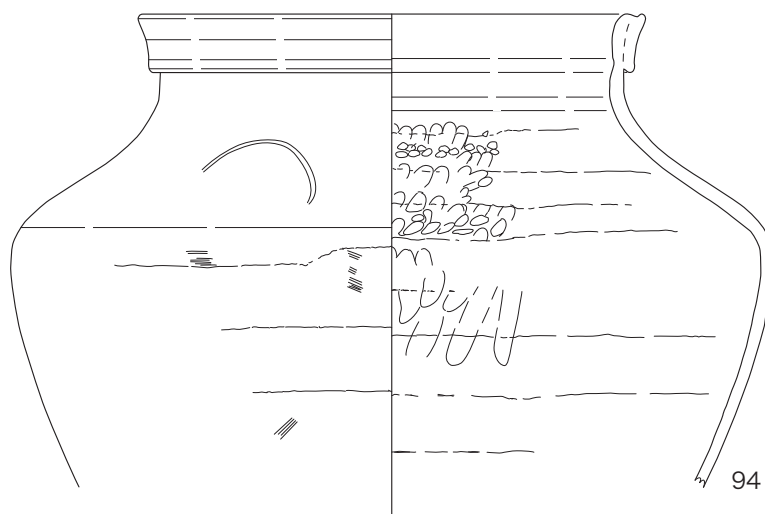
90

2 地点出土遺物実測図 (2)



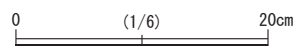
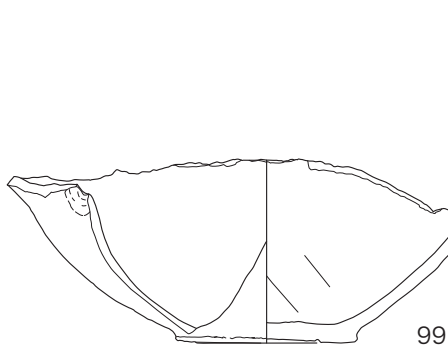
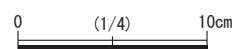
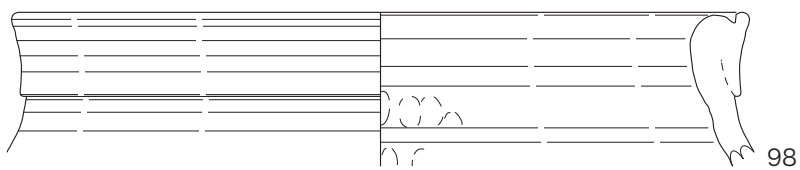
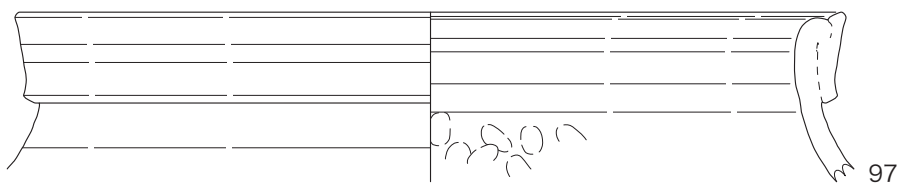
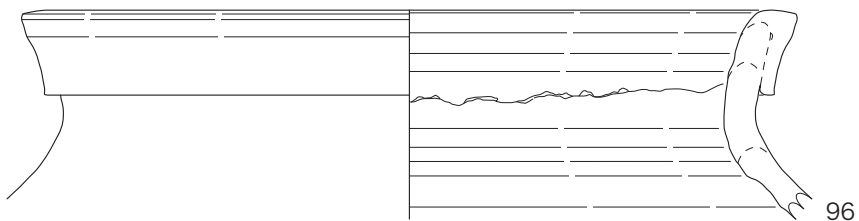
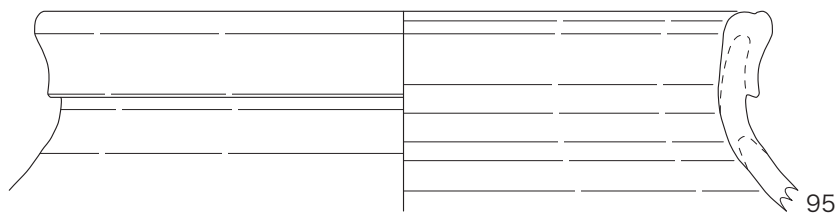


0 (1/4) 10cm

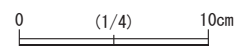
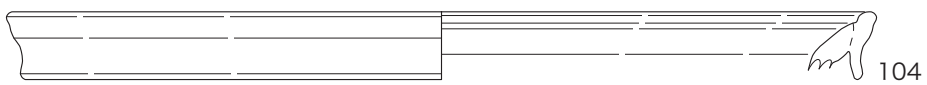
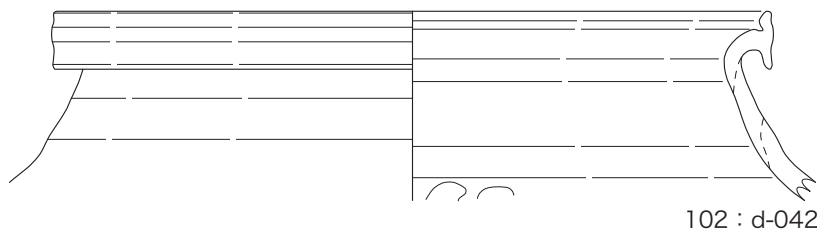
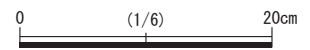
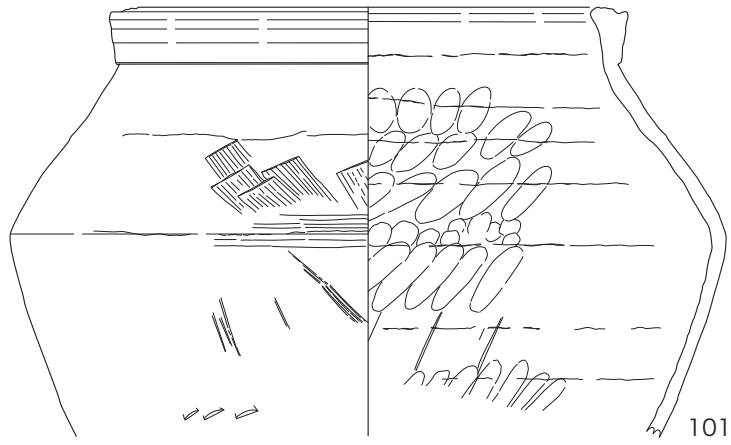
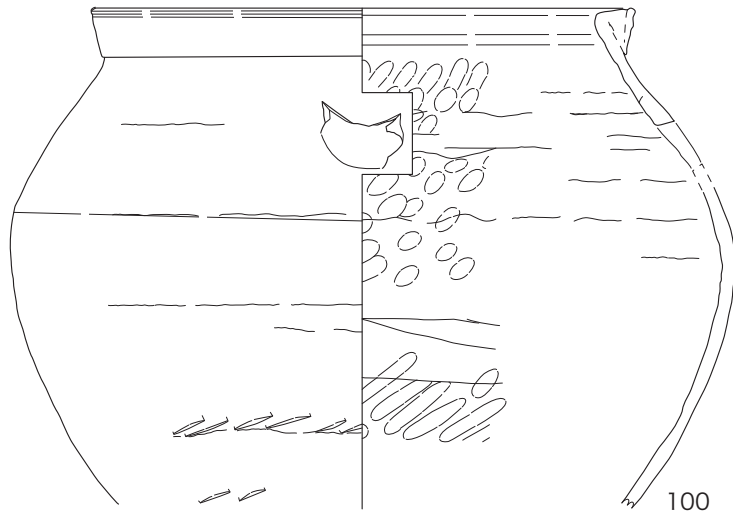


0 (1/6) 20cm

2地点出土遺物実測図(3)

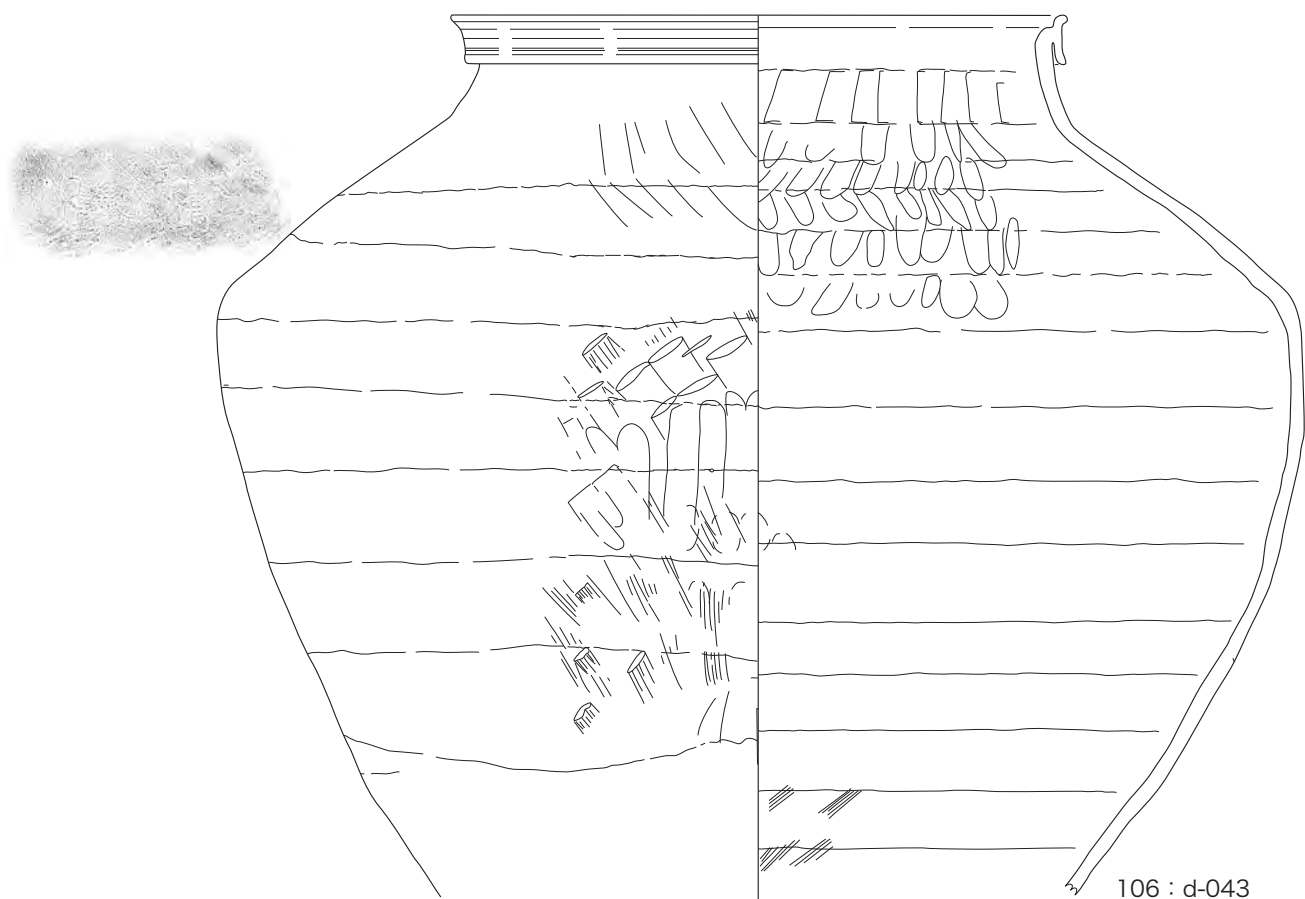
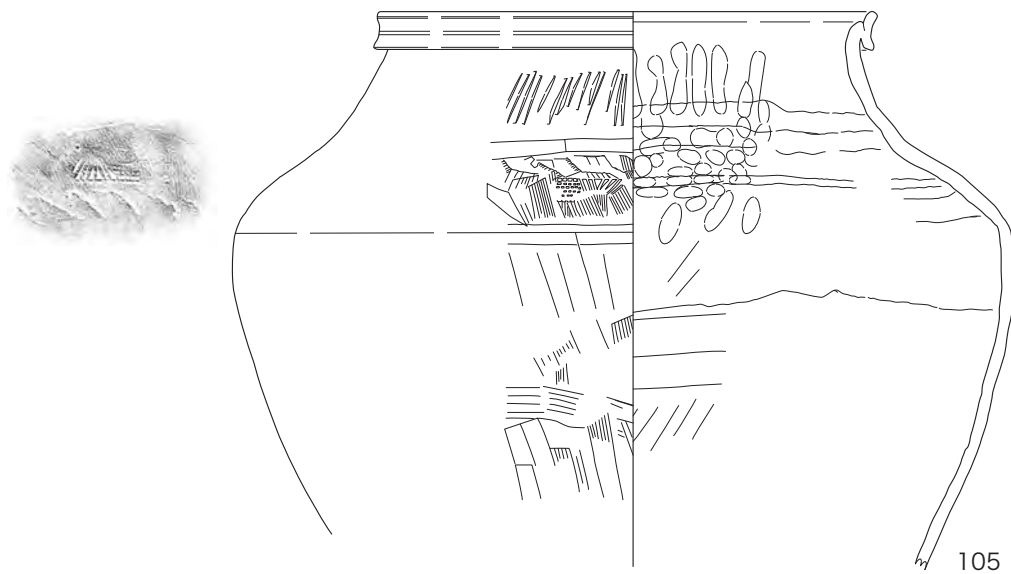


2 地点出土遺物実測図 (4)



2地点出土遺物実測図(5)





0 (1/6) 20cm



0 (1/1) 2cm

2地点出土遺物実測図(6)



2地点出土遺物(1)



53



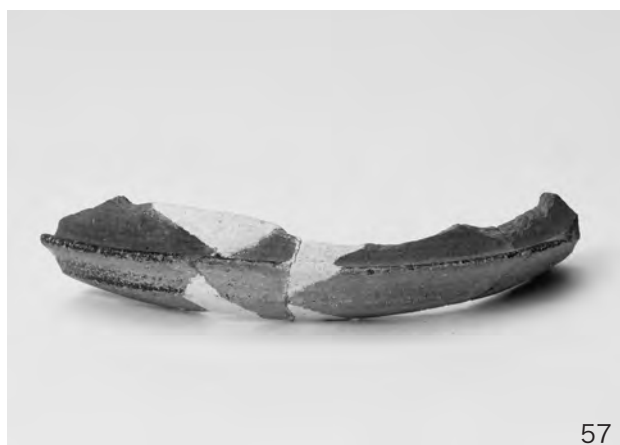
54



55



56



57



58



59



60

2地点出土遺物(2)



2地点出土遺物(3)





69



70



71



72



73



74



75



76



2地点出土遺物(5)



85



86



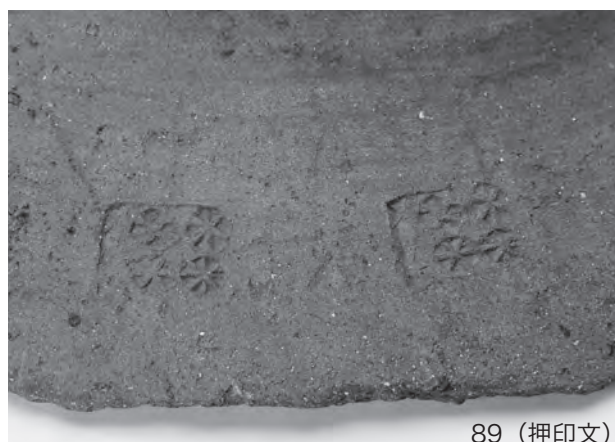
87



88



89



89 (押印文)



90



91

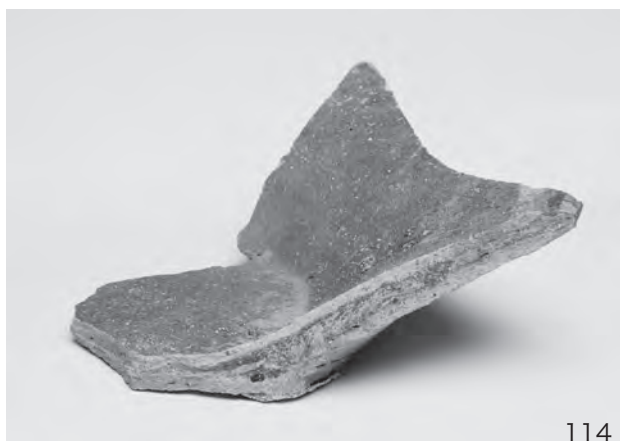


2地点出土遺物(7)





2地点出土遺物(8)





115



116



117



118



119



120

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
001	3地点	2C11o	SP	-	006,009	47	45	8	円形	W	076SIセクション図参照	-	076SI
002	3地点	2C10o	SK	-	005	64	(33)	5	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む。2.10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器	
003	3地点	2C10n	SK	-	010	30	27	17	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
004	3地点	2C10・11n	SK	-	022	35	34	38	円形	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
005	3地点	2C10o	SD	002	-	220	(65)	21	(楕円形)	U	074SZセクション図参照	縄文土器、弥生土器、土師器	074SZ
006	3地点	2C11o	SD	001	021	247	32	11	溝状	U	075SZセクション図参照	弥生土器	075SZ
007	3地点	2C10m	SK	033,038,039,053,060,066,070	-	198	(92)	28	(楕円形)	逆台形	010SIセクション図参照	縄文土器、弥生土器、土師器、山茶碗、刀子、磨製石斧、尖頭器、スクレイパー、チップ	010SI
008	3地点	2C10m	SK	-	010,071	70	(49)	2	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 粗粒砂混じる	弥生土器、土師器	-
009	3地点	2C10o	SK	001	-	59	(27)	11	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
010	3地点	2C10m・n	SI	003,008,019,025,033,035,036,037,038,039,040,043,048,049,050,053,055,060,	067,068,073	498	458	35	方形	逆台形	010SIセクション図参照	弥生土器、土師器、山茶碗、銅銭、チップ、磁石か	010SI
011	3地点	2C11n	SK	-	-	53	40	13	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
012	3地点	2C11n, 2C10~11o	SK	-	-	252	77	20	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
013	3地点	2C11o	SP	-	-	76	32	18	溝状	U	076SIセクション図参照	土師器	076SI
014	3地点	2C10n	SK	-	-	45	38	61	楕円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂混じる 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	弥生土器、土師器、山茶碗	
015	3地点	2C11o	SP	-	-	50	44	19	円形	U	076SIセクション図参照	-	076SI
016	3地点	2C11n	SK	-	-	36	33	24	円形	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	-	
017	3地点	2C11n	SK	-	-	42	33	8	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、山茶碗	
018	3地点	2C11n	SK	-	-	31	31	9	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
019	3地点	2C10n	SK	-	010	31	25	17	楕円形	U	10YR2/2黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器、山茶碗	
020	3地点	2C11o	SP	-	-	44	42	9	円形	U	076SIセクション図参照	-	076SI
021	3地点	2C11o	SK	006	-	140	95	20	方形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
022	3地点	2C10n	SK	004	-	(30)	44	37	(楕円形)	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	弥生土器	
023	3地点	2C10n	SK	-	-	32	30	16	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
024	3地点	2C10m	SP	-	029	30	26	19	円形	U	010SIセクション図参照	土師器	010SI
025	3地点	2C10m	SP	-	010	32	25	15	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
026	3地点	2C10m	SK	010	-	39	(27)	15	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
027	3地点	2C10m	SP	-	-	19	14	7	楕円形	U	010SIセクション図参照	-	010SI
028	3地点	2C10m	SP	-	-	20	15	8	楕円形	U	010SIセクション図参照	-	010SI
029	3地点	2C10m	SP	024	-	12	11	25	円形	U	010SIセクション図参照	-	010SI
030	3地点	2C10m	SP	-	-	13	12	24	円形	U	010SIセクション図参照	-	010SI
031	3地点	2C10m	SP	-	-	17	13	8	楕円形	U	010SIセクション図参照	-	010SI
032	3地点	2C10m	SP	-	-	44	37	13	円形	U	010SIセクション図参照	土師器	010SI
033	3地点	2C10m	SK	-	007,010	43	35	63	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗	
034	3地点	2C9n	SK	-	-	(72)	(44)	14	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
035	3地点	2C9n	SK	-	010,047,068	94	46	14	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂混じる	縄文土器、弥生土器、土師器、山茶碗、剥片石器	
036	3地点	2C9m・n	SK	-	010,045,056,073	(165)	127	18	(不定形)	-	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR4/1褐灰色シルトブロックを含む	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、チップ、磁石	

3地点遺構観察表(1)

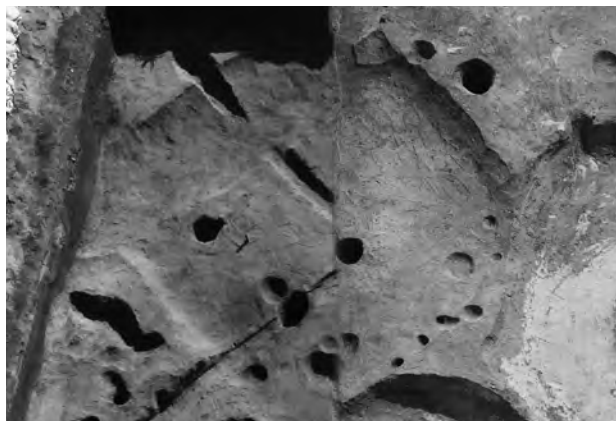


遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
037	3地点	2C10m	SK	-	010,065	57	(26)	22	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR2/3黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
038	3地点	2C10n	SK	-	007,010	47	25	10	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、須恵器	
039	3地点	2C10m	SK	-	007,010	52	39	11	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
040	3地点	2C9m	SK	-	010,050,068	49	32	16	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
041	3地点	2C9m	SK	-	-	42	34	18	円形	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	弥生土器、山茶碗、陶器	
042	3地点	2C9m	SK	-	061	41	(29)	11	(不定形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
043	3地点	2C9m	SK	-	010,069	24	22	15	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器	
044	3地点	2C9m	SK	-	046	46	32	35	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	弥生土器	
045	3地点	2C9n	SK	036	073	(57)	(41)	20	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
046	3地点	2C9m	SK	044	-	(68)	(51)	37	(溝状)	W	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土	縄文土器、弥生土器、陶器、土師質土器	
047	3地点	2C9m	SK	035	058	(93)	60	53	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	縄文土器、弥生土器、山茶碗、土師質土器	
048	3地点	2C10n	SK	-	010,055,073	54	(34)	25	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂	縄文土器	
049	3地点	2C10m	SK	010	071	53	44	22	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂	縄文土器	
050	3地点	2C9m	SK	040	010,068	(39)	37	13	(円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	縄文土器	
051	3地点	2C9m	SK	-	072	(60)	(43)	9	(楕円形)	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	縄文土器	
052	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	069SKと同一
053	3地点	2C10m	SK	-	007,010,069	(28)	(18)	8	(楕円形)	U	10YR2/2黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
054	3地点	2C9m	SK	-	063,064	75	59	31	楕円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
055	3地点	2C10n	SK	048	010	(57)	(39)	25	(楕円形)	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	-	
056	3地点	2C9n	SK	036	-	(44)	(22)	13	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
057	3地点	2C9m	SK	-	-	(36)	(36)	44	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、陶器	
058	3地点	2C9m	SK	047	-	(38)	(33)	28	(楕円形)	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	土師器	
059	3地点	2C9m	SK	-	-	54	36	37	楕円形	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
060	3地点	2C10n	SK	-	007,010	35	28	26	円形	U	10YR2/3黒褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
061	3地点	2C9m	SK	042	062,063	111	34	33	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
062	3地点	2C9m	SK	061	-	(43)	37	35	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
063	3地点	2C9m	SK	054,061	-	34	(21)	39	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器	
064	3地点	2C9m	SK	054	-	27	(24)	22	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師器	
065	3地点	2C10n	SP	037	-	43	(35)	37	(円形)	U	010SIセクション図参照	弥生土器	010SI
066	3地点	2C9n	SP	-	-	41	38	21	円形	U	010SIセクション図参照	弥生土器	010SI
067	3地点	2C10m	SK	010	071	38	35	15	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
068	3地点	2C9m	SK	010,035,040,050	-	35	32	18	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
069	3地点	2C10m	SP	043,053	070	54	44	52	円形	U	010SIセクション図参照	縄文土器、弥生土器、土師器	010SI
070	3地点	2C10m	SP	069	-	49	(43)	22	(円形)	U	010SIセクション図参照	弥生土器、土師器	010SI
071	3地点	2C10m	SP	008,049,067	-	55	50	28	円形	U	010SIセクション図参照	弥生土器、土師器	010SI
072	3地点	2C9m	SK	051	-	27	(16)	46	(円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土	-	
073	3地点	2C9・10n	SD	010,036,045,048	-	(428)	160	57	(溝状)	U	075SZセクション図参照	弥生土器、剥片、チップ	075SZ
074	3地点		SZ	-	-	-	-	-	-	-	074SZセクション図参照	-	005SD・073SD
075	3地点		SZ	-	-	-	-	-	-	-	075SZセクション図参照	-	006SD・012SD
076	3地点		SI	-	-	222	210	-	-	-	076SIセクション図参照	-	竪穴建物跡か 001SP・013SP・015SP・020SP

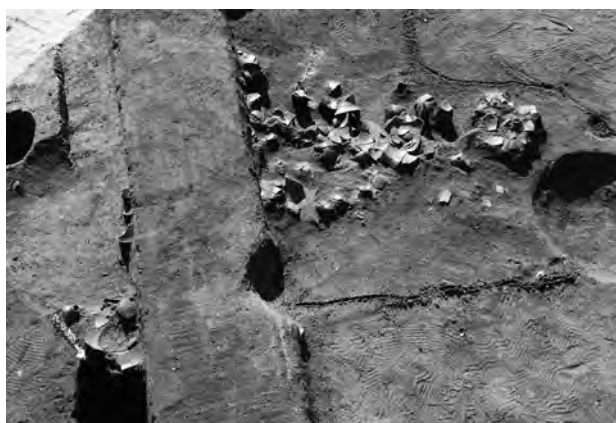
3地点遺構観察表(2)



3 地点調査区全景 (北西から)



010SI 完掘 (北西から)



010SI (007SK) 遺物出土状況 (北東から)



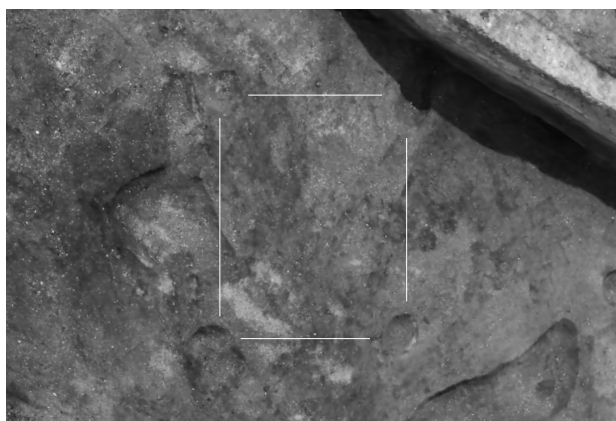
074SZ (073SD) 完掘 (南から)



075SZ (006SD) 完掘 (南から)



075SZ (012SD) 完掘 (南西から)

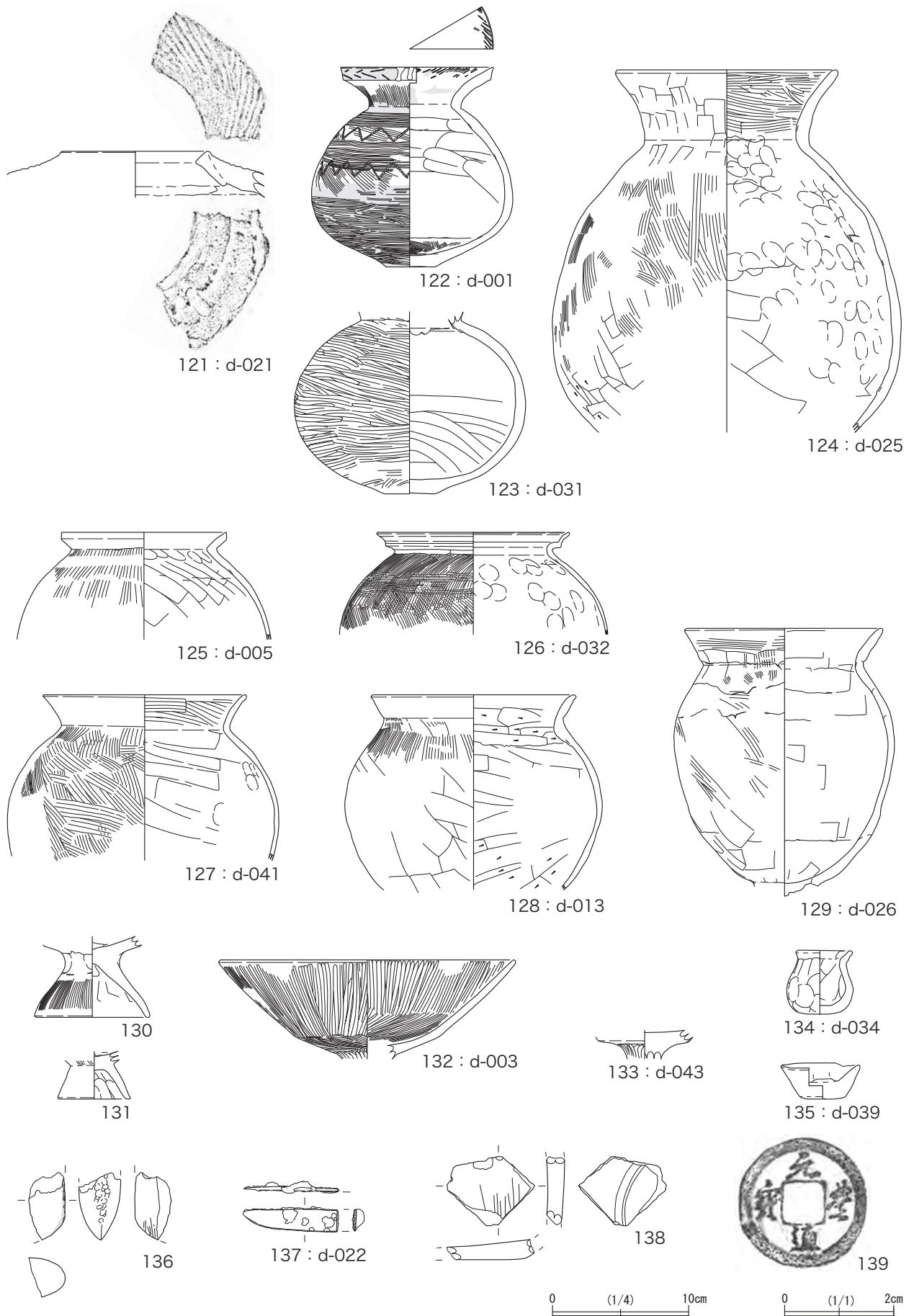


076SI 完掘 (北から)

図版 番号	遺物 番号	調査 区	グリッド	遺構	層位	産地 材質	器種	残存率 (%)	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	色調 外面	時期	備考
121	d-021	3	2C10o	005SD	-	弥生 土器	内傾 口縁 土器	10	(11.0)	(3.4)	-	ナデ、粘土ひも痕	ナデ、貝殻条痕	粗、砂粒を含む	5YR6/6	弥生時代 中期前葉	
122	d-001	3	-	-	表土	土師器	壺 ハバレス スタイル	ほぼ 完形	11.2	14.6	3.6	指ナデ、ナデ、ハ ケ、刺突	ナデ、ミガキ、ハケ、 刺突、直線、鋸歯文	密、砂粒・礫を含む	10R5/8	廻間Ⅰ式	突帯欠損、内外面 赤彩あり
123	d-031	3	2C10n	007SK	-	土師器	壺	80	-	(13.3)	3.7	指ナデ	ヨコミガキ	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR6/8	廻間Ⅲ式前半	
124	d-025	3	2C9n	007SK	-	土師器	壺	40	(16.4)	(26.6)	-	ミガキ、ハケ、指 オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ、 ハケ	粗、砂粒・小石を含 む	5YR5/8		
125	d-005	3	2C10m	007SK	-	土師器	甕	30	(12.1)	(7.8)	-	ヨコナデ、指オサ エ、板ナデ	タテハケ、ヨコナデ	粗、砂粒を含む	5YR6/8	廻間Ⅱ式	
126	d-032	3	2C10n	007SK	-	土師器	S字甕	10	14.2	7.5	-	ヨコナデ、指オサ エ	ハケ、ヨコナデ、ヨ コハケ	粗、砂粒を含む	5YR6/8	廻間Ⅱ式後半	
127	d-041	3	2C10n	007SK	-	土師器	甕	40	14.9	(12.2)	-	指オサエ、板ナデ、 ヨコナデ	ハケ、ヨコナデ	密、礫を含む	2.5YR6/6	廻間Ⅲ式	
128	d-013	3	2C10m	007SK	-	土師器	甕	10	(15.0)	(12.3)	-	板ナデ、ケズリ、 ヨコナデ	ハケ、ハケのちヨコ ナデ、板ナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR6/6	廻間Ⅲ式	
129	d-026	3	2C9n	007SK	-	土師器	台付甕	70	14.5	(20.1)	-	板ナデ	ハケ、ヨコハケ、板 ナデ、指オサエ	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR7/6	廻間Ⅲ式後半	
130	-	3	2C10m	010SI	-	土師器	台付甕	20	-	(5.9)	(8.3)	板ナデ、指オサエ	ナデ、ハケ、指ナデ	やや粗、礫を含む	10YR5/2		
131	-	3	2C10m	010SI	-	土師器	台付甕	50	-	(3.5)	5.2	板ナデ	ハケ、ナデ	粗、砂粒を含・礫を含 む	10YR6/4		
132	d-003	3	2C10m	007SK	-	土師器	高坏	40	(21.8)	(7.2)	-	ミガキ	ミガキ	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR7/6	廻間Ⅱ式	
133	d-043	3	2C10m	007SK	-	土師器	高坏	10	-	(2.0)	-	摩耗の為調整不明	ナデ、ミガキ	やや粗	5YR6/8		
134	d-034	3	2C10n	007SK	-	土師器	ミニ チュア 甕	ほぼ 完形	4.2	4.7	-	指オサエ、ナデ	指オサエ、ナデ	粗	7.5YR7/6		
135	d-039	3	2C9n	007SK	-	土師器	燗台?	ほぼ 完形	5.8	2.5	3.3	ナデ	ナデ	やや粗、砂粒・礫を含 む	7.5YR8/6		特殊器種の摘み蓋 の可能性
136	-	3	2C10n	010SI	-	石器	磨製 石斧	5	最大幅 (2.7)	最大長 (4.9)	厚み (2.9)	磨り、敲打痕、被 熱	-	-	2.5Y6/1		被熱あり
137	d-022	3	2C10m	007SK	-	金属 製品	刀子	10	最大幅 (1.9)	最大長 (7.0)	厚み (0.9)	-	-	-	10YR3/3		
138	-	3	2C9n	036SK	-	陶器	砥石	-	最大幅 (6.5)	最大長 (5.1)	厚み (1.5)	砥面	ヘラケズリ	やや密、砂粒を含む	10YR8/2		陶器片を砥石に転 用
139	d-015	3	2C10m	-	検出	金属 製品	銅銭	完形	直径 2.3	六辺 0.7	-	-	-	-	-		元豊通宝 真書 (初铸 1078年)

3 地点遺物観察表





3地点出土遺物実測図





3地点出土遺物(1)



3地点出土遺物(2)



3地点出土遺物(3)

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
001	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	013ST内貝層(247SM)
002	4地点	2B17q	SK	-	029,035, 042,066, 068,112	(181)	114	32	(不整形)	U	貝層	弥生土器、土師器、山 茶碗、陶器、土師質土 器、骨	
003	4地点	2B17・ 18q	ST	050	030,033, 034,036, 037,060, 061,062	(367)	222	47	長方形	逆台形	003STセクション図参照	弥生土器、土師器、山 茶碗、陶器、土師質土 器、瓦、加工円盤、緑 色片岩礫、銅銭、骨	
004	4地点	2B17r・q	ST	-	058,060, 062,087	347	183	93	長方形	逆台形	004STセクション図参照	弥生土器、土師器、山 茶碗、陶器、磁器、土 師質土器	
005	4地点	2B17q	SK	-	025,059	91	(65)	15	(楕円形)	U	貝層	-	
006	4地点	2B18o	SK	-	020,024	(66)	51	24	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色シルト質砂	-	
007	4地点	2B18p	SK	-	024,239	47	43	41	楕円形	U	10YR4/2にぶい黄褐色中粒砂	-	
008	4地点	2B17o・p	SK	-	010,027, 047,055, 241	243	(238)	31	(不整形)	逆台形	10YR3/2黒褐色シルト質砂 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂ブロックを含む	弥生土器、土師器、山 茶碗、土師質土器、瓦	
009	4地点	2B16p	SK	-	025,125	45	37	25	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師質土器	
010	4地点	2B17p	SK	008	-	125	(78)	21	(楕円形)	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師質土器	
011	4地点	2B17n	SK	-	014,021, 109	(368)	(213)	46	(方形)	U	10YR3/2黒褐色中砂	弥生土器、須恵器、陶 器、土師質土器、瓦	
012	4地点	2B16・ 17m・n	SX	-	136,160, 194,197	(538)	157	39	溝状	U	10YR3/3暗褐色中砂	銅銭	
013	4地点	2B17q	ST	001	068,091, 110,112	196	165	32	隅丸方形	逆台形	013STセクション図参照	弥生土器、土師器、山 茶碗、陶器、土師質土 器	
014	4地点	2B17n	SK	011	015~ 019,048	(290)	184	29	(不整形)	逆台形	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	山茶碗、土師質土器	
015	4地点	2B17n	SK	014	-	(53)	41	13	(楕円形)	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂 粗粒砂を含む	-	
016	4地点	2B17n	SK	014	-	34	28	12	楕円形	U	10YR3/4暗褐色粗粒砂	-	
017	4地点	2B17n	SK	014	-	35	28	22	楕円形	U	10YR3/4暗褐色粗粒砂	-	
018	4地点	2B17n	SK	014	-	56	38	23	楕円形	U	10YR3/4暗褐色粗粒砂	-	
019	4地点	2B17n	SK	014	-	38	32	36	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
020	4地点	2B18o	SK	006	-	(41)	64	40	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 粗粒砂混じる	土師器、山茶碗	
021	4地点	2B17n	SK	011	-	39	(30)	14	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
022	4地点	2B17o	SK	-	-	83	(34)	11	(楕円形)	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の 10YR4/1褐灰色粘土粒及び炭化物を含 む	-	
023	4地点	2B17n	SK	-	-	81	(36)	42	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂 混じる	-	
024	4地点	2B18o	SK	006,007	044,239, 240,241	(137)	(72)	21	(楕円形)	逆台形	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂 混じる	土師器、山茶碗、土師 質土器	
025	4地点	2B16q	SD	005,009	045,091, 116,125, 218	391	56	15	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、陶器、土師質 土器	
026	4地点	2B16n	SK	-	057,195	106	69	39	不整形	漏斗	10YR3/3 暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐 色中粒砂と10YR4/6褐色中粒砂の斑土	陶器	
027	4地点	2B17・ 18p	SK	008	047	112	41	43	楕円形	逆台形	10YR4/2にぶい黄褐色中粒砂 細粒砂 混じる	-	
028	4地点	2B16n	SK	-	198,201	105	83	20	楕円形	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
029	-	-	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	整地層
030	4地点	2B18q	SK	003	-	66	(34)	19	(円形)	皿	10YR2/2黒褐色中粒砂 貝混じる	-	
031	4地点	2B18q	SK	-	032	(36)	(34)	8	(円形)	U	10YR2/2黒褐色中粒砂 多量の貝混じ る	陶器	
032	4地点	2B18q	SK	031	-	(89)	(36)	18	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂 混じる	陶器	
033	4地点	2B17q	SK	003	-	43	(13)	16	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 貝混じる	-	
034	4地点	2B17q	SK	003	061	(64)	52	37	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 粗粒砂混じる	土師器、陶器	
035	4地点	2B17q	SK	002	-	68	48	49	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR5/6黄褐 色中粒砂の斑土	山茶碗	
036	4地点	2B17q	SK	-	061	40	35	13	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師質土器	
037	4地点	2B17q	SK	003	-	197	121	36	方形	逆台形	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂 混じる	陶器	
038	4地点	2B17・ 18q	SK	-	041,062	68	43	23	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	山茶碗、土師質土器	
039	4地点	2B17p	SK	-	074,084, 119,163	83	79	36	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 貝混じる	土師器、土師質土器	
040	4地点	2B17q	SK	-	108	48	45	16	円形	U	10YR2/2黒褐色中粒砂 炭化物を含む	-	
041	4地点	2B17q	SK	038	-	68	68	22	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 貝混じる	-	

4 地点遺構観察表 ( 1 )



遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
042	4地点	2B17q	SK	002	-	78	61	48	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
043	4地点	2B17q	SK	-	059,216	52	47	21	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
044	4地点	2B17o	SK	-	024,239,240	67	47	39	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
045	4地点	2B16q	SK	025	125	79	65	36	楕円形	U	10YR3/4暗褐色粗粒砂 貝混じる	土師器	
046	4地点	2B18p	SK	-	050,063	53	(44)	19	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 多量の細粒砂を含む	土師器、陶器、骨	
047	4地点	2B17p	SK	027	008	85	(48)	21	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色粗粒砂	-	
048	4地点	2B17n	SK	014	-	170	99	22	(不整形)	U	10YR4/4褐色中粒砂 粗粒砂混じる	-	
049	4地点	2B18p	SK	-	063	40	35	20	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	陶器、土師質土器	
050	4地点	2B18q	SX	046	003	(180)	(80)	-	(不整形)	U	10YR3/4暗褐色粗粒砂 腐蝕貝混じる	土師器、陶器、土師質土器、骨	
051	4地点	2B16q	SK	-	-	53	37	14	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
052	4地点	2B18p	SK	-	-	31	28	15	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
053	4地点	2B17p	SK	-	-	49	48	37	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
054	4地点	2B17p	SK	008	-	47	43	24	円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
055	4地点	2B17o	SK	008	-	78	(51)	24	(不整形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗、土師質土器	
056	4地点	2B16p	SK	-	067,114,115	129	55	24	不整形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 破砕貝を含む	土師器、陶器	
057	4地点	2B17n	SK	018,026	-	(68)	41	8	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
058	4地点	2B17r	SK	004	-	54	(14)	14	(円形)	U	10YR4/2にぶい黄褐色中粒砂	-	
059	4地点	2B17q	SK	005,043	-	(71)	49	22	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
060	4地点	2B17q	SK	003,004	-	95	66	39	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
061	4地点	2B17q	SK	030,034,036	-	43	37	11	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器	
062	4地点	2B17q	SD	004,038	087	355	47	14	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗、陶器	
063	4地点	2B18p	SK	046,049,063	-	162	(32)	26	(不整形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師質土器、骨	
064	4地点	2B17q	SK	002	-	61	32	32	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
065	4地点	2B17p	SK	-	081,196	107	67	17	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、土師質土器	
066	4地点	2B17p	SK	002,071	-	41	36	18	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
067	4地点	2B16p	SK	056	114	(134)	(35)	31	(楕円形)	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂 破砕貝を含む	-	
068	4地点	2B17q	SK	002,013	112,163	92	(86)	10	(楕円形)	W	10YR4/2にぶい黄褐色中粒砂	土師器、山茶碗、陶器	
069	4地点	2B17p	SK	-	196	46	42	11	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
070	4地点	2B17p	SK	-	196	59	47	10	楕円形	逆台形	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師質土器	
071	4地点	2B17p	SK	-	066,076,078,196	187	61	36	不整形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土貝層	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
072	4地点	2B17p	SK	-	-	135	63	41	不整形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土貝層	弥生土器、山茶碗、陶器、土師質土器	
073	4地点	2B16p	SK	-	089,134	67	53	9	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土貝層 10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂を含む	土師器、山茶碗、土師質土器	
074	4地点	2B17p	SK	039,084	075,163	29	27	8	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色シルト	-	
075	4地点	2B17p	SK	074	-	57	32	18	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師質土器	
076	4地点	2B17p	SK	071	-	(130)	82	24	(不整形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土貝層	土師器、山茶碗、陶器	
077	4地点	2B17p・q	SK	-	-	113	(37)	24	(不整形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	土師質土器	
078	4地点	2B17p	SK	071	196	(131)	82	25	(不整形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 破砕貝混じる	-	
079	4地点	2B17p	SK	-	-	55	28	22	楕円形	W	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
080	4地点	2B15p	SK	-	166,227,237	162	140	56	(楕円形)	逆台形	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土貝層	弥生土器、土師器、山茶碗、瓦器、陶器、磁器、土師質土器、瓦、土錘、磁石、刀子	
081	4地点	2B17p	SK	065	196	37	36	22	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
082	4地点	2B17p	SK	-	-	31	29	15	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
083	4地点	2B17p	SK	-	-	55	32	16	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
084	4地点	2B17p	SK	034	074,119	123	66	46	楕円形	逆台形	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂混じる	弥生土器	
085	4地点	2B16p	SK	-	115,119	57	29	6	楕円形	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師質土器	

4 地点遺構観察表 (2)

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
086	4地点	2B15p	SK	210	106	(82)	54	17	(楕円形)	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 破砕貝層	白磁、土師質土器、平瓦	
087	4地点	2B17q	SK	004,062	-	191	(75)	36	(楕円形)	-	10YR3/3暗褐色中粒砂 腐蝕貝を含む 10YR4/4褐色中粒砂 腐蝕貝を含む	土師器、磁器	
088	4地点	2B15p	SK	-	106	81	64	9	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土貝層	磁器	
089	4地点	2B16p	SK	073	134	48	39	53	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 破砕貝層	-	
090	4地点	2B16p	SK	-	099	61	60	14	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 破砕貝層	土師器	
091	4地点	2B16・17q	SK	013,025	091,110, 116,119, 153,200	363	243	40	方形	逆台形	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂及び腐蝕貝を含む	土師器、山茶碗、陶器、瓦	
092	4地点	2B16p	SK	-	-	33	30	12	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
093	4地点	2B16o・p	SK	-	094,183	63	48	14	楕円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
094	4地点	2B16o・p	SK	093	-	98	57	41	不整形	漏斗	10YR3/4暗褐色中粒砂 腐蝕貝混じる	-	
095	4地点	2B16・17o	SK	-	196,205	120	(82)	29	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器、灰釉陶器、山茶碗	
096	4地点	2B17n	SK	-	109	62	57	32	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
097	4地点	2B17n	SK	-	100	114	57	50	不整形	W	10YR3/4暗褐色中粒砂 炭化物を含む	土師器	
098	4地点	2B15p	SK	-	166,178, 237	(193)	123	75	(楕円形)	逆台形	10YR3/3暗褐色中粒砂 破砕貝層	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
099	4地点	2B16p	SK	090	104,134, 167	230	82	47	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土貝層	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
100	4地点	2B17n	SK	097	-	52	39	22	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
101	4地点	2B16n	SK	-	-	42	37	16	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
102	4地点	2B17n	SK	-	-	46	40	39	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
103	4地点	2B16n	SK	-	-	48	36	17	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
104	4地点	2B16p	SK	099	-	99	(55)	14	(楕円形)	漏斗	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の腐蝕貝を含む	-	
105	4地点	2B17p	SK	187	113,196, 236	184	89	60	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 粘土粒混じる 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土	弥生土器、土師器、陶器、土師器、土師質土器、加工円盤、磁石	
106	4地点	2B14・15p	SK	086,088, 210	170	143	(131)	67	(楕円形)	U	北セクション図参照	陶器、磁器、土師質土器、加工円盤、磁石	
107	4地点	2B16o	SK	-	120,165, 168,196	136	(64)	35	(不整形)	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の炭化物を含む	土師器、須恵器、山茶碗、土師質土器、鏝、鉄釘	
108	4地点	2B17q	SK	040	219	75	47	19	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の腐蝕貝を含む	-	
109	4地点	2B17n	SK	011,096	-	83	(55)	32	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂混じる	-	
110	4地点	2B16・17q	ST	013,091	-	(176)	(149)	15	隅丸方形	逆台形	110STセクション図参照	土師器、陶器、土師質土器、茶臼	
111	4地点	2B14n・o	SK	-	158,188	151	(93)	29	(不整形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 破砕貝層	-	
112	4地点	2B17q	SK	002,013, 068	-	160	103	33	不整形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 粗粒砂混じる 10YR3/4暗褐色粗粒砂	-	
113	4地点	2B17p	SK	105	-	21	(21)	8	(円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂	-	
114	4地点	2B16p	SK	056,067	-	136	(59)	35	(楕円形)	W	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	山茶碗	
115	4地点	2B16p	SK	056,085	-	152	104	58	楕円形	W	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 腐蝕貝・粗粒砂を含む	山茶碗	
116	4地点	2B16q	SK	025,091	-	57	(42)	41	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂混じる	-	
117	4地点	2B15n	SK	-	177,189	93	40	35	楕円形	逆台形	10YR3/3暗褐色中粒砂 腐蝕貝を含む	陶器、磁器、土師質土器、鉄釘	
118	4地点	2B16i	SK	-	-	38	(19)	29	(円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
119	4地点	2B16・17p	SK	085,091	153	208	88	34	(不整形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
120	4地点	2B16o・p	SK	107	168,187	161	85	72	不整形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 少量の炭化物を含む	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
121	4地点	2B17m	SK	-	-	(40)	(28)	45	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の炭化物を含む	-	
122	4地点	2B16m	SK	-	-	39	(28)	36	(円形)	漏斗	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
123	4地点	2B14o	SK	-	-	182	(52)	39	(不整形)	W	北セクション図参照	山茶碗、陶器、土師質土器、瓦	
124	4地点	2B16q	SK	091	-	37	36	41	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
125	4地点	2B16q	SK	009,025, 045	232	215	65	8	(不整形)	皿	10YR3/4暗褐色中粒砂 破砕貝混じる	-	
126	4地点	2B16m	SK	-	-	29	(27)	25	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
127	4地点	2B16n	SK	-	-	26	(25)	30	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
128	4地点	2B16n	SK	-	-	29	(26)	20	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	

4 地点遺構観察表 (3)

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
129	4地点	2B16p	SK	-	-	122	51	12	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
130	4地点	2B14o	SK	-	151,162,192,209,231	183	150	65	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 少量の炭化物を含む	-	
131	4地点	2B16n	SK	-	-	29	(24)	28	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 多量の破砕貝を含む 混土具層	-	
132	4地点	2B16n	SK	-	-	34	32	30	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
133	4地点	2B17n	SK	-	-	(30)	28	31	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
134	4地点	2B16p	SD	073,089,099	167	(124)	65	19	(不整形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	-	
135	4地点	2B16o	SK	-	150,176,179	(158)	116	47	(楕円形)	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR4/4褐色中粒砂・炭化物を含む	弥生土器、土師器、土師質土器	
136	4地点	2B16m	SE	012,160	-	350	(309)	40	(方形)	-	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗、陶器、土師質土器	
137	4地点	2B16o	SK	-	173,199,204	131	25	9	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の腐蝕貝を含む	弥生土器、土師器	
138	4地点	2B16l・m	SK	-	-	68	(30)	15	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
139	4地点	2B16l	SK	-	-	74	62	15	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
140	4地点	2B16m	SK	-	-	40	27	53	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
141	4地点	2B16m	SK	-	-	32	25	41	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
142	4地点	2B16m	SK	-	-	25	17	21	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
143	4地点	2B16m	SK	-	-	32	18	16	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
144	4地点	2B16m	SK	-	-	19	17	38	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
145	4地点	2B17m	SK	-	-	28	24	13	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	瓦器	
146	4地点	2B17m	SK	-	-	36	26	20	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
147	4地点	2B16o	SK	-	152	(61)	(38)	17	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器、土師器	
148	4地点	2B16l	SK	-	211	35	27	34	楕円形	U	10YR4/4褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を横縞状に含む	-	
149	4地点	2B16o	SK	-	-	49	31	20	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	土師質土器	
150	4地点	2B16o	SK	135	183	(101)	88	61	(楕円形)	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR4/4褐色中粒砂及び粗粒砂混じる	-	
151	4地点	2B14o	SK	130	162,181	(121)	91	59	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 破砕貝層	-	
152	4地点	2B16o	SK	147	-	31	(21)	22	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
153	4地点	2B16・17q	SK	110,119	039	64	(38)	25	(円形)	U	10YR4/4褐色中粒砂 粗粒砂混じる	-	
154	4地点	2B16l	SK	-	-	26	17	22	(円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
155	4地点	2B16n	SK	-	-	54	28	18	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
156	4地点	2B16n	SK	-	234	48	32	32	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器	
157	4地点	2B16n	SK	-	-	41	33	16	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
158	4地点	2B14o	SK	111	-	238	(86)	56	(不整形)	逆台形	10YR3/4暗褐色細粒砂 少量の破砕貝を含む 10YR3/4暗褐色細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂のラミナ	灰釉陶器、山茶碗、陶器、瓦	
159	4地点	2B16o	SK	-	173,174	55	39	14	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	弥生土器	
160	4地点	2B16m	SK	-	136	(148)	(66)	30	(楕円形)	W	10YR3/4暗褐色中粒砂 少量の粘土ブロックを含む	土師器	
161	4地点	2B16l・m	SK	-	-	(107)	(46)	52	(不整形)	W	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂を含む	-	
162	4地点	2B14o	SK	130,151	-	135	(91)	51	(不整形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土具層	山茶碗、陶器、瓦	
163	4地点	2B17p・q	SK	039,068,074,119,153	-	(137)	121	40	(楕円形)	逆台形	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂混じる	弥生土器、硯	
164	4地点	2B15o	SK	-	-	58	45	20	楕円形	W	10YR3/4暗褐色中粒砂	山茶碗	
165	4地点	2B16o	SK	107	183,196	90	72	32	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂ブロックを含む	-	
166	4地点	2B15p	SK	080,098	166,178,237	175	121	15	楕円形	逆台形	10YR2/3黒褐色中粒砂 混土具層	土師器、陶器、土師質土器	
167	4地点	2B16p	SK	099,134	186	129	(62)	34	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 少量の粗粒砂混じる	土師器、土師質土器	
168	4地点	2B16o	SK	196	187,196	(47)	(36)	18	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の炭化物・10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂を含む	弥生土器、山茶碗、土師質土器	
169	4地点	2B14n	SK	-	177	(83)	78	42	(楕円形)	U	10YR4/4褐色中粒砂	山茶碗、陶器、土師質土器、剥片石器	
170	4地点	2B14p	SK	106,210	209	158	(139)	52	(不整形)	U	北セクション図参照	山茶碗、陶器、土師質土器、瓦、加工円盤、骨	
171	4地点	2B16n・o	SK	-	-	74	51	21	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR5/6黄褐色中粒砂を含む	土師器	

4 地点遺構観察表 (4)

遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
172	4地点	2B16p	SK	-	-	46	40	9	楕円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
173	4地点	2B15・16o	SD	137,159,174	204	204	63	9	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/3暗褐色中粒砂 粗粒砂を含む	弥生土器、土師質土器	
174	4地点	2B16o	SK	159	173,199	102	(56)	17	(楕円形)	W	10YR4/4褐色中粒砂 粗粒砂混じる	土師器	
175	4地点	2B15o	SK	-	-	(69)	37	10	(楕円形)	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂 腐蝕貝混じる	-	
176	4地点	2B16o	SK	135	-	(105)	95	35	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の10YR4/4中粒砂を含む	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器	
177	4地点	2B14・15n・15o	SD	117,169	202	(599)	121	18	溝状	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR3/4暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
178	4地点	2B15・16p	SK	098,166,186	190,208	289	216	45	方形	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂 10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と10YR3/3暗褐色中粒砂の斑土	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、土師質土器	
179	4地点	2B16o	SK	135	-	55	(19)	21	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
180	4地点	2B14o	SK	-	192	53	50	18	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	土師器、山茶碗、土師質土器	
181	4地点	2B14o	SK	151	192	72	55	23	楕円形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	陶器	
182	4地点	2B16n	SK	-	-	112	(42)	8	(楕円形)	皿	10YR3/2黒褐色中粒砂 炭化物・粘土粒を含む	灰釉陶器、山茶碗、陶器、磁器、土師質土器	
183	4地点	2B16o	SK	093,150,165	-	(139)	82	51	(不整形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂混じる	土師器、山茶碗、陶器	
184	4地点	2B16o	SK	-	-	26	24	14	円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
185	4地点	2B14o	SK	-	-	45	32	8	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	-	
186	4地点	2B16p	SK	167	178	(130)	73	24	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
187	4地点	2B16・17o・p	SK	107,120,168	105,196	181	156	60	不整形	逆台形	10YR3/3暗褐色中粒砂 粗粒砂混じる 10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂の斑土	土師器、土師質土器	
188	4地点	2B14o	SK	111	202	173	(154)	45	(不整形)	W	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	山茶碗、陶器、土師質土器、瓦	
189	4地点	2B15o	SK	117	203	125	68	21	不整形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	土師器、土師質土器	
190	4地点	2B16p	SK	178	-	(111)	79	43	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
191	4地点	2B14n	SK	-	-	59	37	25	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	-	
192	4地点	2B14o	SK	130,180,181	-	56	(54)	20	(楕円形)	-	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	-	
193	4地点	2B14n	SK	-	207	150	113	28	不整形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	弥生土器、土師器、陶器	
194	4地点	2B16n	SK	012	-	(198)	(39)	23	(楕円形)	W	10YR3/4暗褐色中粒砂 粘土粒を含む	-	
195	4地点	2B17n	SK	026	-	33	27	41	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
196	4地点	2B16・17o,17p	SD	065,069,070,071,078,081,095,105,107,165,168,187	236	(843)	86	31	溝状	W	246SZセクション図参照	弥生土器	246SZ
197	4地点	2B17n	SK	012	200	114	63	25	不整形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の炭化物を含む	土師器	
198	4地点	2B17n	SK	028	-	46	(23)	14	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の炭化物を含む	-	
199	4地点	2B16o・p	SK	137,174	208	185	80	50	(不整形)	逆台形	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
200	4地点	2B17n	SK	197	201	108	(48)	32	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	陶器、土師質土器	
201	4地点	2B17n	SD	200	-	(94)	27	10	溝状	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
202	4地点	2B14・15n・o	SK	177,188	-	188	(53)	17	(不整形)	W	10YR3/4暗褐色中粒砂 少量の腐蝕貝を含む	山茶碗、磁器、土師質土器	
203	4地点	2B15o	SK	189	-	(35)	(21)	21	(楕円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 少量の腐蝕貝を含む	-	
204	4地点	2B15・16o,15p	SD	137,159,174,199	173	511	64	40	溝状	U	246SZセクション図参照	弥生土器、土師質土器	246SZ
205	4地点	2B16o	SK	095	-	35	26	7	楕円形	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
206	4地点	2B16o	SK	-	-	65	(37)	16	(楕円形)	U	10YR3/2黒褐色中粒砂 少量の炭化物を含む	弥生土器、山茶碗、骨	
207	4地点	2B14n	SK	193	-	70	(20)	72	(不整形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
208	4地点	2B16p	SK	178,199	-	(119)	115	58	(不整形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 少量の腐蝕貝を含む	弥生土器、土師器	
209	4地点	2B14o・p	SK	130,170	-	(138)	(62)	51	(不整形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 腐蝕貝を含む 混貝土層	弥生土器、山茶碗、瓦器、陶器、土師質土器	
210	4地点	2B15p	SK	086,106,170	(61)	(23)	13	(不整形)	U	北セクション図参照	山茶碗、土師質土器		
211	4地点	2B16i	SK	-	-	(76)	71	18	(楕円形)	U	10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を横溝状に含む	-	
212	4地点	2B16m	SK	-	-	58	39	14	楕円形	皿	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
213	4地点	2B16i	SK	-	-	46	30	21	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	山茶碗	

4 地点遺構観察表 (5)



遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
214	4地点	2B16m	SK	-	230	74	43	5	不整形	W	10YR3/3暗褐色中粒砂	陶器、土鍾	
215	4地点	2B16m	SK	-	-	62	41	28	不整形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器、山茶碗	
216	4地点	2B17q	SK	043	-	26	13	19	(円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
217	4地点	2B15m	SK	-	221	53	39	44	楕円形	U	10YR3/2黒褐色中粒砂	-	
218	4地点	2B16q	SK	025,091	-	29	24	3	楕円形	皿	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂混じる	-	
219	4地点	2B17q	SK	108	-	72	65	35	円形	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂混じる	-	
220	4地点	2B16q	SD	-	-	(161)	75	22	溝状	U	246SZセクション図参照	-	246SZ
221	4地点	2B15m	SK	217	-	56	(28)	38	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
222	4地点	2B16m	SK	-	-	35	32	22	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
223	4地点	2B13m	SK	-	-	96	(44)	28	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の腐蝕貝を含む	弥生土器、陶器、土師質土器、鉄釘	
224	4地点	2B15m・n	SK	-	-	97	41	16	不整形	W	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
225	4地点	2B16q	SK	-	228	124	(88)	17	(楕円形)	U	北セクション図参照	-	
226	4地点	2B15m	SK	-	-	(58)	31	35	(楕円形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	-	
227	4地点	2B15p	SK	080	210	(179)	(82)	38	(不整形)	-	北セクション図参照	土師器、陶器	
228	4地点	2B15・16q	ST	225	-	(135)	109	48	溝状	U	246SZセクション図参照	剥片	246SZ
229	4地点	2B15n	SK	-	-	100	87	29	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂	土師器、陶器、瓦、不明土製品	
230	4地点	2B16m	SK	214	-	(72)	46	24	(不整形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR4/4褐色中粒砂の斑土	土師器、山茶碗、陶器	
231	4地点	2B14o	SK	130	-	113	(39)	22	(不整形)	U	北セクション図参照	陶器	
232	4地点	2B16q	SK	125	-	84	64	35	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 腐蝕貝・粗粒砂を含む	陶器、磁器	
233	4地点	2B16q	SK	232	-	91	(59)	16	(楕円形)	皿	10YR4/4褐色中粒砂 粗粒砂混じる	-	
234	4地点	2B16n	SK	156	-	(39)	38	18	(楕円形)	皿	10YR3/3暗褐色中粒砂	-	
235	4地点	2B16m	SK	-	-	43	31	39	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	石皿	
236	4地点	2B17p	SK	105,196	-	(230)	(49)	26	溝状	U	10YR5/3にぶい黄褐色細砂 粗砂混じる	弥生土器	
237	4地点	2B15p	SK	080,166	-	(76)	(39)	4	(楕円形)	U	10YR5/2灰黄褐色中粒砂 10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂	-	
238	4地点	2B18o・p	SK	239	-	43	(15)	24	(不整形)	U	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂	土師器	
239	4地点	2B18o	SK	007,024,044	238	148	(109)	43	(楕円形)	逆台形	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂 粗粒砂を含む	山茶碗、銅銭	
240	4地点	2B17o	SK	024,044	-	65	55	34	楕円形	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 径5~30mmの礫を含む	土師器、山茶碗	
241	4地点	2B17o	SK	080,024	-	43	(32)	13	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂	土師器	
242	4地点	2B17r	SK	-	-	113	(37)	23	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 混土貝層	陶器、土師質土器	
243	4地点	2B17r	SK	-	-	92	(40)	46	(円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 10YR5/6黄褐色粗粒砂混じる 混土貝層	弥生土器、土師器、山茶碗、陶器、磁器、土師質土器、加工円盤	
244	4地点	2B18q	SK	-	-	(81)	(20)	20	(楕円形)	U	10YR3/3暗褐色中粒砂 少量の破砕貝を含む	陶器、瓦	
245	4地点	2B13n	SK	-	-	145	(69)	9	(楕円形)	U	北セクション図参照	-	
246	4地点	2B15~17q,17p,15・16q	SZ	-	-	(960)	950	-	-	-	196SD・204SD・220SD・228ST	-	
247	4地点	2B17q	SM	-	-	196	165	-	-	-	-	-	013ST内
248	4地点	2B17q	SM	-	-	(181)	114	-	-	-	-	-	002SK内
249	4地点	2B17・18q	SM	-	-	315	200	-	-	-	-	-	003ST内
250	4地点	2B17r・q	SM	-	-	190	185	-	-	-	-	-	004ST内
251	4地点	2B17p	SM	-	-	180	60	-	-	-	-	-	071SK内
252	4地点	2B17p	SM	-	-	135	50	-	-	-	-	-	072SK内
253	4地点	2B16p	SM	-	-	67	45	-	-	-	-	-	073SK内
254	4地点	2B17p	SM	-	-	(130)	40	-	-	-	-	-	076SK内
255	4地点	2B16p	SM	-	-	215	65	-	-	-	-	-	099SK内
256	4地点	2B15p	SM	-	-	80	60	-	-	-	-	-	166SK内

4 地点遺構観察表 (6)



4 地点調査区全景 (西から)



4 地点調査区全景 (東から)



004ST (東から)



013ST (北から)



246SZ (西から)



003ST (南から)

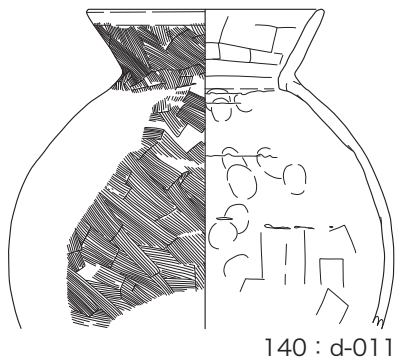


246SZ (228ST) 墓壇 (西から)

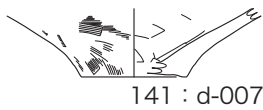
図版 番号	遺物 番号	調査 区	グリッド	遺構	層位	産地 材質	器種	残存率 (%)	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	色調 外面	時期	備考
140	d-011	4	2B17p	196SD	-	土師器	壺	40	(12.6)	(16.9)	-	板ナデ、指オサエ、ヨコナデ	ハケ、ヨコナデ	粗、砂粒・礫を含む	7.5YR7/8	廻間1式前半	
141	d-007	4	2B17p	196SD	-	土師器	壺	10	-	(3.6)	(5.6)	板ナデ	ハケ	やや粗、砂粒・礫を含む	5YR7/6	廻間1式前半	
142	d-010	4	2B17p	196SD	-	土師器	高坏	50	-	(10.4)	-	ミガキ	ミガキ、板ナデ	粗、礫を含む	5YR6/6	廻間1式前半	
143	-	4	2B14p	170SK	-	瀬戸	山茶碗	30	-	(2.7)	(5.0)	ロクロナデ、指オサエ	回転ナデ・糸切り痕、板状庄痕、貼付高台	やや粗、礫を含む	2.5Y8/1	瀬戸7型式	墨書「寸」
144	-	4	2B16p	073SK	-	瀬戸	山茶碗	70	13.1	4.1	5.4	ロクロナデ、指オサエ	ロクロナデ、回転糸切り痕	やや粗、礫を含む	2.5Y7/1	瀬戸8型式	無高台
145	-	4	2B17q	013ST	-	瀬戸	天目茶碗	10	(11.0)	(4.5)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	密、砂粒・礫を含む	2.5Y3/2	瀬戸後期	内外面に施釉(鉄釉)
146	-	4	2B17q	004ST	貝層	瀬戸	袴腰型香炉	20	(10.5)	4.3	(4.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付足	やや粗、礫を含む	2.5Y8/3	大塚後期4期新以降	施釉(灰釉)
147	-	4	2B17q	003ST	-	瀬戸	盤	5	(34.8)	(7.7)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	密	5Y8/1	中世	施釉(灰釉)
148	-	4	2B17q	003ST	-	瀬戸	卸目片口鉢	5	(36.3)	(6.3)	-	ロクロナデ、卸目	ロクロナデ	やや粗、砂粒を含む	2.5Y7/3	古瀬戸後期	施釉
149	-	4	2B15o	-	検出	石製品 泥岩	砥石	-	最大幅 5.7	最大長 (8.8)	厚み 2.1	-	-	-	10YR8/3		砥面3面
150	-	4	2B18q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.4	穴辺 0.6	-	-	-	-	-		至道元宝 草書 (初铸995年)
151	-	4	2B17q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.5	穴辺 0.6	-	-	-	-	-		至道元宝 草書 (初铸995年)
152	-	4	2B18q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.3	穴辺 0.6	-	-	-	-	-		景德元宝 (初铸1004年) 他2枚あり
153	-	4	2B17q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.4	穴辺 0.7	-	-	-	-	-		景德元宝 (初铸1004年)
154	-	4	2B18q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.4	穴辺 0.6	-	-	-	-	-		皇宋通宝 篆書 (初铸1039年) 他1枚あり
155	-	4	2B17q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.3	穴辺 0.7	-	-	-	-	-		熙寧元宝 真書 (初铸1068年)
156	-	4	2B17q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.4	穴辺 0.6	-	-	-	-	-		元豊通宝 真書 (初铸1078年)
157	-	4	2B18q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.4	穴辺 0.5	-	-	-	-	-		元祐通宝 行書 (初铸1086年)
158	-	4	2B18q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.4	穴辺 0.6	-	-	-	-	-		紹聖元宝 行書 (初铸1094年) 他1枚あり
159	-	4	2B17q	003ST	貝層	金属製品	銭貨	完形	最径 2.4	穴辺 0.7	-	-	-	-	-		聖宋元宝 篆書 (初铸1101年)
160	-	4	2B18o	239SK	-	金属製品	銭貨	完形	最径 2.4	穴辺 0.7	-	-	-	-	-		祥符元宝 (初铸1008年)
161	-	4	2B16m	012SD	-	金属製品	銭貨	完形	最径 2.5	穴辺 0.5	-	-	-	-	-	近世	寛永通宝 背文 新寛永、文銭
162	-	4	2B16l	攪乱 (南壁)	-	金属製品	銭貨	完形	最径 2.2	穴辺 0.6	-	-	-	-	-	近世	寛永通宝 背元 新寛永、高津銭
163	-	4	2B15p	086SK	-	中国	白磁	5	-	(2.3)	-	施釉	施釉	密	5GY7/1	13~14世紀	龍泉窯系
164	-	4	2B15p	080SK	-	中国	青磁	10	-	1.3	5.1	施釉	体部ヘラケズリ、回転ナデ、高台露体	密	5GY8/1	13~14世紀	龍泉窯系、削り出し高台
165	-	4	2B16q	232SK	-	中国	青磁	5	-	3.1	-	施釉	蓮弁、施釉	密	7.5Y6/2	13~14世紀	龍泉窯系
166	-	4	2B17n	-	検出	中国	青磁	5	-	3.5	-	施釉	蓮弁、施釉	密	10Y5/1	13~14世紀	龍泉窯系
167	d-004	4	2B16q	110ST	-	石製品	茶臼	完形	18	11.3	18.4	上面、攪目	下面、穿孔、粗削り	-	10YR5/1		上臼

4 地点遺物観察表

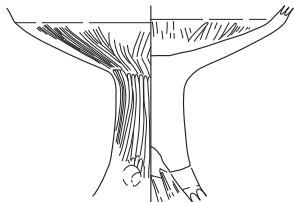




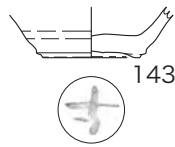
140 : d-011



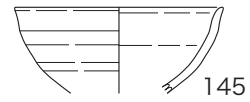
141 : d-007



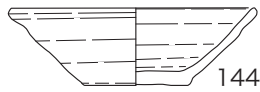
142 : d-010



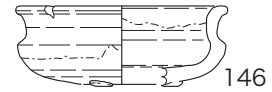
143



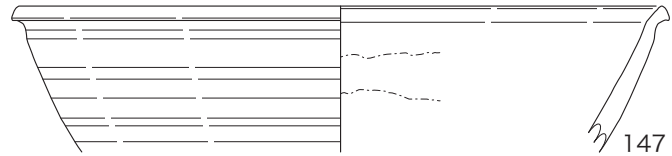
145



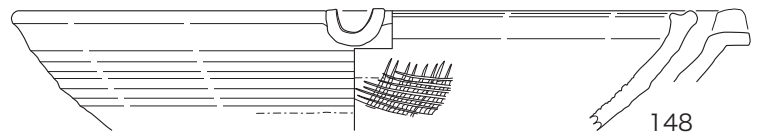
144



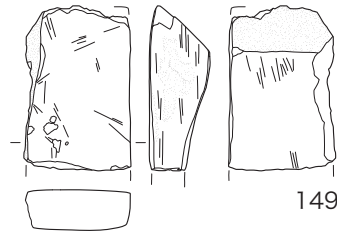
146



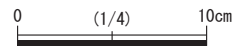
147



148



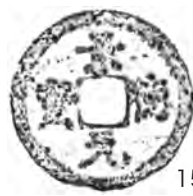
149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



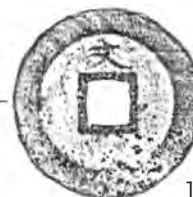
159



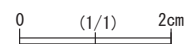
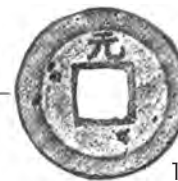
160



161



162

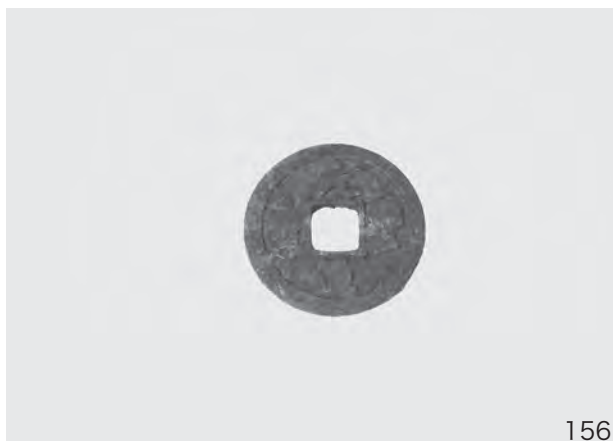






4地点出土遺物(1)





4地点出土遺物(3)





遺構No	調査区	グリッド	遺構名	新	旧	法量(cm)			平面	断面	埋土	出土遺物	備考
						長軸	短軸	深さ					
001	5地点	2B1i	SK	-	-	60	(24)	17	(円形)	U	南セクション図参照	-	
002	5地点	2B1i	SK	-	-	62	(31)	38	(円形)	U	南セクション図参照	-	
003	5地点	2B1j	SK	-	-	56	55	45	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 を含む 粗粒砂混じる	弥生土器	
004	5地点	2B1j	SK	-	-	29	30	41	円形	U	10YR4/4褐色中粒砂	-	
005	5地点	1B20i・ 2B1i	SK	-	-	(107)	(25)	49	(円形)	U	005SKセクション図参照	弥生土器	
006	5地点	2B1k	SK	-	-	38	(20)	19	(円形)	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
007	5地点	2B1k	SP	-	-	21	18	19	円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	弥生土器	
008	5地点	2B2k	SP	-	-	24	16	24	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂 を含む	-	
009	5地点	2B2l	SP	-	-	27	23	26	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
010	5地点	2B2l	SK	-	-	39	32	36	楕円形	U	10YR3/4暗褐色中粒砂	-	
011	5地点	2B2l	SK	-	-	61	26	21	楕円形	U	10YR4/6褐色中粒砂	-	
012	5地点	2B1i	SK	-	-	(55)	(17)	7	(円形)	U	南セクション図参照	-	

5 地点遺構観察表



5 地点調査区全景 (東から)



5 地点調査区全景 (西から)



調査区南壁基本土層 (北から)



005SK (南から)



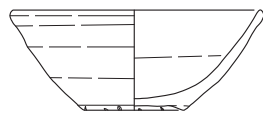
遺物出土状況 168 : d-001 (南から)



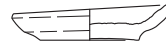
遺物出土状況 169 : d-002 (東から)

図版番号	遺物番号	調査区	グリッド	遺構	層位	産地材質	器種	残存率(%)	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	色調外面	時期	備考
168	d-001	5	2B2k	-	包含層	瀬戸	山茶碗	ほぼ完形	13.4	5.3	(5.3)	ロクロナデ、指オサエ	回転ナデ・糸切り、板状圧痕、貼付高台	やや粗、砂粒・礫を含む	2.5Y7/2	尾張7型式	
169	d-002	5	2B1i	-	包含層	瀬戸	小皿	完形	8.3	1.9	5.2	ロクロナデ	回転ナデ・糸切り、板状圧痕	やや粗、礫・小石を含む	2.5Y7/1	瀬戸7~8型式	
170	d-004	5	1B20i	005SK	-	弥生土器	壺	20	-	13.5	-	ヨコナデ	ナデ、直線文、連弧文	密、砂粒含む	10YR5/3	弥生時代中期古井式	

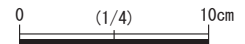
5地点遺物観察表



168 : d-001



169 : d-002



5地点出土遺物実測図



168



169



170

5地点出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	へいせい29ねんど はたま・ひがしはたいせきはつかつちょうさほうこく							
書名	平成29年度 畑間・東畑遺跡発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	宮澤浩司・安津由香里・西野順二・伊藤敬太郎・(株)パレオ・ラボ							
編集機関	国際文化財株式会社 中部支店							
所在地	〒451-0045 愛知県名古屋市区西区名駅2-27-8 Tel 052-414-6801							
発行機関	愛知県東海市教育委員会							
所在地	〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地 Tel 052-603-2211							
発行年月日	2019年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はたまいせき 畑間遺跡	あいちけんとうかいし 愛知県東海市	23222	43050	35° 01'	136° 53'	2016.7.3 \	2,148㎡	土地区画整理地業
ひがしはたいせき 東畑遺跡	あいちけんとうかいし 愛知県東海市	23222	43052	08"	47"	2017.2.16		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
畑間遺跡 (1地点)	集落	中世・近世	土坑・区画溝・柵列		土師器・須恵器・中近世陶器		近世の区画溝	
畑間遺跡 (2地点)	集落・墓域	弥生時代・ 古墳時代・ 中世	方形周溝墓・円墳・区画 溝・掘立柱建物跡・土壇 墓・井戸		縄文土器・弥生土器・須恵 器・中世陶器		畑間・東畑遺跡で初めての 円墳(周溝)を確認。 幼児人骨を埋葬した土壇 墓。	
東畑遺跡 (3地点)	集落・墓域	弥生時代・ 古墳時代	方形周溝墓・竪穴建物跡		弥生土器・土師器・金属製 品(刀子)		弥生時代の墓域から古墳 時代は集落に変遷。	
畑間遺跡 (4地点)	集落・墓域	古墳時代・ 中世	方形周溝墓・土壇墓		土師器・中世陶器・輸入磁 器・金属製品(宋銭)		土壇墓から宋銭14枚が 出土。	
畑間遺跡 (5地点)	集落	弥生時代・ 中世・近世	土坑・ピット		弥生土器・中世陶器		砂堆の縁辺部で遺構の分 布は希薄。	
要約	<p>畑間遺跡の北側に1地点、南側に2・4・5地点、東畑遺跡の南側に3地点が位置する。主に弥生時代・古墳時代・中世の遺構・遺物を検出した。</p> <p>弥生時代中期～古墳時代初頭では、6基の方形周溝墓を確認した。地点別では、2地点で3基(弥生時代中期以降)、3地点で2基(弥生時代中期以降)、4地点で1基(古墳時代初頭)である。また、3地点では竪穴建物跡(古墳時代初頭)を確認している。</p> <p>古墳時代後期では2地点で円墳の周溝を確認した。墳丘長は推定19.2mを測る。墳丘は残存しておらず主体部は不明である。周溝内から6世紀中葉(H-61号窯式期)を中心とする時期の須恵器(坏蓋・坏身・高坏など)が出土した。円墳は畑間・東畑遺跡では初めての確認となった。</p> <p>中世では2地点で区画溝や幼児人骨を埋葬した土壇墓(13世紀末～15世紀初頭)、常滑甕を井戸枠とする井戸を確認した。</p>							

---

愛知県東海市

平成 29 年度

畑間・東畑遺跡発掘調査報告書

平成 31 年 3 月 18 日 印刷

平成 31 年 3 月 26 日 発行

編 集 国際文化財株式会社 中部支店  
〒 451-0045 愛知県名古屋市西区名駅 2-27-8  
TEL 052-414-6801

発 行 愛知県東海市教育委員会  
〒 476-8601 愛知県東海市中央町一丁目 1 番地  
TEL 052-603-2211・0562-33-1111 (代表)

印刷・製本 能登印刷株式会社  
〒 920-0855 石川県金沢市武蔵町 7 番 10 号  
TEL 076-274-0084

---